

青 森 県 の 教 育

—令和 4 年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会

青 森 県 の 教 育

—令和 4 年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会

青森県教育委員会 (R5.3.31現在)

教育長
和嶋延寿



委員・教育長職務代理者
野澤正樹



委員
平間恵美



委員
戸塚学



委員
新藤幸子



委員
安田博



も く じ

第1部 教育行財政

1章 青森県教育委員会	1
1節 青森県教育施策の方針	1
2節 教育長・教育委員	1
3節 事務局の機構・分掌事務	2
4節 附属機関	7
5節 会議の記録	12
6節 規則の制定改廃	15
2章 教育財政	16
1節 当初予算	16
2節 補正予算	28
3章 企画・調査・広報・情報化推進	29
1節 企画	29
2節 調査・統計	30
3節 広報・広聴	31
4節 教育行政における情報化の推進	32
4章 叙勲、表彰	35
1節 職員福利課関係	35
2節 学校教育課関係	38
3節 生涯学習課関係	38
4節 スポーツ健康課関係	40

第2部 教 職 員

1章 教職員の配置	53
1節 教職員の配置基準	53
2節 学級編制の基準	57
2章 教職員の異動	58

1節 小・中学校	58
2節 県立学校	60
3章 採用・昇任・退職	62
1節 採用・昇任	62
2節 退職勸奨	67
4章 給与等	68
5章 免許	69
6章 教職員研修・教育研究	71
1節 教職員研修	71
2節 教育研究	80
7章 教職員の福利厚生	86
1節 福利厚生の概要	86
2節 福利厚生事業	90
8章 教職員の人事評価制度	93

第3部 学校教育

1章 学校教育指導の方針と重点	95
2章 幼稚園教育	97
1節 幼稚園の概況	97
2節 幼保連携型認定こども園の概況	98
3節 教育課程・保育指導	98
3章 小・中学校教育	99
1節 学校の概況	99
2節 施設・設備	102
3節 生徒指導	104
4節 道徳教育	107
5節 へき地教育	108
6節 教科書採択	109
4章 高等学校教育	111

1節	学校の概況	111
2節	施設・設備	111
3節	教育課程	113
4節	学習指導	117
5節	生徒指導	118
6節	道徳教育	119
7節	進路指導	120
8節	産業教育	124
9節	定時制・通信制教育	124
10節	文化活動支援	126
11節	高等学校入学者選抜	129
12節	ドリカム人づくり推進事業	132
13節	持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業	132
14節	高等学校教育改革	133
5章	特別支援教育	137
1節	学校の概況	137
2節	障害のある子どもの早期からの一貫した支援	138
3節	施設・設備	139
4節	教育課程	140
5節	学習指導	141
6節	生徒指導	141
7節	道徳教育	141
8節	進路指導	142
6章	情報教育	143
7章	国際理解教育	144
1節	日本語指導が必要な児童生徒等の受入	144
2節	外国語教育	144
3節	在学教育施設への教員派遣	146

8章 私学教育	147
1節 私学教育の現状	147
2節 私立学校に対する助成	148
3節 私立学校審議会	151
9章 育英・奨学	152
1節 青森県育英奨学会	152

第4部 社会教育

1章 社会教育行政の方針と重点	155
2章 事業の概要	156
1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	156
2節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成	172
3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進	177
4節 社会教育推進のための基盤整備	179
3章 施設と職員の状況	183
1節 社会教育施設の状況	183
2節 社会教育関係職員の状況	185

第5部 体育・スポーツ

1章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点	189
2章 体 育	190
1節 学校体育	190
2節 学校保健	193
3節 学校安全	195
4節 学校における食育・学校給食	196
3章 スポーツ	198
1節 スポーツ活動の拡充	198
2節 スポーツ団体	200
3節 体育・スポーツ施設	201

第6部 文 化

1章 文化財保護行政の方針と重点	205
2章 文 化 財	206
1節 文化財の指定等	206
2節 文化財の調査	208
3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等	210
4節 文化財の修理・環境整備等	213
3章 博 物 館 等	214

第7部 教育機関等

1章 青森県立図書館・青森県近代文学館	219
2章 県立少年自然の家	235
1節 梵珠少年自然の家	235
2節 種差少年自然の家	240
3章 青森県総合社会教育センター	245
4章 青森県総合学校教育センター	266
5章 青森県営体育施設	291
6章 青森県立郷土館	311
7章 青森県埋蔵文化財調査センター	318
8章 三内丸山遺跡センター	324

第1部 教育行財政

第1部 教育行財政

1章 青森県教育委員会

1節 青森県教育施策の方針

青森県教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く^{ひら}人づくりを目指します。このため、
夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育
学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育
次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用
活力、健康、感動を生み出すスポーツ
を、市町村教育委員会、家庭や地域社会との連携を図りながら推進します。
平成26年1月8日決定

2節 教育長・教育委員

(令和5年3月31日現在)

	(氏名)	(任年月日)
教 育 長	和 嶋 延 寿	平成30年4月1日
委員・教育長職務代理者	野 澤 正 樹	令和元年10月10日
委 員	平 間 恵 美	令和2年10月1日
委 員	戸 塚 学	令和2年10月1日
委 員	新 藤 幸 子	令和3年12月27日
委 員	安 田 博	令和4年12月20日

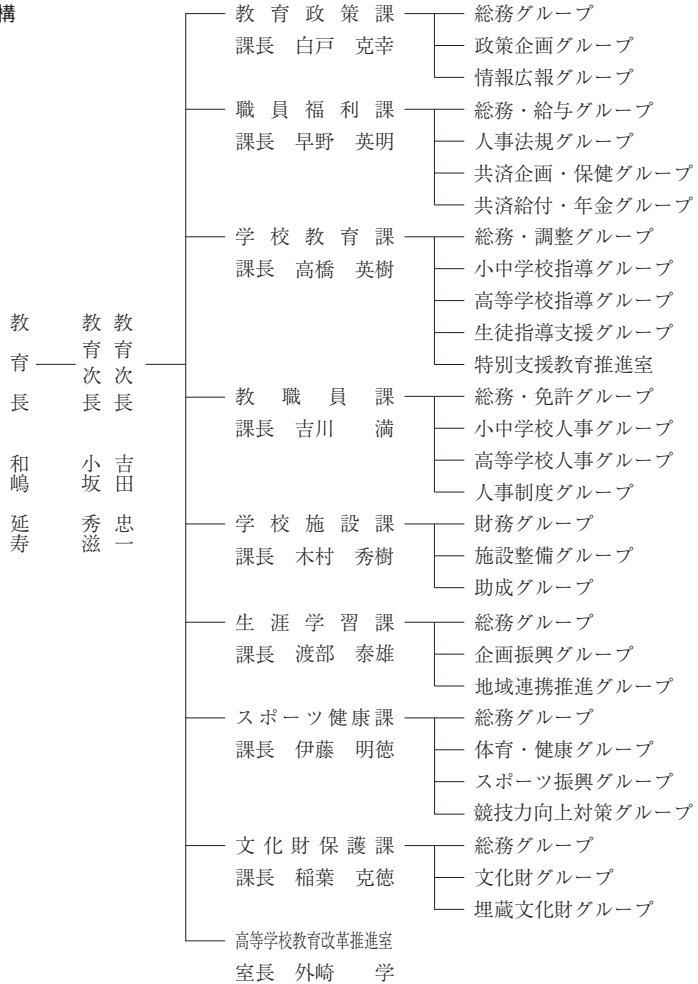
(委員の異動)

・令和4年12月20日付けで、安田博氏が委員に任命された。

任期：令和4年12月20日～令和8年12月19日

3節 事務局の機構・分掌事務

1 機 構



(出先機関)

東青教育事務所	所長 福士 浩司
西北教育事務所	所長 坂本 雄大
中南教育事務所	所長 小館 孝浩
上北教育事務所	所長 花田 千穂
下北教育事務所	所長 佐藤 広洋
三八教育事務所	所長 赤石 光弘
青森県埋蔵文化財調査センター	所長 和田 和男

(教育機関)

青 森 県 立 図 書 館	館長 佐藤 禎人
青森県立梵珠少年自然の家	所長 川村 和夫
青森県総合社会教育センター	所長 赤尾 芳伸
青森県総合学校教育センター	所長 成田 弘行
青 森 県 立 郷 土 館	館長 仁和由紀人
三内丸山遺跡センター	所長 岡田 康博

2 分 掌 事 務

本庁及び出先機関並びに学校以外の教育機関の分掌事務は、次のとおりである。

(1) 本 庁 教 育 政 策 課

- 総務グループ 教育委員会会議、秘書、課内総務、課予算・決算・監査、地球にやさしい青森県行動プラン総括、災害対策総括、県議会との連絡調整、教育庁議、総合教育会議
- 政策企画グループ 教育の全体計画、政策立案・調整、知事部局等との連絡調整、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦、政策点検、行財政改革、「選ばれる青森」への挑戦重点枠事業、教育委員会の事務の点検・評価、予算・決算総括、監査総括
- 情報広報グループ 調査統計、教育行政情報化の総合調整、教育行政情報システムの企画調整・運用・管理・保守、教育行政情報の処理、教育委員会ホームページの管理・運営、広報・広聴（教育行政相談含む）

職 員 福 利 課

- 総務・給与グループ 課内庶務、県予算・決算、財形貯蓄、個人型確定拠出年金、教職員給与費・旅費、給与制度、恩給、給与電算処理
- 人事法規グループ 事務局職員の人事・組織・サービス・公務災害・研修、地教委指導助言、栄典、公益法人、法規・文書審査、文書収受・発送、定期健康診断・安全衛生管理（学校職員を除く。）
- 共済企画・保健グループ 共済組合予算・決算・掛金・負担金、生涯生活設計支援事業、住宅資金等貸付、保健事業、健康相談、健康意識啓発事業
- 共済給付・年金グループ 共済組合員証の認定・取消、短期給付(医療関係)、長期給付(年金関係)

学 校 教 育 課

- 総務・調整グループ 課内予算・決算、課内庶務、教科書無償給与、補助金、総合学校教育センターとの連絡調整
- 小中学校指導グループ 市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立中学校入学者選抜、教科用図書選定審議会
- 高等学校指導グループ 県立高等学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立高等学校入学者選抜、全国産業教育フェア
- 生徒指導支援グループ 市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校及び高等学校の生徒指導に関する専門的事項の指導、いじめ防止対策審議会
- 特別支援教育推進室 特別支援学校の設置・管理・廃止、定数・任免・服务等、特別支援学校の教育課程、学習指導、生徒指導及びキャリア教育・進路指導並びに特別支援教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、就学奨励、医療的ケア

教 職 員 課

- 総務・免許グループ 課内庶務、課内予算・決算、教職員表彰、教員免許状、免許法認定講習、青森県育英奨学会
- 小中学校人事グループ 公立小・中学校の設置・廃止、学級編制、定数、人事、事務の共同実施、管理運営の指導・助言、公立幼稚園の設置・廃止、在外教育施設派遣
- 高等学校人事グループ 高等学校の人事、北海道・北東北3県人事交流、管理職選考、再任用、定数、管理運営の指導・助言、定時制通信制課程修学奨励金
- 人事制度グループ 学校職員の服務・勤務条件・分限・懲戒、公務災害、教職員団体との連絡調整、教職員の人事評価制度、指導改善研修、精神性疾患休職等審査会

学 校 施 設 課

- 財 務 グ ル ー プ 課内庶務、事務局費、県立学校の管理費・実習費、産業教育・理科教育等設備、県立高等学校授業料、庁内物品調達・管理、県立学校の財務事務、県立高等学校等就学支援金、奨学のための給付金
- 施設整備グループ 県立学校施設の整備・建築計画、財産の取得、教育財産の維持管理、県立学校の大規模改修、閉校校舎等の利活用、教職員住宅の整備、県立学校施設の建築工事・設備工事・土木工事の調査設計及び施工監理、県立学校施設の災害復旧
- 助 成 グ ル ー プ 公立学校施設整備費国庫負担（交付）金、市町村立学校施設の調査、市町村立学校施設整備事業の建築工事・設備工事・土木工事の指導助言、市町村立学校施設の災害復旧の指導助言

生 涯 学 習 課

- 総 務 グ ル ー プ 課内庶務、課内予算・決算、県有社会教育施設の管理運営、中学校卒業程度認定試験、高等学校卒業程度認定試験
- 企画振興グループ 生涯学習振興のための総合的な企画・調整及び施策の推進、県生涯学習審議会、県社会教育委員、公民館及び図書館の設置及び管理の指導、視聴覚教育、社会教育主事資格認定
- 地域連携推進グループ 学校・家庭・地域社会の連携による教育の推進、青少年・女性・成人及び家庭教育、社会教育関係団体及び社会教育を行う者に対する指導助言

ス ポ ー ツ 健 康 課

- 総 務 グ ル ー プ 課内庶務、予算・決算、県有体育施設の管理・運営、市町村体育施設及び学校給食施設国庫補助、独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金及び給付、県有体育施設の整備
- 体育・健康グループ 教育課程（体育、保健体育）、学校体育関係事業、運動部活動関係事業、健康教育推進事業、学校環境衛生指導、学校安全指導、学校医の委嘱、学校における食育、学校給食に関する指導、学校職員の健康管理、学校給食関係補助事業
- スポーツ振興グループ 生涯スポーツの推進、競技スポーツの推進、県スポーツ協会連絡調整、市町村スポーツ行政に係る事項、県スポーツ推進審議会、県スポーツ推進委員協議会、県広域スポーツセンター
- 競技力向上対策グループ 第80回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上、県スポーツ科学センター運営

文化財保護課

- 総務グループ 課内庶務、予算・決算、郷土館連絡調整、青森県ユネスコ協会
- 文化財グループ 有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物等の保護、文化財保護審議会、銃砲刀剣類登録審査会、博物館関係
- 埋蔵文化財グループ 埋蔵文化財の保護、埋蔵文化財調査センター連絡調整、三内丸山遺跡センター連絡調整

高等学校教育改革推進室

県立高等学校教育改革、県立中学校及び高等学校の設置・廃止、課程・学科の設置・廃止、学級編制

(2) 出先機関

- | | | | |
|--|---|------|--|
| 東青教育事務所
西北教育事務所
中南教育事務所
上北教育事務所
下北教育事務所
三八教育事務所 | } | ○総務課 | 所内庶務、小・中学校教職員の人事・給与、免許、小・中学校の設置・廃止、学級編制、公務災害 |
| | | ○教育課 | 学校教育に関する専門的な事項の指導、生涯学習及び社会教育 |

埋蔵文化財調査センター

- 総務グループ 所内庶務、予算経理、施設設備の管理
- 調査第一グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発
- 調査第二グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発
- 調査第三グループ 埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、出土品の整理・保存・活用、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発

(3) 教育機関

図書館

- 企画支援課 図書館運営の企画、協力用図書資料の収集・整理・保存・除籍、市町村図書館等の援助・協力、図書館資料の相互貸借、館内庶務、行政・産業支援、予算経理、財産及び物品管理、コンピュータシステム運用管理、総合社会教育センターとの連絡調整、アウトリーチサービス、図書館協議会
- 奉仕課 図書館資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、図書館資料の利用提供、参考事務、館内奉仕
- 近代文学館 文学資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、文学資料の展示・利用提供、文学資料の調査研究、特別展・企画展の企画・開催

- | | | | |
|----------------------|---|------|-------------------|
| 梵珠少年自然の家
種差少年自然の家 | } | ○総務課 | 所内庶務、予算経理 |
| | | ○研修課 | 研修団体の指導、利用研修の企画調整 |

総合社会教育センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理、総合社会教育センター運営協議会
- 育成研修課 社会教育に関する調査・研究、社会教育に関する指導者等の養成、視聴覚教育指導者の研修・養成、社会教育に関する情報の収集・提供
- 教育活動支援課 社会教育に関する学習方法の研究、社会教育の担当者及び支援者等の研修・支援、家庭教育及び子育てに関する研修・相談、視聴覚教材の作成・提供、社会教育に関する教材及び事業の開発

総合学校教育センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理
- 義務教育課 幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校及び中学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究
幼稚園、小学校及び中学校における教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 高校教育課 高等学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究
高等学校における教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 特別支援教育課 特別支援教育に関する研修・研究
特別支援学校における学校経営等に関する研修・研究
特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に係る教育相談、特別支援教育に関する資料及び情報の収集・提供
- 産業教育課 産業教育及び情報教育に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供
- 教育相談課 生徒指導・教育相談に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供
教育相談及び不登校の児童生徒に係る適応指導

郷土館

- 総務課 館内庶務、予算経理、財産管理・保全
- 学芸課 郷土館資料の調査研究、資料の収集及び整理、展示の企画と実施、郷土館資料及び郷土についての教育普及の実施

三内丸山遺跡センター

- 総務課 所内庶務、予算経理、施設管理、許認可事務、広報、普及啓発
- 保存活用課 三内丸山遺跡の発掘調査、関連する縄文文化の調査研究、遺跡・出土品の保存、資料の展示と説明、体験学習の実施、図録等の作成及び配布
- 世界文化遺産課 縄文遺跡群の保存・管理に関する指導・助言（遺跡及び県外の資産に関することを除く。）、縄文遺跡群の普及啓発、縄文遺跡群の保存・活用を行うための会議運営、縄文遺跡群の包括的保存管理計画推進

4節 附 属 機 関

1 青森県教科用図書選定審議会委員

(令和4年5月16日現在)

号	氏 名	所 属 ・ 職 名
一 号 委 員	小 倉 倫 子	青森市立古川小学校 校長
	高 屋 美 穂	青森市立油川中学校 校長
	木 村 禎 子	青森県立弘前聾学校 校長
	山 下 征 子	青森市立長島小学校 教頭
	田 中 優 子	青森市立浪打小学校 教諭
	鎌 田 奈 緒 子	弘前市立城東小学校 教諭
二 号 委 員	伊 藤 博 章	八戸市教育委員会 教育長
	吉 崎 博	蓬田村教育委員会 教育長
	平 川 公 明	つがる市教育委員会 指導課長
	赤 石 光 弘	三八教育事務所 所長
	芋 田 智 恵 子	青森県総合学校教育センター 副所長
鎌 田 悟	下北教育事務所 主任指導主事	
三 号 委 員	佐 藤 三 三	青森公立大学 特別教授
	甲 田 隆	弘前大学教育学部 教授
	山 子 泰 典	青森県PTA連合会 会長
	小 向 香 織	青森県PTA連合会 副会長
	栩 内 伸 治	青森県PTA連合会 理事

任期：令和4年5月16日～令和4年8月31日

2 青森県いじめ防止対策審議会委員

(令和4年7月30日現在)

No.	氏 名	所 属 等
1	竹 中 孝	竹中法律事務所
2	斉 藤 まなぶ	弘前大学大学院保健学研究科 弘前大学医学部心理支援科学科教授
3	内 海 隆	青森公立大学特別教授
4	関 谷 道 夫	青森県公認心理師・臨床心理士協会顧問
5	鳴 海 春 輝	青森県社会福祉士会会長
6	加 川 香寿美	青森県高等学校PTA連合会

任期：令和4年7月30日～令和6年7月29日

3 第16期青森県生涯学習審議会委員

(令和5年3月31日現在)

No.	氏名	所属等
1	三上 菜穂子	十和田市立藤坂小学校 校長
2	小笠原 一 恵	県立八戸盲学校・県立八戸聾学校 校長
3	吉 川 康 久	青森県教育支援プラットフォーム 東青地区実行委員会委員長
4	阿 彦 正 弘	鱒ヶ沢町教育委員会 教育長
5	米 田 大 吉	特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長
6	小 寺 将 太	一般社団法人tsumugu 代表理事
7	中 村 伸 二	社会福祉法人清養会 障がい者支援施設 幸養苑 苑長
8	田名部 由 香	青森県特別支援学校PTA連合会 副会長
9	工 藤 貴 子	あおもり家庭教育アドバイザー
10	大 木 えりか	八戸学院大学健康医療学部 講師
11	松 浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
12	越 村 康 英	弘前大学教育学部 准教授
13	山 崎 結 子	外ヶ浜町 町長
14	小笠原 秀 樹	特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ 理事
15	岩 本 美 和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和4年10月19日～令和6年10月18日

4 第36期青森県社会教育委員

(令和5年3月31日現在)

No.	氏名	所属等
1	小笠原 一 恵	県立八戸盲学校・県立八戸聾学校 校長
2	吉 川 康 久	青森県教育支援プラットフォーム 東青地区実行委員会委員長
3	中 村 伸 二	社会福祉法人清養会 障がい者支援施設 幸養苑 苑長
4	松 浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 准教授
5	越 村 康 英	弘前大学教育学部 准教授
6	工 藤 貴 子	あおもり家庭教育アドバイザー
7	小笠原 秀 樹	特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ 理事
8	岩 本 美 和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和4年10月19日～令和6年10月18日

5 青森県立図書館協議会委員

(令和5年3月31日現在)

No.	氏名	所属等
1	大 里 公 子	黒石市立黒石東小学校 校長

No.	氏名	所属等
2	竹浪 廣美	県立五所川原高等学校 教諭
3	松井 京子	(一社)八戸市読書団体連合会 理事
4	須藤 紀子	五所川原市立図書館 次長
5	浜田 祐子	おいらせ町家庭教育支援チーム・しるくはあと 代表
6	若松 清巳	東奥日報社編集局 次長兼文化出版部長
7	澤田 尚	五戸町教育委員会 教育長
8	本間 維	青森中央短期大学食物栄養学科 講師
9	佐藤 宰	公募委員
10	平井 美史	公募委員

任期：令和4年5月13日～令和6年5月12日

6 青森県スポーツ推進審議会委員

(令和5年3月31日現在)

No.	氏名	所属先における役職等
1	小山内 睦子	南地方小学校教育研究会体育部会副部長
2	川畑 智子	青森県スポーツ推進委員協議会委員（女性委員会副委員長）
3	工藤 裕司	青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会 会長
4	澤田 孝頼	青森県中学校体育連盟 会長
5	鹿内 葵	NPO法人スポネット弘前 理事長
6	下川原 堅藏	青森県高等学校体育連盟 会長
7	津田 英一	青森県スポーツドクターの会 会長
8	中嶋 亜弥	あおもりアスリートネットワークメンバー
9	迫 祐子	青森県空手道連盟強化委員会委員
10	東山 国男	一般財団法人青森県身体障害者福祉協会 会長
11	船場 亜希	青森県スケート連盟強化委員
12	法官 新一	学校法人光星学院 理事長
13	本間 正行	弘前大学 名誉教授
14	増田 あけみ	青森県女子体育連盟 会長
15	目澤 伸一	青森県スポーツ推進委員協議会 会長
16	六角 正人	青森観光コンベンション協会 専務理事
17	大野 智子	青森県立保健大学健康科学部栄養学科准教授

任期：令和3年11月13日～令和5年11月12日

7 青森県文化財保護審議会委員

(令和5年3月31日現在)

氏名	分野	備考
岡田俊治	建造物	
斎藤政人	建造物	
石川善朗	工芸品	
山田泰子	絵画	
上條信彦	考古資料	
瀧本壽史	歴史資料	
藤田俊雄	歴史資料	
下田雄次	芸能	
葉山茂	有形・無形民俗	
山田巖子	有形・無形民俗	
岡田康博	史跡	
兵藤勝幸	名勝	
岡田あゆみ	動物	
山岸洋貴	植物	
小形浩子	学校教育	任期 令和5年3月23日～令和6年4月8日

任期：令和4年4月9日～令和6年4月8日

8 銃砲刀剣類登録審査委員

(令和5年3月31日現在)

氏名	備考
杉本孝	
竹内正光	
細越敬喜	
山内正勝	

任期：令和4年5月13日～令和6年5月12日

9 青森県立郷土館協議会委員

(令和5年3月31日現在)

氏名	分野	備考
長根 朋子	学校教育	
工藤 規正	学校教育	
長尾 眞理	学校教育	
鹿内 亜里	学校教育	
大鷹 依子	社会教育	
石岡 有佳子	社会教育	
葛西 貢造	社会教育	
川村 優子	社会教育	
工藤 清泰	学識経験	(考古)
葉山 茂	学識経験	(博物館・人文)
安田 勝寿	学識経験	(博物館)
齋藤 信夫	学識経験	(自然)

任期：令和3年10月21日～令和5年10月20日

5 節 会議の記録

1 令和4年度教育委員会会議

○第879回定例会（R4.4.6教育委員会室）

報告第1号 青森県公立学校教員採用候補者選考試験における人物評価方法について

○第880回定例会（R4.5.11教育委員会室）

議案第1号 令和4年度青森県教科用図書選定審議会委員の人事について（決定）

議案第2号 青森県立図書館協議会委員の人事について（決定）

議案第3号 公印の押印に係る取扱いの見直し等のための関係規則の一部を改正する規則案（決定）

○第881回定例会（R4.6.1教育委員会室）

議案第1号 令和5年度青森県立中学校入学者選抜基本方針案（決定）

議案第2号 令和5年度青森県立高等学校入学者選抜基本方針案（決定）

議案第3号 令和5年度青森県立特別支援学校高等部入学者選抜基本方針案（決定）

その他 職員の懲戒処分状況について

○第882回定例会（R4.7.6教育委員会室）

報告第1号 三本木農業高等学校肉牛舎での農業実習中の事故に係る対応について

議案第1号 青森県いじめ防止対策審議会委員の人事について（決定）

○第883回定例会（R4.8.3教育委員会室）

議案第1号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について（決定）

その他 職員の懲戒処分状況について

○第884回定例会（R4.9.7教育委員会室）

報告第1号 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

議案第1号 令和4年度青森県教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について（決定）

議案第2号 青森県文化財保護審議会臨時委員の人事について（決定）

その他 県立高等学校教育改革に係る件について

○第885回定例会（R4.10.4教育委員会室）

報告第1号 議案に対する意見について

報告第2号 行政文書一部開示決定に対する審査請求に係る裁決について

報告第3号 行政文書不開示決定に対する審査請求に係る裁決について

議案第1号 青森県社会教育委員の人事について（決定）

議案第2号 青森県生涯学習審議会委員の人事について（決定）

議案第3号 学校職員の育児休業等に関する規則の一部を改正する規則案（決定）

議案第4号 青森県教育職員免許状に関する規則の一部を改正する等の規則案（決定）

その他 職員の懲戒処分状況について

○第323回臨時会（R4.10.26教育委員会室）

- 報告第1号 行政文書不開示決定処分に対する審査請求に係る青森県情報公開・個人情報保護審査会への諮問について
- 議案第1号 令和5年度青森県教育委員会事務局及び教育機関（学校を除く。）の職員人事異動方針案（決定）
- 議案第2号 令和5年度県費負担教職員人事異動方針案（決定）
- 議案第3号 令和5年度県立学校職員人事異動方針案（決定）
- 議案第4号 令和5年度青森県立高等学校及び青森県立中学校入学者募集人員について（決定）
- 議案第5号 令和5年度青森県立特別支援学校高等部及び専攻科入学者募集人員について（決定）

○第886回定例会（R4.11.2教育委員会室）

- 報告第1号 青森県生涯学習審議会答申について

○第887回定例会（R4.12.7教育委員会室）

- 報告第1号 議案に対する意見について
- 報告第2号 行政文書一部開示決定処分に対する審査請求に係る裁決について
- 報告第3号 青森県生涯学習審議会への諮問について
- その他 県立高等学校教育改革に係る要望書について

○第888回定例会（R5.1.11教育委員会室）

- 議案第1号 青森県スポーツ推進計画について（決定）
- その他 スクール・ミッションについて
- その他 県立高等学校における全国からの生徒募集の導入について
- その他 職員の懲戒処分の状況について

○第889回定例会（R5.2.8教育委員会室）

- その他 校長及び教員の資質の向上に関する指標及び青森県教職員研修計画の一部改訂について
- その他 職員の懲戒処分の状況について

○第324回臨時会（R5.2.22教育委員会室）

- 報告第1号 議案に対する意見について
- 報告第2号 行政文書不開示決定処分に対する審査請求に係る裁決について
- 議案第1号 青森県教育委員会事務局及び教育機関（学校を除く。）の職員の人事について（決定）
- 議案第2号 市町村立学校職員の人事について（決定）
- 議案第3号 県立学校職員の人事について（決定）
- 議案第4号 青森県教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則案（決定）
- その他 職員の懲戒処分の状況について

○第890回定例会（R5.3.22教育委員会室）

報告第1号 議案に対する意見について

議案第1号 「学校における働き方改革プラン」について（決定）

議案第2号 青森県文化財保護審議会委員の人事について（決定）

議案第3号 地方公務員法の一部改正等に伴う関係規則の整備に関する規則案（決定）

議案第4号 青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則案（決定）

議案第5号 青森県立学校学則の一部を改正する規則案（決定）

議案第6号 青森県立学校管理規則の一部を改正する規則案（決定）

議案第7号 博物館の登録に関する規則の一部を改正する規則案（決定）

議案第8号 県重宝の指定、県技芸の保持者の追加認定及び県有形民俗文化財の指定について（決定）

その他 職員の懲戒処分の状況について

2 令和4年度総合教育会議

○第16回会議（R4.10.4第三応接室）

議 事 本県教育の現状と課題を踏まえた教育施策の方向性について

○第17回会議（R5.2.22第三応接室）

議 事 本県の未来を担う子どもの健康づくりについて

6節 規則の制定改廃

規則番号	施行年月日	規 則 名	主 な 改 正 内 容
第1号	R4.4.1	青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則	三内丸山遺跡センター副所長の任免その他の人事に関する事務を教育委員会が決定する事務とした。
第2号	R4.4.1	三内丸山遺跡センター規則の一部を改正する規則	三内丸山遺跡センターに世界文化遺産課を新たに設置し、同課の所掌事務を規定する等の所要の整備を行った。
第3号	R4.4.1	青森県立学校学則の一部を改正する規則	成年年齢の引下げによる保護者の定義の見直し及び青森県立青森北高等学校今別校舎等の廃止に伴う所要の整備を行った。
第4号	R4.4.1	青森県立学校管理規則の一部を改正する規則	職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正により、宣誓書への氏名の自署及び押印を要しないこととされたことに伴う所要の整理を行った。
第5号	R4.5.20	公印の押印に係る取扱いの見直し等のための関係規則の一部を改正する規則	県教育委員会が所管する行政手続のうち、公印の押印に係る取扱いの見直し等を行った。
第6号	R4.10.14	学校職員の育児休業等に関する規則の一部を改正する規則	地方公務員の育児休業等に関する法律及び職員の育児休業等に関する条例の一部改正に伴い、学校職員の育児休業の承認の請求に関する規定等について、所要の整備を行った。
第7号	R4.10.17	青森県教育職員免許状に関する規則の一部を改正する等の規則	教育職員免許法の一部改正により、教員免許更新制が廃止されたことに伴う所要の整理を行った。

2章 教育財政

1節 当初予算

1 教育予算の概要

令和4年度の当初予算においては、「青森県教育施策の方針」及び「青森県教育振興基本計画」に基づき編成した結果、青森県教育委員会関係予算額は、

1,224億2,151万1千円となり、一般会計予算総額の16.7%

を占めることになった。この額を令和3年度当初予算額と比較すると、24億5,148万6千円の減額となり、その伸び率は2.0%の減となる。

(1) 当初予算総括表

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年度との比較	
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額 (A-B)	伸び率
一般会計予算総額	733,300,000	100.0	718,600,000	100.0	14,700,000	2.0
教育費(教育委員会所管分)	122,421,511	16.7	124,872,997	17.4	△ 2,451,486	△ 2.0

(2) 目的別予算内訳

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年度との比較		
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額 (A-B)	伸び率	
歳 入	使用料及び手数料	2,704,550	2.2	2,797,629	2.2	△ 93,079	△ 3.3
	国庫支出金	21,913,068	17.9	22,252,622	17.8	△ 339,554	△ 1.5
	財産収入	211,767	0.2	229,087	0.2	△ 17,320	△ 7.6
	寄附金	1,815	0.1	0	0.0	1,815	皆増
	繰入金	779,835	0.6	730,822	0.6	49,013	6.7
	諸収入	353,115	0.3	328,901	0.3	24,214	7.4
	県債	2,017,000	1.7	1,864,000	1.5	153,000	8.2
	一般財源	94,440,361	77.0	96,669,936	77.4	△ 2,229,575	△ 2.3
計	122,421,511	100.0	124,872,997	100.0	△ 2,451,486	△ 2.0	
歳 出	教育総務費	5,354,829	4.4	5,368,070	4.3	△ 13,241	△ 0.2
	小学校費	42,686,959	34.8	43,242,190	34.6	△ 555,231	△ 1.3
	中学校費	26,933,925	22.0	27,224,651	21.8	△ 290,726	△ 1.1
	高等学校費	31,085,591	25.4	32,461,411	26.0	△ 1,375,820	△ 4.2
	特別支援学校費	11,586,369	9.5	11,869,429	9.5	△ 283,060	△ 2.4
	社会教育費	2,401,493	2.0	2,634,370	2.1	△ 232,877	△ 8.8
	保健体育費	2,372,345	1.9	2,072,876	1.7	299,469	14.4
	計	122,421,511	100.0	124,872,997	100.0	△ 2,451,486	△ 2.0

※令和4年度の子算額及び構成割合は組織改正前及び組織間の事業移管前のものである。

(3) 課(室)別予算内訳

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年度との比較	
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額(A-B)	伸び率
教育政策課	78,710	0.1	82,225	0.1	△ 3,515	△ 4.3
職員福利課	105,224,564	85.9	107,374,000	86.0	△ 2,149,436	△ 2.0
学校教育課	1,720,898	1.4	1,840,823	1.5	△ 119,925	△ 6.5
教職員課	70,577	0.1	70,058	0.1	519	0.7
学校施設課	10,535,996	8.6	10,785,963	8.6	△ 249,967	△ 2.3
生涯学習課	1,483,564	1.2	1,595,819	1.2	△ 112,255	△ 7.0
スポーツ健康課	2,372,345	1.9	2,072,876	1.6	299,469	14.4
文化財保護課	917,929	0.7	1,038,551	0.8	△ 120,622	△ 11.6
高等学校教育改革推進室	16,928	0.1	12,682	0.1	4,246	33.5
計	122,421,511	100.0	124,872,997	100.0	△ 2,451,486	△ 2.0

(4) 性質別予算内訳

(単位：千円、%)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年度との比較		
	予算額	A 構成割合	予算額	B 構成割合	増減額(A-B)	伸び率	
義務的経費	人件費	106,244,340	86.8	108,352,892	86.8	△ 2,108,552	△ 1.9
	扶助費	1,370,861	1.1	1,425,822	1.1	△ 54,961	△ 3.9
	小計	107,615,201	87.9	109,778,714	87.9	△ 2,163,513	△ 2.0
投資的経費 (普通建設事業費)		4,340,884	3.6	4,628,016	3.7	△ 287,132	△ 6.2
その他の経費	物件費	6,646,756	5.4	6,577,726	5.3	69,030	1.0
	維持修繕費	780,248	0.6	782,547	0.6	△ 2,299	△ 0.3
	補助費等・貸付金等	3,038,422	2.5	3,105,994	2.5	△ 67,572	△ 2.2
	小計	10,465,426	8.5	10,466,267	8.4	△ 841	0.0
計		122,421,511	100.0	124,872,997	100.0	△ 2,451,486	△ 2.0

2 施策別主要事業の概要

(1) あおもりの未来をつくる人財の育成

「生活創造社会」の実現に向けて、未来の青森県の基盤となる人財の育成に取り組めます。

子どもたちが、ふるさとあおもりに対する誇りと愛着を持ち、新しい価値を創造する力や国際感覚を身に付け、多様性を認め、人権を尊重し、心身ともに健康で自立した人財として成長するよう、学校・家庭・地域が連携・協働して取り組みます。

① 青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり

子どもの頃から、身近な大人や地域との関わり、異文化交流などを通して、ふるさとへの理解や愛着を深め、将来、青森から世界に向かってチャレンジできる人財の育成に、学校・家庭・地域が連携して取り組みます。

ア 持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業【新規重点】((1)⑤に掲載)
59,631千円 (学校教育課)

イ 青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業【新規重点】
19,276千円 (学校教育課)

幅広い教養や主体的に課題を発見し解決する国際的素養を身に付けた人財を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロアの理念に基づく教育プログラムの開発・普及に取り組むとともに、本県の高校生と台湾の高校生の相互交流による主体的で実践的な協働学習を実施する。

ウ ドリカム人づくり推進事業 9,884千円 (学校教育課)

エ 小・中学校外国語教育充実支援事業 1,821千円 (学校教育課)

オ 済州国際青少年フォーラム派遣事業 972千円 (学校教育課)

カ 高校生国際交流推進事業 1,920千円 (学校教育課)

キ 外国語指導助手設置事業 150,235千円 (学校教育課)

ク 英語力を強化する指導改善事業 2,267千円 (学校教育課)

ケ 青商ビジネスチャレンジwith台湾事業【新規重点】 4,930千円 (学校教育課)

青森商業高等学校と台湾の高校による青森県と台湾での販売実践活動を通じて、県内商業高校との連携及び台湾の高校との連携強化を図るとともに、国内外でビジネスを展開するノウハウを高校段階から学び、ビジネスプロジェクトの協働実践を行う。

コ エネルギーに関する教育支援事業費補助 4,329千円 (学校教育課)

サ 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【継続重点】 ((3) ①に掲載)
2,191千円 (文化財保護課)

シ こども民俗芸能大会 4,378千円 (文化財保護課)

ス 運営管理事業 (郷土館) 84,931千円 (文化財保護課)

セ 少年自然の家運営管理事業 201,781千円 (生涯学習課)

② 「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

確かな学力の向上に取り組むほか、主権者教育や情報教育などにより、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組めます。

また、人権を尊重し、他者を思いやる心を育成するとともに、将来にわたって健康に暮らすための知識の習得や意識の醸成、生活習慣の定着に取り組めます。

ア あおもり教育フォーラム開催事業 593千円 (教育政策課)

イ 学習状況調査 3,994千円 (学校教育課)

ウ	ICTを活用した確かな学力向上事業【継続重点】	22,410千円（学校教育課）
	・ 小・中学校における教員のICT活用指導力向上事業	3,087千円
	教員のICT活用指導力や児童生徒の学びの質の向上を図るため、授業体験型の研修会の開催やデジタル教材等、各種コンテンツの活用を促進する。	
	・ 高等学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業	12,552千円
	ICTを活用した各教科の授業改善や教科外の教育活動を充実させ、確かな学力の向上や自立した人材の育成を図るため、全ての県立高等学校においてICT活用のための推進体制を構築し、実践事例等を蓄積・共有するシステムを構築する。	
	・ 特別支援学校におけるICTを活用した確かな学力向上事業	6,771千円
	教員のICT活用指導力や特別支援学校の児童生徒の学力、社会性の向上を図るため、教員のICT活用に関する基礎的知識や技能向上を図るとともに、ICT活用の実践事例等を蓄積・共有するシステムを構築する。	
エ	教育課程研究集会（小学校・中学校・特別支援学校）	2,223千円（学校教育課）
オ	進学力を高める高校支援事業	6,970千円（学校教育課）
カ	小・中学校外国語教育充実支援事業	1,821千円（学校教育課）
キ	青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業【新規重点】	19,276千円（学校教育課）
ク	外国語指導助手設置事業	150,235千円（学校教育課）
ケ	英語力を強化する指導改善事業	2,267千円（学校教育課）
コ	済州国際青少年フォーラム派遣事業	972千円（学校教育課）
サ	高校生国際交流推進事業	1,920千円（学校教育課）
シ	医師を志す高校生支援事業	20,871千円（学校教育課）
ス	スーパーサイエンスハイスクール支援事業	3,599千円（学校教育課）
セ	科学の甲子園関係事業	647千円（学校教育課）
ソ	ドリカム人づくり推進事業	9,884千円（学校教育課）
タ	青森県中学校文化連盟支援事業	1,700千円（学校教育課）
チ	青森県高等学校文化連盟支援事業	841千円（学校教育課）
ツ	県高等学校総合文化祭	2,888千円（学校教育課）
テ	外部人材活用による教科指導等充実事業	21,758千円（教職員課）
ト	学校図書館活用推進事業	336千円（学校教育課）
ナ	学校図書館活動支援事業	6,599千円（教職員課）
ニ	道徳教育地域支援事業	1,710千円（学校教育課）
ヌ	学校の教育相談体制充実を支援する外部専門家活用事業	147,696千円（学校教育課）
ネ	居場所づくり・絆づくり推進事業	2,953千円（学校教育課）
ノ	ソーシャルメディア等監視員配置事業	2,860千円（学校教育課）
ハ	24時間いじめ等電話相談事業	9,841千円（学校教育課）
ヒ	青森県いじめ防止対策審議会（人件費）	147千円（学校教育課）
フ	安心できる学校づくり推進事業	2,152千円（学校教育課）
ヘ	いじめ防止対策事業	824千円（学校教育課）
ホ	いじめ防止キャンペーン推進事業	7,441千円（生涯学習課）
マ	命を守る！防災教育推進事業【継続重点】	5,455千円（スポーツ健康課）
	児童生徒が自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るため、地域と連携した防災訓練等指定校でのモデル事業や研修会を実施する。	
ミ	定期健康診断費	90,112千円（スポーツ健康課）
ム	いきいき青森っ子健康づくり事業	3,229千円（スポーツ健康課）

メ	楽しさアップ!子どもの健康づくり事業【継続重点】	2,179千円 (スポーツ健康課)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本県の児童生徒の体力向上及び肥満傾向児出現率の低下に向け、「楽しい体育」に向けた授業改善を推進するため体育の楽しさアップ研修会を開催するとともに、運動プログラム及び運動遊びチャレンジカードの普及に向けた取組を実施する。 </div>	
モ	がん教育総合支援事業	723千円 (スポーツ健康課)
ヤ	学校体育実技講習会	895千円 (スポーツ健康課)
ユ	体力向上推進事業	915千円 (スポーツ健康課)
ヨ	地域部活動推進事業	2,818千円 (スポーツ健康課)

③ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

障害のある児童生徒の自立や社会参加を促進するため、個に応じた適切かつ専門性の高い指導・支援に取り組みます。

ア	地域における特別支援教育相談体制強化事業【継続重点】	2,341千円 (学校教育課)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する教育相談体制を充実させるため、関係機関との連携強化に向けた検討会議を開催するとともに、理学療法士及び言語聴覚士等外部人材の活用による教員の専門性向上研修等を行う。 </div>	
イ	高等学校における通級指導関連経費	108千円 (学校教育課)
ウ	訪問教育指導事業	490千円 (学校教育課)
エ	特別支援教育相談事業 (総合学校教育センター)	7,427千円 (学校教育課)
オ	特別支援学校就学奨励費	217,287千円 (学校教育課)
カ	特別支援学校技能検定事業	4,290千円 (学校教育課)
キ	特別支援学校生徒の夢や志を支援する就労促進事業	32,096千円 (学校教育課)
ク	特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業	1,465千円 (学校教育課)
ケ	特別支援学校における家庭教育支援事業	707千円 (生涯学習課)
コ	障害者の生涯学習支援事業	1,014千円 (生涯学習課)
サ	特別支援学校教室不足対策事業	11,249千円 (学校施設課)

④ 子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

安全・安心な教育環境の確保や、教員の実践的な指導力の向上、ICTの効果的活用など、時代や社会環境の変化に対応した、質の高い教育を受けられる持続可能な環境づくりに取り組みます。

ア	老朽改築 (校舎等建築) 事業	2,051,621千円 (学校施設課)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の安全・安心の確保及び機能向上等を図るため、老朽化が進行している三沢高校、八戸工業高校の校舎等の改築工事及び五所川原農林高校寄宿舎の改築に向けた基本計画を策定する。 ・むつ工業高校の敷地に新たに整備する下北地区統合校について、校舎等の改築に向けた基本計画を策定する。 ・県立盲学校を青森聾学校に移転し、青森聾学校の校舎等を盲聾併設校として全面改築するための設計を行う。 </div>	
イ	県立学校長寿命化・重点改良事業	364,439千円 (学校施設課)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の安全・安心の確保及び機能向上等を図るため、老朽化が進行している野辺地高校、弘前実業高校の校舎の長寿命化改修工事等を行う。 ・黒石養護学校を令和3年度末に閉校となる黒石商業高校に移転し、校舎等の整備を行うための設計を行う。 </div>	

- ウ 県立学校大規模改修 1,851,998千円 (学校施設課)
(うち2月補正分 1,346,403千円)
- エ 特別支援学校教室不足対策事業 11,249千円 (学校施設課)
- オ 実習船青森丸代船建造費 1,376,234千円 (学校施設課)
(うち2月補正分 1,238,610千円)
- カ 県立学校AED整備【新規】 2,854千円 (スポーツ健康課)
- キ 被災児童生徒就学支援等事業 1,036千円 (学校教育課・スポーツ健康課)
- ク 高等学校定時制・通信制教科書学習書給与事業 2,540千円 (学校教育課)
- ケ 特別支援学校就学奨励費 217,287千円 (学校教育課)
- コ 高校奨学金貸与事業費補助 18,617千円 (教職員課)
- サ 高等学校定時制・通信制課程修学奨励金貸与事業 5,712千円 (教職員課)
- シ 県立高等学校等就学支援金 2,182,306千円 (学校施設課)
- ス 奨学のための給付金事業 569,770千円 (学校施設課)

〔 既存校舎の改修では教室不足の解消が見込まれない七戸養護学校及びむつ養護学校について、校舎を増築するための基本計画を策定する。〕

〔 家庭の教育費負担を軽減するため、県立高校等の一定の所得未満の世帯の生徒に対し、授業料に充てるための支援金を支給する。〕

〔 低所得世帯の授業料以外の教育費負担を軽減するため、県立高校等の生徒の保護者等に対し奨学のための給付金を給付する。(第1子、第2子以降及び通信制・専攻科の給付額増額)〕

【給付額(年額)】

対 象 者 区 分	令和3年度	令和4年度	
生活保護受給世帯	全日制・定時制・通信制	32,300円	32,300円
	専攻科	48,500円	50,500円
道府県民税所得割及び市町村民税所得割非課税世帯	全日制・定時制(第1子)	110,100円	114,100円
	全日制・定時制(第2子以降)	141,700円	143,700円
通信制・専攻科	48,500円	50,500円	

- セ 特別支援教育就学奨励費システム保守委託経費 935千円 (学校教育課)
- ソ 学校給食衛生管理事業 7,762千円 (スポーツ健康課)
- タ 県立学校給食設備整備事業 3,445千円 (スポーツ健康課)
- チ 県立学校給食委託事業 20,674千円 (スポーツ健康課)
- ツ あおもりっ子育みプラン21事業 970,666千円 (教職員課)

〔 きめ細かな学習指導や生活指導を実施するため、これまで小学校1年生から5年生及び中学校1年生を対象に実施してきた33人学級編制等を小学校6年生まで拡充し実施する。また、これまで小学校1年生から4年生を含む複式学級の一定の児童数以上で配置している非常勤講師について、小学校6年生まで拡充し、指導の充実を図る。〕

対象学年	実施方法	学校数・人数	所要額(千円)
小学校1年生	33人学級編制 学年2学級以上(少人数学級編制)	22(7)校・人	92,387
小学校2年生		12(4)校・人	58,630

小学校 3年生		11(6)校・人	44,396
小学校 4年生		43(21)校・人	174,880
小学校 5年生		43(20)校・人	179,832
小学校 6年生 【拡充】		38(18)校・人	141,624
小学校 複式学級 【拡充】	1年生は7~8人又は2~6年生は15~16人の人数の多い学級 (非常勤講師配置)	22校・人	44,573
中学校 1年生	33人学級編制 学年2学級以上(少人数学級編制)	37校・人	234,344
合計		228(76)校・人	970,666

※()は小学校の学年1学級規模における少人数指導の実施校で内数

テ 外部人材活用によるスクールサポートスタッフ配置事業

125,925千円(学校教育課・教職員課)

教職員の業務の負担軽減を図るため、小・中学校、高等学校及び特別支援学校で教職員の事務的補助を行うスクールサポートスタッフの配置を拡充する。拡充に当たっては、障害者を雇用することとし、県教育委員会における障害者雇用を推進する。

R3 小・中学校24校、高等学校6校、特別支援学校20校

→ R4 小・中学校27校、高等学校22校、特別支援学校20校

ト 学校等における法務相談体制整備事業 1,988千円(教職員課)

深刻な児童生徒間トラブルや外部からの過剰な要求等に対応する教職員の負担軽減を図るとともに、児童生徒にとって最適な教育環境を維持するため、県弁護士会と連携してスクールロイヤーを配置し、学校からの法務相談に対応できる体制を整備する。

ナ スクールライフサポーター配置事業 4,354千円(教職員課)

ニ 学校における運動部活動推進事業 11,607千円(スポーツ健康課)

適切な運動部活動の実現及び教職員の運動部活動指導の負担軽減を図るため、市町村立中学校及び県立学校に運動部活動指導員を配置する。

ヌ 学校における文化部活動推進事業 1,176千円(学校教育課)

適切な文化部活動の実現及び教職員の文化部活動指導の負担軽減を図るため、県立学校に文化部活動指導員を配置する。

ネ 教員等資質向上推進協議会 252千円(学校教育課)

ノ 初任者研修 15,454千円(学校教育課)

ハ 教職員研修関係経費 2,442千円(学校教育課)

ヒ 幼稚園新規採用教員研修 507千円(学校教育課)

フ 幼児教育に係る会議・協議会経費【新規】 522千円(学校教育課)

本県の幼児教育の質の向上のため、各幼児教育施設が抱える幼児教育上の課題を明らかにするとともに、幼児教育センターの必要性等について継続的に意見交換や協議するための各種会議を開催する。

ヘ 多文化共生まちづくり促進事業【新規】 4,000千円(学校教育課)

外国につながりがある子どもの日本語指導体制の確保・充実を図るため、県内関係機関と連携し、日本語支援プログラムを実施する。

ホ	日本語指導が必要な児童生徒担当教員等連絡協議会	31千円 (学校教育課)
マ	研修講座 (総合学校教育センター)	11,338千円 (学校教育課)
ミ	長寿命化推進事業 (総合学校教育センター)	38,155千円 (学校教育課)
ム	県立学校システム管理者連絡協議会	322千円 (学校教育課)
メ	教育課程研究会 (小学校・中学校・特別支援学校)	2,223千円 (学校教育課)
モ	学校安全指導者研修	302千円 (スポーツ健康課)
ヤ	養護教諭研修 (新規採用研修、経験者研修)	5,712千円 (スポーツ健康課)
ユ	栄養教諭・学校栄養職員研修 (新規採用研修、経験者研修)	1,211千円 (スポーツ健康課)
ヨ	I C Tを活用した確かな学力向上事業 【継続重点】	22,410千円 (学校教育課)
ラ	県立学校情報通信技術支援事業 【新規】	13,200千円 (学校教育課)
	I C T担当教員の負担軽減やI C T機器を活用した授業の充実を図るため、ヘルプデスクを設置して、各種I C T機器の活用時のトラブル等への対応や管理ツール等の運用を支援する。	
リ	授業目的公衆送信補償金	10,942千円 (学校教育課)
ル	県立高等学校教育改革推進事業	16,928千円 (高等学校教育改革推進室)

⑤ 「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進

小・中・高等学校から大学等そして就職までのつながりや将来の生き方を意識したキャリア教育を社会全体で推進し、社会的・職業的自立のために必要な能力・態度を育成します。

地域や大学・企業等と連携し、子どもや若者の地域に対する貢献意欲の向上や創造力の育成を図るなど、県内定着促進も意識したキャリア形成支援に取り組みます。

ア	高校生の就職総合支援プロジェクト事業	21,832千円 (学校教育課)
イ	医師を志す高校生支援事業	20,871千円 (学校教育課)
ウ	青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人財育成事業 【新規重点】	19,276千円 (学校教育課)
エ	特別支援学校技能検定事業	4,290千円 (学校教育課)
オ	青森で生きる未来人財育成事業 (総合社会教育センター)	1,000千円 (生涯学習課)
カ	高校生スキルアッププログラム推進事業 (総合社会教育センター)	190千円 (生涯学習課)
キ	大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 (総合社会教育センター)	995千円 (生涯学習課)
ク	元気青森人を創造するeラーニング推進事業 (総合社会教育センター)	987千円 (生涯学習課)
ケ	持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業 【新規重点】	59,631千円 (学校教育課)
	高校生の県内定着促進や、持続可能な青森県を創造できる人財育成に向けて、全ての県立高校において、地域資源や人財を活用して、高校所在地域及び自身の居住地域等について理解を深める学習「あおり創造学」に取り組むほか、県内就職に関する情報提供や学校と企業の相互理解を促進するための就職支援員を配置する。	
コ	産業教育の推進・人財育成事業 【継続重点】	30,300千円 (学校教育課)
	産業界の人財育成と高校生の県内定着を図るため、令和4年10月15日～16日の全国産業教育フェア開催の機会を捉え、高校生による地元産業の研究、県内産業教育機関のPR、オンリーワン企業の紹介や小・中学生を対象とした地元企業の体験や紹介などに取り組む。	
サ	仕事力養成推進事業	2,642千円 (学校教育課)

⑥ 学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり

学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体で子どもを育む仕組みづくりを推進します。

ア	高等学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業	204千円（教職員課）
イ	特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業	1,465千円（学校教育課）
ウ	学校を核とした地域づくり推進事業【継続重点】	2,530千円（生涯学習課）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地域学校協働本部の設置を一層推進するため、県内で設置例がない、または事例が限られている形態の地域学校協働本部のモデルを示し、普及を図るとともに、地域学校協働活動の知識・理解を深めるため、コーディネーターや教職員等の研修を行う。 </div>	
エ	地域学校協働活動推進事業	2,539千円（生涯学習課）
オ	学校・家庭・地域連携協働推進事業費補助	39,067千円（生涯学習課）
カ	地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修（総合社会教育センター）	801千円（生涯学習課）
キ	子どもの読書活動推進事業	2,610千円（生涯学習課）
ク	あおもり家庭教育支援総合事業	2,603千円（生涯学習課）
ケ	家庭教育支援動画制作普及事業（総合社会教育センター）	3,866千円（生涯学習課）
コ	あおもり家庭教育力向上事業（総合社会教育センター）	1,025千円（生涯学習課）
サ	特別支援学校における家庭教育支援事業	707千円（生涯学習課）
シ	障害者の生涯学習支援事業	1,014千円（生涯学習課）
ス	若者の社会参加促進事業	1,018千円（生涯学習課）

(2) あおもりの今をつくる人財の育成

地域の課題に主体的に取り組む意欲ある人財の育成、地域における持続可能な人財育成の仕組みづくり、国内外の人財の交流による地域の活性化に取り組めます。

移住の促進など多様な人財との交流によるネットワークを構築し、地域の担い手の確保・育成につなげます。

若者や女性、高齢者の活躍促進、県民が生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組めます。

① 活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり

地域の活力が将来にわたって持続するよう、「生業」づくりや地域づくりに取り組むリーダーの育成を行うとともに、次の世代を担う人財の育成に向けた仕組みづくりに取り組めます。

国内外の人財の交流などによる地域の活性化や、多様な働き方を可能とする環境づくりに取り組めます。

ア	「地域の思いをつなぐ」若者育成事業【継続重点】	3,405千円（生涯学習課）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 若者の県内定着及び地域の将来を担う人財の育成のため、高校生等と地域活動者との地域活動の企画・実践を行い、活動成果を発表・周知する。 </div>	
イ	社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業	1,649千円（生涯学習課）
ウ	パワフルA O M O R I ! 創造塾開催事業（総合社会教育センター）	1,196千円（生涯学習課）
エ	地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修（総合社会教育センター）	801千円（生涯学習課）

② 生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

県民の生涯を通じた学びの機会の提供や、その学習成果を生かした地域活動への参加推進、高齢者の活躍促進に取り組めます。

ア	特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業	802千円	(生涯学習課)
イ	学習情報の収集・提供事業(総合社会教育センター)	7,343千円	(生涯学習課)
ウ	元気青森人を創造するeラーニング推進事業(総合社会教育センター)	987千円	(生涯学習課)
エ	生涯学習推進基盤整備事業	1,015千円	(生涯学習課)
オ	若者の社会参加促進事業	1,018千円	(生涯学習課)
カ	運営管理事業(総合社会教育センター)	118,451千円	(生涯学習課)
キ	施設設備改修工事(総合社会教育センター)	3,753千円	(生涯学習課)
ク	子どもの読書活動推進事業	2,610千円	(生涯学習課)
ケ	資料整備事業(県立図書館)	65,475千円	(生涯学習課)
コ	施設設備改修工事(県立図書館)	54,391千円	(生涯学習課)
サ	読書バリアフリー推進事業(県立図書館)【新規】	1,434千円	(生涯学習課)
	〔 視覚障害者等の利用者が、より図書館を利用しやすいようにするため、必要な機器を整備、更新する。〕		

(3) あおもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

本県の歴史・文化を継承していくため、その適切な保存と積極的な活用に取り組みます。文化芸術に親しむ環境づくりと人財の育成を進めるほか、文化芸術資源を活用した地域づくりに取り組みます。スポーツを通じた県民の健康増進や、スポーツを活用した交流人口の拡大などによるにぎわいの創出、第80回国民スポーツ大会の本県開催を見据えた競技力の向上などに取り組みます。

① 歴史・文化の継承と活用

縄文遺跡群の世界文化遺産登録をめざす取組を推進するとともに、一体的な保全と活用に取り組みます。

郷土の歴史、民俗、産業、自然等に関する資料や文化財などの適切な保存と活用を促進するとともに、伝統文化の鑑賞・体験機会の充実に取り組みます。

ア	「選ばれる三内丸山遺跡」魅力発信推進事業【継続重点】(三内丸山遺跡センター)	25,926千円	(文化財保護課)
	〔 世界遺産に登録された効果を最大限に活かし、国内外から「三内丸山遺跡が選ばれる」ためにマーケティング調査を踏まえた効果的な遺跡の価値や魅力の公開・活用(インタープリテーション)を推進する。〕		
イ	特別展開催事業(三内丸山遺跡センター)	17,806千円	(文化財保護課)
ウ	三内丸山遺跡保存・活用関連事業(三内丸山遺跡センター)	110,993千円	(文化財保護課)

	〔 三内丸山遺跡の適切な保存と積極的な活用に向けた整備等を行う。〕		
	・ 三内丸山遺跡史跡整備事業	77,500千円	
	環状配石墓等の整備工事及び北盛土等の実施設計		
	・ 三内丸山遺跡長寿命化事業	33,493千円	
	高床建物29号の長寿命化対策工事、大型堅穴建物の長寿命化対策設計及び縄文時遊館改修工事		
エ	県立郷土館長寿命化改修基本計画策定事業【新規】	43,289千円	(文化財保護課)
	〔 郷土館の再開に向け、施設設備の耐震補強を含めた長寿命化改修に係る基本計画を策定する。〕		

オ	運営管理事業（郷土館）	84,931千円（文化財保護課）
カ	文化財修理費補助	3,428千円（文化財保護課）
キ	無形民俗文化財等保護費補助	598千円（文化財保護課）
ク	記念物環境整備費補助	1,410千円（文化財保護課）
ケ	指定文化財管理費補助	2,209千円（文化財保護課）
コ	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助	970千円（文化財保護課）
サ	こども民俗芸能大会	4,378千円（文化財保護課）
シ	北海道・東北ブロック民俗芸能大会	4,949千円（文化財保護課）
ス	文化施設感染症防止等対策強化事業	3,941千円（文化財保護課）
セ	「地元の縄文」再発見プロジェクト事業【新規重点】	8,761千円（文化財保護課）
	<p>世界文化遺産の構成資産以外も含めた地元の縄文遺物の価値や魅力を県民に伝達し、郷土愛の醸成や地域活性化を図るため、市町村と縄文遺物の活用に向けた連絡会議、授業で活用する縄文遺物セットの製作、地元の縄文を紹介する講演会等の開催、県内各地で配布する遺跡・出土品カードの作成等を行う。</p>	
ソ	小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【継続重点】	2,191千円（文化財保護課）
	<p>文化財の保存・活用に携わる人材の育成を図るため、子どもたちが縄文遺跡等の地域の文化財に直接触れ、体験する取組を通じて、縄文文化や地域の文化財に関する理解を深めるとともに郷土愛の醸成を図る。</p>	
＜企画政策部からの業務移管分＞		
タ	「北海道・北東北の縄文遺跡群」保存・活用推進事業【新規重点】（三内丸山遺跡センター）	45,188千円（文化財保護課）
	<p>世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を次世代に継承するため、関係道県及び市町と共同で適切な保存と活用を進めるほか、来訪・周遊を促進し、価値や魅力の浸透を図る。</p>	
チ	「青森の縄文遺跡群」保存・活用推進事業【新規重点】（三内丸山遺跡センター）	51,324千円（文化財保護課）
	<p>「青森の縄文遺跡群」の価値を伝達し保護意識を高める普及啓発を行うとともに、民間団体や市町と連携して受入態勢の充実を図る。また、認知度向上や来訪・周遊促進に集中的に取り組む。</p>	
ツ	青森県の縄文遺跡群情報発信拠点施設整備事業【新規】（三内丸山遺跡センター）	30,528千円（文化財保護課）
	<p>来館者や県民に対し、県内に所在する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の価値や遺跡へ来訪を促す情報を発信する拠点施設の整備に係る設計を行う。</p>	
②	健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上	
	県民が年間を通じてスポーツに取り組める環境を充実させるほか、全国大会などで活躍できる選手や指導者を育成し、県民の健康づくりやスポーツによる地域活性化を進めます。	
ア	東北地区スポーツ推進委員研修会開催費補助【新規】	326千円（スポーツ健康課）
	<p>令和4年7月に八戸市で開催される東北地区スポーツ推進委員研修会の開催に要する経費を補助する。</p>	
イ	学校体育実技講習会	895千円（スポーツ健康課）
ウ	体力向上推進事業	915千円（スポーツ健康課）
エ	全国大会派遣費補助（高等学校・中学校）	13,220千円（スポーツ健康課）
オ	学校における運動部活動推進事業	11,607千円（スポーツ健康課）

カ	地域部活動推進事業	2,818千円 (スポーツ健康課)
キ	全国中学校バドミントン大会開催費補助【新規】	4,000千円 (スポーツ健康課)
	〔 令和4年8月に弘前市で開催される第52回全国中学校バドミントン大会の開催に要する経費を補助する。〕	
ク	各種体育・スポーツ大会開催費助成	4,900千円 (スポーツ健康課)
ケ	県有体育施設運営管理事業	975,678千円 (スポーツ健康課)
コ	青森県スポーツ協会補助	30,072千円 (スポーツ健康課)
サ	スポーツ振興事業職員費	18,000千円 (スポーツ健康課)
シ	青森県民駅伝競走大会開催	16,811千円 (スポーツ健康課)
ス	スポーツ科学センター運営管理	58,851千円 (スポーツ健康課)
セ	国体・東北総体派遣事業	54,454千円 (スポーツ健康課)
ソ	スポーツ・レクリエーション振興事業	7,718千円 (スポーツ健康課)
タ	広域スポーツセンター運営事業	3,792千円 (スポーツ健康課)
チ	「スポーツでみんなを元気に」健康力アップ事業【新規重点】	4,229千円 (スポーツ健康課)
	〔 スポーツを通じた健康づくりを推進するため、地域スポーツの担い手となる総合型地域スポーツクラブと連携し、地域の実情に応じた運動・スポーツ活動に取り組む。〕	
ツ	競技力強化事業	373,110千円 (スポーツ健康課)
	〔 国民スポーツ大会の本県開催に向けた総合的・戦略的な選手強化を行う。〕	
	・ 競技力向上対策本部運営費	7,670千円
	・ 競技力向上事業	110,750千円
	・ 競技力向上対策特別事業	208,539千円
	〔 競技力向上を図るため、ジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の養成及び公認資格の取得支援、トップレベルコーチ及びスーパーバイザーの招聘、強化拠点校や有力選手等への活動支援、競技団体間の情報共有の強化、医・科学スタッフによるサポートの強化などの各種施策を展開する。〕	
	・ スポーツ科学チームサポート事業	4,983千円
	〔 スポーツ科学専門員による科学的分析に基づくトレーニングのサポートを行う。〕	
	・ スポーツ科学センター環境充実事業	41,168千円
	〔 スポーツ科学チームサポート事業の実施に向け、スポーツ科学センターの組織の充実及び機器の整備等を行う。〕	
テ	特別国民体育大会スケート・アイスホッケー競技会開催経費【新規】	90,110千円 (スポーツ健康課)
	〔 令和5年1月下旬～2月上旬に八戸市及び南部町で開催される特別国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会の開催に要する経費。〕	
ト	楽しさアップ!子どもの健康づくり事業【継続重点】	2,179千円 (スポーツ健康課)

2節 補正予算

令和4年度における教育委員会の補正予算総額は△6,104万7千円で、最終予算額は1,223億6,046万4千円となり、県一般会計最終予算額8,042億8,980万7千円の15.2%を占めることとなった。

1 9月補正予算（補正第2号）（補正予算額 3億4,990万5千円）

（主な事業）

① 普及啓発事業費（三内丸山遺跡センター）	205万8千円
② 特別支援学校給食食材安定調達対策事業費	834万2千円
③ 学校安全総合支援事業費	305万1千円
④ 組織改正分	1億8,431万6千円
⑤ 災害復旧分	1億4,917万2千円

2 11月補正予算（補正第3号）（補正予算額 3億3,257万5千円）

（事業）

① 県立学校情報教育推進事業費	2,236万5千円
② 燃料費及び電気料高騰分	4億4,970万円
③ 職員給与費等の調整	△7,202万6千円

3 2月補正予算（補正第5号）〔国の補正予算関連分〕（補正予算額 2億3,030万9千円）

（主な事業）

① 特別支援学校スクールバス安全装置整備事業費	525万円
② 大規模改修（特別支援学校）	2億1,030万9千円
③ 公立小・中学校等安全対策支援事業費補助	1,475万円

4 2月補正予算（補正第6号）〔通常分〕（補正予算額 △9億7,383万6千円）

（主な事業）

① 職員給与費等の調整	△4億8,058万円
② 県立学校校内LAN整備事業（無線LANアクセスポイント）	5,153万4千円
③ 総合社会教育センター指定管理料	188万6千円
④ 体育施設運営管理費	5,253万円

3章 企画・調査・広報・情報化推進

1節 企 画

1 青森県教育委員会の「施策の柱」

教育施策の推進のため、令和5年度青森県教育委員会の「施策の柱」を設定した。

2 企画調整会議の開催

企画調整会議幹事会において、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦(青森県教育振興基本計画)、令和5年度当初予算編成等について協議した。

3 国の予算及び施策に対する提案

国の令和5年度予算及び施策に反映させるべき本県教育関係の重点施策として、次の事項について提案した。

- ・人口減少社会におけるきめ細かな教育環境の充実

4 災害に関する連絡調整

(災害名等)	(発生年月日)	(被害件数及び状況)
○8月3日からの大雨	4年8月5日	県立学校 設備破損 1校 県立学校 法面崩落 1校
○8月9日からの大雨	4年8月9日	文化財(史跡) 法面崩落 1件
	4年8月11日	市町村立社会教育施設 床上浸水・設備故障 1件
	4年8月12日	県立社会教育施設 法面崩落 1件 県立学校 野球場冠水 1校

5 知事部局等との連絡調整

下記の事項について、関係知事部局及び庁内各課室との連絡調整を行った。

(1) 各種計画連絡調整

- ・青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦
- ・第2期まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略
- ・「選ばれる青森」への挑戦重点事業
- ・政策点検
- ・青森県行財政改革大綱
- ・青森県行財政改革行動計画
- ・あおもりを愛する人づくり戦略
- ・青森県子どもの貧困対策推進計画
- ・青森県次世代育成支援行動計画「のびのびあおもり子育てプラン」後期計画
- ・青森県観光戦略

(2) 各種会議等連絡調整

- ・市町村長会議
- ・重点事業説明会
- ・知事を囲む懇談会
- ・知事を囲む行政懇談会
- ・青森県事務権限移譲連絡会議
- ・県有不動産利活用推進会議

- ・ 行財政改革の推進
- ・ 政策調整会議
- ・ 全国知事会・北海道東北地方知事会に係る要望等
- ・ 日本海沿岸地帯振興連盟に係る要望等
- ・ 地方分権改革の推進
- ・ 津軽海峡交流圏形成促進庁内会議
- ・ 青森県人づくり戦略推進会議
- ・ 地域支援業務連絡会議
- ・ 社会保障・税番号制度推進委員会
- ・ 青森県男女共同参画推進本部
- ・ あおもり地球温暖化対策庁内推進本部
- ・ もったいない・あおもり県民運動推進会議
- ・ いのち支える青森県自殺対策推進本部
- ・ 青森県子どもの貧困対策等推進委員会
- ・ 健康あおもり21推進本部
- ・ 青森県ドクターヘリ運行調整委員会
- ・ 青森県子ども・子育て支援推進本部
- ・ 中小企業振興庁内連絡会議
- ・ 青森県雇用推進本部
- ・ 青森県食育推進会議

6 青森県教育委員会の事務の点検及び評価

県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表した。

7 大学との連絡調整

県教育委員会が連携協定を締結している6大学との連携の推進に関する事務として、各大学との連携・協力実績を取りまとめた。

8 青森県教育施策の概要等

(1) 「青森県教育施策の概要」の刊行

青森県教育施策の方針や令和4年度事業の概要などを収録した「令和4年度青森県教育施策の概要」を刊行した。(A4判 57ページ 700部)

(2) 「青森県の教育」の刊行

令和3年度の本県教育行政の実績を年報として収録し、教育行政推進のための資料として刊行した。(A5判 313ページ 400部)

2節 調査・統計

1 地方教育費調査(文部科学省調査)

令和3会計年度における教育費を、学校教育、社会教育、教育行政の分野ごとに調査し、報告書を作成した。(昭和24年度以降毎年実施)

2 中学校等卒業生及び高等学校等卒業生の進路状況調査

令和4年度学校基本調査（卒業後の状況調査）の附帯調査として、進学状況を詳細に調査し、学校基本調査を含めて報告書を作成した。（昭和25年度以降毎年実施）

3 中学校等卒業予定者の進路志望状況調査

令和5年3月中学校等卒業予定者の進路志望の状況を、令和4年11月15日（一次）と令和4年12月13日（二次）で調査し、報告書を作成した。（昭和26年度以降毎年実施）

4 学 校 一 覧

学校基本調査結果に基づき、学校種類別に、在学者数、学級数、教職員数等の状況をとりまとめた冊子を刊行した。（昭和24年度以降毎年実施）

3節 広 報 ・ 広 聴

県教育委員会の施策や主要な事業について、県内の教職員、地域住民、市町村教育委員会、その他関係機関・団体に対して的確な情報を提供するとともに、関係者の意見・要望などを教育行政に反映させ、調和のとれた教育を実現するために、次の広報・広聴活動を行った。

1 「教育広報あおりけん」の発行

教育行政について、保護者及び教職員に幅広く積極的に情報を提供することを目的とした広報紙を発行し、保護者、教職員、市町村教育委員会等に配布した。

（B4判 4ページ 143,700部年5回発行）

また、平成19年度から、広報紙に広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。

2 リーフレット「青森県の教育」の発行

本県教育の現状をグラフ化したリーフレットを、国際化に対応して英訳付きで作成し、来庁者等に配布した。（A4判 8ページ 800部 年1回発行）

3 知事部局で購入している広報媒体を活用した県民への情報提供

(1) 新聞による広報活動

「広報あおりけん」

（東奥日報、デーリー東北、陸奥新報の3紙に同時掲載毎月1日、16日）年24回発行

(2) テレビによる広報活動

「大好き、青森県。」（RAB、毎月第3日曜日 17:00～17:15）

「LINK／青森県」（RAB、30秒スポット 不定期 年240回程度）

「みんなの県庁！」（ATV、毎週土曜日 16:55～17:00）

「メッセージ」（ABA、毎週土曜日 9:30～9:35）

(3) ラジオによる広報活動

「青森県広報タイム」（RAB、毎週月～木曜日 7:30～7:35）

「あおり・ふあん」（エフエム青森、毎週月～金曜日 16:55～17:00）

「申吾のほっとチャンネル」（エフエム青森、毎月第1日曜日 7:00～7:30）

- 4 知事部局の広報紙を活用した県民への情報提供
「県民だよりあおもり」（タブロイド判 8ページ 毎戸配布紙 年6回発行）
- 5 ソーシャルメディアを活用した県民への情報提供
「ツイッター」
「Facebook（青森県企画政策部広報広聴課）」
- 6 青森県庁ホームページを活用した県民への情報提供
青森県庁ホームページのメインビジュアルによる情報発信
- 7 県との地域協働事業に関する包括協定に基づき行う県民への情報提供
（株）ローソン、（株）ファミリーマート、イオン（株）、（株）セブン・イレブン・ジャパン及び（株）イトーヨーカ堂の各社の県内各店舗に、県政に係るポスター、パンフレット、チラシ等を掲示・設置
- 8 報道機関に対する情報提供
教育記者会を通じて、随時報道機関に対して情報の提供を行い、県民の教育行政に対する理解を深めるように配慮した。
教育記者会加盟16社〔東奥日報、デーリー東北新聞、陸奥新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、日本経済新聞、産経新聞、青森放送、青森テレビ、日本放送協会、青森朝日放送、フジテレビ、時事通信、共同通信〕

教育記者会への発表事項

区分 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
記者発表	1	1	0	1	0	0	3	1	0	1	2	2	12
資料配布	14	20	26	36	39	20	41	27	27	38	43	58	389
計	15	21	26	37	39	20	44	28	27	39	45	60	401

9 あおもり教育フォーラム

特定のテーマを設定し、様々な立場の方による意見交換を通して、幅広く意見を聴取し、今後の本県教育行政に反映させることを目的に、青森県PTA連合会・青森県PTA安全互助会との共催により例年実施していたが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施しなかった。

4節 教育行政における情報化の推進

教育行政情報システムについて開発・運用・保守を行うとともに、教育行政の情報化についての総合的な企画・調整・連絡及び推進を行った。

1 教育情報化の推進

教育全般にわたる情報化の基本的方向や共通基盤の整備に係る総合的調整を図っている。令和3年度は、教育庁職員を対象にオンラインシステムの操作に係る講習を行った。

2 教育行政情報システムの開発・運用・保守

(1) 学力・成績情報

令和4年度県立高等学校入学者選抜学力検査結果について、「高校入試処理結果の情報管理に関する基準」に基づき、各種集計表及び詳細分析資料の出力を行った。

(2) 体格・体力・運動能力情報

令和4年度体格・体力・ライフスタイル調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を刊行した。

(3) 児童生徒の健康管理情報

令和4年度学校保健調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を刊行した。

(4) 学校属性・教育諸条件情報

学校基本調査データファイル(文部科学省マスタ)から、県内学校の基本データを蓄積し、学校一覧の作成をはじめ、進学・就職に関する情報等のシステムでデータを活用した。

(5) 施設・設備に関する情報

学校施設課において、公立学校施設実態調査結果を基に各種情報分析と資料作成等を行った。

(6) 進学・就職に関する情報

令和4年3月中学校等・高等学校等卒業者の進路状況及び令和5年3月中学校等卒業予定者の進路志望状況について、集計分析処理を行った。

(7) 職員の健康管理情報

令和4年度に実施した事務局職員の健康診断受診結果について、各種集計表の出力を行った。

(8) 銃砲刀剣情報

文化財保護課において、データの登録・更新を行いデータベースに蓄積されたデータを各種問い合わせの対応に活用した。

(9) 人事情報(学校教職員)オンラインシステム

各担当所属において、学校教職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

(10) 人事情報(事務局職員)オンラインシステム

職員福利課において、事務局職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

(11) 研修オンラインシステム

各担当所属において、研修情報の入力及び集計資料の出力等を逐次行った。

3 教育庁コンピュータシステム

教育行政情報システム(バッチ処理システム及びオンライン処理システム)を活用するためのクライアント・サーバ及びネットワーク機器等を整備し、管理・運用した。

4 教育庁OAシステム

教育庁の情報基盤整備のため、平成12年度から本庁各課及び各公所へクライアント、サーバ、ネットワーク機器等を整備し、管理・運用している。

5 県教育委員会のホームページ

県教育委員会と県民の窓口として開設している県教育委員会ホームページについて、コンテンツの充実に取り組み、積極的な情報発信及び教育行政への県民からの意見反映等に努めた。

なお、平成20年8月からCMS（コンテンツマネジメントシステム）が導入され、各コンテンツの管理は各担当所属が行っている。

なお、平成19年度から、トップページに広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。

6 青森県教育データブックの作成

教育関係の基礎的なデータについて、学校教育、社会教育を中心に、スポーツ、文化、教育費も含めて整理し、グラフを用いて視覚的にわかりやすくあらわした資料として、「青森県教育データブック」を作成し、県教育委員会のホームページに掲載した。

7 研 修

「電子計算組織利用による教育行政情報システム開発基本計画」に基づき、計画的に情報広報グループ員の養成を図っている。

4章 叙 勲、表 彰

1 節 職員福利課関係

1 叙 勲 受 章 者

(1) 令和4年春の叙勲

加藤 俊 一	(瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
四戸 武 男	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
濱田 恭 平	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
中谷 匡 利	(瑞双)	元公立高等養護学校長	同 上
石井 昌 光	(瑞双)	元公立養護学校長	同 上
長内 幸 子	(旭単)	元青森県地域婦人団体連合会副会長	社会教育の向上発展に貢献
相川 恒 徳	(瑞双)	学校薬剤師	学校保健衛生の向上発展に貢献
井戸端 隆 雄	(旭双)	青森県軟式野球連盟会長	スポーツの振興充実に貢献
鬼柳 恵 照	(瑞双)	平内町文化財審議委員会委員長	文化財保護の向上発展に貢献

(2) 令和4年秋の叙勲

柴田 憲 孝	(瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
峯 浩 一	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
番澤 一 弘	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
小比類卷 武 年	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
奥崎 隆	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
田澤 敏 之	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
張 摩 博 子	(旭単)	元青森県地域婦人団体連合会副会長	社会教育の向上発展に貢献
宮澤 誠	(瑞双)	学校歯科医	学校保健衛生の向上発展に貢献
木村 隆 一	(瑞双)	学校医	同 上
小柴 榮	(旭単)	青森県自転車競技連盟副会長	スポーツの振興充実に貢献
三浦 榮 一	(瑞双)	元五戸町文化財保護審議会議長	文化財保護の向上発展に貢献

(3) 高齢者叙勲

大羽沢 榮 子	(瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
佐々木 正	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
川 浪 元 司	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
浅見 則 昭	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
市川 清 太	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
工藤 健 二	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
中谷 照 藏	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
松原 清 治	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
稲垣 鈴 夫	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
工藤 隆	(瑞双)	元公立小学校長	同 上

鈴木明寛	(瑞双)	元公立中学校長	初等中等教育の発展に貢献	
成田極見	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
二本柳玉人	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
水溜勤	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
小野秀人	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
北山慶一	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
佐藤博	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
澤野壬自	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
柳谷清	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
竹ヶ原弘明	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
鶴賀善宏	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
中田利浩	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
畑中吉三郎	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
山市忠男	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
山口道廣	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
八木橋久二	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
大久保弘	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
太田忠	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
川村倫	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
工藤富司	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
高田巽	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
高谷伸郎	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
嶋勝二	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
千葉要三郎	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
葛西清代	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
木村啓	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
工藤志郎	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
外崎敏弘	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
中嶋豊	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
花岡宏六	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
藤井茂男	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
赤沼不二夫	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
境勇一	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
相場富男	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
宮忠	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
平山晋也	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上

2 県 褒 賞

宇藤裕夫	教育の振興発展に貢献
矢野均	社会教育の振興発展に貢献
黒田剛	体育の振興発展に貢献
佐々木琢磨	同 上
柿坂吉彦	学校保健衛生の向上発展に貢献
藤川修成	同 上
櫻田努	寄附により教育振興に貢献

3 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰

杉 澤 廉 晴	青森県教育委員会委員
長 尾 孝 紀	元五所川原市教育委員会教育長
野 坂 幸 子	野辺地町教育委員会委員
宮 野 成 厚	大間町教育委員会委員
宇 藤 裕 夫	元田子町教育委員会教育長

(2) 教育者表彰

三 上 雅 也	青森県立青森商業高等学校長
横 山 仁	青森市立浪打中学校長
加 藤 知 明	青森市立金沢小学校長

2節 学校教育課関係

1 年度末表彰（青森県教育委員会）

	校種	氏名	ふりがな	学校名	学年	区分
1	小学校 (東青)	加藤 優真	かとう ゆうま	青森市立浦町小学校	1	(4)
2	中学校 (東青)	山田 陽菜乃 木村 瑠亜	やまだ ひなの きむら るあ	青森市立浪岡中学校 ※青森南警察署長 感謝状 (R4.11.9)	2 1	(1)
3	中学校 (中南)	阿部 みな実 福士 若奈 村上 礼奈 村上 木音 兜森 蒼天	あべ みなみ ふくし わかな むらかみ れいな むらかみ こと かぶともり そら	弘前市立第三中学校	1 1 1 1 1	(1)
4	中学校 (中南)	小野 優芽 佐々木 モナ 工藤 祐愛	おの ゆめ ささき もな くどう ゆい	弘前市立第四中学校	2 2 1	(1)
5	中学校 (西北)	白戸 蓮	しらと れん	五所川原市立 五所川原第一中学校	2	(1)
6	中学校 (上北)	横濱 煌太郎	よこはま こうたろう	野辺地町立野辺地中学校	3	(1)
7	高校 (県立)	伊藤 才道 蛸嶋 啓互 根戸内 一心	いとう たかみち たこしま けいご ねとない しん	県立大間高校 ※大間警察署長感謝状 (R4.11.17)	2 2 1	(1)

※ 区分は、表彰基準1の「推薦の対象」の分類番号である。

- (1) 人命を救助した。
- (2) 災害に際し適切な判断のもとに行動した。
- (3) 他人の不幸に際し、誠意をもって援助した。
- (4) その他奉仕活動等、社会的に有益な行為をした。

3節 生涯学習課関係

1 文部科学大臣表彰

- (1) 社会教育功労者表彰
福山 廣 新郷村教育振興協議会会長
福原 仁一 青森県子ども会育成連合会理事
- (2) 視聴覚教育・情報教育功労者表彰
太田 眞佐清 (むつ市)
- (3) 優良PTA表彰
藤崎町立藤崎小学校
田子町立上郷小学校
県立五所川原農林高等学校

- (4) 優良公民館表彰
田舎館村中央公民館
- (5) 子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰
 【学 校】 青森市立造道中学校
 青森県立大間高等学校
 【図書館】 六ヶ所村民図書館
 【団体（個人）】 潮風おはなし会（中泊町）
- (6) 「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰
東 信 昭（十和田市）
- (7) 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰
八戸高等支援学校学校運営協議会・八戸高等支援学校鮫地域協働活動
（青森県立八戸高等支援学校）
- (8) 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に係る文部科学大臣表彰
健康生活リズムで元気いっぱい～早寝・早起き・朝ごはん～（階上町立石鉢小学校）
ぐっすり眠って心も体も元気いっぱい大作戦（三沢市立木崎野小学校）

4 節 スポーツ健康課関係

1 体育・スポーツ関係

(1) 教育長表彰

① 青森県体育功労者（8名）

No.	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
1	金濱 文雄	76歳	八戸市	青森県軟式野球連盟 理事長	平成2年より、青森県軟式野球連盟の役員として同競技の競技力向上や普及・促進に寄与し、本県で開催された天皇杯全国大会や東日本軟式野球大会1部大会等に大会役員として携わり、大会を成功させるなど、本県軟式野球競技の発展に貢献した。
2	楠美 俊一	77歳	五所川原市	五所川原市バレーボール協会 会長	昭和56年より、五所川原市バレーボール協会の役員を歴任し、各種大会や技術講習会を企画立案し、バレーボール競技の普及に尽力した。また、プレミアムリーグの誘致や、国内トップ選手によるバレーボール教室を成功させ、地域のスポーツ振興に多大な貢献をした。
3	笹木 正信	74歳	青森市	青森県柔道連盟 会長	平成21年の青森県柔道連盟会長就任後、「柔道の日」及び「柔道新春の集い」の事業を新たに企画し、柔道を愛好する幼児、児童及び中学生等に対して柔道の楽しさや醍醐味等を体験させるなど、柔道競技の普及に多大な貢献をした。
4	藤森 俊	74歳	五所川原市	青森県卓球連盟 副会長	平成13年の常任理事就任から現在まで、青森県卓球連盟役員として県内指導者や選手の育成と強化に務めた。また国民体育大会卓球競技においては、総監督として陣頭指揮を執り、優勝2回、準優勝2回の成績を収めるなど、本県卓球競技の発展に大きく貢献した。

No.	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
5	水木 厚美	83歳	弘前市	弘前市野球協会 会長	平成12年から会長を務める弘前市野球協会では、長年にわたり協会の役員を歴任し、野球競技の普及に尽力したほか、少年野球教室や各種大会を開催し、野球人口の底辺拡大と正しい野球マナーの普及・向上に尽力した。
6	吉田 誠夫	73歳	八戸市	青森県アイスホッケー連盟 副会長	昭和63年より、青森県アイスホッケー連盟の役員として競技の普及に寄与した。現在は同連盟の副会長として、小学生から成年までの幅広い年代の強化に取り組んでいる。また、本県開催の国民体育大会冬季大会などにおいて、大会役員として中心的な役割を果たし、大会を成功に導いた。
7	吉田 淳一	76歳	八戸市	八戸ボクシング協会 会長	昭和39年の市協会設立以降、選手、役員として八戸市のボクシング競技の指導や後進の指導に努め、アマチュアボクシング競技の発展に寄与した功績が大きい。また、東北大会や全国大会の誘致や準備、運営に尽力し、市や県のスポーツ振興に大きく貢献した。
8	米澤 勝義	72歳	西目屋村	西目屋村スポーツ協会 会長	昭和46年の村体育協会発足から現在まで50年以上の間、村のスポーツ事業の運営に携わり、地域のスポーツ発展に寄与した。また、秋田県藤里町とのスポーツ交流を企画立案し、人的交流及び経済交流に尽力し、村スポーツの牽引役として普及振興に多大な貢献をした。

② 青森県社会体育優良団体（1団体）

No.	団体名	代表者氏名	実績
1	むつ市柔道協会 (むつ市) 昭和35年設立	会長 岩本 浩也	毎年、むつ下北地域の選手を対象とした春季柔道大会を主催し、柔道の競技力向上のみならず、礼節を重んじる青少年の育成に取り組んでいる。また、各種大会への審判員派遣や運営補助などにも積極的に取り組み、柔道の普及発展に努めてきた。

③ 青森県優良スポーツクラブ（3団体）

No.	団体名	代表者氏名	実績
1	大畑ベースボールクラブ (むつ市) 平成22年設立	会長 齊藤 充	平成22年に、むつ下北地区で初めて、学校部活動から地域主体でのスポーツ少年団に移行して以来、小学生の野球指導及び指導者の育成に取り組んでいる。また、選手には毎年野球肘検診を受診させるなど、子供たちの健康に留意するとともに、野球を通じた青少年の健全育成に貢献した。
2	六戸町野球協会 (六戸町) 昭和51年設立	会長 川原 雄一	野球を愛好する青年一般の健康の保持増進や体力づくり、一般社会に貢献することを目的とし、大人から子どもまで参加できる野球大会の開催や、町行事への運営協力を積極的に行うなど、軟式野球競技の普及や町民の健康増進に多大なる貢献した。
3	西目屋バドミントンクラブ (西目屋村) 平成19年設立	会長 三上 眞	青森県民体育大会での優勝を目標とし、継続的かつ組織的に活動を続けている。バドミントンを通じた心身の健康の増進と会員同士の親睦を深めるとともに、競技スポーツとしてだけでなく、生涯スポーツとしてのバドミントン競技の普及・発展に大きく貢献した。

④ 青森県スポーツ栄誉賞（1名）

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	佐々木琢磨	陸上競技	仙台大学 (五戸町出身)	第24回夏季デフリンピック競技大会 陸上競技 男子100m 第1位 第23回夏季デフリンピック競技大会 陸上競技 男子4×100mリレー 第1位

⑤ 青森県スポーツ功労賞（5名）

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	敦賀 又四郎	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (五所川原市在住)	第36回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分33秒52) M90 男子4×400m R (9分23秒29)
2	工藤 勇蔵	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (五所川原市在住)	第36回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分33秒52) M90 男子4×400m R (9分23秒29)
3	三ツ谷 三造	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (鯉ヶ沢町在住)	第36回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×400m R (9分23秒29)
4	三浦 信夫	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (弘前市在住)	第36回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分33秒52)
5	田中 博男	マスターズ 陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 (青森市在住)	第36回青森マスターズ陸上選手権大会 M90 男子4×100m R (1分33秒52) M90 男子4×400m R (9分23秒29)

⑥ 青森県スポーツ大賞（128名）

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	土屋 正恵	スキー	弘果弘前中央 青果(株)	第100回全日本スキー選手権大会クロスカントリー競技 女子総合バシユート 優勝
2	横濱 汐莉	スキー	日本大学	第100回全日本スキー選手権大会クロスカントリー競技 女子5kmフリー 優勝 女子10kmクラシカル 優勝
3	開坂 優	スキー	弘果弘前中央 青果(株)	第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会 成年女子B5kmクラシカル 優勝
4	渡辺 倫果	スケート	法政大学	プランタン杯 女子シングルス 優勝
5	相馬 あい	水泳	ミキハウス	第77回国民体育大会水泳競技 競泳 成年女子100mバタフライ 優勝
6	佐々木珠南	水泳	八戸東中学校	第45回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季 水泳競技大会 女子13～14歳区分 200m個人 メドレー 優勝
7	村上 来花	陸上競技	九州共立大学	第91回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子ハンマー投 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
8	岸本 鷹幸	陸上競技	富士通	第77回国民体育大会水泳競技 成年男子400mハードル 優勝 第70回全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 男子400mハードル 優勝
9	山口 光	陸上競技	順天堂大学	第91回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子800m 優勝
10	古川瑛梨奈	陸上競技	青森聾学校	第59回全国聾学校陸上競技大会 一部女子やり投 優勝
11	東 隆臣	陸上競技	常盤野中学校	第49回全日本中学校陸上競技選手権大会 男子走高跳 優勝
12	田澤 廉	陸上競技	駒澤大学	第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走 優勝 第54回全日本大学駅伝対校選手権大会 優勝
13	沼田 晃季	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
14	大戸 太陽	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
15	中山竜之介	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
16	三輪 椋平	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
17	丸山 大和	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
18	宇野 禅斗	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
19	小原 由敬	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
20	本田 真斗	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
21	那須川真光	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
22	松木 玖生	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
23	藤森 颯太	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
24	鈴木 尋	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
25	福田 南波	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
26	小野 暉	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
27	田中 栄勢	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
28	田澤 夢積	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
29	渡邊 星来	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
30	小湊 絆	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
31	阿部 秀哉	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
32	寺田 律稀	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
33	渡邊 来依	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
34	三橋 春希	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
35	相原エリキ真二	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
36	西脇虎太郎	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
37	秋元 泰喜	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
38	小林 康人	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
39	笹生 幸利	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
40	齋藤 隆仁	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
41	石井 新大	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
42	代田 昂大	サッカー	青森山田高校	第100回全国高校サッカー選手権大会 優勝
43	工藤 紅葉	ボクシング	日本体育大学	令和3年度全日本女子ボクシング選手権ジュニア 大会 四日市大会 女子 ピン級 優勝
44	秋元 啓介	ボクシング	青森山田高校	第76回全国高等学校ボクシング選手権大会 男子 ライト級 優勝 第33回全国高等学校ボクシング選抜大会 男子 ライト級 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
45	一戸 洗斗	ボクシング	弘前東中学校	令和3年度第1回全日本UJフレッシュボクシング大会 男子54kg級 優勝
46	前田 和彦	ボクシング	(株)鳴海紙店	第2回全日本マスボクシング選手権大会 エリート ビギナー(18~45歳)男子の部 165cm超 優勝
47	工藤 秀幸	ボクシング	あおぞらペンキ	第2回全日本マスボクシング選手権大会 エリート アドバンス(18~45歳)男子の部 165cm超 優勝
48	田口 将	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
49	野口 勇人	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
50	松本 健太	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
51	太田 悠介	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
52	石橋 知也	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
53	中山蒼一朗	体操	青森大学	第74回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝 第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
54	山本 恭広	体操	青森大学	第75回全日本新体操選手権大会 男子団体 優勝
55	田窪 莉久	体操	青森大学	第75回全日本新体操選手権大会 個人種目別 クラブ 優勝
56	葛西 麗音	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操 大会 男子団体競技選手権 優勝
57	小沢 泰聖	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操 大会 男子団体競技選手権 優勝
58	神山 貴臣	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操 大会 男子団体競技選手権 優勝
59	譽士太陽向	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操 大会 男子団体競技選手権 優勝
60	矢島 優聖	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操 大会 男子団体競技選手権 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
61	工藤 柊翔	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操大会 男子団体競技選手権 優勝
62	橋場 莉玖	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操大会 男子団体競技選手権 優勝
63	玉熊 瑠大	体操	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会新体操大会 男子団体競技選手権 優勝
64	柴沼咲太郎	体操	ソニースポーツクラブ	2022全日本ジュニア体操競技選手権大会 種目別 男子Aクラス 鉄棒 優勝
65	小島 埜和	体操	アップルJr.体操クラブ 弘前学院聖愛中学校	2022全日本ジュニア体操競技選手権大会 種目別 男子2部 ゆか 優勝 第53回全国中学校体操競技選手権大会 男子個人種目別 床運動 優勝
66	佐々木未桜	レスリング	根城中学校	令和4年度沼尻直杯第48回全国中学生レスリング選手権大会 女子36kg級 優勝
67	川下 未来	レスリング	白銀南中学校	フォーデイズ杯令和4年度第15回全日本女子オープンレスリング選手権大会 中学生の部 36kg級 優勝
68	榎本 美鈴	レスリング	青森県レスリング協会	フォーデイズ杯令和4年度第15回全日本女子オープンレスリング選手権大会 シニアの部 65kg級 優勝
69	高田ここな	レスリング	日本体育大学	第69回全国社会人レスリング選手権大会 女子の部 68kg級 優勝
70	小原 佑太	自転車競技	日本プロフェッショナルサイクリスト協会	2022全日本選手権トラック 1kmタイムトライアル 優勝
71	室谷 榎音	自転車競技	青森商業高校	2022JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会 女子U17 個人パーシュート 優勝 女子U17 500mタイムトライアル 優勝
72	水木 瑠	ソフトテニス	早稲田大学	第77回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権 男子ダブルス選手権大会 優勝
73	水木 洸	ソフトテニス	尾上中学校	第53回全国中学校ソフトテニス大会 男子ダブルス 優勝
74	松田 拳弥	ソフトテニス	尾上中学校	第53回全国中学校ソフトテニス大会 男子ダブルス 優勝
75	棟方 聖蓮	相撲	弘前実業高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会相撲競技 個人体重別戦100kg級 優勝
76	山崎 勝磨	相撲	近畿大学	第47回全国学生相撲個人体重別選手権大会 135kg級 優勝
77	長谷川理央	相撲	慶應義塾大学	第8回全国女子相撲選抜ひめじ大会 一般の部 無差別級 優勝
78	長谷川心響	相撲	木造中学校	第13回全日本女子相撲岐阜大会 小・中学生の部団体 優勝
79	川浪 鈴菜	相撲	柏中学校	第13回全日本女子相撲岐阜大会 小・中学生の部団体 優勝

No.	氏 名	競技種目	所 属	大会名及び成績
80	新井田哩来	相撲	田子中学校	第19回全日本中学生女子相撲大会 中学生超軽量級 優勝
81	奈良岡功大	バドミントン	I M G	ベトナムオープン2022 男子シングルス 優勝 2022日本ランキングサーキット 男子シングルス 優勝
82	石川 心葉	バドミントン	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会 女子個人対抗ダブルス 優勝 第77回国民体育大会バドミントン競技 少年女子 優勝
83	清瀬 璃子	バドミントン	青森山田高校	令和4年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技大会 女子個人対抗ダブルス 優勝 第77回国民体育大会バドミントン競技 少年女子 優勝
84	小林 優花	バドミントン	青森山田高校	第77回国民体育大会バドミントン競技 少年女子 優勝
85	大竹 望月	バドミントン	BIPROGY	2022日本ランキングサーキット 女子ダブルス 優勝
86	高橋 美優	バドミントン	BIPROGY	2022日本ランキングサーキット 女子ダブルス 優勝
87	内田 実羽	バドミントン	法政大学	秩父宮・秩父宮妃杯争奪第73回全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝
88	東谷 悠妃	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
89	中根 千夏	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
90	工藤 彩歩	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
91	小山 涼風	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
92	田村 美月	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
93	徳永 結妃	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
94	浅野 真央	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝 女子シングルス 優勝
95	川崎 航生	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
96	石沢 太一	バドミントン	青森山田中学校	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会 女子団体 優勝
97	佐藤 律子	バドミントン	青森市バドミントン協会	第39回全日本シニアバドミントン選手権大会 55歳以上 女子ダブルス 優勝

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
98	関川 愛音	山岳	湊中学校	第2回スピードユース日本選手権 ユースB女子 優勝
99	岡部 心愛	空手道	青森明の星中学校	文部科学大臣杯第64回小学生・中学生全国空手道選手権大会 個人戦 中学3年生女子形の部 優勝
100	須藤 雄大	空手道	壽和館	第23回松涛連盟全国空手道選手権大会 一般二部・三部 男子 型 優勝 第23回松涛連盟全国空手道選手権大会 一般二部 男子 組手 優勝
101	月館 悠汰	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
102	佐藤 楓雅	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
103	澤口 輝	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
104	黒丸隆太郎	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
105	三浦 秀瑛	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
106	米田 迅一	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
107	金本 怜恩	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
108	山口 治務	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
109	藤田 泰睦	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
110	古館旺一郎	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
111	中川原貫真	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
112	高橋 宙来	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
113	佐々木清吉	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
114	石ヶ森千隼	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
115	平井 遥斗	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
116	千葉 俊介	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
117	平 一天	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
118	米田 湮琉	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
119	高崎 誠大	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
120	沼端悠太郎	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
121	米田 将騎	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
122	中村 慈瑛	アイスホッケー	八戸工業大学第一校校	第17回全国高等学校選抜アイスホッケー大会 優勝
123	石岡 大空	ボウリング	青森中央学院大学	文部科学大臣杯第60回全日本大学ボウリング選手権大会 男子5人チーム戦 優勝
124	石田 智輝	ボウリング	青森中央学院大学	文部科学大臣杯第60回全日本大学ボウリング選手権大会 男子5人チーム戦 優勝
125	中村 祐麻	ボウリング	青森中央学院大学	文部科学大臣杯第60回全日本大学ボウリング選手権大会 男子5人チーム戦 優勝
126	佐々木 諒	ボウリング	青森中央学院大学	文部科学大臣杯第60回全日本大学ボウリング選手権大会 男子5人チーム戦 優勝
127	吉原 正明	ボウリング	青森中央学院大学	文部科学大臣杯第60回全日本大学ボウリング選手権大会 男子5人チーム戦 優勝
128	鳥谷部エイ子	ボウリング	(南)日野工産青森販売	第16回アジアシニアボウリング選手権大会 女子グランドシニア部門ダブルス戦 3位

⑦ 青森県スポーツ努力賞（7名）

No.	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	野澤 有真	水泳	堤小学校	第45回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会 男子10歳以下区分 50mバタフライ 優勝
2	古川 翔稀	レスリング	野辺地小学校	令和4年度第39回全国少年少女レスリング選手権大会 3年46kg級 優勝
3	赤石 璃愛	相撲	舞戸小学校	第13回全日本女子相撲岐阜大会 小・中学生の部 団体 優勝
4	新井田心路	相撲	田子小学校	第25回全日本小学生女子相撲大会 4年生以下の部 35kg以上級 優勝
5	岡山 裕弥	相撲	篠田小学校	JOCジュニアオリンピックカップ第35回全日本小学生相撲優勝大会 5年生の部 優勝
6	工藤 柚月	空手道	小湊小学校	文部科学大臣杯第64回小学生・中学生全国空手道選手権大会 個人戦小学5年生女子形の部 優勝
7	成田 皇大	空手道	筒井小学校	第60回全国防具付空手道選手権大会 組手競技 小学5年生男子 優勝

⑧ 青森県スポーツ・レクリエーション奨励賞

- 1 地域又は職域において、引き続き10年以上スポーツ・レクリエーション活動の企画・指導に当たり、その普及・振興に尽くした者

氏名	年齢	住所	活動年数	実績
山端 一雄	67歳	十和田市	39年	昭和58年から現在に至るまで、県綱引連盟の役員を務め、子どもから大人、地域または職域での綱引き大会を企画・運営するなど、競技の指導及び普及に努め、長年にわたり世代を超えた地域住民等の健康増進に尽力した。

- 2 地域のスポーツ・レクリエーションの普及・振興のため、市町村域または広域のスポーツ振興に功績のあった団体で次の条件を満たすもの

- ア 引き続き5年以上活動し、会員等の構成員がおおむね10名以上であること
イ 活動と運営が、定期的、計画的かつ組織的に行われていること

(五十音順)

団体名	代表者氏名	主な功績
※該当なし		

- 3 新たなスポーツ・レクリエーションの種目や用具を開発し、県民のスポーツ・レクリエーション活動の普及・振興に功績のあった者又は団体

団体名又は氏名	主な功績
※該当なし	

- 4 全国を統括する連盟・協会が主催する大会において、優秀な成績を収め表彰された者若しくは団体又は顕著な活動・功績により表彰された者若しくは団体

氏名	種目	市町村	大会名及び成績
奈良岡克彦	ラージボール卓球	弘前市	第5回全日本ラージボール卓球選手権大会 混合ダブルス 130 優勝
小倉 ちえ	ラージボール卓球	青森市	第5回全日本ラージボール卓球選手権大会 混合ダブルス 130 優勝

2 学校給食関係

- (1) 令和4年度学校給食表彰（文部科学大臣表彰）

〈個人〉

長 沼 裕美子（外ヶ浜町立蟹田中学校 栄養教諭）

- (2) 令和4年度青森県学校給食表彰（県教育長表彰）

◇本表彰は、学校給食の普及と充実を図るため、学校給食実施上優れた効果をあげている学校、学校給食共同調理場、個人及び団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

〈学校〉

青森市立小柳小学校（校長 野 沢 寿 恵）

鶴田町立鶴田小学校（校長 片 山 好 弘）

八戸市立中沢中学校（校長 瀧 野 貢 二）

3 学校保健関係

- (1) 学校保健及び学校安全表彰

① 文部科学大臣表彰

学校保健関係

個人の部

北 村 箴 至 学校医（八戸市）

佐 藤 實 元学校医（五所川原市）

吉 田 洋 元学校歯科医（今別町）

学校の部

なし

学校安全関係

八戸市立多賀小学校

② 青森県教育委員会教育長表彰

◇本表彰は、学校保健及び学校安全の普及と向上を図るため、これらに関して顕著な功績をあげた学校保健及び学校安全関係者、学校、団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

学校保健関係

〈個人〉

巴 朝 夫	学校医	(八戸市)
鈴木 吾 朗	学校医	(三沢市)
山上 美情子	学校医	(青森市)
権 昭 致	元学校医	(青森市)
袴 田 真理子	学校医	(八戸市)
水 尻 栄	学校医	(大鰐町)
小 松 修	学校医	(階上町)
神 均	学校医	(県立青森西高校)
古 館 仁	学校歯科医	(十和田市)
若 井 以久子	元学校歯科医	(青森市)
石 橋 薫	学校歯科医	(八戸市)
鈴木 晃	学校歯科医	(野辺地町)
笠 川 宏 子	学校薬剤師	(弘前市)

〈学校〉

なし

学校安全関係

〈個人〉

なし

〈学校〉

なし

③ 青森県学校保健会長表彰

◇本表彰は、学校保健の普及と向上に関して、顕著な功績をあげた学校保健関係者、学校及び団体に対して、青森県学校保健会会長が行うものです。

〈個人〉

高 屋 茂	学校歯科医	(十和田市)
工 藤 清太郎	学校医	(八戸市)
笹 村 秀 隆	学校歯科医	(弘前市)
佐 藤 洋 湖	学校医	(青森市)
田 村 研	学校医	(むつ市)
成 田 浩 康	学校薬剤師	(藤崎町)
松 尾 將 之	学校歯科医	(三戸町)

〈学校〉

なし

(2) 学校歯科保健優良校

〈小学校〉

小規模校 県一 青森市立橋本小学校
中規模校 県一 つがる市立稲垣小学校
大規模校 県一 三沢市立木崎野小学校

〈中学校〉

小規模校 県一 平内町立西平内中学校
大規模校 応募なし

〈高等学校の部〉

応募なし

〈特別支援学校〉

県一 青森県立森田養護学校

〈幼稚園〉

応募なし

(3) 歯・口の健康児童表彰

※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

(4) 歯科保健図画・ポスター・標語の表彰

図画・ポスター

小学校低学年の部	特選	三沢市立岡三沢小学校	3年	中村美陽
小学校高学年の部	特選	十和田市立北園小学校	5年	前田桃
中学校の部	特選	むつ市立大湊中学校	3年	濱田琉衣
高等学校の部	特選	八戸工業大学第二高等学校	2年	丸谷佳乃

標語

特選 むつ市立第三田名部小学校 3年 相馬 珀 翔

第2部 教 職 員

第2部 教 職 員

1章 教職員の配置

1節 教職員の配置基準

- 〔1〕 公立小学校及び中学校の教職員配置基準は、次のとおりとする。学級数については、県が定める学級編制基準による。

1 小 学 校

〔1〕 校 長

1校に1人とする。

〔2〕 教員（教頭・教諭）

- ① 次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	31	32	33	34

- ② 特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導児童数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。
- ③ 指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び児童数を勘案し、別途配置する。

〔3〕 養 護 教 諭

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、児童数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。
- ③ 児童数が851人以上の学校に1人増配置する。
- ④ ③以外の学校については、児童数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。

〔4〕事務職員

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、次のとおりとする。
 - ア 児童数が25人以上の学校に1人とする。
 - イ 中学校が併置されている場合は、児童及び生徒の数が合わせて25人以上の学校に1人とする。
- ③ 27学級以上の学校に1人増配置する。
- ④ 要保護及び準要保護児童が100人以上、かつその学校の児童数に対する割合が25/100以上の場合、児童数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に1人増配置する。
- ⑤ 事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。

〔5〕栄養教諭・学校栄養職員

- ① 学校給食（給食内容がミルクのみである給食を除く。以下同じ。）を実施する共同調理場については、次のとおりとする。
 - ア 児童及び生徒の数が1,500人以下の共同調理場に1人とする。
 - イ 児童及び生徒の数が1,501人以上6,000人以下の共同調理場に2人とする。
 - ウ 児童及び生徒の数が6,001人以上の共同調理場に3人とする。
- ② 学校給食の単独実施校については、次のとおりとする。
 - ア 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校に1人とする。
 - イ 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校を有しない市町村に1人とする。
ただし、共同調理場に栄養教諭又は学校栄養職員（以下「栄養教諭等」という。）が配置される市町村は除く。
 - ウ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校を8校以上有している市町村に1人とする。
 - エ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校の児童及び生徒の数が合わせて800人以上の町村に1人とする。
 - オ 上記以外の単独実施校については、児童及び生徒の数及び学校数等を勘案し配置する。
- ③ 児童の食に関する指導に積極的に取り組む学校には、児童数等を勘案し、1人増配置する。
- ④ 児童の食に関する指導体制の整備に積極的に取り組む市町村には、取組状況等を勘案し、上記①～③の人数の範囲内で、栄養教諭を配置する。

2 中学校

〔1〕校長

1校に1人とする。

ただし、小学校が併置されている場合は、小学校の校長が兼務するものとする。

〔2〕 教員（教頭・教諭）

① 次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	3	5	7	8	10	11	12	13	15	17	18	19	20	22	24
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	25	27	29	30	32	33	35	36	37	39	40	42	43	45	47

- ② 特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導生徒数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。
- ③ 学校規模が14学級以上の上記教員数には、生徒指導専任教諭1人を含むものとする。
- ④ 指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び生徒数を勘案し、別途配置する。

〔3〕 養護教諭

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、生徒数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。
- ③ 生徒数が801人以上の学校に1人増配置する。
- ④ ③以外の学校については、生徒数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。
- ⑤ 小学校が併置されている場合は、小学校の養護教諭が兼務するものとする。ただし、①又は②を満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に1人とし、小学校の養護教諭を兼務するものとする。

〔4〕 事務職員

- ① 4学級以上の学校に1人とする。
- ② 3学級以下の学校については、生徒数25人以上の学校に1人とする。
- ③ 21学級以上の学校に1人増配置する。
- ④ 要保護及び準要保護生徒が100人以上、かつその学校の生徒数に対する割合が25/100以上の場合、生徒数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に1人増配置する。
- ⑤ 事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。
- ⑥ 小学校が併置されている場合は、小学校の事務職員が兼務するものとする。ただし、①又は②を満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に1人とし、小学校の事務職員を兼務するものとする。

〔5〕 栄養教諭・学校栄養職員

小学校に同じ。

② 弾力的な学級編制に係る教職員の配置については、次のとおりとする。

1 県が実施する弾力的な学級編制による学級増については、上記①の学級数には含まず、教職員の配置については、1学級増につき教諭又は講師1人とする。

2 市町村が独自に実施する弾力的な学級編制による学級増については、県費負担教職員の配置は行わないため、授業時間数の増加などによって現有の教員に著しい負担を課すことのないよう、実施市町村において適切に措置すること。

③ 併置又は併設型の小中一貫教育推進校においては、指導計画や教育環境の整備状況及び学校規模等の学校事情を勘案し、協議の上、上記①によらない教職員の配置をすることができるものとする。

2 節 学級編制の基準

令和4年度学級編制について

1 学級編制基準

県が定める学級編制基準である、公立小学校及び中学校の1学級の児童生徒数の標準は、下表のとおりとする。

学級編制の区分	学校種別	
	小 学 校	中 学 校
単 式 学 級	第1～3学年 35 第4学年以上 40	40
2 個 学 年 複 式 学 級 (※1)	第1学年の児童 を含む場合	8 (4)
	第1学年の児童 を含まない場合	16 (8)
特 別 支 援 学 級 (※2)	8	8

※1 「2個学年複式学級」とは、引き続き2の学年の児童又は生徒で編制する学級をいい、()内の数字は、2の学年の間に児童又は生徒の存しない学年がある場合（いわゆる「飛び複式学級」）のいずれか一方の学年の児童生徒数である。

※2 「特別支援学級」は、2以上の学年の児童又は生徒の数の合計が8人以下である場合は1学級に編制する。

- (1) 学級は同学年で編制するのが原則であり、できる限り少ない個数の学年で編制し、同学年の児童生徒数は分割しない。
- (2) 児童生徒数が8人を下回っている下の学年から順に編制する。ただし、必ずしも引き続く学年によることを要しない。

2 県が実施する弾力的な学級編制について

「単式学級」において、小学校全学年及び中学校1年生は、上記1の表の学級編制基準（以下「基準」という。）により学年2学級以上の場合、児童生徒数の上限を33人とすることができる。

なお、33人を上限とした場合の学級増は、学年毎に1学級までとする。

2章 教職員の異動

1節 小・中学校

1 異動方針

全県的な視野に立って、教職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期するため、市町村教育委員会との緊密な連携のもと、次の方針によって、市町村立学校の県費負担教職員の異動を行う。

[1] 基本方針

- ① 教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。
- ② 地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。
- ③ へき地学校の職員組織の充実強化を図る。
- ④ 特別支援教育に当たる職員の適正配置に努める。
- ⑤ 勤務地の固定化の解消に努める。
- ⑥ 広域にわたる人事の交流を推進する。

[2] 実施方針

- ① 年齢、経歴、性別、特性等を考慮して職員組織の適正を図る。中学校の場合は、特に所持免許状の教科（又は得意教科）を十分考慮する。
- ② 同一校勤務3年未満の者は、原則として転任させない。
- ③ 同一校勤務10年以上の者は、努めて転任させる。
- ④ 同一町村に引き続き10年以上勤務した者及び同一市に引き続き15年以上勤務した者は、他の市町村へ努めて転任させる。
- ⑤ 校長、教頭等については、全県的な視野で交流を図る。
- ⑥ 校長の新規採用及び教頭の昇任に当たっては、原則として他の市町村に配置する。
- ⑦ 新規採用者の配置については、初任者研修の実施等を考慮し、必要な調整を行う。また、特別の事情がある場合のほか、努めて出身地を避ける。
- ⑧ 計画的他管交流により転出した者については、他管交流者名簿を作成し、原則として3年勤務したのちに、特に意を用いて異動させる。
- ⑨ へき地学校に相当期間勤務した者については特に意を用い、へき地学校勤務者名簿を作成し、希望地又はへき地学校以外の学校との交流を図る。
- ⑩ 特別支援学級担当者については特に意を用い、特別支援教育の専門性を有する教員を適正に配置するように努める。
- ⑪ 特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。

2 人事異動の結果

令和5年度の人事異動は、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置することに努めた。一般教職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置をすることに努めた。

校長については、退職者が小学校46人、中学校30人、教育行政機関等への転出者13人、計89人に対し、校長採用者は、小学校47人、中学校30人、計77人となった。

この77人の内訳は、小・中学校教頭から新たに登用された者48人、教育行政機関等から採用された者29人であった。

また、校長の転任者は49人（前年度52人）であった。

教頭については、小・中学校教諭から新たに登用された者34人（前年度53人）、教育行政機関等から採用された者が35人、また、転任が76人（前年度66人）であった。

一般職員の転任については、小・中学校合わせて1,039人となり、前年度908人を131人上回る数となった。

これらの異動のうち、へき地交流者数は111人（前年度118人）、他管交流者は66人（前年度65人）である。また、同一校10年以上勤務者については、小学校46人（解消率95.8%）、中学校37人（解消率94.9%）の異動を行った。

小・中学校全体の異動総数（退職・採用・昇任・転任の計）は2,261人となり、前年度の2,000人を261人上回る異動となった。

令和5年度 小・中学校異動集計表

			校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭 栄養職員	計	4年度	
退職	退職	定年	75	12	183	9	28	1	308	280	
		勸奨	1	2	48	2	1		54	49	
		普通		1	26	1	3		31	18	
		小計	76	15	257	12	32	1	393	347	
	等職	他県へ			8	3				11	3
		弘大附属へ			9					9	7
		高等学校へ									1
		特別支援学校へ			6		1			7	4
		教育庁へ	6	7	12		1			26	32
		市町村へ	7	9	24	2				42	24
		三本木高附属へ			3					3	2
		知事部局へ			1					1	
		弘大教育学部へ(教職大学院)		1						1	
再任用終了			71	3	4	1		79	67		
教諭・栄養教諭へ							1	1			
合計	89	32	391	20	38	3	573	487			
転任・免職採用			49	76	884	74	64	17	1,164	1,026	
採用	他県から			19					19	21	
	弘大附属から		3	5					8	8	
	高等学校から				1	1			2	1	
	特別支援学校から			5	1				6	4	
	教育庁から	13	12	1		1	1		28	29	
	市町村から	15	20	2	1				38	22	
	三本木高附属中から			1					1	2	
	知事部局から			1					1		
	弘大教育学部から(教職大学院)	1							1		
	再任用			105	5	14			124	106	
新規	新規学卒			80	4	16			100	64	
	講師から			103	2				105	96	
	その他	48	34	6		2	1		91	134	
	小計	48	34	189	6	18	1		296	294	
合計			77	69	328	14	34	2	524	487	
総計			215	177	1,603	108	136	22	2,261	2,000	

2節 県立学校

1 異動方針

職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期すため、次の方針によって県立学校職員の異動を行う。

〔1〕基本方針

- ① 教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。
- ② 地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。
- ③ 郡部と市部、高等学校と特別支援学校、高等学校の各課程間の相互の交流を図る。
- ④ 市町村教育委員会との連携を密にして、市町村立学校職員との交流を考慮する。
- ⑤ 勤務校の固定化の解消に努める。
- ⑥ 広域にわたる人事の交流を推進する。

〔2〕実施方針

- ① 年齢、経歴、性別、特性、所持免許状の教科等を考慮して、職員組織の適正を図る。
- ② 教頭及び事務長については、特に意を用い、適任者の配置に努める。
- ③ 同一校（全日制・定時制・通信制の各課程はそれぞれ1校と見なす。以下同じ。）勤務3年未満の者は、原則として転任させない。
- ④ 同一校勤務10年以上の者は、原則として転任させる。
- ⑤ 定時制課程又は通信制課程に相当期間勤務した者は、特に意を用いて異動させる。
- ⑥ 校長の新規採用に当たっては、原則として他の地域に配属する。
- ⑦ 新規採用者の配置については、特別の事情がある場合のほか、出身地を避ける。
- ⑧ 特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。
- ⑨ 関係学校長の意見を聞いて異動の適正を期する。

2 人事異動の結果

令和5年度県立学校職員の人事異動に当たって特に意を用いたことは、前年度に引き続き、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置したこと、併せて女性の管理職への登用にも意を用いたこと、一般職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置に努めたことなどであった。

校長については、退職者等16人、校長採用者は教頭から新たに登用された者が7人、教育行政機関等からの採用が4人、転任者数が15人の併せて42人の異動となった。

教頭については、退職者15人、教育行政機関等への転出者5人、校長への採用者7人、教頭採用・昇任者は、教諭から新たに登用された者が17人、教育行政機関等からの採用が6人であった。また、転任者は29人であった。

一般教職員については、退職者212人、採用者182人、転任者476人の異動となった。

これらの異動のうち、全日制同一校勤務10年以上の解消者数は59人、定・通同一校勤務5年以上の解消者数は10人、特別支援学校同一校勤務10年以上の解消者数は13人となった。

全・定交流については、全日制から定時制・通信制へ28人、定時制・通信制から全日制へ21人であった。

この結果、県立学校の異動総数（退職・採用・昇任、転任の合計）は、985人となり、前年度の996人を11人下回った。

令和5年度 県立学校教職員異動集計表

(高等学校、特別支援学校(盲・聾・養護学校)、県立中学校)

		校 長		教 頭		教 諭		養護教諭		実習助・寄宿		事務・単労・栄養		計	
		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度		前年度	
退 職	定 年 奨	14	22	15	3	70	82	1	4	6	14	16	20	122	145
	普 通					12	5		1		1		1	12	8
小 計		14	22	15	3	85	95	2	5	7	15	20	21	143	161
職 等	他県公立学校へ					2	1							4	2
	附 属 へ			1		3	3							4	3
	県内小中学校へ				1	6	5	2				1		9	6
	教 育 庁 へ	2	1	4	4	18	14		2			5	6	29	27
	市 町 村 へ					1	1					1		2	1
	知 事 部 局 へ					2	2					1	1	3	3
	独立行政法人等へ			1		2	2							3	2
	再 任 用					45	34	1	1	3	4	6	8	55	47
その他の(栄養教諭等へ)												1		1	
合 計		16	23	21	8	162	158	6	8	10	19	34	37	249	253
転 任	全日制→全日制	9	9	13	13	222	230	11	4	25	14	42	38	322	308
	全日制→定通制			3	3	18	19	4	1	1		2	3	28	26
	定通制→全日制			3	3	9	7	3		2	2	4	3	21	15
	定通制→定通制			1	2	4	4							5	6
	特 支 →高 校		2	1	1	4	4		1		1	1	4	6	13
	高 校 →特 支	1				1	3	1	2	1			5	4	10
	特 支 →特 支	5	7	8	5	96	94		4	16	2	9	8	134	120
	高 校 →県立中														
県立中→高 校								1				1		2	
合 計		15	18	29	27	354	361	19	13	45	19	58	62	520	500
採 用	新 規 学 卒					8	7	1				2	3	11	10
	講 師 从 業 者 等 からの昇任・その他	7	15	17	13	41	53			1	1			42	54
	小 計	7	15	17	13	55	63	1	1	5	6	10	22	95	120
	他県公立学校から					4	2							4	2
	附 属 ・ 民 間 人 从 業 者 等 からの昇任・その他			1	1	2	2							3	3
	県内小中学校から					9	7					1		10	7
	教 育 庁 从 業 者 等 からの昇任・その他	3	4	5	3	15	6	1				2	6	26	19
	知 事 部 局 从 業 者 等 からの昇任・その他					1	1							1	1
独立行政法人から	1				2	1							3	1	
再 任 用					60	61		2	3	11	11	16	74	90	
合 計		11	19	23	17	148	143	2	3	8	17	24	44	216	243
総 計		42	60	73	52	664	662	27	24	63	55	116	143	985	996

3章 採用・昇任・退職

1節 採用・昇任

1 小・中学校校長

公立小・中学校の校長の採用候補者の選考制度は、昭和40年度から実施してきた。

選考は、校長の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

- (1) 教職経験年数が10年以上の者。
- (2) 教頭等経験年数は2年以上とする。教頭等経験年数には、国立学校にあつては、公立学校の教頭に準ずる職にあつた期間を含む。
- (3) 年齢は40歳以上、58歳未満とする。
- (4) 原則として小・中・高教諭又は養護教諭の専修免許状又は一種（一級）免許状所持者。

選考方法は、調書を提出させ、その者について面接を行った。

（面接は、令和4年12月10日（土）、12月11日（日）の2日間、青森工業高校で実施）

教育事務所管内別出願・採用状況

教育事務所名 項目	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	国 立	計
出 願 者 数	64	40	50	66	25	73	3	321
受 験 者 数	64	39	50	66	23	73	3	318
採 用 者 数	17	7	18	14	10	11	0	77

年 齢 別 受 験 ・ 採 用 状 況

年 齢 項目	40～44	45～49	50～54	55～	計
受 験 者 数	0	24	200	94	318
採 用 者 数	0	0	30	47	77

2 小・中学校教頭

公立小・中学校の教頭候補者選考は、従来、市町村教育委員会教育長から推せんされた者の中から選考してきたが、昭和54年から出願制度に改めた。

選考は、教頭の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

- (1) 教職経験年数が10年以上の者。
- (2) 年齢は38歳以上とする。
- (3) 原則として小・中学校の教諭又は養護教諭の専修免許状又は一種（一級）免許状所持者。

論述試験は、令和4年8月10日（水）、各教育事務所ごとに、青森工業高校（東青）、五所川原工業高校（西北）、弘前工業高校（中南）、十和田工業高校（上北）、むつ工業高校（下北）、八戸中央高校（三八）の6会場で実施した。

面接は、令和4年11月5日（土）、11月6日（日）の2日間、論述試験合格者に調書を提出させ、その者について、県総合学校教育センター（東青、下北）、板柳高校（西北、中南）、百石高校（上北、三八）の3会場で実施した。

教育事務所管内別出願・昇任状況

項目	教育事務所名							計
	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	県立・ 国立等	
出 願 者 数	140	57	118	129	42	145	24	655
受 験 者 数	134	52	117	123	38	137	24	625
面 接 者 数	70	28	58	60	24	62	5	307
昇 任 者 数	13	10	13	12	7	11	3	69

年 齢 別 受 験 ・ 昇 任 状 況

項目	年 齢					計
	38～39	40～44	45～49	50～54	55～	
受 験 者 数	14	133	228	209	41	625
昇 任 者 数	0	0	22	43	4	69

3 県立学校校長

県立学校の校長候補者選考は、平成17年度から出願制度とした。

選考は人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の校長としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施した。

(1) 選考対象者

県立学校に勤務する教頭で、令和5年3月31日に次の①、②のいずれも満たす者とする。

- ① 年齢が57歳以下の者
- ② 教頭の職に2年以上ある者（充て指導主事（教頭）を含む）

(2) 選考方法

出願者全員を対象に、「論述試験－実践レポート－」を提出させ、令和4年10月8日（土）総合学校教育センターにおいて、「面接」を行った。

(3) 出願状況

項目	年 齢					計
	49～50	51～52	53～54	55～56	57～58	
出 願 者 数	0	8	15	19	11	53
採 用 者 数	0	1	1	1	4	7

4 県立学校教頭

県立学校の教頭候補者選考は、平成15年度から出願制度とした。

選考は、人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の教頭としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるために実施した。

(1) 選考対象者

県内の国・公立学校に勤務する職員で、令和5年3月31日に次の①、②、③のいずれも満たす者とする。

- ① 教育に関する職に10年以上ある者
- ② 年齢が40歳以上の者
- ③ 小学校・中学校の教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、高等学校の教諭の専修（一級）免許状若しくは一種（二級）免許状、養護教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、特別支援学校の自立教科教諭の一種免許状を所持している者

(2) 選考方法

① 第1次選考

出願者全員に「論述試験－実践レポート－」を提出させた。

② 第2次選考

第1次選考結果により、令和4年11月5日(土)県総合社会教育センターにおいて、「小論文」及び「面接」を行った。

(3) 出願状況

項目	年 齢				計
	40～44	45～49	50～54	55～59	
第1次選考対象者数	1	39	64	8	112
第2次選考対象者数	0	13	28	1	42
昇任者数	0	1	14	0	15

5 教 員

令和5年度教員採用候補者選考の第一次試験は、令和4年7月23日（土）、青森北高等学校、青森商業高等学校、青森東高等学校及び都道府県会館（東京都）の4会場において、筆記試験（一般・教職教養及び教科専門（小学校は全教科））を実施した。

第二次試験は、第一次試験通過者を対象に、令和4年9月23日（金）、24日（土）、青森高等学校及び青森西高等学校において小論文、面接（集団討論・個人面接）、適性検査、実技試験を実施した。実技試験は、中学校及び高等学校については音楽、美術、保健体育（水泳を除く）、家庭、英語を行った。

また、昨年度に引き続き、スポーツの分野において特に優秀な実績を有する者を対象とした「スポーツ特別選考」、障害がある者がより受験しやすいよう障害の種類や程度に応じて必要な配慮をする「障害者特別選考」及び民間企業等の勤務経験があり、優れた知識・技能を有する人材を学校教育に積極的に活用していくため、「社会人特別選考」を実施した。

令和5年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験総括表

区 分	応募者数 (一般選考+特別選考)			総受験者数 (スガ特選後通過者を含む)			採用候補者合計 (一般選考+特別選考)			辞退者数 (採用延期者を含む)			本採用者数			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
	小学校	(6) 79	(22) 117	(28) 196	(6) 76	(21) 113	(27) 189	(2) 46	(13) 88	(15) 134	3	(2) 10	(2) 13	(2) 43	(11) 79	(13) 122
中 学 校	国語	7 (3) 18	(3) 25	7 (2) 18	(2) 25	2 (2) 10	(2) 12		1 (0) 1	(0) 2	(2) 9	(2) 11				
	社会	(14) 56	(11) 17	(25) 73	(13) 55	(11) 17	(24) 72	11	(2) 3	(2) 14		(0) 0	(0) 11	(2) 3	(2) 14	
	数学	(1) 35	(3) 20	(4) 55	(1) 32	(3) 18	(4) 50	14	(2) 9	(2) 23	1	(0) 1	(0) 16	(2) 9	(2) 25	
	理科	(3) 14	(1) 3	(4) 17	(3) 14	(1) 3	(4) 17	(2) 7	2	(2) 9	1	(1) 1	(2) 6	(0) 2	(2) 8	
	音楽	(1) 6	(1) 30	(2) 36	(1) 6	(1) 29	(2) 35		(1) 5	(1) 5		1 (0) 1	(0) 0	(1) 5	(1) 5	
	美術			6			6			2	2		1 (0) 1	(0) 0	(0) 1	(0) 1
	保健体育	(8) 71	(9) 30	(17) 101	(8) 68	(9) 29	(17) 97	(3) 4	(1) 4	(4) 8		(0) 0	(3) 4	(1) 4	(4) 8	
	技術	9 (1)	(1) 9	9	(1) 9	(1) 9	2 (1) 9	(1) 2				(0) 0	(0) 2	(1) 0	(1) 2	
	家庭	1	7	8	1	7	8	1	2	3	1	(0) 1	(0) 0	(0) 2	(0) 2	
	英語	(1) 13	(2) 34	(3) 47	(1) 13	(2) 30	(3) 43	3	8	11		(0) 0	(1) 3	(0) 8	(0) 11	
小計	(28) 212	(31) 165	(59) 377	(27) 205	(30) 157	(57) 362	(5) 44	(9) 45	(14) 89	(0) 3	(0) 3	(0) 6	(5) 44	(9) 43	(14) 87	
高 等 学 校	国語	11	10	21	10	10	20		1	1		(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1	
	公民	(2) 23	(4) 6	(6) 29	(2) 20	(4) 2	(6) 22	(1) 1	(2)	(3) 1		(0) 0	(1) 1	(2) 0	(3) 1	
	地理歴史	(1) 32	8	(1) 40	(1) 30	8	(1) 38	(1) 1		(1) 1		(0) 0	(1) 1	(0) 0	(1) 1	
	数学	(1) 27	7	(1) 34	(1) 26	7	(1) 33	(1) 1		(1) 1		(0) 0	(1) 2	(0) 0	(1) 2	
	物理	11	1	12	10	1	11	1		1		(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	
	化学	12	2	14	12	1	13	1		1		(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1	
	生物	(2) 5	5	(2) 10	(1) 5	5	(1) 10	(1)		(1) 1		(0) 0	(1) 0	(0) 1	(1) 1	
	美術		9	9		9	9			1	1		(0) 0	(0) 0	(0) 1	(0) 1
	書道	3	(2) 5	(2) 8	3	(2) 5	(2) 8		(1) 1	(1) 1		(0) 0	(0) 0	(1) 1	(1) 1	
	保健体育	(17) 74	(7) 23	(24) 97	(16) 72	(7) 21	(23) 93	(2) 2	(1)	(3) 2		(0) 0	(2) 2	(1) 0	(3) 2	
	家庭	4	14	18	4	12	16			2	2		(0) 0	(0) 0	(0) 2	(0) 2
	英語	7	15	22	7	14	21		(1) 2	(1) 2		(0) 0	(0) 0	(1) 2	(1) 2	
	農業	(2) 9	3	(2) 12	(2) 9	3	(2) 12	(2) 1		(2) 1		(0) 0	(2) 1	(0) 0	(2) 1	
	工業(建築)	7	1	8	6	1	7	1		1		(0) 0	1	0	1	
	工業(土木)	7		7	7		7	1		1		(0) 0	1	0	1	
水産(水産食品)			0			0			0		(0) 0	0	0	0		
水産(水産工学)	1		1	1		1	1		1		(0) 0	1	0	1		
情報	(3) 14	(1) 3	(4) 17	(3) 14	3	(3) 17	1		1		(0) 0	(0) 1	(0) 0	(0) 1		
小計	(28) 247	(14) 112	(42) 359	(26) 236	(13) 102	(39) 338	(8) 12	(5) 8	(13) 20	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(8) 13	(5) 8	(13) 21	
特別支援学校	(62)	(67)	(129)	(59)	(64)	(123)	(15)	(27)	(42)	(0)	(2)	(2)	(15)	(25)	(40)	
養護教諭		76	76		75	75	0	5	5		0	0	7	7		
栄養教諭	2	18	20	2	17	19	0	2	2			0	2	2		
合計	602	555	1,157	578	528	1,106	(117)	(175)	292	6	15	21	115	164	279	

() は特別支援学校で外数

「辞退者数」には、教職大学院進学予定者及び在学中の採用候補者における次年度以降への採用延期者(小学校3名、中学校1名)を含む。

2節 退職勧奨

1 学校職員の退職勧奨基準

学校職員（県立学校の職員及び市町村立学校の県費負担教職員をいう。以下「職員」という。）に係る退職の勧奨については、公務能率の維持向上を図ること等を目的とし、毎年度この基準の定めるところにより行うものとする。

- (1) 各年度における退職の勧奨は、満年齢が50歳以上で、かつ、退職日における勤続期間が20年以上の職員のうち、退職の勧奨を行うことを適当と認める職員について行う。
- (2) 退職の勧奨を受けて退職する職員の退職日は、原則として勧奨を受けた年度の末日（以下「原則退職日」という。）とする。ただし、特別の事情が認められる場合は、原則退職日の前日までに退職させることができる。
- (3) 退職の勧奨の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

令和4年度末勧奨退職者数

校職種	小学校				中学校				県立学校 (高校・特別支援)				計			
	校	教	その	計	校	教	その	計	校	教	その	計	校	教	その	計
	長	員	他の職員		長	員	他の職員		長	員	他の職員		長	員	他の職員	
東青	-	6	-	6	-	2	-	2	-	-	-	-	-	8	-	8
西北	1	11	-	12	-	3	-	3	-	-	-	-	1	14	-	15
中南	-	6	-	6	-	2	1	3	-	-	-	-	-	8	1	9
上北	-	4	-	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	5	-	5
下北	-	4	-	4	-	0	-	0	-	-	-	-	-	4	-	4
三八	-	10	-	10	-	3	-	3	-	-	-	-	-	13	-	13
県立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	12	-	12	-	12
計	1	41	-	42	-	11	1	12	-	12	-	12	1	64	1	66

4章 給 与 等

1 令和4年度における人事委員会勧告

令和4年10月11日、人事委員会は、県議会及び知事に対して職員の給与等に関する報告を行い、併せて、地方公務員法に定める給与決定の原則により、生計費、国及び他の地方公共団体の職員の給与、民間事業の従事者の給与、その他の事情を考慮し、総合的に判断して、次のとおり勧告した。

「勧告の概要」

○ 本年の給与の改定

(1) 給料表

- ・ 職員給与が民間給与を1,085円（0.31%）下回る
- ・ 人事院勧告の内容に準じ、初任給及び若年層の給料月額を引上げ改定（行政職：大卒程度に係る初任給を3,000円、高卒程度に係る初任給を4,000円引上げ。これを踏まえ、30歳台半ばまでの職員が在職する号給について所要の改定）

(2) 期末手当・勤勉手当

- ・ 民間の支給割合との均衡を図るため4.20月分→4.30月分に引上げ
- ・ 勤務実績に応じた給与を推進するため、引上げ分を勤勉手当に配分

(3) 実施時期

- ・ 給料表：令和4年4月1日
- ・ 勤勉手当：令和4年12月1日

2 給 与 改 定

令和4年11月の定例県議会において給与改定に係る給与条例が改正され、公布の日（令和4年12月16日）から施行され、令和4年4月1日から適用された。

5章 免 許

令和4年度教員免許状授与件数

(幼・小・中・特別支援学校、養護教諭、栄養教諭)

校種 種別	幼稚園	小学校	中 学 校													特別支援学校	特別支援学校 (理療)	養護教諭	栄養教諭
			国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	保健	技術	家庭	職業	外国語	宗教				
専修	1	9	2	2	6	7	1		1	2	1	1		2		25	3		2
一種	65	133	31	32	23	48	5	5	50	18	11	10		27	260	29		48	6
二種	297	15	1				1		1		2			10	15	57		8	5
特別																			
臨時	5	118	4	2	5		1	3	2	3	1	3		1	25	34		7	
計	368	275	38	36	34	55	8	8	54	23	15	14		40	325	123		65	11

(高等学校)

教科・科目 種別	国語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	書道	保健体育	保健	看護	家庭	家庭実習	情報	情報実習	農業	農業実習	工業	商業	水産	福祉	外国語	合計	
																									計
専修	2	2	1	6	12	1				1	2		1	1					1					2	32
一種	30	26	35	39	61	5	6	1	1	63	18	1	9	11		10	2	12	13				30	373	
特別												1		15					1					17	
臨時	2	2		1	2	1			2	1	2	4	1	2	4	1		5	1	2	2	2	4	39	
計	34	30	36	46	75	7	6	1	3	65	22	6	11	2	31	1	10	2	18	15	2	2	36	461	

令和4年度免許法認定講習受講者

会場	免許状の種類	科目区分	開設科目	受講者数	合格者数
青森市	特別支援一種・二種	特別支援教育	重複・LD等の教育	80	80
			視覚障害教育の教育課程・指導法	71	71
			知的障害教育総論	60	60
			聴覚障害児の心理・生理・病理	57	57
			肢体不自由教育総論	39	39
			特別支援教育概論	42	42
			病弱教育総論	43	43
計			7科目	392	392

令和4年度教員免許更新に係る修了確認等の状況

(旧免許状を所持する現職教員のうち、修了確認期限が令和5年3月31日である者)

(単位：名)

校種 種別	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校			教育委員会職員等	合 計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立		
修了確認			1			3			2			3	4				13
受講免除													1				1
修了確認期限延期																	
計			1			3			2			3	5				14

令和4年度教員免許更新に係る修了確認等の状況

(新免許状を所持する現職教員のうち、有効期間の満了日が令和5年3月31日である者)

(単位：名)

校種 種別	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			特別支援学校			教育委員会職員等	合 計
	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立	国立	公立	私立		
有効期間更新			2			1						1	1		1		6
受講免除																	
有効期間延長																	
計			2			1						1	1		1		6

6章 教職員研修・教育研究

1節 教職員研修

教職員の資質向上を図るため、次のとおり研修及び研修への派遣を実施した。

1 幼稚園

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
幼稚園等新規採用教員研修	5	5月20日	県総合学校教育センター	○青森県の幼児教育 ○特別な配慮を要する幼児との関わり方 ○健やかな成長のための環境と習慣づくり ○図画工作科における指導と評価の一体化 ○「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び ○「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動 ○造形と音楽のコラボレーション ○これからの図工と音楽の授業づくり ○保護者理解と信頼関係を築くための対応
	1	6月21日～22日		○本人・保護者の思いによりそう 教育相談 ○学校における教育相談の実際 ○保護者との面談 ○素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動
	8	7月1日		○幼児期における発達の理解と幼小連携 ○保育の展開と援助の在り方
	3	7月12日		○「気になる子供」の視点でかわり方を見直す ○医師の視点からかわり方を見直す
	6	9月30日		
	6	10月5日		
幼稚園教育課程青森県研究協議会	88	8月18日	県総合学校教育センター	○研究実践発表（幼小接続、家庭や地域との連携） ○協議 ○講演

2 小 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	50	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○学級経営 ○授業研修等
初任者研修(校外研修)	50	4月～3月(12日間)		
学級経営基礎講座Ⅰ	50	5月10日～11日	県総合学校教育センター	○信頼関係を築き上げる学級経営への取組等
学習指導基礎講座Ⅰ	50	6月10日	県総合学校教育センター	○授業づくりの基礎・基本等
学級経営基礎講座Ⅱ	50	9月1日	県総合学校教育センター	○生徒指導・教員のメンタルヘルス等
学習指導基礎講座Ⅱ	50	11月2日	県総合学校教育センター	○情報モラルの指導・道徳科の展開等
学級経営基礎講座Ⅲ	50	1月19日	県総合学校教育センター	○学級経営の評価と改善
赴任時研修	50	4月1日	5教育事務所	○教師としての心構え・福利厚生と服務等
示範授業研修	50	5月～6月(1日)	5教育事務所	○示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修Ⅰ	50	8月(1日)	5教育事務所	○学習指導案等作成
特別活動研修	50	9月～11月(1日)	5教育事務所	○特別活動の進め方
一般授業研修Ⅱ	50	1月(1日)	5教育事務所	○授業の評価、授業実践の結果と課題
まとめ研修	50	1月～2月(1日)	5教育事務所	○初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	54	6月1日 12月16日	県総合学校教育センター	○キャリア教育の実際 ○学習指導 ○カリキュラム・マネジメントの実際
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	55	7月5日～6日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教育センター	○児童生徒の理解と指導について ○“児童生徒が育つ”働きかけ ○特別の教科道徳の授業づくり等
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	23	7月7日～8日 12月15日～16日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教育センター	○中堅教諭に必要なマネジメント意識 ○協働で取り組む特別支援教育等 ○PDCAサイクルを基にした授業の自己評価 ○中堅後期研修後に向けたキャリアデザイン等
教育課程研究集会(オンデマンド型)	1,851	7月～8月(1日)	6教育事務所	○小学校教育課程の諸問題の解明を図るための授業実践発表及び指導助言
道徳教育推進研修(行政法人教職員支援機構)	3	12月1日～28日 (任意の3日間)	(オンライン)	○道徳教育のマネジメント ○実践活動や体験活動を通じた道徳教育 ○特別の教科道徳の指導と評価 ○特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育
教職員等中央研修	12	6月～1月	(オンライン・集合)	○学校組織マネジメント ○カリキュラムマネジメント ○リスクマネジメント ○研修成果の活用

※初任者研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修(前期・後期)には、中核市を含んでいない。

3 中 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	31	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○学級経営 ○授業研修等
初任者研修 (校外研修)	31	4月～3月(12日間)		
学級経営基礎講座Ⅰ	31	5月9日	県総合学校教育センター	○学級経営の意義とねらい等
教科等教育基礎講座Ⅰ	31	6月8日～9日	県総合学校教育センター	○子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり等
学級経営基礎講座Ⅱ	31	8月25日	県総合学校教育センター	○生徒指導の進め方等
教科等教育基礎講座Ⅱ	31	10月13日	県総合学校教育センター	○教科指導におけるICT活用等
教科等教育基礎講座Ⅲ	31	11月16日	県総合学校教育センター	○情報モラルの指導、授業実践を振り返って等
赴任時研修	31	4月1日	4教育事務所	○教師としての心構え・福利厚生と服務等
示範授業研修	31	5月～6月(1日)	4教育事務所	○示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修Ⅰ	31	8月(1日)	4教育事務所	○学習指導案等作成
特別活動研修	31	9月～11月(1日)	4教育事務所	○特別活動の進め方
一般授業研修Ⅱ	31	1月(1日)	4教育事務所	○授業の評価、授業実践の結果と課題
まとめ研修	31	1月～2月(1日)	4教育事務所	○初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	28	6月1日 12月16日	県総合学校教育センター	○キャリア教育の実際 ○学習指導 ○カリキュラム・マネジメントの実践
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	23	7月5日～6日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教育センター	○学習指導 ○組織的対応の在り方
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	22	7月7日～8日 12月15日～16日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教育センター	○スクールマネジメント等に関する講座(2日) ○授業実践力向上に関する講座(2日)
教育課程研究集 会(資料研修)	2,357	7月～8月(1日)	6教育事務所	○中学校教育課程の実施に向けた資料による研修
道徳教育推進研修 (行政法人教職員 支援機構)	2	12月1日～28日 (任意の3日間)	(オンライン)	○道徳教育のマネジメント ○実践活動や体験活動を通じた道徳教育 ○特別の教科道徳の指導と評価 ○特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育
全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会	2	10月21日	(オンライン)	○キャリア教育リーフレットシリーズの発行について ○キャリアパスポートの展開
教職員等中央研修	13	6月～1月	(オンライン集合)	○学校組織マネジメント ○カリキュラムマネジメント ○リスクマネジメント ○研修成果の活用

※初任者研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修(前期・後期)には、中核市を含んでいない。

4 高等学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 180時間以上	25	4月～3月	各勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○授業研究 ○生徒指導と進路指導
初任者研修 (校外研修) 12日	25	4月～3月	県総合学校教育センター等	○教職員の服務、社会人としてのマナー ○授業で身に付けさせたい力 ○特別支援教育の視点に立った授業づくり ○授業実践の基礎 ○協力校の授業参観と研究協議 ○生徒理解への取組 ○情報モラル教育 ○特別支援学校の教育について ○1年間の研修を振り返る
フォローアップ (2年次) 研修	38	5月17日～18日	県総合学校教育センター	○教材研究 ○模擬授業と指導の工夫 ○ホームルーム経営
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	64	5月23日 9月13日	県総合学校教育センター等	○前期中堅教員に期待すること ○いじめ・不登校のない学校づくり ○主体的・対話的で深い学びの視点で行う授業改善
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	59	6月28日～29日 8月26日 12月9日	県総合学校教育センター等	○温かい人間関係づくり ○資質・能力を育む授業づくりに向けて ○後期中堅教諭に期待すること
教務主任連 絡協議会	80	4月19日	県総合学校教育センター	○令和4年度学校教育指導の方針と重点の趣旨 ○関係事業説明、分掌事務遂行の留意点の周知徹底
教務主任研 究協議会	74	10月25日	県総合学校教育センター	○「主体的・対話的で深い学び」と「探究」 ○ワークショップ
県立学校長 研究協議会	46	7月11日	県総合学校教育センター	○講演 ○研究協議、情報交換
県立学校教 頭研究協議 会	74	6月23日	県総合学校教育センター	○講演 ○研究協議、情報交換

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
教職員等中央研修	22	5月～1月	(オンライン)	○教育指導と学校管理 ○教育課程の編成と管理 ○学校指導の原理と方法 ○生徒指導・進路指導の原理と方法
進路指導主事研究協議会	78	4月20日	県総合学校教育センター	○講演 ○研究協議、情報交換
生徒指導主事研究協議会		6月8日 (資料配付)		○県内の生徒指導等の状況について ○生徒指導上の諸課題における多機関連携に関する講演 ○各学校の生徒指導に係る取組に関する協議
全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会	3	10月	(オンライン)	○これからのキャリア教育の在り方や具体的な手法・実践等についての研究協議・情報交換
キャリア教育指導者養成研修	2	8月23日～26日	パレブラン高志会館(富山市)	○発達段階に応じたキャリア教育の在り方、校内外の連携を踏まえたキャリア教育推進のための具体的な手立て
産業・情報技術等指導者養成研修	工業 1 看護 1 情報 1	8月23日～8月31日 8月3日～8月5日 8月3日～8月5日	(オンライン) (オンライン) 大阪芸術大学	○各教科における授業改善に関する講義と演習
学校農業クラブ・学校家庭クラブ指導者養成講座	家庭 1 農業 1	8月3日 8月11日～13日	(オンライン) (オンライン)	○家庭クラブ指導者の資質の向上 ○農業クラブ指導者の資質の向上
学校教育の情報化指導者養成研修	① 10 ② 3	8月1日～8月31日 の任意の3日間 11月28日～11月30日	(オンライン) (オンライン)	○各学校における学校教育の情報化を組織的に推進する指導者として必要な知識等の習得

5 特別支援学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 240時間以上	36	4月～3月	各勤務校	○教職教養 ○教育目標と実践計画 ○授業研究 ○生徒指導と進路指導
初任者研修 (校外研修) 21日	36	4月～3月	県総合学校教育センター等	○教職員の服務・福利厚生 ○特別支援教育の概要 ○一人一人のニーズに応じた指導 ○学級経営の基礎・基本 ○小学校の授業参観・協議 ○生徒指導上の課題への対応 ○救急法 ○福祉施設等見学 ○研修の意義・まとめ
フォローアップ (2年次) 研修	32	9月21日～22日	県総合学校教育センター	○授業改善 ○授業検討
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校内研修) 5日	26	4月～3月	各勤務校	○授業研究・教材研究 ○研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校外研修) 4日	26	4月～3月	県総合学校教育センター等	○関係機関との連携 ○効果的なT T ○授業改善 ○キャリア教育
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校内研修) 7日	31	4月～3月	各勤務校	○授業研究・教材研究 ○研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校外研修) 8日	31	4月～3月	県総合学校教育センター等	○関係機関との連携 ○学校課題とその対応 ○授業の課題分析 ○思考法の活用
教務主任連 絡協議会・ 研究協議会	21	4月19日 10月25日	県総合学校教育センター	○講話 ○研究協議
県立学校長 研究協議会	21	7月11日	県総合学校教育センター	○関係事業等説明
県立学校教頭 研究協議会	25	6月21日	県総合学校教育センター	○関係事業等説明

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
教職員等中央研修	4	6月～1月	オンライン又はつくば中央研修センター	○講義 ○研究協議
進路指導主事研究協議会	21	4月20日	県総合学校教育センター	○講義 ○研究協議
研究主任研究協議会	21	5月6日 1月13日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
生徒指導主事研究協議会	21	4月27日	県総合学校教育センター	○情報提供 ○講演 ○研究協議
特別支援教育新担当教員研修会		6月～9月 (資料配付)	各教育事務所管内	○情報提供
特別支援教育専門研修	6	5月～7月 9月～11月 令和5年 1月～3月	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(オンライン及び集合・宿泊型研修)	○講義 ○研究協議
特別研究員(地域連携型)	1	4月11日～ 令和5年3月17日	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	○研究
交流及び共同学習推進指導者研究協議会	1	11月25日	(オンライン)	○講義 ○研究協議
ICT活用に関わる指導者研究協議会	2	7月21日～22日		○講義 ○研究協議

6 生徒指導等

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
生徒指導基幹研修	4	6月1日～6月3日	Zoomミーティングによるオンライン	○生徒指導に関する現状と課題 ○生徒指導における事例研究及び演習 ○不登校、いじめ、自殺問題への対応
今日から始めるいじめ対策研修講座	34	5月13日	県総合学校教育センター	○いじめについての認識と理解 ○いじめの理解といじめ防止のための取組
今日から始める不登校対策研修講座	35	8月31日	県総合学校教育センター	○不登校児童生徒の理解・対応とチーム連携

7 大学院教員派遣

(1) 大学院派遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に勤務する教員を大学院に派遣し、その資質の向上を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻／コース
上越教育大学院	中 学 校 1	令和4年 4月1日～ 令和6年 3月31日	教育実践高度化 ／学校教育実践研究
	特別支援学校 1		教育実践高度化 ／発達支援教育実践研究
兵庫教育大学大学院	中 学 校 1		教育実践高度化 ／言語系教科マネジメント

(2) 教職大学院派遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校に勤務する教員を弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻（教職大学院）に派遣し、教育実践力を身に付けたミドルリーダーの育成を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻／コース
弘前大学教職大学院	小 学 校 1	令和4年 4月1日～ 令和6年 3月31日	教育実践／ミドルリーダー養成
	中 学 校 4		
	高 等 学 校 2		
	特別支援学校 1		

8 指導改善研修

本県では、平成15年度から、児童等への指導が不適切な教員を「研修措置教員」に認定し、県総合学校教育センターや所属校等において研修を行う「研修措置制度」を実施してきた。

一方、指導が不適切な教員に対する人事管理について、各都道府県教育委員会の制度の内容や運用にばらつきがあったため、全国的な教育水準の確保を図る観点から、平成19年6月に教育公務員特例法が改正された。

同法の改正により、本県では、平成20年度より、研修措置制度に代えて、児童等に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対し、その能力、適性等に応じて、指導の改善を図るために必要な事項に関する研修（指導改善研修）を実施した。

なお、指導改善研修と研修措置制度とは、研修期間（指導改善研修は最長2年、研修措置制度の研修は最長3年）以外に、大きな違いはない。

(1) 対象教員

県教育委員会の任命に係る教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師、実習助手及び寄宿舎指導員（条件付採用期間中の職員、臨時的任用職員、会計年度任用職員及び暫定再任用職員を除く。）

(2) 指導改善研修対象教員の定義

教員に求められる資質能力に課題があり、児童等を適切に指導できないため、教育活動に支障をきたし、児童等に対しての責任が果たせないことから、指導改善研修を受講させる必要のある教員をいう。ただし、疾病により児童等を適切に指導できない者を除く。

(3) 指導改善研修対象教員の認定までの対応

学校における対応	<ul style="list-style-type: none">・指導が不適切な教員の実態把握・校内での指導又は研修と「指導・観察記録簿」等の作成・指導の改善が見られない教員について教育委員会へ報告
市町村教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none">・報告内容の精査・確認・県教育委員会への指導改善研修対象教員の認定申請
県教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none">・申請（県立学校の場合は、報告）内容の精査・確認・指導改善研修対象教員審査会への審査依頼・指導改善研修対象教員の認定

(4) 研修の実施

指導改善研修対象教員ごとに個別の研修プログラムを作成し、原則として1年間、学校、県総合学校教育センター等において、研修を実施する。

(5) 研修後の措置

当該教員の指導の改善の程度	研修後の措置
指導が改善し、児童等に対して適切に指導を行える程度	本来の職務への復帰
児童等に対する指導が不適切であるが、更に指導改善研修を行えば、適切に指導を行える程度までの改善が見込まれる程度	研修期間の延長
児童等に対する指導が不適切であり、適切に指導を行える程度まで改善する余地がない程度	職種変更
	退職の勧奨
	分限免職

※ 指導改善研修対象教員の状況
対象教員なし

2節 教育研究

1 研究指定校

(1) 文部科学省指定校

① 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

学 校 名	研 究 内 容
階上町立石鉢小学校 階上町立道仏中学校	・教員の道徳教育に係る指導力向上 ・小・中学校の連携を意識した道徳教育の推進 ・道徳科の授業公開の実施

② スーパーサイエンスハイスクール

学 校 名	研 究 内 容
県立弘前南高等学校	科学教育プロジェクト～地域に学び社会に貢献する科学技術人材の育成～
県立青森高等学校	学際的研究により新たな価値を創出できる国際的な科学技術系人材の育成

(2) 国立教育政策研究所指定校

教育課程実践検証協力校事業

学 校 名	実 践 検 証 内 容
階上町立赤保内小学校	各教科等の教育課程に関するもの（特別活動）
県立田名部高等学校	各教科等の教育課程に関するもの（地理歴史）

(3) 青森県教育委員会指定校

① ドリカム人づくり推進事業

学 校 名	研 究 主 題
七 戸 養 護 学 校	造形活動 — 生きることへの自信と豊かな心の育成 —
三本木農業高等学校 三本木農業恵拓高等学校	しあわせプロジェクト 3rd ～志+支=幸 地域活性をここから～
百 石 高 等 学 校	地産地消レシピコンテスト開催 (百高カップ2022)
八 戸 商 業 高 等 学 校	IT×八商×地域で、地域の魅力発信!
八 戸 東 高 等 学 校	「表現科20年目の挑戦」
県 立 盲 学 校	「私達が考える、私達の盲学校・聾学校～矢田前から安田へ、そして未来へ～」
むつ工業高等学校	「心を継ぐ、ものづくり・ひとづくり」
柏木農業高等学校	「地域の稀少生物の復活・地域農業と特産品の活性化をめざして」
む つ 養 護 学 校	下北から学び、下北と共に活動し、下北に貢献するチーム“6245むつようご”～チームワーク、フットワーク、ネットワークで“わく2”～
十和田工業高等学校	地域産業の未来づくりに貢献!ものづくり、ひとづくり 育成プラン
青森工業高等学校	「ものづくりコンテスト」挑戦の経験を通じた「地域とのものづくり交流」!!
木 造 高 等 学 校	木造(きづくり)・人づくり・地域づくり ～「MAP (Mokko Asumiru Project)」～
青森中央高等学校	青森から発信!世界に届け平和のメッセージ
弘前第一養護学校	「弘一番☆を目指した地域とつながろうキャリアUPプロジェクト」
青 森 聾 学 校	広がれ!手話の魅力～届け、私たちの思い～
名久井農業高等学校	ガラスの七変化～廃棄ガラスの有効活用を目指して～
八 戸 工 業 高 等 学 校	地域に発信!!SDGs (連携校:十和田工業高等学校)
八 戸 高 等 学 校	三八地区連携プロジェクト (連携校:八戸北高等学校 八戸東高等学校 八戸西高等学校)
青 森 南 高 等 学 校	青い森高校生読み聞かせ推進事業 (連携校:青森中央高等学校)
三沢高等学校定時制の課程	わくわくハイスクール 地域産業や郷土の文化を学ぶ (連携校:八戸中央高等学校)

② 持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業

	学校名	研究主題
1	青森高等学校(普通科)	Infinintelligence Research Program
2	青森西高等学校(普通科)	「あおり創造学」青森セレクトプロジェクト～観光資源研究と成果の還元～
3	青森東高等学校(普通科)	「あおり創造学」青東バージョン「地域探究」
4	青森南高等学校 (普通科・外国語科)	南高のバトン
5	弘前高等学校(普通科)	「あおり創造学」弘前高校バージョン～地域に根ざしたアイデンティティの形成～
6	弘前中央高等学校(普通科)	Sakura Time
7	八戸高等学校(普通科)	八戸発見学～地元の「強み」を見てみよう
8	八戸北高等学校(普通科)	「あおり創造学」in八北～きざはしから見る八戸の未来
9	木造高等学校(総合学科)	木造(きづくり)・人づくり・地域づくり～「MAP(Mokko Asumiru Project)」～
10	五所川原高等学校 (普通科・理数科)	力行タイム「SD探究」
11	野辺地高等学校(普通科)	「あおり創造学」「野高コンパス」自分らしく考える(オリジナリティ)力の育成を目指して～地域の探究や防災の地意識を生かした地域活性化に向けて
12	七戸高等学校(総合学科)	世界遺産・二ツ森貝塚の里、七戸町から青森の未来を支える人財育成プロジェクト
13	六ヶ所高等学校(普通科)	「あおり創造学」～ROHS[R0kkasho High School & R0kkasho Our Heritage Studies]私たちの六ヶ所を受け継ごうプロジェクト～
14	三本木高等学校(普通科)	「あおり創造学」三本木高校×地域研究×SDGs
15	三沢高等学校(普通科)	「あおり創造学」～モスプロでみさわを輝かせよう～
16	田名部高等学校(普通科)	「探究理解」～あおり創造学～
17	大間高等学校(普通科)	「あおり創造学」下北の底デカ発見隊 ～北通り3町村編～
18	三戸高等学校(普通科)	三戸みらい創生プロジェクト
19	五所川原農林高等学校 (農業科)	地域を救うリンゴ高密度植栽培への挑戦

	学校名	研究主題
20	柏木農業高等学校(農業科)	青森県特産物の活用による地域農業振興と郷土愛の醸成をめざして
21	名久井農業高等学校(農業科)	エコロジー学園なのう～将来を見据えた攻めの環境対策～
22	八戸工業高等学校(工業科)	「あおもり創造学」地元ファンづくりプロジェクト～技術継承で地域社会をつくる～
23	五所川原工業高等学校五所川原工科高等学校 (普通科・工業科)	地域のSDGs～持続可能な地域を目指して
24	弘前実業高等学校 (商業科・家庭科・体育科)	各科の特色を活かした「地域課題の掘り起こしと解決法の提案」(農・商・家・体のチャレンジ)
25	三沢商業高等学校(商業科)	三沢市の魅力大発信!～青森県の人口減少・少子化に歯止めをかけよう～
26	八戸中央高等学校 (定時制 普通科)	地域連携と防災意識の向上～津波避難ビルの活用～

③ いきいき青森っ子健康づくり事業(健康教育実践研究校)

学 校 名	趣 旨
聖 アルバン 幼稚園 十和田カトリック幼稚園 蓬田村立蓬田小学校 中泊町立武田小学校 階上町立石鉢小学校 藤崎町立明德中学校 東北町立東北中学校 むつ市立大畑中学校 県立弘前高等学校 県立三沢高等学校 県立八戸高等支援学校	健康課題解決のため、学校、家庭及び地域と連携しながら、発達の段階に応じた具体的な指導内容、指導方法についての研究を行い、主体的に健康づくりに取り組む児童、生徒の育成に資する。

④ 青森県交通安全推進地区

学 校 名	趣 旨
鶴田町立鶴田小学校	児童生徒等の交通安全行動の定着化を図るため、学校を中心とする地域全体の交通安全意識の高揚に努める。

⑤ 命を守る！防災教育推進事業（令和3年度～令和4年度）

学 校 名	趣 旨
外ヶ浜町立三厩中学校 深浦町立修道小学校 弘前市立石川小学校 三沢市立第三中学校 むつ市立川内小学校 八戸市立三条中学校	子どもたちが防災に係る正しい知識を身に付け、自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るための防災教育モデルを構築し、広く普及させるため、地域と連携した防災教育や教科等横断的な防災教育の在り方について研究する。

⑥ LD、ADHD等の児童生徒に対する通級による指導の在り方に関する研究事業

学 校 名	趣 旨
青森市立浪打小学校 青森市立長島小学校 青森市立浪打中学校 青森市立浦町中学校 平内町立小湊小学校 外ヶ浜町立蟹田小学校 つがる市立向陽小学校 五所川原市立中央小学校 弘前市立大成小学校 弘前市立岩木小学校 弘前市立福村小学校 弘前市立東中学校 弘前市立津軽中学校 黒石市立黒石小学校 平川市立金田小学校 十和田市立三本木小学校 十和田市立三本木中学校 三沢市立上久保小学校 三沢市立第一中学校 野辺地町立若葉小学校 七戸町立七戸小学校 むつ市立第二田名部小学校 八戸市立城下小学校 八戸市立湊小学校 八戸市立根岸小学校 八戸市立第二中学校 八戸市立第三中学校 三戸町立三戸中学校 五戸町立五戸小学校 階上町立赤保内小学校	LD、ADHD等の児童生徒を対象とした通級による指導の在り方

⑦ 特別支援学校技能検定事業

区 分	学 校 名	趣 旨
高等部を設置する県立特別支援学校（技能検定の対象となる特別支援学校）	県立盲学校	地域の企業等との連携・協働により「夢や志」をもち、チャレンジする心をはぐくむための青森県版「特別支援学校技能検定」を開発・実施するなど、生徒の進路実現のための体制整備を進めることによって特別支援学校におけるキャリア教育及び職業教育の充実を図る。
	県立青森聾学校	
	県立青森第二養護学校	
	県立青森若葉養護学校	
	県立青森第一高等養護学校	
	県立青森第二高等養護学校	
	県立弘前第一養護学校	
	県立弘前第二養護学校	
	県立八戸第一養護学校	
	県立八戸高等支援学校	
	県立森田養護学校	
	県立黒石養護学校	
	県立浪岡養護学校	
	県立七戸養護学校	
県立むつ養護学校		
高等部を設置していない県立特別支援学校	県立八戸盲学校	
	県立弘前聾学校	
	県立八戸聾学校	
	県立青森第一養護学校	
	県立八戸第二養護学校	

(4) その他の公的団体からの指定校

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業

～望ましい生活習慣の形成を目指して～」（一般社団法人日本学校歯科医会）

学 校 名	趣 旨
横浜町立横浜中学校	健康な生活を営むために必要な基本的な生活習慣を身に付け、よりよい生活を築こうとする実践的な態度の育成

7章 教職員の福利厚生

1節 福利厚生の概要

1 組合員、会員

(1) 公立学校共済組合青森支部

令和4年度末における組合員数は、13,024人で前年度と比較し253人の増となった。

組合員数と被扶養者数

(5.3.31現在)

種 別	組 合 員 数	被 扶 養 者 数	組 合 員 1 人 当 たり 被 扶 養 者 数
一 般 組 合 員	11,024人	8,315人	0.75人
船 員 組 合 員	23	28	1.22
短 期 組 合 員	1,691	402	0.24
任 意 継 続 組 合 員	286	174	0.61
計	13,024	8,919	0.68

(2) (一財)青森県教職員互助会

教職員互助会の令和4年度末における会員数は、11,918人で前年度より66人減となり、加入率は93.2%となった。

① 会員数、給料、掛金

(5.3.31現在)

会 員 数	会 員 1 人 当 たり の 平 均 給 料 の 月 額	会 員 1 人 当 たり の 平 均 掛 金 の 月 額
11,918人	352,286円	2,466円

② 4年度中の加入及び退会状況

区 分	3年度末 現 在	4 年 度			4年度末 現 在
		加 入	退 職・退 会	増 減	
会 員	11,984人	782人	848人	△66人	11,918人

2 給 付 等

(1) 公立学校共済組合青森支部

① 掛金、負担金収入

短期の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると269,531千円増となった。

また、長期関係の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると874,439千円減となった。

収入状況

(単位：千円)

種 別	掛 金	負 担 金	計
短 期	4,237,701	4,108,326	8,346,027
厚 生 年 金 保 険	6,791,550	11,391,274	18,182,824
退 職 等 年 金	556,937	556,942	1,113,879
経 過 的 長 期	-	130,043	130,043

② 短期給付

短期給付（法定給付及び附加給付等）の支出総額は、3,512,688千円でその主なものは、医療費で全体の89%を占め、3,121,715千円となった。

法定給付

種 別	件 数	日 数	金 額	1 件当たり	
				日 数	金 額
本 人 医 療 費	176,551件	255,426日	1,749,548,615円	1.4日	9,910円
家 族 医 療 費	114,238	177,003	1,048,332,414	1.5	9,177
高 額 医 療 費	2,408		244,719,651		101,628
出 産 費	144		61,765,558		428,927
家 族 出 産 費	40		16,778,773		419,469
埋 葬 料	14		700,000		50,000
家 族 埋 葬 料	4		200,000		50,000
直 営 保 健 給 付	15	22	157,136	1.5	10,476
傷 病 手 当 金	151	3,091	32,719,580	20.5	216,686
休 業 手 当 金	2	40	292,800	20.0	146,400
育 児 休 業 手 当 金	1,501	29,913	259,681,042	19.9	173,005
介 護 休 業 手 当 金	33	503	5,583,438	15.2	169,195
計	295,101	465,998	3,420,479,007		

附加給付

種 別	件 数	金 額	種 別	件 数	金 額
本人医療費	2,068 件	54,540,100 円	埋 葬 料	14 件	350,000円
家族医療費	891	24,417,400	家族埋葬料	4	100,000
出 産 費	146	7,300,000	傷病手当金	22	3,601,734
家族出産費	38	1,900,000			
			計	3,183	92,209,234

(2) (一財) 青森県教職員互助会

令和4年度の収支は、収入377,372千円に対し、支出は411,427千円で当期収支差額は△34,055千円となった。

① 収入状況

種 別	金 額
基本財産運用収入	基本財産利息収入 16円
掛金収入	掛金収入 352,687,325
事業収入	生活資金貸付償還金収入 16,046,000
	生活資金貸付手数料収入 297,904
	つなぎ融資貸付償還金収入 2,176,108
	つなぎ融資貸付手数料収入 3,414
負担金収入	芸術鑑賞補助負担金収入 2,342,800
	スポーツ観戦補助負担金収入 0
雑収入	受取利息収入等 2,540
その他	3,815,839
計	377,371,946

② 支出状況

種 別	件 数	金 額	備 考
医療費補助金	57,005件	205,765,556円	1件当たりの平均 3,610円
入院見舞金	1,463	6,190,500	本人 500円 (906件) 被扶養者 500円 (557件)
死亡弔慰金	16	3,150,000	本人 250,000円 (11件) 配偶者 100,000円 (3件) 家族 50,000円 (2件)
災害見舞金	2	300,000	150,000円
結婚祝金	154	7,700,000	50,000円
出産祝金・見舞金	182	6,370,000	本人 35,000円 (144件) 被扶養者 35,000円 (38件)
入学・卒業祝金	1,214	12,140,000	被扶養者である子 10,000円 (800件) 被扶養者でない子 10,000円 (414件)
無給付者褒賞金	1,945	9,725,000	5,000円

種 別	件 数	金 額	備 考
退 職 慰 労 金	522件	24,160,000円	在会10年以上20年未満 30,000円 (52件) 在会20年以上30年未満 40,000円 (90件) 在会30年以上 (380件)
妊 婦 支 援 補 助	182	5,460,000	本 人 30,000円 (150件) 被扶養者 30,000円 (32件)
リフレッシュ助成	659	11,030,000	在会20年 10,000円 (215件) 在会30年 20,000円 (444件)
遺 児 給 付 金	5	1,250,000	250,000円
育 児 支 援 金	138	2,760,000	20,000円
施 設 利 用 補 助	4,251	4,251,000	1泊につき 1,000円
芸 術 鑑 賞 補 助 事 業	774	4,316,000	
スポーツ観戦補助事業	220	301,988	
ドック負担金補助事業	1,609	6,752,000	宿 泊 10,000円 (275件) 一 日 3,000円 (1,334件)
予防接種負担金補助事業	1,778	1,778,000	1,000円
生 活 資 金 貸 付	42	19,900,000	
つ な ぎ 融 資 貸 付	6	4,046,748	
厚生文化事業補助金		1,284,987	
図 書 館 図 書 贈 呈 費		2,999,692	
芸 術 文 化 奨 励 費		1,000,000	
学 校 図 書 贈 呈 費		24,850,000	県内の公立小・中学校 1校当たり 50,000円 小学校319校 中学校178校
教育振興事業補助金		60,000	
職員給与・事務費等		39,457,639	
特定資産取得支出等		4,425,596	
そ の 他		2,177	
計		411,426,883	

2節 福利厚生事業

1 貸付事業

(1) 公立学校共済組合青森支部

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和3年度		令和4年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般	50	71,100	38	50,900	△ 12	△ 20,200
住宅	5	59,100	4	29,500	△ 1	△ 29,600
教育	15	30,300	8	15,600	△ 7	△ 14,700
結婚	1	1,000	0	0	△ 1	△ 1,000
医療	2	2,400	1	1,200	△ 1	△ 1,200
葬祭	0	0	0	0	0	0
災害	0	0	0	0	0	0
介護構造	0	0	0	0	0	0
高額医療	0	0	0	0	0	0
出産	0	0	0	0	0	0
計	73	163,900	51	97,200	△ 22	△ 66,700

(2) (一財) 青森県教職員互助会

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和3年度		令和4年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活資金貸付	28	13,200	42	19,900	14	6,700
つなぎ融資貸付	4	3,470	6	4,047	2	577

2 教職員の健康管理

令和4年度は、以下の事業を実施した。

健康管理事業

(単位：千円)

事業名	場所	対象	人数	金額
特定健康診査	指定医療機関	※1	1,018	8,160
特定保健指導	指定医療機関	※2	481	7,791
宿泊ドック	東北中央病院	47歳、54歳、60歳の組合員	327	24,070
一日ドック	県内19健診機関	27歳、32歳、37歳、41歳、44歳、47歳、50歳、52歳、54歳、56歳、58歳、60歳、62歳、64歳の組合員	2,126	66,477
ヤングヘルスチェック	県内14検診機関	24歳、27歳、30歳、32歳、34歳、37歳、39歳の組合員	350	4,706
脳検診	県内12検診機関	40歳、46歳、51歳、55歳、59歳の組合員	740	15,577
乳がん検診	県内17検診機関	30歳以上の女性組合員	2,701	15,105
子宮がん検診	県内14検診機関	女性組合員	2,747	12,412
大腸がん検診	県内13検診機関	30歳以上の組合員	2,957	5,544
歯科健診	県内医療機関	25歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳の組合員	398	1,870
被扶養者一日ドック	県内18健診機関	30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の被扶養者	129	2,870
へるすあっぷセミナー	学習動画配信	組合員とその家族	182	1,364
こころの健康相談	県内4医療機関	組合員と被扶養者	7	46
管理監督者のメンタルヘルス研修会	学習動画配信	組合員	192	338
トータルヘルスチェックWEB事業	パソコン・携帯電話等	組合員と被扶養者	28,567	157
歩こう歩けばコンペ2022	－	組合員	3,201	8,556
がん検診コールリコール事業	－	組合員	34	18
復職支援プログラム【職場復帰編】	－	組合員	15	1,302
復職支援プログラム【休養編】	－	組合員	11	50
職場の健康教育支援事業	県内22か所	組合員	636	392
健診フォローアップ事業	県内2か所	組合員	17	0
職場で取り組む教職員のストレスチェック事業	23所属所	希望する所属所	447	1,041
産業カウンセラー派遣事業	県内22か所	組合員	177	1,004
ヘルスリテラシー普及事業	－	組合員	409	770
生活習慣病重症化予防事業	－	組合員	1,649	441
個人向けインセンティブ健康ポイント付与事業	－	組合員	408	881
トータルライフサポート事業（健康づくり編）	－	組合員	－	4,625
計			49,926	185,567

※1 40歳以上75歳未満の被扶養者、任意継続組合員とその被扶養者

※2 特定健康診査の結果により動機付け支援又は積極的支援に該当した者

3 その他の厚生事業等

令和4年度は、以下の事業を実施した。

一般事業

(単位：千円)

事業名	実施内容	人数等	金額
ライフデザインセミナー (退職準備型)	55歳以上の組合員とその家族を対象に、退職後を見通した生活設計セミナーをオンライン開催	140	70
ライフデザインセミナー (生活充実型)	組合員とその家族を対象に、生涯生活設計を支援するためのセミナーをオンライン開催	68	0
退職手続きガイドブック の配付	定年及び勤奨で退職する組合員に「退職前後の手続きガイドブック」を配付	500	525
しおり等の発行	「福利厚生としおり」の配付	2,600	1,980
健康づくり情報誌配付	「健診案内」、「健康相談ポスター」、「健康カレンダー」を全組合員又は全所属所に配付	14,060	1,948
育児情報誌配付	出産した組合員及び被扶養者に対し、育児情報誌を配付	517	1,209
育児セミナー	育児中の組合員に対して、育児情報を提供するセミナーをオンラインで開催	27	198
認知症予防教室	組合員及びその家族を対象に、認知症に対する正しい理解と知識を持つための教室をオンライン開催	106	440
トータルライフサポート 事業(一般事業編)	組合員の多様なニーズに対応するため、福利厚生代行業者に一般事業を委託し実施	-	10,967
職場復帰訓練(試し出勤) 傷害保険負担事業	精神性疾患により休職している組合員の職場復帰に向けた訓練(試し出勤)中に発生した災害の補償を行うための傷害保険料を負担	28	64
計		18,046	17,401

8章 教職員の人事評価制度

1 導入経緯

平成26年5月14日の地方公務員法の一部改正により、勤務成績の評定制度が廃止され、平成28年4月1日から新たに人事評価制度を導入するとともに、その人事評価の結果を任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用することとされた。

このことから、平成20年度から実施してきた教職員の人材育成・評価制度の目的を踏まえて、教職員の能力と業績を適正に評価し、支援することにより、本県の教育力を充実させ、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教職員の人事評価制度を導入した。

2 制度の目的

教職員の人事評価制度においては、能力評価及び業績評価を通して、教職員の資質能力の向上及び学校組織の活性化を図ることを主な目的とする。

- ・ 能力評価では、教職員が、経験や職制に応じて発揮することが求められる能力について理解し、評価者との面談や自己評価等を通して、自己の長所・短所、特性、課題等を自覚するとともに、評価者が勤務状況を把握し、教職員にきめ細かな指導・助言を行う。
- ・ 業績評価では、学校目標を踏まえた自己目標を設定することにより、学校目標・経営方針や教科・学年・分掌等の目標と自己目標とのつながりが明確となり、また、達成すべき目標を学校全体で共有することで、組織の一員としての自覚を高める。

3 制度の概要

(1) 能力評価及び業績評価の内容

評価の構成	評価の内容
能力評価	職員が職務遂行の過程で発揮した意欲及び能力を標準職務遂行能力及び評価基準に基づき評価する。
	「意欲」：職務遂行の根幹にある取組姿勢 「能力」：職務遂行の中で発揮された能力（行動力）等
業績評価	職員が職務遂行上の目標（以下「自己目標」という。）を設定した職務等の業績を評価基準に基づき評価する。 評価は、目標管理の手法を用いて評価する。
	「業績」：職務遂行の中で自己目標の達成状況や自己目標以外で成果を上げた取組等

(2) 評価期間及び評価基準日

職員区分	評価の内容	評価期間	評価基準日
教育職	能力評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
	業績評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
行政職等	能力評価	10月1日から翌年の9月30日まで	9月1日
	業績評価（前期）	4月1日から9月30日まで	9月1日
	業績評価（後期）	10月1日から翌年の3月31日まで	2月1日

※ 会計年度任用職員については、任用期間に応じた評価期間・評価基準日により、能力評価及び業績評価を実施。

第3部 学 校 教 育

第3部 学校教育

1章 学校教育指導の方針と重点

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く幼児児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

(1) 授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に向けた教材研究の深化

ウ 一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書館やICTなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実

(2) 道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

ア 道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

イ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

エ 道徳科における学習状況及び道徳性に係る成長の様子の継続的な把握と、評価を生かした指導の工夫

(3) 特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 自主的な態度を育てる学級活動・ホームルーム活動の工夫

イ 自治的な意識を高める児童会活動・生徒会活動の工夫

ウ 児童の個性の伸長を図り、触れ合いを深めるクラブ活動の工夫

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

(4) 体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

- ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実
 - エ 安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実
- (5) 生徒指導の充実
- 一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。
 - ア 基本的な生活習慣や自己指導能力を育成する協働的な指導体制の充実
 - イ 生徒指導の機能を生かした学年・学級・ホームルーム経営の充実
 - ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実
 - エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底
- (6) キャリア教育の充実
- 一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。
 - ア キャリア教育指導体制の整備・充実
 - イ 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実
 - ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成
- (7) 特別支援教育の充実
- 発達障害を含む障害のある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障害等による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。
 - ア 校内支援体制の充実
 - イ 個別の教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実
 - ウ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実
 - エ 交流及び共同学習による相互理解の促進
- (8) 環境教育の推進
- 一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。
 - ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫
 - イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫
 - ウ 環境にかかわる体験活動の充実
- (9) 国際化に対応する教育の推進
- 一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。
 - ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進
 - イ 外国語教育の充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成
 - ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進
- (10) 情報化に対応する教育の推進
- 一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。
 - ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実
 - イ 学習指導におけるICTの適切な活用の推進
 - ウ 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進
 - エ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実
- (11) 研修の充実
- 教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。
 - ア 教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進
 - イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実
 - ウ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実
 - エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

2章 幼稚園教育

1節 幼稚園の概況

1 幼稚園の設置・廃止

(公立)

異動種別	名 称	異動年月日	
-	-	-	

(私立)

異動種別	名 称	異動年月日	
廃止	星美幼稚園	R 4. 3. 31	幼保連携型認定こども園として新設

2 幼稚園数・園児数

(R4.5.1)

幼稚園数		園児数	年 齢 数		
			3 歳	4 歳	5 歳
国・公立	3	67	16	24	27
私 立	82	3,753	1,131	1,247	1,375
計	85	3,820	1,147	1,271	1,402

2節 幼保連携型認定こども園の概況

1 幼保連携型認定こども園の設置及び園数・園児数

(R4.5.1)

幼保連携型 認定こども園数		園児数	年 齢 数			
			0～2歳	3歳	4歳	5歳
公 立	1	143	53	26	35	29
私 立	246	18,507	6,686	3,780	3,941	4,100
計	247	18,650	6,739	3,806	3,976	4,129

3節 教育課程・保育指導

○ 幼稚園教育課程青森県研究協議会

8月18日

3章 小・中学校教育

1節 学校の概況

1 学校の設置・廃止

異動種別	名 称	異動年月日	備考（統廃合）
廃 止	十和田市立洞内小学校	R 5. 3. 31	十和田市立大深内小学校へ
〃	十和田市立松陽小学校	〃	〃
〃	野辺地町立馬門小学校	〃	(野辺地町立若葉小学校へ)
〃	八戸市立日計ヶ丘小学校	〃	(八戸市立根岸小学校へ)
〃	田子町立清水頭小学校	〃	(田子町立田子小学校へ)
〃	田子町立上郷小学校	〃	〃
〃	南部町立剣吉小学校	〃	南部町立名川小学校へ
〃	南部町立名久井小学校	〃	〃
〃	南部町立名川南小学校	〃	〃
〃	南部町立向小学校	〃	南部町立南部小学校へ
〃	南部町立南部小学校	〃	〃
〃	南部町立福地小学校	〃	南部町立福地小学校へ
〃	南部町立福田小学校	〃	〃
〃	南部町立杉沢小学校	〃	〃
〃	平内町立小湊中学校	〃	平内町立平内中学校へ
〃	平内町立西平内中学校	〃	〃
〃	平内町立東平内中学校	〃	〃
〃	南部町立杉沢中学校	〃	(南部町立福地中学校へ)

2 学校数、児童・生徒数

(R4.5.1)

区分	小 学 校				中 学 校				生徒数
	学 校 数			児童数	学 校 数				
	本 校	分 校	計		本 校	分 校	計		
青 森 市	42		42	12,059	19		19	6,499	
弘 前 市	32		32	6,624	16		16	3,391	
八 戸 市	42		42	10,530	24		24	5,444	
黒 石 市	4		4	1,325	2		2	643	
五所川原市	11		11	2,078	6		6	1,074	
十 和 田 市	15		15	2,672	8		8	1,307	
三 沢 市	7		7	2,005	5		5	1,021	
む つ 市	12		12	2,401	9		9	1,243	
つ が る 市	7		7	1,135	5		5	675	
平 川 市	9		9	1,386	4		4	683	
東 津 軽 郡	7		7	640	7		7	370	
西 津 軽 郡	5		5	473	3		3	282	
中 津 軽 郡	1		1	74	0		0	0	
南 津 軽 郡	5		5	1,296	4		4	633	
北 津 軽 郡	9		9	1,315	4		4	748	
上 北 郡	22		22	4,291	14		14	2,202	
下 北 郡	5		5	544	4		4	335	
三 戸 郡	22		22	2,304	12		12	1,243	
県 立					1		1	240	
合 計	257		257	53,152	147		147	28,033	

① へき地等指定学校数

区 分	へ き 地 等 指 定 学 校 数								
	計	へ き 地						準へき地	特別地
		計	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地		
(小 学 校)									
総 計	29	25	-	1	1	4	19	3	1
本 分 校	29	25	-	1	1	4	19	3	1
市 郡 計	11	8	-	-	1	1	6	2	1
青 森 市	18	17	-	1	-	3	13	1	-
弘 前 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八 戸 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	3	1	-	-	1	-	-	1	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が 市	3	3	-	-	-	1	2	-	-
つ 平 川 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
東 津 軽 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-
西 津 軽 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北 上 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
下 北 郡	5	5	-	-	-	1	4	-	-
三 北 郡	5	4	-	1	-	-	3	1	-
八 戸 郡	2	2	-	-	-	-	2	-	-
東 青 北 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-
西 中 南 北 郡	6	6	-	-	-	1	5	-	-
上 下 三 北 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 北 郡	9	7	-	-	1	1	5	1	1
東 中 南 北 郡	8	7	-	1	-	1	5	1	-
西 上 下 三 北 郡	2	2	-	-	-	-	2	-	-
教育 青 北 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-
事 務 所 中 南 北 郡	6	6	-	-	-	1	5	-	-
所 上 下 三 北 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 北 郡	9	7	-	-	1	1	5	1	1
下 三 北 郡	8	7	-	1	-	1	5	1	-
八 北 郡	2	2	-	-	-	-	2	-	-
(中 学 校)									
総 計	23	20	-	1	2	2	15	2	1
本 分 校	23	20	-	1	2	2	15	2	1
立 計	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市 郡 計	10	8	-	-	1	1	6	1	1
青 森 市	13	12	-	1	1	1	9	1	-
弘 前 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八 戸 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	2	1	-	-	1	-	-	-	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が 市	3	3	-	-	-	1	2	-	-
つ 平 川 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
東 津 軽 郡	2	2	-	-	1	-	1	-	-
西 津 軽 郡	2	2	-	-	-	-	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
北 上 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
下 北 郡	4	3	-	1	-	-	2	1	-
三 北 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
東 青 北 郡	2	2	-	-	1	-	1	-	-
西 中 南 北 郡	5	5	-	-	-	-	5	-	-
上 下 三 北 郡	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 北 郡	6	5	-	-	1	1	3	-	1
東 中 南 北 郡	7	6	-	1	-	1	4	1	-
西 上 下 三 北 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-

2節 施設・設備

1 建物保有状況

令和4年5月1日現在における小・中学校建物保有面積は、校舎で対前年度比0.6%（11,241㎡）減の1,732,539㎡、屋内運動場で0.4%（1,703㎡）減の459,255㎡となり、整備資格面積は、校舎で対前年度比5.2%（3,569㎡）増の72,551㎡、屋内運動場で7.8%（3,898㎡）減の46,255㎡となっている。

また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋・鉄骨造等の非木造構造は校舎で97.4%、屋内運動場で98.8%となっている。

整備資格面積

項目 区分	校 舎				屋 内 運 動 場			
	① 必要面積	② 保有面積	③ 整備資格 面積	③/①	① 必要面積	② 保有面積	③ 整備資格 面積	③/①
小学校	㎡ 934,658	㎡ 1,048,365	㎡ 55,120	% 5.9	㎡ 273,273	㎡ 267,411	㎡ 29,464	% 10.8
中学校	559,352	684,174	17,431	3.1	181,898	191,844	16,791	9.2
計	1,494,010	1,732,539	72,551	4.9	455,171	459,255	46,255	10.2

構造別保有面積の比較

(単位：㎡)

項 目 区 分		校 舎			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(95.9) 1,005,105	(1.4) 14,360	(2.7) 28,900	(100.0) 1,048,365
	中学校	(96.2) 657,984	(1.5) 10,242	(2.3) 15,948	(100.0) 684,174
全国	小学校	(95.9) 78,701,442	(2.8) 2,285,312	(1.3) 1,050,966	(100.0) 82,037,720
	中学校	(96.0) 46,513,748	(3.1) 1,504,538	(0.9) 423,663	(100.0) 48,441,949

()は構成比(%)

(単位：㎡)

区 分		屋 内 運 動 場			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(31.7) 84,790	(66.8) 178,629	(1.5) 3,992	(100.0) 267,411
	中学校	(32.5) 62,416	(66.8) 128,073	(0.7) 1,355	(100.0) 191,844
全国	小学校	(54.0) 8,857,851	(44.9) 7,358,774	(1.1) 181,055	(100.0) 16,397,680
	中学校	(60.7) 6,756,447	(38.4) 4,277,246	(0.9) 100,110	(100.0) 11,133,803

()は構成比(%)

	校 舎	屋内運動場
小・中学校非木造 の比率	県 97.4%	98.8%
	全 国 98.9%	99.0%

2 耐震化の状況

学校施設は、子供たちの学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。

本県の公立小・中学校における構造体（梁、柱、床など）の耐震化率は、令和4年4月1日現在で100%を達成し、耐震化が完了した。

耐震化の状況（小・中学校）

		H30.4.1現在	H31.4.1現在	R2.4.1現在	R3.4.1現在	R4.4.1現在
耐震化率	県	99.1%	99.5%	99.9%	99.9%	100.0%
	全国	99.2%	99.2%	99.4%	99.6%	99.7%

3節 生徒指導

1 現状（公立学校）

(1) 不登校の状況

本県における令和3年度の30日以上欠席した不登校児童生徒数は、小学校で495人、中学校で1,383人となっており、小・中学校あわせた人数は1,878人となっている。

(2) いじめの状況

本県における令和3年度はいじめの認知件数は、小学校で3,869件、中学校で1,158件である。1,000人当たりの認知件数は、小学校で71.7件、中学校で40.0件である。

(3) 暴力行為の状況

本県における令和3年度の暴力行為の件数は、小学校で940件、中学校で360件である。小・中学校あわせた暴力行為の件数のうち、83.2%が生徒間暴力、8.8%が器物損壊である。

2 対策

(1) 生徒指導の推進について

各学校においては、生徒指導推進要綱に基づいて、次のような取組を推進し、生徒指導の充実に努めた。

① 自校の生徒指導上の課題を明確にし、指導方針や実践すべき内容について、学級、学年、生徒指導部等で共通理解を図り、全教職員が協力して生徒指導に取り組むとともに、生徒指導に関する校内研修等を計画的、継続的に実施し、教職員の指導力の向上に努めた。

② 教育相談体制を整え、児童生徒一人一人の置かれている状況や心情を、児童生徒の立場に立って理解するとともに、他教職員との情報交換を密にし、児童生徒一人一人を多面的、総合的に理解するよう努め、共通理解のもと個に応じた適切な指導ができるようにした。

③ 児童生徒一人一人が学ぶ喜びや成就感を味わえるよう授業の充実に努めるとともに、教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の好ましい人間関係に支えられた、心のよりどころとなる学級づくりに取り組んだ。

また、児童生徒が自主的によりよい学校生活を築いていけるよう児童会・生徒会活動の充実に努めるとともに、自然との触れ合いや勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の充実に努めた。

④ 学級、学年、学校通信の発行や家庭訪問、保護者会や学校開放等を通して、学校と家庭の連携強化に努めるとともに、老人施設等への訪問や地域行事等への児童生徒の参加、青少年の健全育成に関する会議等への参加を通して、地域や関係機関・団体との連携強化に努めた。

⑤ いじめに関しては、いじめ防止対策推進法の施行に伴って策定・設置された、「学校いじめ防止基本方針」及び「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の下、未然防止に努めるとともに、発生した場合には解消に向けて組織的に対応した。

(2) 県教育委員会の施策

先行きが不透明な変化の激しい社会の中にあって、児童生徒が抱える問題は年々複雑化・多様化してきている。県教育委員会では、こうした問題を児童生徒一人一人が自らの力で主体的に解決していくことができるよう、次のような施策をもとに生徒指導の充実に努めた。

① 学校・家庭・地域、関係機関・団体との連携・協力の推進

・地区健全育成推進会議（昭和57年度～）平成20年度からは「問題行動への対応に関する総合推進会議」として継続

県内を6地区に分け、学校、PTA、関係機関・団体等の代表が一堂に会し、それぞれ

- の立場から子どもの健全育成について協議し、協力体制の強化を図った。
 - ・不登校児童生徒支援連絡協議会（平成30年度～）
県内の主な相談機関が一堂に会して、不登校等に関する事例発表や研究協議・情報交換などを行い、各相談機関のネットワークづくりに努めた。
 - ・いじめ問題対策連絡協議会を設置し、関係機関及び団体が連携していじめに対応する。
 - ・青森県市町村いじめ問題対策情報交換会を設置し、県内の市町村教育委員会が、いじめ問題に対応するため、情報交換をする。
- ② 教育相談体制の充実
- ・適応指導室「こころの教育相談センター」の開設（平成4年度～）
不登校児童生徒やその保護者を対象にしたカウンセリング、自立性や社会性を高めるための陶芸等の創作活動やキャンプ等の野外活動、教科の補充学習などを行った。
 - ・「スクールカウンセラー」の配置・派遣（平成7年度～）
心理の専門家であるスクールカウンセラーを県内全ての小・中学校に配置・派遣し、児童生徒のカウンセリングや保護者及び教職員に対する指導・助言を行った。
 - ・県内教育事務所や県立高校に、「スクールソーシャルワーカー」を配置し、不登校や問題行動等への対応に関する相談・訪問や学校と関係機関等とのネットワークの構築を行っている。
 - ・学校教育課に「ソーシャルメディア等監視員」を配置し、インターネット上のいじめに関する事案を監視する。
 - ・ハートケアアドバイザー配置（平成8年度～）
各教育事務所に配置した「いじめ対応アドバイザー」（平成8年～）からはじまり、平成16年度には教育相談の経験が豊かな「ハートケアアドバイザー」を東青教育事務所に配置し、電話相談や学校、家庭等を訪問して助言、援助を行った。平成19年度からは学校教育課に2人配置している。
 - ・24時間子供SOSダイヤル（平成27年度から名称変更）
ハートケアアドバイザー等が24時間体制でいじめや不登校などの電話相談に応じる。
 - ・不登校、暴力行為、いじめ、児童虐待、高校中退の課題について、未然防止、早期発見・早期対応など、児童生徒の支援に効果的な取組について調査研究を行った。
- ③ 資料の作成や教員研修の実施
- 生徒指導に関する各種啓発・指導資料の作成や生徒指導に関する研修講座を開設し、生徒指導に対する教職員の問題意識の高揚や指導力の向上を図った。
- ・学校不適応への適切な対応を図る不登校対策講座の実施（平成2年度～）
 - ・カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）
 - ・「初任者、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実
 - ・県内全公立小・中学校生徒指導主任・主事研究協議会を実施（平成19年度～）
 - ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けたポスターを作成、県内公立小・中・高等学校及び特別支援学校に配布
 - ・いじめの早期発見・早期対応のため、相談窓口周知カードを作成し、小・中・高等学校及び特別支援学校の新1年生に配布。平成30年度からは中・高校生にネットいじめ等に関する情報提供・相談窓口サイトの案内を加えて掲載。
 - ・安心できる学校づくり推進事業（令和2年度～）
いじめの早期発見、適切な事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力向上を図るため、教員の研修を行った。

いじめの認知件数の推移（国公立）

小学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	271	0.8	36,909	1.7
23	270	0.8	33,124	1.5
24	414	1.3	117,384	5.5
25	344	1.1	118,748	5.6
26	596	1.9	122,734	5.9
27	614	2.0	151,692	7.4
28	3,853	13.2	237,256	11.7
29	5,658	19.6	317,121	15.7
30	5,670	19.8	425,844	21.3
元	4,840	17.2	484,545	24.4
2	3,804	14.1	420,897	21.4
3	3,879	14.7	500,562	25.7

中学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	467	2.7	33,323	3.1
23	454	2.7	30,749	2.8
24	652	3.8	63,634	5.9
25	548	3.2	55,248	5.2
26	517	3.1	52,971	5.0
27	486	2.9	59,502	5.6
28	1,214	7.4	71,309	6.8
29	1,171	7.3	80,424	7.7
30	1,319	8.1	97,704	9.4
元	1,246	8.1	106,524	10.3
2	921	5.8	80,877	7.8
3	1,176	7.5	97,937	9.5

高等学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	73	0.7	7,018	1.2
23	62	0.6	6,020	1.1
24	112	1.1	16,274	2.9
25	73	0.8	11,039	1.9
26	111	1.2	11,404	2.0
27	120	1.3	12,664	2.2
28	163	1.8	12,874	2.3
29	219	2.4	14,789	2.6
30	241	2.7	17,709	3.5
元	204	2.3	18,352	3.2
2	156	1.8	13,126	2.3
3	140	1.6	14,157	2.5

特別支援

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	7	0.4	380	0.4
23	5	0.3	338	0.3
24	3	0.2	817	0.8
25	3	0.2	768	0.7
26	1	0.1	963	0.9
27	4	0.2	1,274	1.1
28	7	0.4	1,704	1.5
29	17	0.8	2,044	0.1
30	36	1.7	2,676	2.3
元	30	1.4	3,075	2.7
2	29	1.4	2,263	2.0
3	19	0.9	2,695	2.3

- 平成18年度から：「いじめ」とは、当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものをいう。
- 平成25年度から：「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。
- 平成28年度から：けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。

不登校児童生徒数の推移（国公立）

小学校

(人)

年度	本 県		全 国	
	不登校児童数	在籍比	不登校児童数	在籍比
22	200	0.27	22,463	0.32
23	187	0.26	22,622	0.33
24	180	0.26	21,243	0.31
25	197	0.29	24,175	0.36
26	214	0.33	25,864	0.39
27	218	0.35	27,583	0.42
28	252	0.42	30,448	0.47
29	281	0.47	35,032	0.54
30	323	0.55	44,841	0.70
元	358	0.63	53,350	0.83
2	357	0.64	63,350	1.00
3	500	0.92	81,498	1.30

中学校

(人)

年度	本 県		全 国	
	不登校生徒数	在籍比	不登校生徒数	在籍比
22	1,181	2.87	97,428	2.73
23	1,090	2.69	94,836	2.64
24	1,041	2.64	91,446	2.56
25	985	2.56	95,442	2.69
26	975	2.60	97,033	2.76
27	991	2.70	98,408	2.83
28	1,029	2.90	103,235	3.01
29	1,015	2.99	108,999	3.25
30	1,003	3.12	119,687	3.65
元	998	3.21	127,922	3.94
2	1,130	3.74	132,777	4.09
3	1,410	4.71	163,442	5.00

●不登校児童生徒とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病氣」や「経済的理由」による者を除く。）で、30日以上欠席した者」をいう。

4 節 道 徳 教 育

1 道徳教育の指導の方針と事業

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、「道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実」、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫」、「郷土を愛する心を育む指導の充実」等について、学校訪問での指導と下記の事業を実施して徹底を図った。

- (1) 学校・家庭・地域が連携を図り、豊かな体験活動の場を児童生徒に提供し、子どもの道徳的実践力の向上を図るため、文部科学省の委託を受け「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を計画し、指定校として階上町立石鉢小学校・階上町立道仏中学校を定め、特色ある道徳教育の実践、研究を行った。年2回、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の研究計画について協議・評価を行う道徳教育推進協議会を開催し、本県児童生徒に命を大切にすることを心や他人を思いやるなど豊かな心を育成するための諸対策について検討を行い、また、道徳教育パワーアップ協議会において、全県から参加者を募り（73名参加）、研究の成果を広く周知した。
- (2) 教育事務所ごとに、管内の小・中学校教員及び保護者や地域の方々を対象とした「道徳教育研究協議会」を、1日または半日日程を2日間にわたって開催した。研究協議会では、指導案づくりや道徳の授業参観、道徳教育における指導上の諸問題についての協議を行い、これらの問題の解明と教員の資質・能力向上及び家庭や地域との連携に努めた。
- (3) 郷土の先人の伝記や逸話、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材に取り上げた『郷土資料にかかわる実践事例集【小学校編】・【中学校編】』を活用するよう、各学校を指導した。

5節 へき地教育

1 主な事業

(1) 複式学級担任者研修会

趣旨

複式学級担任者に、複式学級の学習指導及び学級経営等について研修させ、指導力の向上を図る。

教育事務所	期 日	会 場
東 青	6月1日(水)	青森市立橋本小学校
西 北	6月24日(金)	五所川原市立三好小学校 ※西北・中南教育事務所の合同開催
中 南		
上 北	6月22日(水)	十和田市立高清水小学校
下 北	6月24日(金)	むつ市立正津川小学校
三 八	6月3日(金)	八戸市立種差小学校

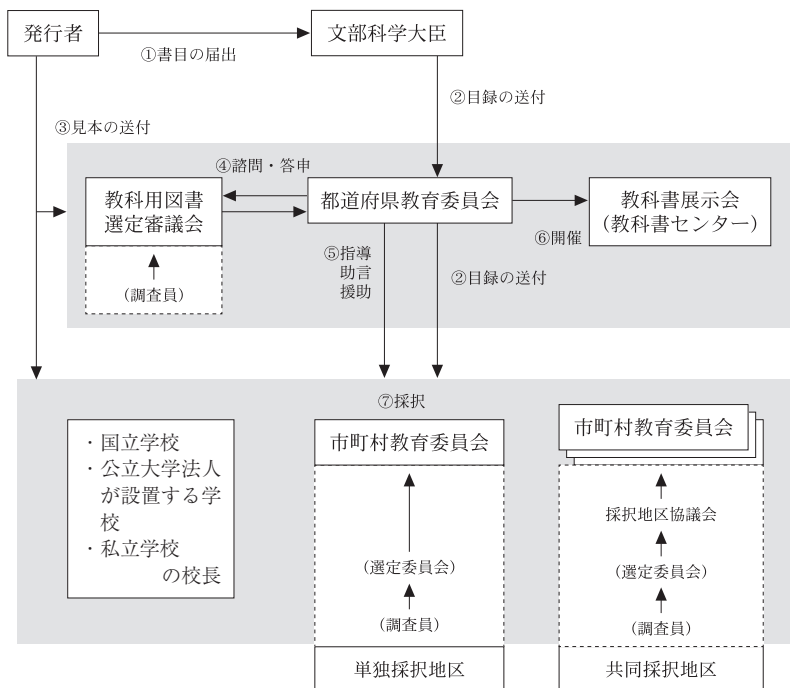
研修内容

- ・授業参観と授業研究会
- ・複式学習指導における指導法及び用語等について
- ・複式学級の学習指導及び学級経営について
- ・教育機器の活用等について

※外国語科の実践例やICT機器を活用した実践例を紹介

6節 教科書採択

1 義務教育諸学校用教科書採択の仕組み



2 採択の権限

教科書を採択する権限は、公立学校では、その学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会に、また国立学校、公立大学法人が設置する学校及び私立学校では、その学校の校長にある。

3 義務教育諸学校の教科書採択

小学校、中学校及び特別支援学校（小・中学部）の教科書は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を除き、4年間は同一の教科書を使用することになっている。

令和4年度は、令和5年度に使用する学校教育法附則第9条に規定する教科用図書について採択を行った。

採択に当たっては、諮問機関としての「青森県教科用図書選定審議会」が設置され、教科用図書の採択基準や選定に必要な資料等についての審議がなされ、県教育委員会が答申を受けた。

県教育委員会は、この答申に基づいて市町村の教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長の行う教科書採択についての指導、助言及び援助を行った。

(小・中学校の教科書検定・採択の周期)

学校種別	年度	H	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R	元	2	3	4	5	6	7	8
		小学校	検定	◎		◎			◎				◎	◎				◎				※	◎	◎					◎			
小学校	採択		△		△			△				△	△					△				※	△	△					△			
小学校	使用開始			○		○			○						○				○				※	○	○	○				○		
中学校	検定		◎	◎			◎						◎				◎				※	◎	◎					◎				
中学校	採択			△	△				△				△	△					△				※	△	△				△			
中学校	使用開始					○				○						○							※	○	○	○				○		

◎検定 △採択 ○使用開始 ※は道徳科

4 教科書展示会

県教育委員会では、翌年度使用する教科書の適正な採択を図るため、県内15の教科書センターで毎年教科書展示会を開催している。令和4年度は、6月1日から土曜日及び日曜日を除いた14日間開催した。

4章 高等学校教育

1節 学校の概況

1 学校数・生徒数

(4.5.1)

区分		学校数			生徒数				
					本 科			専攻科	
		本校 (中心校)	分校	計	男	女	計		
全 日 制	県立	50	1	51	10,337	10,161	20,498	101	
	私立	17	-	17	4,025	3,785	7,810	119	
	計	67	1	68	14,362	13,946	28,308	220	
定 時 制	県立	9	-	9	423	398	821	-	
	市立	-	-	-	-	-	-	-	
	計	9	-	9	423	398	821	-	
合 計		76	1	77	14,785	14,344	29,129	220	

2節 施設・設備

1 建物保有状況

令和4年5月1日現在における建物保有面積は、校舎で対前年度比5.23%（25,336㎡）減の458,811㎡、屋内運動場で対前年度比7.70%（9,192㎡）減の110,124㎡となり、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で97.1%、屋内運動場で99.7%となっている。

校 舎

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	54	458,811	400,288	45,382	13,141

屋 内 運 動 場

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	54	110,124	7,655	102,086	383

2 施設整備状況

令和4年度における高等学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

- (1) 安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、教育内容の変化に伴う施設の整備等、教育環境の改善を図る。
- (2) 計画的な大規模改修による整備を図る。

(5.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	木造高校等6校
校舎等建築	三沢高校等2校
長寿命化改修等	野辺地高校等3校
大規模改修	弘前工業高校等29校

3 産業教育施設・設備の整備

県立学校の産業教育施設・設備の整備については、科学技術の進歩や産業構造の変化及びそれらに対応した各学校の教育内容に応じて、逐年、整備を進めてきているが、令和3年度末の投資率は施設48.7%、設備68.8%となっている。令和4年度は、次のとおり整備した。

産業教育設備

- | | |
|--------------|-------------|
| ① 特別装置 | 168,360千円 |
| ② 産業教育設備整備事業 | 273,492千円 |
| ③ 実習船青森丸代船建造 | 1,553,779千円 |

4 教育用コンピュータ

- ・整備校 54校
- ・設備費 348,573千円

5 県立学校校内LAN整備

情報化に対応した学校教育を実現するため、平成12年度より整備を進めており、令和4年度末の整備率は100%となっている。

3節 教育課程

1 令和4年度の教育課程

平成11年3月に改訂された高等学校学習指導要領は、完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で特色ある教育を展開し、生徒に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることを基本的なねらいとして、卒業に必要な修得総単位数を従来の80単位以上から74単位以上に改め、必修科目の設定に当たっては、複数の科目の中から選択的に履修できるようにする選択必修の考え方を基本とし、普通科における必修科目の最低合計単位数を38単位から31単位に縮減した。また、専門学科における専門科目の必修単位数を30単位以上から25単位以上に縮減した。

文部科学省は平成15年12月に「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の更なる定着を進め、そのねらいの一層の実現を図るために、学習指導要領の一部改正を行った。そこで、各学校では生徒の多様な興味・関心、進路希望などに応じた教育課程編成に努めた。

なお、平成21年3月9日に現行の高等学校学習指導要領が告示され、教育基本法・学校教育法改正後の新しい教育課程の基準が示された。

「生きる力」をはぐくむという前学習指導要領の基本理念は、現行の学習指導要領においても変わらない。平成21年の改訂は、この「生きる力」の理念の実現のために、これまでの学校現場等での課題を踏まえ、指導面などでの具体的な手立てを確立することを目指すものである。

また、平成30年3月30日に告示された新しい高等学校学習指導要領は、令和4年度から年次進行で実施することとし、令和元年度から従来の「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に改めるなど、一部を移行措置として実施している。

2 総履修単位数（特別活動を除く）の設定

全日制の課程における週あたりの授業時数については、引き続き30時間を標準とした上で、これを超えて授業を行うことができることを明確化した。

本県では、全日制高等学校49校中22校（44.9%）が総履修単位数を87単位に設定した。最も多い総履修単位数としては100単位で、弘前南高等学校で設定した。

定時制高等学校においては、尾上総合高等学校が84単位設定し、9校中6校（66.7%）が76単位を設定した。

通信制高等学校においては、北斗高等学校が74単位から86単位を、その他2校が74単位から90単位を設定した。

(1) 全日制

総履修単位数	87	88～90	91～93	94～96	97～99	100～102	103～105	計
普通	10	1	2	4	11	1	0	29校
総合	2	2	0	0	1	0	0	5校
農業	0	0	3	1	0	0	0	4校
工業	5	1	0	0	0	0	0	6校
水産	1	0	0	0	0	0	0	1校
商業	4	0	0	0	0	0	0	4校
計	22	4	5	5	12	1	0	49校

*学年によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、令和4年度入学生の単位数で分類している。

(2) 定 時 制

総 履 修 単 位 数	75	76	77	84	計
普 通	1	3	1	0	5校
総 合	0	0	0	1	1校
専 門	0	3	0	0	3校
計	1	6	1	1	9校

* 3修制等によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、最小単位数で分類している。

(3) 通 信 制

北斗高等学校では74～86単位、尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校では74～90単位を設定した。

3 総合的な探究(学習)の時間

平成21年度3月の改訂で、「総合的な学習の時間」の教育課程における位置付けを明確にし、各学校における指導の充実を図るため、「総合的な学習の時間」の趣旨等について、総則から取り出し新たに章立てをし、目標が新たに設定された。目標は次の五つの要素から構成されている。

- ①横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ②自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③学び方やものの考え方を身に付けること
- ④問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤自己の在り方生き方を考えることができるようにすること

各学校の総合的な学習の時間の目標は、この①から⑤の五つの要素をすべて含み、この時間全体を通して、各学校が育てたいと願う生徒像や育てようとする資質や能力及び態度、学習活動の在り方などを表現したものにすることが求められる。

また、平成30年3月の改訂で実施されている「総合的な探究の時間」の目標は、大きく二つの要素で構成されている。一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するという、総合的な探究の時間の特徴を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、次の①、②、③として示している、総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。

- ①探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- ②実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ③探究に主体的・協同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

各学校においては、この目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定め、その実現を目指すことが求められている。

各校の「総合的な探究(学習)の時間」では、インターンシップ、ボランティア活動、キャリア教育などを積極的に取り入れることによって生徒が問題の解決や探究的な活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、将来の生き方を考えさせる学習の充実を図ったことがうかがえる。

(1) 全 日 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	22校
普通科の生徒は「総合的な探究(学習)の時間」を履修するが、専門学科の生徒は「課題研究」で代替する学校	3校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	12校
「総合的な探究(学習)の時間」を1・2単位のみ履修し、不足分を「課題研究」で代替する学校	1校
その他*	10校
計	48校

*青森高等学校では、文系においては「総合的な探究(学習)の時間」を3単位履修している。理系においては「総合的な探究(学習)の時間」を3単位履修し、うち2単位をSS（スーパーサイエンス）科目で代替している。

*弘前実業高等学校ではスポーツ科学科のみ「総合的な探究(学習)の時間」を履修し、他の学科は「課題研究」で代替している。

(2) 定 時 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	5校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	3校
その他	1校
計	9校

(3) 通 信 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	3校
計	3校

4 学校設定科目

学習指導要領では、各学校において、特色ある教育課程の編成に資するよう、学習指導要領で定める教科・科目以外にも、各学校で独自に学校設定教科・科目を開設できるとしている。

令和4年度は、全日制高等学校49校中46校（93.9%）が、定時制高等学校においては9校中5校（55.6%）が学校設定科目を導入して特色ある教育課程の編成に取り組んでいる。

学校設定科目を最も多く設定した学校は青森東高等学校（7教科22科目）であった。

学校設定科目を（1科目以上）設定した学校数

	令和4年度
全 日 制	46校
定 時 制	5校
通 信 制	1校
計	52校

5 普通高等学校における専門科目の設定

学習指導要領では、普通科において職業科目の開設を増やし、生徒の選択の幅を拡大するなど、それぞれの学校や生徒の実態に一層対応した教育課程の編成を求めている。

令和4年度全日制普通高等学校（29校）の普通科において専門教育に関する教科・科目を開設した学校は12校（41.4%）で、定時制普通高等学校（5校）の普通科においては4校の学校が開設した。また、通信制高等学校はすべての学校が専門科目を設定した。

(1) 全日制 *専門科目を設定した12校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目	情報科目	体育科目	福祉科目	英語科目
校数	9	7	3	1	1	1

(2) 定時制 *専門科目を設定した4校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目
校数	2	3

(3) 通信制 *専門科目を設定した3校の科目内訳

設定科目	商業科目	家庭科目
校数	2	3

6 2学期制

完全学校週5日制のもと、授業時数の確保のため2学期制を実施する学校がほぼ半数を超えたこともあったが、近年では生徒や地域の実情から3学期制へ戻す学校が増加した。

令和4年度に2学期制を実施した学校

	令和4年度	昨 年 比
全日制	6校	+1校
定時制	5校	0校
通信制	3校	0校
計	14校	+1校

7 単位時間の設定

令和4年度は、全日制高等学校49校中48校（98.0%）が1単位時間50分を設定した。

定時制高等学校においては、すべての学校が45分を設定した。

(1) 全日制

1単位時間	45分	50分
校数	1	48
(昨年度比)	0	-5

(2) 定時制

1単位時間	45分
校数	9
(昨年度比)	0

4節 学 習 指 導

1 学習習熟度別指導

能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人を尊重して個性の伸張を図るため、各教科・科目の指導にあたって、その学習内容の習熟の程度などに応じて、弾力的な学級の編成を工夫して行った。

特に学習習熟度の差が大きくなりやすい数学、英語等の教科・科目において、全日制普通高等学校29校中18校で習熟度別学級編成で指導した。

*学習習熟度別指導を行っている学校数（全日制）

教科・科目	国語	公民	数学	理科	英語	簿記	会計・原簿計算	情報処理等	その他
普通	4	0	18	4	13	1	1	0	4
総合	0	0	3	1	2	0	0	0	0
農業	1	0	0	0	0	0	0	0	0
工業	0	0	4	0	3	0	0	0	1
水産	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業	0	0	2	0	1	3	3	2	1
計	5	0	27	5	19	4	4	2	6

2 「評価規準」・「シラバス」の作成

各学校が生徒の実態に即した観点別評価規準の整備に努めた。

また、能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人の生徒が中学校の学習内容及び学習活動から高等学校の学習内容及び学習活動にスムーズに移行できるように、各学校ではシラバスを作成して活用した。

シラバスは、全日制高等学校では45校（91.8%）が作成し、定時制高等学校では8校（88.9%）で作成し、活用した。

	令和3年度まで作成済み	令和4年度作成予定	なし	計
全 日 制	45	0	4	49
定 時 制	8	0	1	9
通 信 制	3	0	0	3
計	56	0	5	61

5節 生徒指導

1 現 状

(1) 中途退学の状況

令和3年度に本県公立高等学校を中途退学した生徒は、235名（前年度から74名増加）であった。在籍者数に対する比率は1.0%（前年度より0.3%増加）であった。

本県公立・私立高等学校について、中途退学にいたった理由としては、「進路変更」が最も多く、次いで「学校生活・学業不適応」となっている。

(2) いじめの状況

公立高等学校におけるいじめの認知件数は、令和3年度は105件となっており、前年度より30件減少している。高等学校入学後の適応指導や人間関係を育む取組など、いじめが起きない環境づくりが今後とも必要である。

(3) 暴力行為の状況

公立高等学校における暴力行為の発生件数は、令和3年度は22件で、前年度より13件減少している。

2 対 策

(1) 生徒指導の推進について

生徒指導推進要綱に基づき、各校においては次のような取組を推進している。

- ① それぞれ自校の生徒指導上の課題を明確にし、ホームルーム、学年、生徒指導部等において、実践事項について共通理解をもって指導にあたっている。
- ② 生徒一人一人について、その状況の把握に努めながら内面の理解を進めるとともに、個に応じた適切な指導を行っている。
- ③ 教員との信頼関係や生徒相互の好ましい人間関係を基盤としたホームルーム作りに取り組んでいる。

また、生徒がよりよい学校生活を築いていけるよう生徒会活動の充実を図るとともに、勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の導入に積極的に取り組んでいる。

- ④ 家庭訪問や地区PTAの開催などを通して、保護者との連携強化に努めるとともに、地域の関係機関との連携を深めるよう取り組んでいる。

(2) 県教育委員会の施策

① 学校間及び関係機関・団体との連携・協力の推進

○高等学校及び特別支援学校生徒指導主事研究協議会（昭和49年度～）

高等学校及び特別支援学校における生徒指導上の諸課題とその対策について各校生徒指導担当者による研究協議を行い、各校の生徒指導の充実に資する。

② 教育相談体制の充実

○高等学校へのスクールカウンセラー派遣事業

生徒の臨床心理に関して高度で専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを、学校の要請に応じて派遣し、教員では対応しきれない複雑な事例等に関して、生徒及びその保護者に対してカウンセリングやアドバイスを行う。

③ 教員研修の実施

- 学校不適応への適切な対応を図る不登校対策研修講座の実施（平成2年度～）
- カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）
- 「初任者研修、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実

④ その他

- ネット安全利用啓発リーフレット「インターネットでキズつけない！キズつかない！」の活用

6節 道 徳 教 育

1 学 校 の 取 組

各学校では、学校教育全体を通して道徳教育を進めているが、とりわけ人間としての在り方生き方に関する指導に深く関わる、公民科などの教科・科目、及びホームルーム活動をはじめとする特別活動において、生徒の道徳的実践力の育成を図っている。

また、地域におけるボランティア活動や社会奉仕体験活動を、生徒の道徳的実践の機会としてとらえ、生徒の参加について積極的に推進している。

2 安心できる学校づくり研修会

いじめの早期発見、事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒が主体となったいじめ防止活動が継続的に行われる環境づくりを推進すること等を目的として、県内の高等学校及び特別支援学校の教員を対象とする研修会を企画した。新型コロナウイルス感染症の影響により、集合形態での研修会は中止としたが、対象校に研修資料を配布し、いじめ防止等の取組やSOSの出し方に関する教育に係る取組等、各学校において道徳教育が推進されるよう働きかけを行った。

3 高等学校における道徳教育講座

県内の県立高等学校及び特別支援学校の教員を対象とした研修会を実施し、高等学校における道徳教育の推進に関する講義や協議を通して、人間としての在り方生き方についての考えを深める道徳教育の在り方について学ぶとともに、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制の充実につなげるよう働きかけを行った。

7節 進路指導

1 高等学校進路指導主事研究協議会

高等学校における進路指導の諸課題について研究協議を行い、本県高等学校のキャリア教育・進路指導の充実を図るため、次のとおり高等学校進路指導主事研究協議会を開催した。

- (1) 参加者 78名（県立高等学校 61名、私立高等学校 17名）
- (2) 内容
 - A 説明 ・所管事業について
・令和4年3月卒業生の大学等進学状況等について
 - B 講演 「キャリア・パスポートの効果的な活用について」
 - C 研究協議 「キャリア・パスポートの自校での活用」及び「新型コロナウイルス感染症の影響の中で、進路指導において工夫した取組」

2 仕事力養成推進事業

- (1) 目的
自立した社会人・職業人の育成や就職した後に職場で活躍できる実力（仕事力）を養成するため、3年間の高校教育を見通した系統的な人づくり教育を推進する。
- (2) 内容
啓発的体験活動であるインターンシップ等を核に、望ましい職業観・勤労観の育成にむけた取組やビジネスマナーの向上など、各学校が現在取り組んでいる活動を再構築した企画を支援した。
- (3) 体験（インターンシップ等）
 - A 実績 13校 1,004人
 - B 助成内容 体験記録集の作成経費補助、受入事務所との通信連絡費補助
- (4) 演習（ビジネスマナー講習会等）
 - A 実績 16校 のべ2,063人
 - B 助成内容 講師謝金及び講師旅費

3 長期企業等派遣研修

- (1) 目的
 - ・企業が求める人材を学校全体で共有し、学校経営にいかす。
 - ・企業が求める人材や企業の人材活用の視点を取り入れた学校経営を他校へ波及させる。
- (2) 内容
県立高等学校の教諭1名を、1年間八戸商工会議所に派遣した。

4 長期企業研修出前講座

- (1) 目的
高校生が将来、社会人・職業人として自立できるような職業観・勤労観を育成する。
- (2) 実績
県立高等学校において、実施した。
- (3) 内容
18年度・19年度の企業スピリッツ研修、平成22～令和3年度長期企業等派遣研修派遣教員や受入企業担当者等が、高校生に直接語りかける授業やパネルディスカッション等により、企業の実際を高校生へ伝える。

5 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「キャリア形成講座・研修会」

(1) 目的

高校生が職業人として必要な能力を身に付けるとともに、就職に対する意識を高めることにより、就職内定率の向上を図る。

(2) 概要

危険物取扱者、簿記などの就職に有利となる資格取得対策のための講座実施の支援や、コミュニケーション能力、ビジネスマナー等の社会人基礎力向上等に係る研修会実施の支援。

(3) 実績

- ・講座 25校53講座 1,366名
- ・研修会 9校10講座 533名

6 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「介護員養成講習会」

(1) 目的

介護員養成講習会を実施し、介護・福祉分野への就職を支援する。

(2) 内容

「介護職員初任者研修課程」講習会を業務委託により青森、弘前、八戸、五所川原、三沢、むつの県内6地区で開催した。

(3) 実績

72名が資格取得

7 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「先進技能習得研修」

(1) 目的

専門学科（農業、水産、工業、商業、家庭、看護、福祉）の生徒のより高度な資格取得や先進技能習得に向けた指導に対応できるよう、教員の研修等を支援する。

(2) 内容

高度な資格（プログラミング学習、プレス機械作業）取得の指導や先進技能習得の指導に向けた研究機関等の研修機関へ教員を派遣する。

(3) 実績

- ・先進技能習得研修 9校の教員が9研修会に参加

8 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「県内企業理解促進プログラム」

(1) 目的

県内の高校の生徒、教員及び保護者が県内企業の訪問や企業採用担当者等との交流会等とおして、高校と県内企業の相互理解をし、県内で働き生活することへの理解を深める。

(2) 内容

各地区において高校生、教員、保護者対象の「企業見学会」の実施。

(3) 実績

- ・企業見学会 県内6地区で計9回実施した。

9 進学力パワーアッププログラム

(1) 目的

高等学校教員の進学指導力の向上と保護者の意識啓発を図るために各校が実施する事業を支援する。

(2) 実績

学校から提出された事業計画書を審査の上、20校程度の実施校を決定し、実施。

(3) 内容

入試問題研究、高校と大学の連携を深めるための大学模擬講義・小論文の指導法の研究・大学見学等。

令和4年度進学力を高める高校支援事業「進学力パワーアッププログラム」実施内容

NO	学 校 名	事 業 名
1	青森西高校	2022年度 全学年合同大学研究
2	青森東高校	小論文指導充実のための対策事業
3	青森北高校	青北学力向上冬季学習
4	青森南高校	Hello World研修-世界の国々、こんにちは
5	八戸東高校	新たな時代を創造し力強く生きるための学びの土台作り
6	八戸北高校	大学講師による模擬講義
7	八戸西高校	生徒が大学について学ぶためのオープンキャンパス参加
8	五所川原高校	課題研究の充実による理数科生徒の進学力向上
9	木造高校	木高キャリア向上プログラム～大学魅力発見プロジェクト～
10	野辺地高校	令和4年度 野辺地高校 大学研究プログラム
11	七戸高校	授業法改善・研究のための教員研修会
12	百石高校	親子で目指す進路達成プロジェクト
13	六ヶ所高校	大学生とカタル！カタリバ！
14	三本木高校	英語指導法研究協議会
15	田名部高校	教科指導力向上事業 育てる視点-教え方のコツ-
16	五所川原農林高校	大学進学を目指す農業高校生のためのバスツアー
17	三本木農業高校	大学の魅力を知って進学意欲を高めよう
18	五所川原工科高校	わくわく進学プロジェクト
19	青森商業高校	小論文講座
20	青森高校	最難関大学志望者合同進学合宿
	弘前高校	
	八戸高校	

10 医師を志す高校生支援事業

(1) 目的

本県の医師不足を解消するために、高校生に医師への志を育てるとともに、高い志望を持続させ、医学部医学科に合格するための実力を養成し、受験者層の拡大を図り、合格者の増加を目的とする。

(2) 内容

医師を目指す本県高校生に対して、県内3地区（青森・弘前・八戸）に拠点校を設置し、地区ごとに学校が主体となり、学力向上セミナー・教員対象プログラムを実施する。

ア 生徒対象セミナー

対象：高校1～3年生及び教員

講師：予備校講師等

実施回数：各地区各学年で年2回程度（1回あたり2日間日程）実施

参加人数：1回あたり各学年生徒約100名 教員約10人

イ 教員対象プログラム

対象：教員

内容：県内教員40名を研修セミナーに派遣する。

※県健康福祉部医療業務課と連携事業

ア 外科手術体験セミナー

外科医師及び医学生と外科手術の模擬体験をするセミナーを開催。

実施回数：1回

対象：県内の高校生

イ 医師による講演会（ドクタートーク）

県内で活躍する医師による講演の開催。

実施回数：6回

対象：県内の高校生

8節 産 業 教 育

県産業教育審議会は県教育委員会に平成元年5月30日「本県の県立高等学校における水産に関する教育の在り方について」答申し、水産業の動向や高度技術化、情報化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す水産教育の推進について提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、水産に関する教育の充実について検討を進め、平成元年11月に平成2年度から3年間で行う学科再編計画を決定した。これに対応するため、施設・設備の充実を図るとともに、コンピュータ等を利用した航海技術、栽培漁業技術及び水産食品製造技術等の指導者養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを実施している。

また、同審議会は、県教育委員会に平成元年11月7日「本県の県立高等学校における商業、家庭及び看護に関する教育の在り方について」答申し、経済生活全般にわたるサービス経済化、国際化や情報化の進展に対応しうる商業技術者の育成と、核家族化や女性の職場動向及び高齢化、情報化、国際化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す家庭、看護教育の推進についても提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、平成3年度から3年間で学科再編成などを実施するとともに、施設・設備の充実を図り、サービス経済化、国際化や情報化に対応する指導者の養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを行った。

さらに、平成6年11月29日に、新たに「本県の県立高等学校における農業、工業及び看護教育の在り方について」諮問を行い、平成8年7月24日に同審議会より答申を受け、各教育施策を展開してきた。

その後、県教育委員会では、県立高等学校教育改革第1次実施計画、第2次実施計画、第3次実施計画（平成21～29年度）を策定し、この計画のもと、特色ある学科・コース等の整備・充実等を図った。

また、平成29年7月には「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画」を策定し、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、農業科、工業科、商業科等の各学科における高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができるよう県立高等学校の適正な学校規模・配置や学科・コース等の改編・整備等を進めている。

9節 定 時 制 ・ 通 信 制 教 育

1 定 時 制 教 育 の 現 状

令和4年3月中学校新規卒業者のうち、定時制高等学校への進学者は264人で、昨年度から21人の増加となった。これを県内・県外別にみると、県内においては20人の増加、県外においては1人の増加となっている。

また、県内定時制高等学校への令和4年度における入学者数は298人で、昨年度より27人増加した。

(1) 県内中学校卒業者のうち定時制進学者の推移

区分	24・3	25・3	26・3	27・3	28・3	29・3	30・3	31・3	R2・3	R3・3	R4・3
県内	315	337	332	303	283	279	234	247	258	242	262
県外	9	7	4	1	3	3	3	4	1	1	2
計	324	344	336	304	286	282	237	251	259	243	264

(2) 県内定時制高等学校入学者の推移

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
355(352)	364(357)	370(367)	325(316)	303(303)	305(305)	265(265)	270(270)	279(279)	271(271)	298(298)

※（ ）内は、単位制高等学校への進学者数である。

2 定時制教育の振興

平成4年度に北斗高等学校及び八戸中央高等学校に単位制を導入し、平成6年度には両校に昼間部を設置、さらに、平成9年度からは、単位制以外の定時制高等学校の修業年限を「4年」から「3年以上」に弾力化した。

また、平成11年度には尾上総合高等学校定時制課程を設置するなど、定時制教育の活性化に努めてきた。

このほか、本県定時制教育の振興策として、次の事項に努力している。

- (1) 施設・設備などの教育環境整備はもとより、魅力ある教育内容を取り入れるとともに、定時制高等学校の適正配置についても見直しを図り、定時制教育の振興に努力する。
- (2) 中学校における定時制高等学校への進学を含めたきめ細かな進路指導の徹底を図るとともに、県内産業・経済界に対し、定時制教育への理解を得られるよう働きかける。

3 通信制教育の現状と振興

令和4年度入学者は246人で、前年度比26人増となっている。

また、令和3年度中（令和4年3月まで）の卒業者は、259人である。

生徒の多様なニーズに対応し、学習条件のより一層の充実を図るため、平成25年度から北斗高等学校、尾上総合高等学校、八戸中央高等学校に通信制の課程を設置している。

(1) 入 学 生 徒 数

年 度 学校名	29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	20	31	13	38	9	31	15	22	19	33	22	34
八 戸 中 央 高 等 学 校	15	31	11	23	24	42	18	25	25	34	29	24
尾 上 総 合 高 等 学 校	9	9	14	13	13	24	18	25	13	26	25	31
青 森 山 田 高 等 学 校	22	16	23	34	23	32	25	34	14	10	10	16
東 奥 学 園 高 等 学 校	4	9	4	9	7	5	8	11	5	9	6	18
五 所 川 原 第 一 高 等 学 校	3	11	10	11	9	7	8	13	13	19	12	19
計	73	107	75	128	85	141	92	130	89	131	104	142

(2) 卒 業 者 数

年 度 学校名	28年度		29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	14	27	16	29	14	20	11	34	7	24	14	30
八 戸 中 央 高 等 学 校	8	24	13	27	12	17	13	29	10	20	21	28
尾 上 総 合 高 等 学 校	7	13	8	17	3	9	8	9	12	15	10	17
青 森 山 田 高 等 学 校	65	69	53	55	49	64	35	46	28	58	38	31
東 奥 学 園 高 等 学 校	16	11	10	16	11	7	10	10	10	12	10	8
五 所 川 原 第 一 高 等 学 校	8	22	13	24	19	18	6	29	21	27	23	29
計	118	166	113	168	108	135	83	157	88	156	116	143

10節 文化活動支援

1 青森県高等学校総合文化祭

県内高等学校の文化部活動の総合的な発表の場である第43回青森県高等学校総合文化祭が、「届け 皆の思い 結び 伝える 未来への糸」をテーマに、中・東北地区を中心に行われ、延べ2,698人の高校生が参加した。

主催：青森県高等学校文化連盟、青森県教育委員会

令和4年度 第43回青森県高等学校総合文化祭日程及び会場

部 門	実施の有無	日程	会場	代替審査会等	一般公開の有無
演 劇	実 施	10/26～29	八戸市公民館 〒031-0075 八戸市内丸一丁目1-1 ☎0178-45-1511	-	一般公開あり
合 唱	実 施	10/9	弘前市市民会館 〒036-8356 弘前市下白銀町1-6 ☎0172-32-3374	-	一般公開あり
吹奏楽	実 施	10/7～8	弘前市市民会館 〒036-8356 弘前市下白銀町1-6 ☎0172-32-3374	-	一般公開なし
器楽・ 管弦楽	実 施	10/23	青森明の星中学・高等学校 〒030-0961 青森市浪打二丁目6-32 ☎017-741-0121	-	一般公開あり
日本音楽	実 施	10/23	青森明の星中学・高等学校 〒030-0961 青森市浪打二丁目6-32 ☎017-741-0121	-	一般公開あり
郷土芸能	実 施 ※内容変更	-	-	録画映像による審査	一般公開なし
マーチングバンド・ バトントワリング	実 施	10/7	弘前市市民会館 〒036-8356 弘前市下白銀町1-6 ☎0172-32-3374	-	一般公開なし
美 術	実 施	10/7～9	弘前市総合学習センター 〒036-8085 弘前市末広4-10-1 ☎0172-26-4800	-	一般公開あり
書 道	実 施	12/16～18	東奥日報新聞ビルNewsホール 〒030-0801 青森市新町二丁目2-11 ☎017-718-1135	-	一般公開あり
写 真	実 施	10/7～9	青森県武道館 〒036-8101 弘前市豊田2-3 ☎0172-26-2200	-	一般公開あり
放 送	実 施	10/29～30	弘前市総合学習センター 〒036-8085 弘前市末広4-10-1 ☎0172-26-4800	-	一般公開あり
囲 碁	実 施	10/8	青森県りんご会館 〒036-8093 弘前市城東中央3-9 ☎0172-27-6006	-	一般公開あり
将 棋	実 施	10/22～23	弘前市立観光館 〒036-8356 弘前市下白銀町2-1 ☎0172-37-5501	-	一般公開あり
弁 論	実 施	10/23	青森県総合社会教育センター 〒030-0111 青森市荒川藤戸119-7 ☎017-718-1135	-	一般公開なし
小倉百人一首 かるた	実 施	10/22	五所川原市中央公民館 〒037-0016 五所川原市一ツ谷504-1 ☎0173-35-6056	-	一般公開あり
文 芸	実 施	10/7～8	弘前市立百石町展示館 〒036-8035 弘前市百石町3-2 ☎0172-31-7600	-	一般公開あり
青少年 赤十字	実 施	10/22	東奥義塾高等学校 〒036-8124 弘前市石川長者森61-1 ☎0172-92-4111	-	一般公開なし
自然科学	実 施	10/22	青森県立弘前高等学校 〒036-8214 弘前市新寺町1-1 ☎0172-32-0251	-	一般公開あり
国際理解	実 施	10/22	青森県総合社会教育センター 〒030-0111 青森市荒川藤戸119-7 ☎017-718-1135	-	一般公開あり

2 文化芸術による子供育成総合事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげる。

主催：文化庁

(1) 巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業。

分野	公演団体名	実施日	実施校
オーケストラ等	仙台フルハーモニ管弦楽団	令和4年9月6日	平内町立小湊小学校
演劇	劇団俳小	令和4年6月1日	野辺地町立若葉小学校
演劇	劇団俳小	令和4年6月2日	平内町立山口小学校
演劇・ミュージカル	劇団ポブラ	令和4年9月1日	南部町立南部中学校
バレエ	小林紀子バレエシアター	令和4年10月12日	平川市立碓ヶ関小学校
バレエ	小林紀子バレエシアター	令和4年10月13日	平川市立金田小学校
歌舞伎・能楽	公益財団法人鎌倉能舞台	令和4年9月13日	三沢市立おおぞら小学校
歌舞伎・能楽	公益財団法人鎌倉能舞台	令和4年9月15日	五戸町立五戸小学校
合唱	東京合唱協会	令和4年9月27日	平川市立竹館小学校
演劇・児童劇	劇団風の子	令和4年7月8日	むつ市立奥内小学校

(2) 芸術家の派遣事業

小学校・中学校等に個人又は少人数の芸術家を派遣し、講話、実技披露、実技指導（以下「講話等」という。）を実施することにより、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的とした事業。

分野	講師名	実施日	実施校
音楽・管楽器	小川正毅	令和4年7月5日	十和田市立南小学校
伝統芸能・その他	室谷昭廣	令和4年10月20日	青森市立高田小学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和4年7月15日	青森市立佃中学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和4年7月14日	青森市立南中学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和4年7月15日	青森市立新城中学校
演劇・現代劇	田野邦彦	令和4年9月14日	六ヶ所村立南小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年8月30日	弘前市立岩木小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年9月8日	弘前市立桔梗野小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年9月28日	弘前市立自得小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年6月22日	弘前市立新和中学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年9月5日	弘前市立裾野小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年10月4日	弘前市立石川小学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年10月5日	弘前市立石川中学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年9月28日	弘前市立相馬中学校
音楽・弦楽器	山崎輝子	令和4年10月3日	弘前市立朝陽小学校

3 県域文化団体への助成

団体名	補助金額(千円)	補助対象事業の内容
青森県高等学校文化連盟	891	全国・東北大会派遣費等

4 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業

新型コロナウイルス感染症の影響下において、学校内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験・修得をする機会が多く失われているため、学校等において実演芸術等をはじめとする多様な文化芸術の鑑賞・体験が享受できる機会を提供する。

(1) 学校による提案型

学校が希望するアーティストや芸術団体等による鑑賞・体験教室の開催

分野	団体名	実施日	実施校
伝統芸能・能楽	株式会社影向舎	令和4年6月30日	県立木造高等学校
音楽・弦楽器	有限会社ムジカトウキョウ	令和4年6月28日	八戸市立南郷小学校
音楽・弦楽器	有限会社ムジカトウキョウ	令和4年6月30日	八戸市立高館小学校
演劇・現代劇	柿食う客	令和4年12月6日	県立八戸東高等学校
演劇・その他	株式会社劇団影法師	令和4年9月20日	八戸市立鮫小学校
音楽・声楽	藤原歌劇団合唱部	令和5年2月20日	十和田市立三本木中学校

11節 高等学校入学者選抜

令和5年度高等学校入学者の選抜は、次のように実施した。

区分：全日制及び定時制

選抜の名称	期 日	選抜の内容	時 間
入学者選抜	3月7日 (追検査：3月15日)	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科)	国語、英語は50分 その他の教科は45分 ※追検査については国語、英語は45分、その他の教科は40分
再 募 集	3月22日	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科)	学力検査は5教科をまとめて50分 その他は学校独自に定める

令和5年度 県立高等学校入学者選抜まとめ

1 全日制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
普 通	3,960	80	80	3,883	3,795	3,580	36	36	27	3,687
普通・理数	200	-	-	148	147	148	6	6	6	154
農 業	490	-	-	348	324	321	3	3	2	323
工 業	980	-	-	917	895	877	17	17	13	890
商 業	600	-	-	578	569	561	3	3	3	564
水 産	105	-	-	42	35	35	0	0	0	35
家 庭	120	-	-	108	105	108	4	4	4	112
看 護	40	-	-	38	37	35	3	3	2	37
外 国 語	40	-	-	37	37	40	0	0	0	40
体 育	120	-	-	126	124	118	0	0	2	120
表 現	30	-	-	24	24	28	0	0	0	28
総 合	640	-	-	604	600	569	0	0	0	569
総 計	7,325	80	80	6,853	6,692	6,420	72	72	59	6,559

2 定時制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
定 普 通	360	-	-	252	225	215	4	4	3	218
定 工 業	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0
定 総 合	120	-	-	73	56	57	4	2	2	59
定 時 制 計	480	-	-	325	281	272	8	6	5	277

令和5年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	5	0.1	14	0.2	3	0.0	1	0.0
90～99	168	2.4	241	3.5	166	2.4	71	1.0	227	3.3
80～89	1043	15.0	678	9.7	678	9.7	353	5.1	680	9.8
70～79	1933	27.7	1043	15.0	1104	15.8	738	10.6	789	11.3
60～69	1749	25.1	1155	16.6	1199	17.2	1081	15.5	842	12.1
50～59	1115	16.0	1212	17.4	1073	15.4	1348	19.3	933	13.4
40～49	585	8.4	1050	15.1	824	11.8	1370	19.7	992	14.2
30～39	224	3.2	762	10.9	658	9.4	1072	15.4	1039	14.9
20～29	105	1.5	505	7.2	587	8.4	638	9.2	890	12.8
10～19	37	0.5	270	3.9	467	6.7	258	3.7	507	7.3
0～9	7	0.1	46	0.7	197	2.8	35	0.5	67	1.0
0（再掲）	0	0.0	2	0.0	7	0.1	0	0.0	3	0.0
受 検 者 数	6967	100.0	6967	100.0	6967	100.0	6967	100.0	6967	100.0
平 均 点	65.9	—	55.7	—	53.6	—	50.6	—	50.6	—
標 準 偏 差	14.9	—	20.3	—	22.5	—	18.2	—	22.5	—
最 高 点	100	—	100	—	100	—	100	—	100	—
最 低 点	6	—	0	—	0	—	2	—	0	—
前年度平均点	67.5	—	55.6	—	53.1	—	56.9	—	54.0	—

令和5年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	項 目 得 点	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	0	0.0
80～89	0	0.0
70～79	17	21.8
60～69	15	19.2
50～59	13	16.7
40～49	10	12.8
30～39	12	15.4
20～29	8	10.3
10～19	2	2.6
0～9	1	1.3
0（再掲）	0	0.0
受 検 者 数	78	100.0
平 均 点	51.6	—
標 準 偏 差	18.3	—
最 高 点	79	—
最 低 点	8	—
前年度平均点	53.5	—

12節 ドリカム人づくり推進事業

この事業は、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりを推進するため、児童・生徒の夢実現に向け、児童・生徒のアイデアを取り入れ、向上心や学ぶ意欲などチャレンジする心をはぐくむ事業を企画・展開する県立学校を、「ドリカム人づくり推進事業」推進校に指定するものである。

1 事業の概要

- (1) 各学校が、生徒や地域の実態、学校の課題等を踏まえ、生徒のアイデアを取り入れプランを企画・立案し、書類審査とプレゼンテーションにより推進校を決定する。
- (2) 1校あたりの経費については、50万円以内とする。

2 令和4年度事業実績

校 種	学 校 数
高 等 学 校	15校
特別支援学校	5校
計	20校

3 主な事業例

- ・各科の特性を生かし、生徒の創造的な発想から地域社会に貢献できるオリジナル商品の開発
- ・計画立案、準備、調査、情報収集を生徒自らがを行い、地域生活と社会体験を深めていく活動の実施
- ・演劇、芸術、ものづくり、各校の特色を生かした取組

13節 持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業

この事業は、意欲的に郷土学習等を行い、教科横断的で協働的な体験を通して、青森県への誇りと意欲的な学びの姿勢、積極的に小・中学校及び地域に情報発信する力を育むとともに、県内定着を促進し、持続可能な青森県を創造できる人財の育成を図るものである。

○「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

1 事業の概要

- (1) 県立高校全校の全生徒が、高校生活の中で、地域資源や人財を活用して、総合的な探究の時間等において、高校の所在地域及び自身の居住地域等について理解を深める学習「あおり創造学」に取り組む。
- (2) 地域と協力しながら、生徒一人一人が「ふるさとあおり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成に取り組み、その成果を小・中学校及び地域に発信する。
- (3) 1校当たりの経費は75万円以内とする。
- (4) 「あおり創造及び総合的な探究の時間」教員研修協議会を年4回開催し、各校で中心となる教員への支援及び情報共有を図る。

- (5) 「あおり創造学」公式ホームページ及び各校のホームページの作成、成果発表会の実施等により、成果を地域等に発信する。

2 令和4年度事業実績

推進校 高等学校 26校

3 主な取組例

- ・学校周辺の歴史や文化に関する学習により、郷土の魅力に気づきや郷土に対する愛着を醸成し、地域観光におけるおもてなしなどの実践的な体験を通じて、地域課題の理解と解決方法を探究する活動を実践した。
- ・地域課題を把握するため、学校所在地の自治体等に連絡し、聞き取り調査などにより把握した上で、地域の産業や環境問題について理解を深める探究活動を実践した。
- ・地域産業である農業に着目し、最新の農業技術を地域企業や関連団体との連携により理解するとともに、将来、地域モデルとして活用できるか模索しながら、新規就農者や後継者不足の解決できるよう取り組んだ。

○県内定着に向けた就職支援員配置プログラム

1 事業の概要

- (1) 県内就職を希望する生徒の雇用を確保し、県内就職に関する情報提供や進路相談及び学校と企業の相互理解のためにコーディネートを年間をとおして行うことにより、生徒の進路志望を達成するとともに県内の就職率の向上を図るものである。
- (2) 県立高等学校に就職支援員を配置する。

2 令和4年度事業実績

配置校 高等学校 12校

3 主な業務

- ・進路指導部との連携による県内就職に向けた就職支援
- ・生徒の希望に応じた県内求人の開拓や相談
- ・生徒、保護者、教員への求人情報の提供、進路相談
- ・県内定着に関する県の就職支援事業の推進
- ・県内企業との相互理解促進企画の実施
- ・外部の視点による支援等を積極的に提案（学校間で共有）
- ・大学等卒業後のUターンを見据えた情報提供

14節 高等学校教育改革

1 第1次実施計画

「青森県高等学校教育改革推進検討会議」からの報告(平成11年2月25日)を具現化するため、庁内に「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」を設置して検討を進め、12年10月、第1次素案として取りまとめ、公表した。

その内容は、学校間連携の導入など教育内容・方法の充実・改善に関する事項や、総合学科の県内未設置学区への設置、全日制単位制高等学校、中高一貫教育校、新たな特色ある学科の設置など学校・学科の設置に関する事項、さらには生徒減少期に応じた学校規模・配置の適正化に関する事項と、大きく3項目になっている。

実施計画は、生徒数の減少傾向から中長期的な検討を要する事項もあることから、実施期間を平成20年度までの計画とすることとし、平成12年度から16年度までを計画期間とする第1次実施計画を策定したものである。

16年度は、青森東高等学校を県内で初めての全日制単位制高等学校とした。

学校規模・配置の適正化については、生徒減少に対応し学級減を行うとともに、一部の工業高校について学級定員を40人から35人に引き下げることとし、順次実施した。

2 第2次実施計画

第1次実施計画の実績・成果を踏まえ、さらに社会の変化や生徒の多様化に対応した学校づくりや、中学校卒業者数の減少に対応した適正かつ計画的な学校規模・配置について、「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」において検討を行い、平成17年度から平成20年度までを実施期間とする実施計画案を作成し平成16年7月21日に公表した。

この実施計画案について、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、募集停止や校舎制移行を予定している学校の関係者に対する説明会を開催した上で、県立高等学校教育改革第2次実施計画として取りまとめた。

17年度は、この第2次実施計画により今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鰐高等学校及び八甲田高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。また、野辺地高等学校横浜分校を募集停止とした。

18年度は、八戸北高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、定時制課程においては北斗高等学校及び八戸中央高等学校に3部制を導入するとともに、青森工業高等学校、弘前工業高等学校及び八戸工業高等学校において、学科統合を行った。

この他、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。

19年度は、三本木高等学校に併設型中高一貫教育を導入し、三本木高等学校附属中学校を開校した。また、今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鰐高等学校及び八甲田高等学校に校舎制を導入し、それぞれ、青森北高等学校今別校舎、木造高等学校深浦校舎、五所川原高等学校東校舎、弘前南高等学校大鰐校舎及び七戸高等学校八甲田校舎とした。

20年度は、弘前南高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校に校舎制を導入し、それぞれ弘前実業高等学校藤崎校舎、大湊高等学校川内校舎及び田名部高等学校大畑校舎とするとともに、平内高等学校及び南郷高等学校を校舎制に向けた1学級募集、木造高等学校稲垣分校及び五所川原高等学校東校舎を募集停止とした。

22年度は、平内高等学校及び南郷高等学校に校舎制を導入し、それぞれ青森東高等学校平内校舎及び八戸北高等学校南郷校舎とした。

*校舎制

校舎制では、本校舎から教員を派遣したり、スポーツ大会や文化祭などの学校行事を合同で開催するなどの、本校舎と連携した取組を行い、教育活動の充実を図る。

3 第3次実施計画【前期】

平成21年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「高等学校グランドデザイン会議」（平成18年5月設置）の答申（平成19年10月10日）を具現化するため、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進め、平成20年1月、県立高等学校教育改革第3次実施計画素案として取りまとめ、公表するとともに、平成20年3月、第3次実施計画案として取りまとめ、公表した。

この実施計画案について50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成20年8月6日

に県立高等学校教育改革第3次実施計画として公表した。

第3次実施計画は、平成21年度以降の10年間を見通した高等学校教育改革の基本的な考え方と、平成21年度から平成25年度までの具体的な実施計画【前期】について取りまとめたものである。

21年度は、七戸高等学校八甲田校舎を募集停止とした。

また、第3次実施計画により、平成23年度に募集停止とする青森戸山高等学校及び八戸南高等学校については、募集停止となる学校の教育活動の充実や統合先となる学校との円滑な連携を図るため、それぞれの統合先となる青森東高等学校及び八戸北高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。この他、平成25年度に名久井農業高等学校へ農業科の中で工業に関する科目や経営に必要な科目を学ぶことができる学科を設置するため、その具体的な教育内容等について検討を行う「新学科設置検討委員会」を設置した。

22年度は、第3次実施計画により、平成25年度に募集停止とする南部工業高等学校と統合先となる八戸工業高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。前年度に設置した青森戸山高等学校及び八戸南高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行うとともに、名久井農業高等学校の新学科設置検討委員会においても、引き続き検討を行い、それぞれの委員会から協議結果及び検討結果を教育長に報告した。

23年度は、青森戸山高等学校、弘前南高等学校大鰐校舎、尾上総合高等学校全日制課程及び八戸南高等学校を募集停止とした。

また、前年度に設置した南部工業高等学校及び八戸工業高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

25年度は、田名部高等学校大畑校舎及び南部工業高等学校を募集停止とした。また、定時制課程においては、尾上総合高等学校定時制課程に3部制を導入するとともに、弘前中央高等学校及び黒石高等学校を募集停止とした。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、緊急時の対応や指導をより一層充実させるため、北斗高等学校の通信制分室を尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校それぞれの通信制の課程として設置した。

4 第3次実施計画【後期】

第3次実施計画の後半部分となる平成26年度以降の具体的な実施計画【後期】の策定に向け、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進めるとともに、県内6地区における2度の説明会や意見募集を実施した。

24年度は、7月に第3次実施計画【後期】案を公表し、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成24年11月19日に第3次実施計画【後期】として公表した。

なお、第3次実施計画期間の最終年度である平成30年度から中学校卒業予定者数の急激な減少が見込まれるため、次期計画を1年早め、平成30年度からの計画として策定することとし、第3次実施計画【後期】の期間は、平成26年度から平成29年度までの4年間とした。

25年度は、第3次実施計画【後期】により、平成27年度に募集停止とする岩木高等学校と統合先となる弘前中央高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。

また、平成29年度に募集停止とする弘前実業高等学校藤崎校舎りんご科で実施している特色ある教育内容を柏木農業高等学校へ引き継ぐため、有識者及び両校の関係者の意見を確認しながら教育内容を検討する「中南部地区のりんご栽培教育等の充実に関する検討会議」を設置し、検討結果を教育長に報告した。

26年度は、前年度に設置した岩木高等学校及び弘前中央高等学校の統合準備委員会において引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

27年度は、岩木高等学校及び八戸北高等学校南郷校舎を募集停止とした。

29年度は、弘前実業高等学校藤崎校舎を募集停止とした。

5 青森県立高等学校教育改革推進計画

平成30年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「青森県立高等学校将来構想検討会議」(平成26年6月設置)の答申(平成28年1月25日)を具現化するため、庁内に「高等学校教育改革庁内検討委員会」を設置し、青森県立高等学校教育改革推進計画策定に向けた検討を進めた。

28年度は、5月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成28年8月3日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針として公表した。

また、第1期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺うため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、平成29年2月13日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

29年度は、4月に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成29年7月20日に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画として公表した。

30年度は、第1期実施計画により、令和2年度に募集停止とする黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による中南地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、「開設準備委員会」を開催し、協議結果を教育長に報告した。

令和元年度は、第1期実施計画により、令和3年度に募集停止とする金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高等学校の統合による西北地区統合校、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による上北地区統合校の開設に必要な準備を進めるため「開設準備委員会」をそれぞれ開催し、協議結果を教育長に報告した。

また、た名部高等学校を全日制課程単位制高等学校とするとともに、青森東高等学校平内校舎及び大湊高等学校川内校舎を募集停止とした。

令和2年度は、第1期実施計画により、黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による黒石高等学校(中南地区統合校)を新設し、青森北高等学校今別校舎、中里高等学校、五戸高等学校及び田子高等学校を募集停止とした。

また、6月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針改定案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和2年8月5日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針を改定した。

さらに、第2期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺うため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、令和3年3月9日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

令和3年度は、第1期実施計画により、金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高校の統合による五所川原工科高等学校(西北地区統合校)を、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による三本木農業恵拓高等学校(上北地区統合校)をそれぞれ新設し、木造高等学校深浦校舎を募集停止とした。

また、7月に第2期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和3年11月12日に第2期実施計画として公表した。

令和4年度は、第2期実施計画の推進に向けた取組として、主に地域校の活性化に係る取組や全国からの生徒募集に係る取組等を行った。

5章 特別支援教育

1節 学校の概況

1 学校数・幼児・児童・生徒数

(1) 視覚障害を対象とする特別支援学校

聴覚障害を対象とする特別支援学校

(R4.5.1現在)

区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
視覚障害	県立盲学校	1	1	1	1	1	1	6	11	9	14
	八戸盲学校	-	-	3	7	3	5	-	-	6	12
	計(2校)	1	1	4	8	4	6	6	11	15	26
聴覚障害	青森聾学校	3	4	3	5	1	2	4	10	11	21
	弘前聾学校	2	3	2	4	1	1	-	-	5	8
	八戸聾学校	3	5	5	10	3	5	-	-	11	20
	計(3校)	8	12	10	19	5	8	4	10	27	49

※ 県立盲学校の高等部には、専攻科を含む。

(2) 知的障害を対象とする特別支援学校

肢体不自由を対象とする特別支援学校

病弱・身体虚弱を対象とする特別支援学校

(R4.5.1現在)

区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
知的障害	弘大附属特別支援学校	-	-	3	17	3	16	3	19	9	52
	青森第二養護学校	-	-	28	92	15	60	6	50	49	202
	弘前第一養護学校	-	-	25	87	10	36	7	46	42	169
	八戸第二養護学校	-	-	39	124	22	73	-	-	61	197
	黒石養護学校	-	-	8	25	4	9	4	14	16	48
	青森第二高等養護学校	-	-	-	-	-	-	12	91	12	91
	八戸高等支援学校	-	-	-	-	-	-	21	179	21	179
	計(6校)	-	-	103	345	54	194	53	399	210	938

学校名		区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数		
肢体不自由	青森第一養護学校	-	-	10	22	6	13	-	-	16	35		
	弘前第二養護学校	-	-	5	13	4	8	3	7	12	28		
	八戸第一養護学校 (八病重心棟学級除く)	-	-	17	39	6	12	9	22	32	73		
知肢	青森第一高等養護学校	-	-	-	-	-	-	12	47	12	47		
	森田養護学校	-	-	15	32	7	24	6	49	28	105		
	七戸養護学校	-	-	26	73	13	41	8	73	47	187		
	むつ養護学校	-	-	13	30	6	15	6	49	25	94		
計 (7 校)		-	-	86	209	42	113	44	247	172	569		
病弱	青森若葉養護学校	-	-	4	5	4	5	4	12	12	22		
	※八戸第一養護学校 (八病重心棟学級)	-	-	1	2	0	0	0	0	1	2		
	浪岡養護学校	-	-	11	20	13	27	8	23	32	70		
計 (2 校)		-	-	16	27	17	32	12	35	45	94		

※ 学校数は肢体不自由に含む。

2節 障害のある子どもの早期からの一貫した支援

各市町村教育委員会は、障害のある子どもの適切な就学を図るため、就学に際し、保護者の意見を聴取するとともに、個々の障害の種類、程度、能力及び適性等について、専門的立場から調査・審議するために設置している教育支援委員会等からの意見を聴取した上で、総合的に判断し、最も適する教育場を選定し、指導を行っている。

令和4年度において、市町村教育委員会が、判断に当たった件数は次のとおりである。

判 断 件 数	市町村教育委員会数
100件以上	5 委 員 会
50件～100件未満	6 委 員 会
30件～50件未満	7 委 員 会
20件～30件未満	5 委 員 会
10件～20件未満	6 委 員 会
1件～10件未満	9 委 員 会
なし	2 委 員 会
合 計	40 委 員 会

なお、就学前における教育相談は、県総合学校教育センター、特別支援学校及び小・中学校特別支援学級で実施しているほか、地区就学相談・教育相談会を6教育事務所管内（10会場）で、延べ7日間実施し、40件の相談に応じた。

3節 施設・設備

1 建物保有状況

令和4年5月1日現在における特別支援学校の建物保有面積は、校舎で対前年度比2.85% (2,604㎡)減の88,714㎡、屋内運動場で対前年度比増減なしの15,020㎡となっており、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で98.1%、屋内運動場で99.8%となっている。

校 舎

障害種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障害	2	4,684	2,841	1,777	66
聴覚障害	3	8,361	8,100	53	208
知的障害、肢体不自由、 病弱・身体虚弱、肢体不 自由及び知的障害	15	75,669	69,481	4,800	1,388
計	20	88,714	80,422	6,630	1,662

屋 内 運 動 場

障害種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障害	2	440	50	390	0
聴覚障害	3	2,113	0	2,080	33
知的障害、肢体不自由、 病弱・身体虚弱、肢体不 自由及び知的障害	15	12,467	477	11,990	0
計	20	15,020	527	14,460	33

2 施設整備状況

令和4年度における特別支援学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

- (1) 安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、障害の種別や程度に応じた教育内容の充実や、教室不足を解消するための校舎の増築等、教育環境の改善を図る。
- (2) 計画的な大規模改修による整備を図る。

(5.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	七戸養護学校等2校
長寿命化改修等	黒石養護学校
大規模改修	青森第一養護学校等5校

4節 教育課程

1 特別支援学校の教育課程

特別支援学校では、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して小・中学校等に準ずる教育を行うとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とし、教育が行われている。

教育課程の編成に当たっては、小・中学校等に準ずる教科を取扱うこととなっているほか、知的障害のある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標及び内容が別に示されている。

また、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの6区分に示された27項目により、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を身に付け心身の調和的発達の基盤を培うことを目標とする、指導領域である「自立活動」を取扱うこととなっている。具体的には、視覚障害者を対象とする特別支援学校の歩行指導、聴覚障害者を対象とする特別支援学校の聴覚の活用・言語指導、肢体不自由者を対象とする特別支援学校の姿勢保持・変換、歩行に関する指導などを行っている。

なお、障害の状態により特に必要がある場合の教育課程の取扱いが示されており、障害のため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して教員を派遣して行う訪問教育も含まれている。

2 特別支援学級・通級による指導の教育課程

小・中学校における特別支援学級は、知的障害者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者及びその他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当な者を対象として教育を行っている。

特別支援学級の教育課程は、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため特別支援学校の指導領域である「自立活動」を取り入れている。また、通常の学級の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合において、各教科の目標・内容を下学年の目標・内容に替えたり、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えるなど、特別の教育課程を編成することができる。

小・中学校等における通級による指導は、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら当該児童生徒の障害に応じた特別の指導を特別の場で行う教育の形態であり、特別の教育課程を編成して行うものである。

具体的には、特別支援学校の「自立活動」の内容を参考とし、個々の障害の状態に応じた具体的な目標や内容を定めた学習を行うほか、障害の状態に応じて「各教科の内容を取り扱いはながら行う」ことができる。なお、在籍校以外の学校において受けた指導について、在籍校の特別の教育課程に係る授業と見なすことができる。高等学校における通級による指導については学校教育法施行規則の一部改正により、平成30年度から実施可能となったことを受け、令和3年度より北斗高等学校、八戸中央高等学校及び尾上総合高等学校の3校で実施している。

また、通級による指導の対象となる者は、言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者などである。

5節 学 習 指 導

特別支援学校・特別支援学級に在籍する幼児児童生徒及び通級による授業を受けている児童生徒については、個別的教育支援計画及び個別の指導計画に基づきP D C A（計画、実践、評価、改善）サイクルにより指導を進めている。

一方、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導に当たっては、特別支援学校等の助言又は援助の活用や、個別的教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に努めるなど、適切な指導や必要な支援の充実を図っている。

障害のある幼児児童生徒への指導は、特別支援学校間の専門性の活用、校内の教師間の協力による指導、医療、福祉、労働、教育等関係諸機関の外部人材の専門性の活用・連携、保護者の協力などにより、学習効果を高め、授業の充実にも努めている。

また、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒との交流及び共同学習を計画的・組織的に実施している。なお、特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒については居住する地域とのつながりの維持・継続を図るため、令和4年度から居住する地域の小・中学校に副次的な学籍を置いて交流及び共同学習を実施している。

6節 生 徒 指 導

児童生徒理解や指導方針について共通理解を図るため、ほとんどの学校で全校教職員による定期的な会議を行っている。また、個別面談や参観日等を設け、児童生徒に関してのケース会議を関係する施設・病院と合同で定期的に開いたり、職員間及び家庭と緊密な連携を図ったりしている。

寄宿舎においては、寄宿舎指導員や舎監が寄宿舎生の日常行動を記録し、定例的な打ち合わせをもって、緊密な連携を取り合いながら、生徒指導に当たっている。

また、障害の克服、人との関わり、進路選択等で悩んでいる児童生徒に対しては早期に対応するよう努めている。

7節 道 徳 教 育

特別支援学校では、各校とも基本的な生活習慣の確立など社会適応力を育てることを重点指導事項として教育課程に位置づけ、学校におけるあらゆる教育活動の中で反復・継続して指導している。

児童生徒の知的障害の状態により、「特別の教科道徳」の時間を特設せずに、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合もある。

また、自己の障害を正しく理解し、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図るために、各校では、道徳教育の全体計画に基づいて指導している。

なお、指導に当たっては、関係する施設・病院、家庭との緊密な連絡連携が不可欠なことから、各校とも連絡帳、学級通信等による情報交換や定期的連絡会を開催している。

8節 進路指導

各学校では、教育課程の編成に当たって指導内容に検討を加えているほか、進路指導年間計画を作成し実施している。

また、実際の指導の場として、職場見学や産業現場等における実習を行っている学校が多い。

なお、令和4年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

特別支援学校（国立を除く）

① 中 学 部

校 種	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支援等	福祉施設 等利用	その他
		高校	高等部	訓練校等	計				
視覚障害	3	0	3	0	3	0	0	0	0
聴覚障害	3	1	1	0	2	0	0	0	1
知的障害	86	0	86	0	86	0	0	0	0
肢体不自由	5	0	5	0	5	0	0	0	0
病弱・身体虚弱	11	3	8	0	11	0	0	0	0
計	108	4	103	0	107	0	0	0	1

② 高 等 部

校 種	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支援等	福祉施設 等利用	その他
		大学・短大	専攻科	訓練校等	計				
視覚障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴覚障害	6	2	0	2	4	2	0	0	0
知的障害	198	0	0	2	2	81	79	26	10
肢体不自由	16	0	0	1	1	2	3	10	0
病弱・身体虚弱	17	0	0	0	0	5	3	8	1
計	237	2	0	5	7	90	85	44	11

中学校特別支援学級卒業生

卒業者数	進 学 等			就 職	その他
	高 校	高等部	訓練校等		
272	160	105	1	1	5

（令和3年5月1日現在）

6章 情報教育

学習指導要領において、児童生徒の発達の段階を考慮した学習の基盤となる資質の能力としての情報活用能力が位置付けられ、情報教育は、学校教育においてますます重要となってきている。

本県では、それに係わるコンピュータ等の情報機器の計画的整備や教員の指導力向上のために、県総合学校教育センター等を中心とした研修の充実が図られている。

これらのことについて、県内の各学校の状況は以下のとおりである。

(令和3年3月現在)

1 県内の状況（令和3年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果より）

(1) 学校におけるICT環境の整備状況

	本県平均	全国平均
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数(人)	0.9	0.9
普通教室における無線LAN整備率(%)	91.9	94.8
学校の超高速インターネット接続率[光ファイバ回線](%)	98.6	95.1
学校の超高速インターネット接続率[100Mbps以上回線](%)	96.3	96.6
教員の校務用コンピュータ整備率(%)	137.7	125.4

(2) 教員のICT活用指導力の状況

(%)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	89.0	87.9	87.9	86.0	90.8	89.5	83.6	85.4
授業中にICTを活用して指導する能力	78.6	78.0	72.4	71.8	75.2	75.9	66.9	70.0
児童生徒のICT活用を指導する能力	80.9	79.4	75.6	75.2	80.8	79.1	67.7	68.9
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	89.6	89.4	82.6	84.0	87.0	85.2	72.9	76.8

「ICT」とは、「Information（情報） and Communication（通信） Technology（技術）」の略。

7章 国際理解教育

1節 日本語指導が必要な児童生徒等の受入

日本語指導が必要な児童生徒等の受入状況（令和3年8月現在）（単位：人、校）

区 分	小学校		中学校		高等学校		当別支援 学 校		合 計	
	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	児 童 生徒数	学 校数	児 童 生徒数	学 校数
①日本語指導が必要な外国籍児童生徒 (留学生は含まない)	23	15	13	7	5	3	0	0	41	25
②日本語指導が必要な日本国籍児童生徒 (帰国児童生徒等)	16	6	4	3	0	0	0	0	20	9

※隔年調査であり、令和3年度に調査実施。

2節 外国語教育

1 外国語指導助手

県教育委員会は、英語教員と生徒の英語力向上のため、昭和62年度から、県内各教育事務所等に外国語指導助手を配置している。なお、令和4年度は、アメリカ、ロシア国籍の外国語指導助手を29名配置し、配置先は、教育庁学校教育課、県総合学校教育センター、高等学校26校である。

外国語指導助手は、高等学校及び特別支援学校を訪問し、英語担当教員の助手として、主にコミュニケーション能力の向上を図るため、直接生徒の指導に当たるほか、県総合学校教育センターが開設している高等学校英語科言語活動実践講座等の講師として、英語担当教員の研修等の補助に当たる。

令和4年度外国語指導助手配置先一覧

(高等学校・総合学校教育センター・学校教育課)

番号	配 置 先	外国語指導助手名(姓・名)	性別	国籍
1	青 森 高 等 学 校	エルヴィスフエレラ ラファエラ	女	アメリカ
2	青 森 西 高 等 学 校	シャーマン ケリー	女	アメリカ
3	青 森 東 高 等 学 校	ウィーバー ダニカ	女	アメリカ
4	青 森 北 高 等 学 校	ブランスタッドグッド マシユ	男	アメリカ
5	青 森 南 高 等 学 校	ミクヴィカー ヘイリー	女	アメリカ
6	青 森 南 高 等 学 校	ヤシェンコワ アンナ	女	ロシア
7	青 森 中 央 高 等 学 校	ムカルム ケリス	女	アメリカ
8	弘 前 高 等 学 校	ブラウン ジャスミン	女	アメリカ
9	弘 前 中 央 高 等 学 校	レオン ヨセリン	女	アメリカ
10	弘 前 南 高 等 学 校	シャッカ アレクサンダー	男	イギリス
11	八 戸 高 等 学 校	サルダナ アリッサ	女	アメリカ
12	八 戸 東 高 等 学 校	ツー ジョセフ	男	アメリカ
13	八 戸 北 高 等 学 校	セルマン マッケンジー	女	アメリカ
14	八 戸 西 高 等 学 校	テイラーガルブズ ラヒ	男	アメリカ
15	木 造 高 等 学 校	ベセル アリソン	女	アメリカ
16	五 所 川 原 高 等 学 校	ステイーヴンス キャサリン	女	アメリカ
17	黒 石 高 等 学 校	ハリソン ローラ	女	イギリス
18	野 辺 地 高 等 学 校	キネ マシユ	男	アメリカ
19	七 戸 高 等 学 校	ムーア ジョシュア	男	アメリカ
20	三 本 木 高 等 学 校	マケイン ラナルド	男	アメリカ
21	三 沢 高 等 学 校	デンプシー ケイトリン	女	アメリカ
22	田 名 部 高 等 学 校	アン レイチェル	女	アメリカ
23	大 湊 高 等 学 校	ディゾン イアンジェイソン	男	アメリカ
24	大 間 高 等 学 校	マーフィー ジャレット	男	アメリカ
25	五所川原工科高等学校	オーチャード アレクサンダー	男	イギリス
26	八 戸 商 業 高 等 学 校	ボルジング スーザン	女	アメリカ
27	三 沢 商 業 高 等 学 校	ジョンソン クリストファー	男	アメリカ
28	県総合学校教育センター	ダンカシ シャイエンニトリーズ	女	アメリカ
29	学 校 教 育 課	ミラー ヘイリー	女	アメリカ

3節 在外教育施設への教員派遣

県教育委員会は、昭和51年度から在外教育施設（日本人学校：海外在留邦人子女のため義務教育段階の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設。補習授業校：現地校に進学している在留邦人子女に対し、日本語による教育の機会を提供し、やがて帰国し国内の学校に編入学する際の基礎学力を補うことを目的として、一部の教科について補習授業を行う定時制の教育施設。）に教員を派遣している。

令和4年4月までに派遣された教員は、49か国227名（校長16名、教頭21名、教諭190名）である。

令和3・4年度在外教育施設教員派遣応募状況

	令和3年度の応募状況		令和4年度の新規派遣者		
	本県からの推薦枠	応募者	令和2年度応募者	令和3年度応募者	計
校長	1	0	0	0	0
教頭	2	1	0	0	0
教諭	3	7	1	4	5

在外教育施設教員派遣状況

番号	派遣年月日	帰国年月日	職名	派遣先の学校名	国名
1	2.4.1	5.3.31	教諭	香港日本人学校大埔校	中国
2	〃	〃	教諭	バンコク日本人学校	タイ
3	3.4.1	〃	教諭	広州日本人学校	中国
4	〃	〃	教諭	テヘラン日本人学校	イラン
5	〃	〃	教諭	パリ日本人学校	フランス
6	〃	〃	教諭	上海日本人学校浦東校	中国
7	4.4.1	6.3.31	教諭	シンガポール日本人学校チャンギ校	シンガポール
8	〃	〃	教諭	アスンシオン日本人学校	パラグアイ
9	〃	〃	教諭	プノンペン日本人学校	カンボジア
10	〃	〃	教諭	リオデジャネイロ日本人学校	ブラジル
11	〃	〃	教諭	ジャカルタ日本人学校	インドネシア

8章 私学教育

1節 私学教育の現状

本県の私立学校は、幼稚園から大学、専修学校・各種学校まで含め155校で23,789人が在学しており、それぞれの建学の精神に基づく特色ある教育を行い、本県教育の振興に大きく寄与している。

1 幼稚園

本県の私立幼稚園を設置者別にみると、学校法人立が81園、宗教法人立が1園、計82園で在園児は3,753人となっている。これは、国立1園51人、公立2園27人を大きく上回っており、幼稚園在園児の98.2%を私立幼稚園が占めている。

2 小学校

私立小学校は設置されていない。

3 中学校

私立中学校は青森山田中学校、青森明の星中学校、弘前学院聖愛中学校、八戸聖ウルスラ学院中学校、八戸工業大学第二高等学校附属中学校及び東奥義塾中学校の6校で、生徒数は592人となっている。

4 高等学校

私立高等学校は17校、全日課程の生徒数7,810人（専攻科含む）、通信制課程の生徒数409人で、普通教育のほか職業教育の面で特色ある教育を行っている。また、部活動でも全国的にめざましい活躍をしている。

高等学校（全日制）入学者に占める私立高等学校の比率（専攻科は含まない）

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
私立高等学校 取 容 比	24.4%	24.5%	25.4%	25.5%	26.6%	26.6%	27.3%	25.9%	26.1%	26.2%	26.7%	29.5%

5 大学・短期大学

私立大学は8校、学生数7,569人、私立短期大学は5校、学生数950人で、工業、商業、福祉、家政及び幼児教育など専門教育の面で特色ある教育を行っている。

6 専修学校・各種学校

私立専修学校は22校、生徒数2,026人、私立各種学校10校、生徒数157人で、医療、社会福祉、衛生、商業実務、家政など、職業や实际生活に必要な技能又は教養の向上のための教育を行っている。

学校種別学校数・生徒数・教員数

(R4.5.1現在)

区 分	学 校 数	幼児・児童・生徒・学生数			本務教員数
		男	女	計	
大 学	8	4,202	3,367	7,569	516
短期大学	5	195	755	950	113
高等学校	17	4,025	3,785	7,810	629
中 学 校	6	352	240	592	54
小 学 校	0	—	—	—	—
幼 稚 園	82 (2)	1,894	1,859	3,753	628
専修学校	22 (2)	617	1,409	2,026	170
各種学校	10 (4)	33	124	157	22
計	151 (8)	11,689	11,999	23,633	2,176

※ () 内は休校中の学校で内数とし、高等学校は専攻科及び通信制課程を含む。

2節 私立学校に対する助成

令和4年度の私立学校に対する助成の主な内容は次のとおりである。

1 私立学校経常費補助金

私立の幼稚園、中学校、高等学校、専修学校及び各種学校に対して、教育条件の維持向上及び生徒等の修学上の経済的負担の軽減を図り、学校経営の健全性を高めるため、経常費補助金3,158,107千円を交付した。

2 私立学校教職員退職金財団経営基盤改善支援事業費補助金

公益財団法人青森県私立学校教職員退職金財団が行う経営安定化対策に伴う加入学校法人の負担増を緩和することにより、財団の経営安定化対策の円滑かつ着実な実施を支援するとともに、財団の経営安定化及び経営基盤強化を図るため、同財団に対し45,000千円を交付した。

3 特色教育支援経費補助金

私立学校における社会の変化に対応した教育の改革を推進するため、教育改革事業を行った高等学校8校、中学校2校、幼稚園及び幼保連携型認定こども園77園に対して、77,938千円を交付した。

4 私立幼稚園等特別支援教育費補助金

障害児が在園している幼稚園及び幼保連携型認定こども園47園（対象人員181人）に対して、教育内容の充実を図るため、134,099千円を交付した。

5 私立高等学校等就学支援金交付金

家庭の教育費負担軽減のため、私立高等学校（通信制を含む。）17校及び各種学校2校に通う生徒の授業料に対する支援として、2,255,117千円を交付した。

6 私立高等学校等学び直しへの支援金

高等学校等を中途退学した者が再び学び直す場合の授業料負担軽減のために、高等学校1校、各種学校2校に対して1,022千円を交付した。

7 私立高等学校等就学支援費補助金

家庭の教育費負担のより一層の軽減を図るため、授業料等軽減を行った私立高等学校17校に対して126,822千円を交付した。

8 私立高等学校専攻科修学支援金

家庭の教育費負担軽減のため、私立の高等学校専攻科2校に通う生徒の授業料に対する支援として、16,234千円を交付した。

9 奨学のための給付金

私立の高等学校等に在学する高校生等の保護者等の授業料以外の教育に必要な経費の負担軽減を図るため、1,640人に対して201,530千円を給付した。

10 私立学校振興活動費補助金

私立学校の振興を図るため、私立学校振興活動事業を行う公益社団法人青森県私学協会に対し、1,084千円を交付した。

11 私立幼稚園教職員等研修事業費補助金

子ども・子育て支援新制度が目的とする質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供に関する取組及び少子化に対応した適正な運営を推進・支援するため、研修事業を実施する私立幼稚園連合会に対して、800千円を交付した。

12 特定教育方法支援事業補助金（国庫）

高等学校1校に対して、2,816千円を交付した。

13 私立学校外国語指導助手招致事業費補助

外国語指導助手の招致・活用により英語教育の質の向上・国際化を促進するため、外国語指導助手を任用した3学校法人に対し、6,401千円を交付した。

14 保育教諭確保推進事業費補助金

保育教諭となるための幼稚園教諭免許取得及び単位取得する際の代替職員配置のため、2園に対して78千円を交付した。

15 幼児教育緊急環境整備費補助金

質の高い環境で、子どもを安心して育てることができる体制整備を推進するため、幼児教育の質の向上のための環境の緊急整備を行った私立幼稚園等延べ86園に対し、26,241千円を交付した。

- 16 認定こども園整備事業費補助金
子どもを安心して育てることができる体制整備を行うため、幼児教育と保育を一体的に提供する認定こども園の施設整備を行った認定こども園12園に対し、94,105千円を交付した。
- 17 園務改善ICT化事業費補助金
幼稚園、幼稚園型認定こども園における園務を改善するため、園務のICT化を行った25園に対し、7,132千円を交付した。
- 18 私立学校物価高騰対策事業費補助金
物価高騰による負担の軽減を図るため、光熱費の高騰相当分に係る経費について、私立の幼稚園、中学校、高等学校、専修学校及び各種学校計103校に対し、32,473千円を交付した。
- 19 理科教育設備整備費補助金（国庫）
中学校1校に対して344千円を交付した。
- 20 学校教育設備整備費等補助金（高等学校産業教育設備整備費）(国庫)
高等学校1校に対して350千円を交付した。
- 21 私立学校施設整備費補助金（私立幼稚園施設整備費）(国庫)
幼稚園2園に対して70,244千円を交付した。
- 22 私立学校情報機器整備費補助金（国庫）
高等学校4校に対して2,621千円を交付した。
- 23 学校保健特別対策事業費補助金（学校等における感染症対策等支援事業）(国庫)
中学校3校及び高等学校9校に対して4,390千円を交付した。
- 24 学校保健特別対策事業費補助金（感染症流行下における学校教育活動体制整備事業）(国庫)
中学校1校及び高等学校9校に対して8,763千円を交付した。
- 25 私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等ICT教育設備整備推進事業費）
（国庫）
高等学校6校に対して31,974千円を交付した。

3節 私立学校審議会

青森県私立学校審議会委員名簿

(R5.3.31現在)

	氏名	役職名	任期等
会長	伊藤 成治	国立大学法人弘前大学教育学教授	R4.7.28 ~ R8.7.27
副会長	下山 美智子	学校法人下山学園理事長 五所川原商業高等学校長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	鈴木 裕子	元三沢カトリック幼稚園長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	川守田 道治	あかね幼稚園長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	日景 弥生	学校法人柴田学園特任教授	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	村田 秀俊	弘前東高等学校長 元青森県私立中学高等学校長協会長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	油川 育子	認定こども園八戸文化幼稚園長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	石田 憲久	学校法人青森田中学園理事長 青森中央経理専門学校長	R3.7.8 ~ R5.7.27
委員	福井 武久	青森県専修学校各種学校連合会副会長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	中村 充	元青森県教育委員会教育長	R4.11.8 ~ R6.7.26

(会議)

令和4年7月29日に第304回、令和4年11月17日に第305回、令和5年2月24日に第306回の審議会が開催され、私立学校の学則変更等の知事の諮問事項について答申を行った。

9章 育英・奨学

1節 青森県育英奨学会

1 目的

この法人は、青森県人の子弟のうち、学業、人物が優れているにもかかわらず、経済的理由により修学困難な者に対し学費を貸与し、及び学生寮を利用させる等必要な援助を行い、本県及び国家社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与することを目的とする。

2 事業概要

(1) 青森県学生寮

- ① 所在地 東京都小平市鈴木町一丁目103-1
- ② 入寮費 年額 30,000円
- ③ 寮費 月額 30,000円
- ④ 食費 月額 約10,000円（日曜日、祭日を除く平日の夕食のみ）
- ⑤ 電気料 実費
- ⑥ インターネット 月額1,700円又は1,760円（入寮生が希望する事業者を選択）
- ⑦ 入寮定員 男子100名
- ⑧ 施設設備
 - 洋室100室（各室定員1名）、1室の広さ9.0㎡（6畳程度）、ベッド、洋服ダンス、収納棚、学習机、椅子、照明器具、冷暖房機、TV端子、インターネット回線
 - 食堂、図書室、談話室、自治会室、WC、浴室、洗面所（洗濯機）、事務室、応接室、職員住宅等
- ⑨ 入寮状況 (5.3.31現在)

学 年	出 願 者 数	入 寮 者 数	継 続 入 寮 者 数	計
1	8 人	7 人	0 人	7 人
2	0 人	0 人	9 人	9 人
3	0 人	0 人	6 人	6 人
4	0 人	0 人	10 人	10 人
大 学 院	0 人	0 人	1 人	1 人
計	8 人	7 人	26 人	33 人

(2) 大学奨学金

- ① 応募資格
 - 保護者が青森県の住民であること
 - 大学の第1学年に入学見込みの者
 - 学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること
 - 学資の支弁が困難であること
 - 原則として日本学生支援機構その他の団体から学資の貸与又は給付を受けていない者
- ② 貸与月額 44,000円
- ③ 採用人員 90人
- ④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

出願者数	貸与者数	継続貸与者数	計
41人	37人	80人	117人

(3) 高校等奨学金

① 応募資格

- 保護者が青森県の住民であること
- 高等学校又は専修学校高等課程に入学し、現在在学している者
- 学業・人物ともに優秀で、かつ健康であること
- 学資の支弁が困難であると認められること

② 貸与月額

次のうち、奨学生が必要に応じて希望する金額

ア：18,000円 イ：23,000円 ウ：30,000円 エ：35,000円

③ 採用形態

予約採用 中学3年生を対象に募集・決定

定期採用 毎年4月に高校等に在学している者を対象に募集・決定

緊急採用 家計が急変した在学学生を対象に随時募集・決定

④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

予約採用	定期採用	緊急採用	継続貸与者数	計
44人	68人	0人	256人	368人

⑥ 高等学校奨学金通学費等免除制度

ア 対象者

本会の高等学校奨学生のうち、次の全てに該当する者

- 奨学生の属する世帯が市町村民税所得割非課税世帯（生活保護法による生業扶助を受給している世帯を除く。）であること
- 通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円のいずれか超える額を負担していること

イ 対象経費等 通学費、下宿費（寮費）の1月当たりの実費相当額

ウ 返還免除額

奨学金の貸与月額又は通学費等の1月当たりの実費相当額（千円未満の端数切捨て）のいずれか低い方の額から通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円を差し引いた額

エ 返還免除の状況

返還免除者数	返還免除額
9人	1,473,000円

(4) 大学入学時奨学金

① 応募資格

- 保護者が青森県の住民であること
- 高等学校又は高等専門学校に在学している者
- 大学（通信制・短期大学を除く。）の第1学年に入学見込みであること
- 学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること
- 生活保護受給世帯若しくは市町村民税所得割非課税世帯又は児童養護施設等入所者であること

② 貸与額 10万円を単位とし、60万円以内の必要な金額

③ 採用人員 100人

④ 返還利息 無利息

⑤ 貸与状況

採用者数	貸与者数	貸与金額
14人	13人	7,100,000円

第4部 社 会 教 育

第4部 社会教育

1章 社会教育行政の方針と重点

1 方針

県民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

※人は青森県にとって「財（たから）」であるという基本的な考え方から、ここでは「人材」を「人財」と表しています。

2章 事業の概要

1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業

【趣 旨】

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

【概 要】

- (1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 三八地区（五戸町）

<地域課題解決スタートアップ研修会>

- 期日：6/21（火） ○会場：五戸町立公民館（五戸町） ○参加者数：14名
- 内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

- 期日：9/27（火） ○会場：五戸町役場（五戸町） ○参加者数：6名
- 内容：本事業の説明、目的の共有、各団体が抱える課題の明確化についての情報交換

<第2回実行委員会>

- 期日：10/16（日） ○会場：瑞穂館（五戸町） ○参加者数：16名
- 内容：桜沼公園現地調査後、桜沼及び桜沼公園を安全に利用するためのルール整備について

<第3回実行委員会>

- 期日：10/20（木） ○会場：五戸町立公民館（五戸町） ○参加者数：6名
- 内容：他団体等と公園利用のルール等、周知イベントについて

<事業の実践1>

- イベント「他団体との情報交換会」開催
- 期日：9/27（火） ○会場：五戸町役場（五戸町） ○参加者数：11名
- 内容：各団体の代表者による桜沼の保存・活用について、それぞれの役割や今後の取組について話し合いを行った。

<事業の実践2>

- イベント「現地調査」開催

- 期日：10/16（日） ○会場：桜沼及び桜沼公園（五戸町） ○参加者数：16名
○内容：桜沼公園内の沼の確認をするため、土地改良区と協力し、沼の水を抜き、沼内の生物の様子などを観察した。

<事業の実践3>

イベント「環境再生について考える」映画自主上映会の開催

- 期日：12/26（月） ○会場：五戸町立公民館（五戸町） ○参加者数：91名
○内容：環境保全に関する映画の自主上映会「杜人～環境再生医 矢野智徳の挑戦～」の開催

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/15（水）に五戸町役場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため開催を3/9（木）に延期し、オンラインにて開催した。

○内容：三八地区実行委員会「桜沼ワクワク実行委員会」による実践発表

イ 中南地区（平川市）

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：7/18（月） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数7名

<第1回実行委員会>

○期日：7/18（月） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数7名

○内容：スタートアップ研修会、本事業の説明、目的の共有について

<第2回実行委員会>

○期日：9/28（水） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数9名

○内容：企画開催及び計画、役割分担について

<第3回実行委員会>

○期日：12/10（土） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数：9名

○内容：企画開催後の振り返り、今後についての確認

<事業の実践1>

○期日：12/3（土） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数：9名

○内容：地域製品の学び、メニューの構想

<事業の実践2>

○期日：12/4（日） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数：9名

○内容：メニュー開発及びメニューの試作

<事業の実践3>

開発商品のプレゼン会の開催

○期日：12/10（土） ○会場：平川市文化センター（平川市） ○参加者数：9名

○内容：試作品のプレゼン実施及び販売品の検討

<事業の実践4>

開発商品のPR販売会

○期日：1/22（日） ○会場：イオンタウン平賀（平川市） ○参加者数：5名

○内容：開発したスイーツのPR販売会

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○2/15（水）に平川市文化センターにて開催。

○内容：中南地区実行委員会「GlänZ」による実践報告及び質疑応答

(2) キャリア教育の推進 【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

○内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

※上北、三八地区は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止。

<東青地区>

○日時：11/17（木） 16:15～16:45

○場所：青森市立浪打中学校

○内容：職業講話に関して、地元企業及び実施校を交えて意見交換を行い、より効果的な支援の在り方や今後の事業の方向性等について話し合った。

<西北地区>

○日時：7/12（火） 15:30～16:10

○場所：五所川原市立第三中学校

○内容：職業講話に関して、地元企業及び実施校を交えて意見交換を行い、より効果的な支援の在り方や今後の事業の方向性等について話し合った。

<中南地区>

○日時：8/26（金） 14:00～16:30

○場所：弘前プラザホテル

○内容：青森県若年者就職支援センター（ジョブカフェあおもり）と連携して、中南地区高卒者雇用対策協議会の第2部として講演を実施した。

○講師：一般社団法人みらいねっと弘前 代表理事 鹿内 葵

※上記内容で講師による講演を予定していたが、当日諸事情により講師が欠席となったため、中南地区実行委員会委員長の竹内昭三氏が弘前城天守曳屋工事のその後と今後の見通しなどについて講話を行った。

<下北地区>

○日時：7/7（木） 15:00～

○場所：むつグランドホテル

○内容：むつ商工会議所と連携して、むつ下北地区高卒者雇用対策協議会の第2部として講演を実施した。

○講師：特定非営利活動法人青森ファイナンシャル・アカデミー

代表理事 菅原 伊佐雄

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業を新規開拓した。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

・我が社は学校教育サポーター 新規登録企業 12社（登録予定含む）

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

<東青地区>

- 日時：11/9（水）～11/10（木）
- 場所：アウガ1階駅前スクエア
- 内容：東青地区11企業の活動をパネルで展示

<西北地区>

- 日時：11/14（水）～11/28（水）
- 場所：五所川原市役所 土間ホール
- 内容：西北地区5社の活動をパネルで展示

<中南地区>

- 日時：9/2（金）～9/3（土）
- 場所：ヒロロ3階 イベントスペース
- 内容：中南地区の企業・NPO等16社の活動をパネルで展示

<上北地区>

- 日時：12/26（月）～12/27（火）
- 場所：おいらせ町立木ノ下小学校体育館及びホール
- 内容：上北地区13社の活動をパネル展示

<下北地区>

- 日時：7/4（月）～7/6（水）
- 場所：むつ来さまい館 イベントホールA
- 内容：下北地区の企業・NPO等16社の活動をパネルで展示

<三八地区>

- 日時：9/25（日）
- 場所：八戸ポータルミュージアム はっち1階シアター1
- 内容：八戸市教育委員会が主催した学校図書ブックリサイクルフェアの会場で、昨年度の支援活動に関するパネルを展示

子どもの読書活動推進事業

【趣 旨】

「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【概 要】

(1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集（紹介文集）を36,000部、優秀作品周知ポスターを370部作成し、中学校、高等学校（特別支援学校中等部及び高等部を含む）、図書館等に配付した。

○募集期間：7/1（木）～9/16（金）

○応募数：4080点（中学生の部：38校1,142点、高校生の部：34校2,938点）

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立江陽中学校 3年 三浦 大雅 『六畳間のピアノマン』(安藤 祐介/著)
優秀賞	青森市立新城中学校 2年 千葉 結月 『ある晴れた夏の朝』(小手鞠 るい/著) 八戸聖ウルスラ学院中学校 2年 田中 未来 『カラフル』(森 絵都/著) 青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 高橋 一花 『かがみの孤城』(辻村 深月/著) 青森県立三本木高等学校附属中学校 2年 小島 あやめ 『よるのぼけもの』(住野 よる/著) 八戸市立江陽中学校 1年 工藤 彩葉 『かがみの孤城』(辻村 深月/著)

<高校生の部>

最優秀賞	青森県立青森聾学校 高等部3年 古川 瑛梨奈 『元女子、現男子。忘れない過去もある。けど、それを含めて僕だと気づいた。』 (木本奏太 かなたいむ。/著)
優秀賞	青森県立八戸商業高等学校 1年 川畑 悠 『君の睨顔をたべたい』(住野 よる/著) 青森県立七戸高等学校 3年 岡山 花梨 『往復書簡』(湊 かなえ/著) 青森県立浪岡高等学校 3年 奥瀬 蛍 『ママがもうこの世界にいらなくても 私の命の日記』(遠藤 和/著) 青森県立鱒ヶ沢高等学校 3年 神 楓真 『よるのぼけもの』(住野 よる/著) 青森県立五所川原工科高等学校 2年 成田 寛人 『一瞬を生きる君を、僕は永遠に忘れない。』(冬野 夜空/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民が子どもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体で子どもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/3 (土) 13:00～16:00

○場所：HOCコネクト (八戸市)

○参加者数：200名

○内容

ア 表彰式

令和4年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクール表彰式

イ 私のお薦めの一冊

ウ 講演

演題演題『読書って楽しい!』

講師：作家 辻村 深月

進行：フリーアナウンサー 境 香織

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をする子どもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、子どもの読書活動推進計画の未策定市町村に対し、計画策定が進むように働きかけを行った。

また、啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」について編集委員会を開催し、第7版の改訂作業を行った。

いじめ防止キャンペーン推進事業

【趣 旨】

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀賞作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

【概 要】

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞3作品を選定、表彰した。

○募集期間：6/6（月）～8/31（水）

○応募数：9,197作品（小学校5,614作品、中学校2,754作品、高等学校764作品、特別支援学校62作品、一般3作品）

○受賞作品

優 秀 賞	友だちを たすける人に おれはなる	青森市立新城小学校 2年 平山 楓大
	いじめゼロ 標語だけでは 終わらせない	中泊町立中里中学校 2年 三上 愛
	やさしさの たねをまいたら えがおさく	弘前市立岩木小学校 3年 平澤 莉緒
	いじめの芽 つんで笑顔の 種まこう	十和田市立三本木小学校 4年 畑山 理人
	気づいてる？ いじめと遊びの 境界線	むつ市立大平中学校 1年 木村 純々音
	思いやり みんなでもって いじめゼロ	県立八戸聾学校中学部 3年 松沢 宏人
審 査 員 特 別 賞	いじめてる その子も誰かの 宝物	つがる市立柏中学校 3年 中村 翔吾
	SNS 画面の向こうも 1人の人間	県立木造高等学校深浦校舎 3年 西崎 未空
	声かけで 心つながる なか間の輪	むつ市立脇野沢小学校 4年 大黒 鈴

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和3年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送（4/7～4/8、4/12、5/6、5/9～5/10、8/24～8/26、8/29～9/2、9/5、1/13、1/16～1/19）。

イ 令和4年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送（3/22～3/24、3/27）。

特別支援学校における家庭教育支援事業

〔趣 旨〕

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

〔概 要〕

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	4	10	47名	パン作り体験、施設見学、フラワーアレンジメント体験、講話（食育～肢体不自由のある子どもたちの食事について～）
青森第二養護学校	4	10	26名	こぎん刺し教室、防災教室、果物狩り、先輩保護者との談話会
青森若葉養護学校	3	6	30名	施設見学、体験活動「多肉植物の寄せ植え」「フラワーアレンジ」
青森第一高等養護学校	1	1.5	8名	福祉に関する勉強会「障害福祉サービスの利用等について」
青森第二高等養護学校	4	9	70名	花植え、環境整備、茶話会、木製のカラトリー作り体験、二高養祭の準備、エアロピクスとりラクゼーション
県立盲学校	7	19	54名	運動会参加、地域の清掃活動参加、進路指導講話、触察・点字研修会、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、主権者教育研修会
青森聾学校	3	5	76名	グラウンド整備、家族レクリエーション、コサージュ作り
浪岡養護学校	5	7	125名	陶芸体験「ランタン作り」、学校祭参加、ワークショップ「HSCって何だろう？」
弘前第一養護学校	2	7	41名	P T A 施設見学会（卒業後の進路先の見学）、レジンのアクセサリ作り
弘前第二養護学校	7	10	95名	運動会観賞、親子レクリエーション、陶芸体験「ランタン作り」、福祉施設見学、弘二養祭参加、ランプシェード制作及び展示、クリスマスプレゼント贈呈
弘前聾学校	7	12	83名	親子レクリエーション、なかまの集い、地区研修会「こころとからだ元気になるピラティス」、陶芸体験「ランタン作り」、手話学習会、進路懇話会
八戸第一養護学校	3	10	12名	学校給食に関する研修会、焼き物教室、消費者教育について
八戸第二養護学校	4	8.5	67名	障害理解のための学習会、茶話会、体験学習会、給食についての学習会

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容		
八戸盲学校	4	9	23名	保護者交流会（学校行事への協力）、保護者研修会「子どもの卒業後の生活についての知識を深める」、親子体験学習（もの作り、伝承文化活動）		
八戸聾学校	5	6	55名	P T A 奉仕作業（運動会装飾、清掃、扇風機清掃）、親子手話学習		
森田養護学校	3	6	32名	父母学習会（講演「前向きな子育てへのお手伝い～「み～んな」悩んで子育てしています～」 「子離れ・親離れ～自立と社会参加を目指した性教育～」）、森養祭への参加		
黒石養護学校	4	6	21名	黒石よされ講習会、陶芸体験「ランタン作り」、多肉植物の寄せ植え、コサージュ作り		
七戸養護学校	3	7	48名	福祉施設説明会、陶芸教室、県地区P 連研修会「子どもの自尊感情を育てる保護者の役割」		
むつ養護学校	5	13	117名	園芸教室、親子レクリエーション、父母学習会（進路に関する懇話会）		
八戸高等支援学校	2	4	77名	保護者に向けた進路情報提供・消費者教育		
合計	延べ回数	80回	延べ時間	166時間	参加者数合計	1,107名

学校を核とした地域づくり推進事業

【趣 旨】

地域学校協働本部の設置をこれまで以上に推進するために、多様な形態による地域学校協働本部のモデルを設置し、地域学校協働本部の普及を図るとともに、地域学校協働活動の理解及び更なる啓発を進める事業である。

【概 要】

(1) 地域との連携を担う教職員研修

地域との連携・協働の必要性や地域連携を担う教職員等としての役割、留意点等について研修を行った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東 青	8/9 (火)	県総合社会教育センター	59名 (15名)
西 北	7/29 (金)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	42名 (6名)
中 南	7/4 (月)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	71名 (12名)
上 北	7/28 (木)	公立小川原湖青年の家	65名 (11名)
下 北	7/5 (火)	むつ来さまい館	27名 (3名)
三 八	7/7 (木)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	73名 (23名)

※参加者数の（ ）は、オンラインによる参加者数（内数）

- 対象 地域連携を担う教職員等（公立小・中学校及び県立学校教職員）、市町村教育委員会職員、地域学校協働活動推進員 等
- 内容 講義「社会に開かれた教育課程の実現に向けて～地域と学校とが共に築く子どもの未来～」
演習（模擬熟議） 「デザインしてみよう、地域と学校とが共に築く未来」

○講師 ゆめ☆まなびネット 代表 大谷 裕美子 (東青・三八)

福島県本宮市立本宮まゆみ小学校 前校長 安齋 宏之 (西北・中南・上北・下北)

(2) 学校と地域の連携・協働事例ハンドブック作成

地域学校協働本部未整備市町村において、それぞれの実情に応じた地域学校協働本部整備の参考に資すること、また、県域で地域学校協働活動の充実が図られることをねらいとして、学校と地域の連携・協働事例ハンドブック「地域学校協働活動ハンドブック実践編」を作成・配付した。

○構成 地域学校協働活動について

本書に掲載の地域学校協働本部の特徴

地域学校協働活動の実践事例

参考資料・様式集

○配付先 市町村教育委員会、県内小・中・高等・特別支援学校 等

○作成委員会委員 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英 他6名

(3) 本部未設置市町村に対する設置サポート事業

ア 本部整備に向けた未設置市町村のサポート

地域学校協働本部未整備市町村の担当者等を対象に、地域学校協働本部整備に向けた相談対応、県内市町村における先進事例等の紹介、その他情報提供を行った。

○期間 通年

○内容 地域学校協働本部の整備及び地域学校協働活動の推進に向けた相談対応、先進事例等の紹介等

イ 学校を核とした地域づくり推進カンファレンスの開催

県域における地域学校協働活動の更なる充実を図るため、地域と学校の連携・協働が求められる背景やその意義、方策等についての講義、地域学校協働本部を整備することによる成果や課題についての事例紹介及び情報交換を行った。

○期日 2/9 (木)

○場所 県総合社会教育センター

○対象 市町村教育委員会職員 (地域学校協働活動担当者、コミュニティ・スクール担当者等)、小・中・高等・特別支援学校教職員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター 等

○参加者数 115名 (うち、オンライン参加者14名)

○内容 基調講演「学校と地域が連携する意義とその方策」

講師 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

事例紹介・情報交換「学校と地域が連携・協働する、私たちの取組

～『地域学校協働活動ハンドブック実践編』から～」

発表者 鶴田町教育委員会社会教育班 班長 秋庭 誠一

つがる市教育委員会教育部社会教育スポーツ課 主査 高橋 和生

青森市浦町中学校区学校運営協議会CSディレクター 工藤 知久子

ファシリテーター 弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

地域学校協働活動推進事業 (県事業)

[趣 旨]

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

※「学校・家庭・地域連携協働推進事業」内

【概要】

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を実施した。

ア 地域学校協働活動推進委員会

- 期日：1/30（月）
- 場所：県庁東棟5階 中会議室
- 委員

No.	氏名	所属等	備考
1	深作 拓郎	弘前大学教育学部 講師	委員長
2	會津 隆史	五所川原市立三輪小学校 校長	
3	神田 昌彦	弘前市立新和中学校 校長	
4	山子 泰典	青森県PTA連合会 会長	
5	大水 俊江	平内町地域学校協働活動推進員	
6	工藤知久子	青森市浦町中学校区学校運営協議会 CSディレクター	
7	秋庭 誠一	鶴田町教育委員会社会教育班 班長	
8	高田 真澄	六ヶ所村教育委員会社会教育課 社会教育主事	
9	夏井 幸子	八戸市福祉部子育て支援課 課長	
10	佐藤久仁子	裾野なかよし会 主任放課後児童支援員	
11	新山 大史	上北小学区放課後児童クラブ 主事	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

- 期日：6/22（水）
- 場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室
- 対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者（社会教育主管課及び福祉部局）
- 参加者数：44名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

- 期日：6/2（木）
- 場所：県総合社会教育センター 第1研修室
- 対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等
- 参加者数：52名
- 内容：講義「教員だけでは成し遂げることができなかった『奇跡の学校』の姿とは～コミュニティ・スクールの可能性～」

講師 文部科学省総合教育政策局 CSマイスター 小西 哲也

事例報告「青森県内各地の取組報告」

事例報告者 市町村教育委員会担当職員、市町村地域学校協働活動推進員

※会場・オンライン併用による実施

イ 放課後子ども総合プラン支援員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管

理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

○回数：12回

○対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

○参加者数：計803名

東青	前期	<p>【開催日】6/14(火)、15(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】114名 【内容】講義・演習「特別な支援を要する子どもへの関わり方 ～地域における子どもたちの居場所として～」 特定非営利活動法人 夢 副理事長 前田 淳裕</p>
	後期	<p>【開催日】9/14(水)、15(木) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】101名 【内容】講義・演習「子どもを育む豊かな遊びを支えるために ～コロナ禍での遊びの工夫～」 岩手県立児童館いわてこどもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀</p>
西北	前期	<p>【開催日】6/3(金) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】96名 【内容】講義・演習「特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援」 社会福祉法人あーると相談センター 相談員 今 幸子</p>
	後期	<p>【開催日】10/7(金) 【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】42名 【内容】講義・演習「子どもを育む豊かな遊びを支えるために ～コロナ禍での遊びの工夫～」 岩手県立児童館いわてこどもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀</p>
中南	前期	<p>【開催日】7/12(火) 【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】90名 【内容】講義「発達障害の特徴と支援のヒント」 社会福祉法人あーると マネージャー 其田 真一 ※会場・オンライン併用による実施</p>
	後期	<p>【開催日】9/9(金) 【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】37名 【内容】実技研修「レッツエンジョイ 自然大好き」 梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 指導主事 山口 繁弥</p>
上北	前期	<p>【開催日】6/13(月) 【会場】公立小川原湖青年の家 【参加者数】66名 【内容】講義・演習「放課後の子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 弘前大学教育学部 講師 深作 拓郎</p>
	後期	<p>【開催日】10/7(金) 【会場】七戸町屋内スポーツセンター 【参加者数】92名 【内容】実技研修・講義「子どもの元気が、日本を元気に！ ～Let's Try! みんなで運動遊び!～」 一般社団法人 BLUE ties Impression 代表理事 川戸 元貴</p>

下北	前期	【開催日】6/14(火) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】47名 【内容】講義「子どもや保護者とよりよい関係を築くために」 青森県発達障害者支援センターDoors センター長 分枝 篤史
	後期	【開催日】10/19(水) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】37名 【内容】実技研修「遊びのマスターから学ぼう～新しい生活様式に配慮した運動遊び～」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
三八	前期	【開催日】6/8(水) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】54名 【内容】講義・演習「子どもの理解を深める～気づきの窓をひろげる ＝子ども達も支援者も楽になる～」 三八教育事務所SC・SSW 公認心理師 社会福祉士 嶋野 知恵子
	後期	【開催日】10/4(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】27名 【内容】実技研修「どんぐりアート・どうぶつマグネット」づくり 種差少年自然の家 研修課 副課長 新田 隆 指導員 山内 哲

(3) 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

<主な活動実績>

◎情報提供等

- 令和4年度西北地区社会教育委員連絡協議会研修会(6/24(金))

主催：西北地区社会教育委員連絡協議会

対象：西北地区の社会教育委員

- 令和4年度東津軽郡小・中学校教頭会 第4回研修会(11/18(金))

主催：東津軽郡小・中学校教頭会

対象：東津軽郡の小・中学校教頭

◎情報発信 「みんながつながる地域学校協働活動便り」発行

第1号(8/8(月))、第2号(9/12(月))、第3号(10/26(水))、

第4号(12/7(水))、第5号(12/23(金))、第6号(2/27(月))

- 市町村教委等へ配付

学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助

【趣 旨】

市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。
※「学校・家庭・地域連携協力推進事業」内

【概 要】

地域学校協働活動（放課後子ども教室を含む）の取組を行う市町村（中核市の青森市及び八戸市を除く）に補助金を交付した。

【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

20市町村、地域学校協働本部32本部、放課後子ども教室62教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鯺ヶ沢町 鶴田町 中泊町

弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 おいらせ町 むつ市

風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

あおもり家庭教育支援総合事業

【趣 旨】

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

【概 要】

(1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業及び家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の改訂について協議した。

○委員：10名

○回数：年3回

(2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の作成・周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを改訂した。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所へ配布した。

○「改訂版 あおもり親楽プログラム3～支援者編～」の作成 1,800部

(3) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのつながりを深める研修会を県内2地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
上北	8/23(火)	十和田市東コミュニティセンター	30名	講演：「子どもが育つために、『私』にできること」 講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 准教授 差波 直樹 事例発表：「紹介します、県内家庭教育支援チームの実践！」
下北	8/31(水)	(オンライン開催)	13名	発表者：五戸町家庭教育支援チーム (五戸町家庭教育応援隊) 代表 小宮 香

- (4) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催
 社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のつながりを深めた。
 ○期日：12/15（木）
 ○場所：県総合社会教育センター
 ○参加者数：49名
 ○内容：講義・演習「親子の未来を育むためにできること～家庭教育支援の『今』を考える～」
 講師 一般社団法人ジェイス 代表理事 武田 信子
- (5) あおもり家庭教育応援フェスタの開催
 地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、パネルトーク及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。
 ○期日：10/1（土）
 ○場所：県総合社会教育センター
 ○参加者数：112名
 ○内容
 ア 講演「みんなで一緒にのびのび子育て
 ～今、もっとも必要なこれからの子ども・子育て支援～」
 講師 一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見 稔幸
 イ パネルトーク「今できる、わたしたちなりの子育て支援」
 パネリスト
 Happy Children Towada 新藤 幸子
 認定こども園百石幼稚園 園長 吉田 恵美
 子育てサークルPAPAHUG 代表 加藤 雄一
 一般社団法人家族・保育デザイン研究所 代表理事 汐見 稔幸
- (6) 祖父母向け孫育て研修会の開催
 県地域婦人団体連合会への委託により、県内2地区で研修会を開催し、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方等について学んだ。

地区	期日	場所	参加者数	内容
上北	9/26(月)	七戸中央公民館	56名	講演：「『祖父母向け孫育て』 ～今どきの孫育て～」 講師：（一社）青森県助産師会 孫育てチーム
下北	9/20(火)	大間町総合開発センター	45名	蛸名 えり子 宮本 由美子

- (7) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成
 県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計307名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに10名登録した。（累計登録者数：513名）

地区	内 容
東青	<p>【期日】11/12(土) 【会場】蓬田村ふるさと総合センター 【参加者数】18名 【新規登録者数】3名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森市読書団体連絡会 中村 弘子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：青森市読書団体連絡会 中村 弘子</p>
西北	<p>【期日】10/28(金) 【会場】五所川原市金木総合支所 【参加者数】47名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：お話サークルすずめっこ 代表 長尾 真紀子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：おはなしるんるん 代表 齋藤 眞琴</p>
中南	<p>【期日】10/21(金) 【会場】スポカライン黒石 【参加者数】78名 【新規登録者数】1名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：津軽地区読書推進運動連絡会 理事 岩崎 眞里子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：まわりみち文庫 店主 奈良 匠</p>
上北	<p>【期日】9/23(金・祝) 【会場】十和田市民文化センター 【参加者数】44名 【新規登録者数】1名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：語りの会「こま草」 阿部 智留恵、小野寺 功</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：語りの会「こま草」 会津 昭恵、藤森 順子 他2名</p>
下北	<p>【期日】9/10(土) 【会場】下北文化会館 【参加者数】26名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：青森大学社会学部 教授 秋田 敏博</p>
三八	<p>【期日】11/18(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】94名 【新規登録者数】5名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：J P I C読書アドバイザー 親子ふれあい読書アドバイザー 高嶋 敬子</p> <p>○読み聞かせ研修会 講師：青森県立図書館 主幹司書 奈良 容子 八戸市読書団体連合会 読書部会 会長 前田 敏子</p>

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 <社セ> (p.252)

高校生スキルアッププログラム推進事業 <社セ> (p.253)

青森で生きる未来人財育成事業 <社セ> (p.251)

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業 <社セ> (p.254)

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座 <社セ> (p.255)

あおもり家庭教育力向上事業 <社セ> (p.255)

家庭教育支援動画制作普及事業 <社セ> (p.258)

家庭教育相談事業 <社セ> (p.259)

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業 <図書> (p.230)

県立梵珠少年自然の家主催事業 <梵珠> (p.237)

県立種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典） <種差> (p.242)

自然体験活動支援事業 <種差> (p.243)

在学少年宿泊指導者研修 <種差> (p.243)

親子で学ぶ防災キャンプ事業 <種差> (p.244)

2節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

「地域の思いをつなぐ」若者育成事業

【趣 旨】

高校生等の若者が、県内各地で活躍する地域活動者の地域活動の手法を学び、それを手本として、主体的に地域の活動の企画・実践を行うことにより、若者の自己有用感及び地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する事業である。

【概 要】

(1) 若者と地域活動者による地域活動の企画・実践

ア 活動の企画・実践

高校生等の若者と地域活動団体による地域活動の企画・実践
・各地域活動団体への委託により実施（県内12団体）

市町村	委託団体名	活動概要
青森市	特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会	高校生がショートムービーを制作する体験や異年齢交流を行い、コミュニケーションやプレゼンテーションの力を磨くとともに、青森の魅力を発見し、動画で発信した。
青森市	青森街活サークル 秘密結社	街歩きや清掃活動、地域イベントへの参加により、地元地域にあるコンテンツ（ヒト、モノ、コト）の魅力を体感するとともに、地域参画についての意識の醸成を図った。
五所川原市	じゃわめき隊プロジェクト	地域の公共交通機関である五能線について理解を深め、魅力をさらに高めるために、「五能線魅力UPカード」の作成に取り組み、五能線沿線地域の魅力の発信と、沿線沿いにある高校との連携に努めた。
鶴田町	つるた街プロジェクト	高校生が事業構築のノウハウを学び、小学生対象のケーキデコレーションワークショップの企画・実践をとおして、地域への愛着を図った。
弘前市	特定非営利活動法人 SEEDS NETWORK	県外・海外で活躍している料理家・パティシエを講師に、人生のターニングポイントでどのような選択をしたか等の経験談を聞くことで、自身のライフプランを形成する意識の醸成を図った。
平川市	AsobolHirakawa	中高生が平川市で行われる朝活ヨガ等のイベントにスタッフとして関わり、その経験から自分たちで新たなイベントを企画・実践することにより、若者の主体性及び地域への愛着を育んだ。

市町村	委託団体名	活動概要
十和田市	Future Generations	「中高生×地域の本気の大人交流会」を開催し、普段接することのない地元で活躍している大人との対話をとおして、地域への愛着を図り、職業観を養った。
三沢市	Misawa English Activities	高校生が地域の大人や外国人と交流し、街歩き等を行うことで、地域の魅力を再発見し見つめ直すきっかけにするとともに、地域愛を育み、自己有用感を高めた。
むつ市	NPO法人シェルフォレスト川内	むつ市川内町近隣に住む高校生が、住民に対して町の暮らしや歴史、人生観等についてインタビューし、町や住民の魅力について記事にまとめながら、その様子をSNS等で発信した。
東通村	東通YOUTH	東通村在住の高校生が、村内イベントの「東通ドン！とボン・盆フェスタ」に参加するだけでなく、自分たちで新たに「村民ボンボン盆踊り及び仮装コンテスト」を企画・運営することにより、地域の良さについて再発見した。
八戸市	市民集団まちぐみ	南部せんべいの新たな魅力を探るため、南部せんべいを高校生の感性と新しい視点から考察・検証するワークショップを行い、「今後の南部せんべい」をキーワードにした企画を考え、実施した。
三戸町	サンノヘール	高校生が行政、民間企業と協働で地域の特産品を使ってフィリピンのスイーツ「タホ」の三戸町版を開発するプロジェクトに挑戦し、地域の大人とつながりを形成することで、地元定着のきっかけを作った。

(2) 活動成果発表会の開催

ア 各地域活動団体が行ってきた活動成果の発表会を開催した。

開催日：2/5（日）

場 所：県総合社会教育センター

参加者：121名

イ 活動事例集の作成・配付

取組内容をまとめた活動事例集を作成し、県内の中学校・高等学校、特別支援学校、市町村教育委員会、市町村地域づくり担当課等に配布し、実際に地域の若者と地域活動者が活動する際の参考とした。

若者の社会参加促進事業

【趣 旨】

若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体（以下、「若者団体等」）が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。

また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

【概 要】

(1) 若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者同士関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

<研修会の開催>【株式会社いーとBOXへ委託】

(東青地区)

第1回研修会

○期日：10/28（金） ○会場：奥津軽社中合同会社 ○参加者数：7名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

○期日：11/9（水） ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：7名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

(上北地区)

第1回研修会

○期日：10/11（火） ○会場：t h i r d ○参加者数：7名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

○期日：10/19（水） ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：7名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

両地区合同プランの企画・実践発表会

○期日：2/19（日） ○会場：アップルドーム内コワーキングスペースSANNOME

○参加者数：13名

○内容：事業・実践団体による実践事例発表、参加者全員による情報交換会

○講師：サンノヘエール 代表 五十嵐 淳

実践発表者：今別再発見！プロジェクト 代表 周布 祐馬

地域の場づくりラボ 代表 佐藤 佑志

<企画事業の実践>

(東青地区)【今別再発見！プロジェクトへ委託】

○期日：11/19（土）～20（日） ○会場：海峡の家ほろづき ○参加者数：4名

○内容：移住希望の若者に対し、団体で企画した事業プランを実践する場として、今別町内の食や歴史、文化の体験をするモニターツアーを企画し、実施した。

① まち歩き 海峡の家ほろづきから袋月海雲洞までの約5キロ（袋月地区一帯）の散策を行い、地域の歴史や文化を学んだ。

② 袋月地区にある昆布加工『袋月海宝』で、昆布の加工体験（あらめの袋詰め）を行った。

- ③ 茶めし調理体験を海峡の家ほろづきで行い、各自が作った料理を夕食として試食した。
- ④ 茶めし調理体験の講師から頂いた、ツブ貝の身取り作業及びもずくの塩抜き加工作業を体験した。
- ⑤ 地域を題材とした番組“寝月物語”を視聴した。

(上北地区) 【地域の場づくりラボへ委託】

○期日：2/8(水) ○会場：t h i r d

○参加者数：24名(会場10名とオンライン14名)

○内容：地域に関係する気になる人、気になること、気になる活動をピックアップして、そこにある気になるストーリーや思想などの根源に迫り、参加者の方々と知見を共有し、つながりづくりを行う会を企画し、実施した。

ゲストに場所に捉われない働き方を活かして、東北地域のクリエイターコミュニティ「WACOBESSE」の運営や岩手県八幡平市で定期的なワーケーション企画「八幡平ワーケーション」の企画・運営、仙台市内の荒町商店街サポーターなど、広域な活動から地域に根ざした活動まで行っている岩村ご夫妻「WACOCREATE」(和哉さんが動画制作、優香さんがWEB制作を行っているクリエイターの夫婦)を迎え、お互いのコミュニティ運営に関する課題やこれからの活動について参加者と考えるイベントを行った。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家、梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施した。ただし、第3回の梵珠会場については、参加希望者が0名だったため、中止となった。

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：6/25(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：3名

○内容：火おこし体験、野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：9/3(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：3名

○内容：自然ふれあいハイク、創作活動 他

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/16(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：19名

○内容：火おこし体験、せんべい焼き、ニュースポーツ 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：9/17(土) ○会場：種差少年自然の家等 ○参加者数：18名

○内容：サンドクラフト、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：2/18(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：13名

○内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

<自然体験・交流塾協力団体等連絡会議>

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

○期日：6/7(火) ○会場：ヒロロ3階 多世代交流室 ○参加者数：11名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（種差会場）

○期日：7/1（金） ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：12名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（梵珠会場）

○期日：2/7（火） ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：6名

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（種差会場）

○期日：3/6（月） ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：10名

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）

(P156 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

パワフルA OMORI！創造塾 <社セ> (p.250)

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修 <社セ> (p.259)

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 <社セ> (p.260)

3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業

【趣 旨】

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校（特別支援学校）の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

【概 要】

学 校 名	期 間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立青森聾学校	6～9月	7日 (7回)	手話講座	16名 (88名)
県立盲学校	7月	1日 (2回)	視覚障害者への支援と点字入門	10名 (19名)

障害者の生涯学習支援事業

【趣 旨】

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団生活や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

【概 要】

(1) 社会参加学習

開 設 校	回数	時間	参加者数	主な内容		
県立青森第二養護学校	4	10	178名	情報交換、レクリエーション、ボウリング教室、スポーツ体験、会報の発行		
県立青森若葉養護学校	1	6	13名	体験を広げる校外学習（入級生、職員、地域の方との交流）		
県立青森第一高等養護学校	1	15	41名	めいせい祭参加（在校生、卒業生、保護者、職員との交流）		
県立青森第二高等養護学校	4	14	268名	情報交換、レクリエーション、学校祭参加（展示及び模擬店見学、作業体験）、ボウリング		
県立盲学校	1	4	4名	学校祭参加（発表の観賞、運営の手伝い）		
県立浪岡養護学校	1	2	8名	同窓会、二十歳を祝う会		
県立弘前第一養護学校	1	3	23名	会員相互の近況報告、記念撮影		
県立八戸第二養護学校	1		300名	書面による近況報告（8～12月）		
県立八戸盲学校	2	8	24名	箏教室、スポーツ体験活動（グランドソフトボール競技並びにサウンドテーブルテニスの選手の発掘・育成のための体験会）		
県立森田養護学校	2	6	57名	Zoom講座、ハーバリウムの制作、二十歳のお祝い		
県立黒石養護学校	1	3	49名	自己紹介、映画観賞		
県立七戸養護学校	2	4	81名	同窓会レクリエーション、成人を祝う会		
県立むつ養護学校	4	7	460名	卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会		
合 計	延べ回数	25回	延べ時間	68.5時間	参加者数合計	1,506名

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内 容
7/31 (日)	県立青森第一高等養護学校	28名	ボッチャ教室
11/26 (土)	県立青森若葉養護学校	36名	ニュースポーツ教室
12/17 (土)	県立青森第二養護学校	32名	ボッチャ、フライングディスク教室
合 計	開催回数 3回		参加者数合計 96名

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 <社セ> (p.251)

学習情報の収集・提供事業 <社セ> (p.262)

ボランティア関係機関職員養成講座 <社セ> (p.261)

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 <社セ> (p.262)

あおもり県民カレッジの運営業務 <社セ> (p.263)

インフォメーションプラザありすの運営 <社セ> (p.265)

読書バリアフリー推進事業 <図書> (p.230)

近代文学館 特別展開催事業 <図書> (p.230)

近代文学館 企画展開催事業 <図書> (p.231)

アウトリーチサービス推進事業 <図書> (p.232)

4 節 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習推進基盤整備事業（生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会）

【趣 旨】

生涯学習振興法（生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律）の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

【概 要】

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

ア 第15期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年（R2/10/19～R4/10/18）

○諮問：「青森県における新しい時代の生涯学習・社会教育の推進の在り方について」

○審議テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進について」

○会議等の概要：第6回審議会 6/29（水） 答申案（素案）について

第7回審議会 9/13（火） 最終答申案について

答申書提出 10/7（金） 会長から県教育長へ提出

イ 第16期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年（R4/10/19～R6/10/18）

○諮問：「障害者の生涯学習の推進方策について」

○審議事項：1「障害者の多様な学習活動の充実」

2「障害の有無にかかわらず共に学ぶ場づくり」

3「障害者の学びを推進するための基盤の整備」

○会議等の概要：第1回審議会 11/21（月） 諮問内容について

第2回審議会 2/13（月） 障害者の生涯学習に関する推進方策に係る現状や課題等について

生涯学習・社会教育総合調査研究事業

〔趣 旨〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

〔概 要〕

障害者本人1,590人を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

- 調査テーマ：「障害者の生涯学習に関する実態調査」
- 調査対象：1,590人
(内訳) ・特別支援学校高等部、高等支援学校生徒 661人
・障害者支援施設、障害福祉サービス事業所等利用者 607人
・企業等に雇用されている障害者 322人
- 有効回答：800人 (50.3%)
- 顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。
弘前大学教育学部 准教授 越村 康英
八戸学院大学健康医療学部 講師 大木 えりか
- 報告書：135部を印刷し関係機関に配付した。

青森県社会教育委員の運営

〔趣 旨〕

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

〔概 要〕

- (1) 第35期青森県社会教育委員
 - 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
 - 任期：2年 (R2/10/19～R4/10/18)
 - 調査研究テーマ：「地域全体で子どもを育む家庭教育支援の在り方について」
 - 会議等の概要：第6回会議 5/23 (月) 答申案(素案)について
第7回会議 7/25 (月) 最終答申案について
- (2) 第36期青森県社会教育委員
 - 委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務
 - 任期：2年 (R4/10/19～R6/10/18)
 - 調査研究テーマ：「障害者の生涯学習の推進方策について」
 - 会議等の概要：第1回会議 11/21 (月) 議長・副議長選出

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

〔趣 旨〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔概 要〕

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和4年度青森県の社会教育行政」の作成配付 (550部作成)

社会教育主事有資格者育成派遣事業

【趣 旨】

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

【概 要】

○派遣研修：社会教育主事講習（秋田県生涯学習センター）

○研修期間：7/25（月）～8/19（金）

派遣者数：中学校教員1名、県教育委員会主任指導主事2名及び指導主事2名

生涯学習専門講座派遣事業

【趣 旨】

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

【概 要】

(1) 社会教育主事専門講座

研修期間：11/10（木）～11/11（金）、11/14（月）～11/15（火）

派遣者数：県生涯学習課 社会教育主事1名

(2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー

受講者なし

※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

社会教育主事等一般研修

【趣 旨】

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

【概 要】

○研修会の開催：第1回 4/28 県総合社会教育センター

第2回 10/21 県総合社会教育センター

第3回 2/28 県総合社会教育センター

在学青少年育成費補助事業

〔趣 旨〕

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年（高校生）を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

〔概 要〕

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
9/6(火)	向 陵 高 等 学 校	138名	演題 「夢をおいかけよう」 講師 早稲田大学スポーツ科学部 教授 葛西 順一
	千 葉 学 園 高 等 学 校	351名	
9/21(水)	県立五所川原工業高等学校 県立五所川原工科高等学校	459名	演題 「石油開発サラリーマンの転勤人生」 講師 エスケイ産業株式会社 代表取締役社長 前田 亘
9/22(木)	五 所 川 原 商 業 高 等 学 校	195名	
10/28(金)	県 立 七 戸 高 等 学 校	299名	演題 「チャンスの掴み方」 講師 株式会社コミット 代表取締役 天間 晃彦
	県 立 十 和 田 西 高 等 学 校	31名	

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）

(P156 1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲) <社セ> (p.260)

(P172 2節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

ボランティア関係機関職員養成講座 <社セ> (p.261)

(P177 3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進に掲載)

県立図書館資料整備 <図書> (p.232)

市町村立図書館等職員研修事業 <図書> (p.233)

3章 施設と職員の状況

1節 社会教育施設の状況

1 公民館

(1) 公民館の設置状況

令和4年4月1日現在

区 分	本 館			分 館
	中央館	地区館	計	
市 計 (10)	13	80	93	51
町 村 計 (30)	25	50	75	53
合 計	38	130	168	104

2 図 書 館

(1) 公立図書館の設置・蔵書の状況

令和4年4月1日現在

No.	施 設 名	蔵書冊数 (冊)	No.	施 設 名	蔵書冊数 (冊)
1	青森県立図書館	983,490	18	平川市平賀図書館	99,468
2	青森市民図書館	1,046,636	19	平川市尾上図書館	46,977
3	弘前市立弘前図書館	557,349	20	平内町立図書館	50,417
4	弘前市立岩木図書館	本館に含む	21	藤崎町図書館大夢	68,851
5	八戸市立図書館	449,556	22	板柳町民図書館	30,690
6	八戸市図書情報センター	6,034	23	中泊町図書館	58,177
7	八戸市立南郷図書館	62,415	24	野辺地町立図書館	91,445
8	五所川原市立図書館	124,392	25	七戸中央図書館	33,805
9	五所川原市立図書館金木分館	6,471	26	六戸町立図書館	29,956
10	五所川原市立図書館市浦分館	2,852	27	横浜町民図書館	19,870
11	十和田市民図書館	186,739	28	東北町立図書館	53,312
12	三沢市立図書館	130,353	29	六ヶ所村民図書館	48,072
13	むつ市立図書館	160,811	30	おいらせ町立図書館	70,732
14	むつ市立図書館川内分館	7,314	31	三戸町立図書館	47,162
15	むつ市立図書館大畑分館	8,397	32	五戸町図書館	117,955
16	むつ市立図書館脇野沢分館	4,760	33	田子町立図書館	37,101
17	つがる市立図書館	106,637			

3 青少年教育施設

令和4年4月1日現在

No.	施設名	所在地			
		〒	住所	TEL	FAX
1	青森県立 梵珠少年自然の家	037-0611	五所川原市神山字殊ノ峰 117-602	0173-29-3303	0173-29-3306
2	青森県立 種差少年自然の家	031-0841	八戸市鮫町字膳並平2-26	0178-38-2131	0178-38-2727
3	むつ市 下北自然の家	039-4401	むつ市大畑町佐助川399	0175-34-6151	0175-34-6152
4	公立小川原湖 青年の家	039-2402	上北郡東北町大浦字道ノ下 104-6	0176-56-2393	0176-56-5042
5	公益財団法人青森県スポーツ協会 岩木青少年スポーツセンター	036-1345	弘前市常盤野字湯段菴1-2	0172-83-2338	0172-83-2732
6	青森市 浪岡細野山の家	038-1322	青森市浪岡大字細野字沢井 37-3	0172-62-3129	同左
7	平内町 勤労青少年ホーム	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字 小湊79-3	017-755-3945	-
8	深浦町 ふれあいと創造の館	038-2202	西津軽郡深浦町大字岩崎字 松原51-7	0173-77-2111	-
9	黒石市 スポーツ交流センター	036-0306	黒石市大字内町24-1	0172-53-1612	-
10	野辺地町 勤労青少年ホーム	039-3112	上北郡野辺地町字中道 20-1	0175-64-9657	-
11	横浜町 烏帽子平自然の家	039-4154	上北郡横浜町字明神平138	0175-78-2084	-
12	大間町 勤労青少年ホーム	039-4601	下北郡大間町大字大間字 大間平41-7	0175-37-4346	-
13	三戸町 勤労青少年ホーム	039-0141	三戸郡三戸町大字川守田字 関根4-1	0179-22-0173	0179-20-1085

2 節 社会教育関係職員の状況

1 社会教育関係職員

(1) 社会教育委員の委嘱状況

令和4年4月1日現在

区 分	定員数 (人)	現 員 数 (人)			委員委嘱数 (人)			
		計	男	女	学校教育 関係者	社会教育 関係者	家庭教育 の向上 に資する 活動 を行う者	学 識 経験者の ある者
県	12	8	5	3	1	4	1	2
市 計 (10)	115	109	70	39	18	50	16	24
町村計 (30)	280	232	141	91	41	89	29	73
合計	407	349	216	133	60	143	46	99

(2) 教育委員会事務局の社会教育関係職員数 (人)

令和4年4月1日現在

区 分	課 長		社会教育主事		派遣社 会教育 主 事	社会教育主事補		社 会 教 育 指 導 員	計
	専任	兼任	専任	兼任		専任	兼任		
県	1	0	20	5	-	0	0	0	26
市 計 (10)	10	2	1	12	0	0	0	1	26
町村計 (30)	4	26	6	18	0	0	0	5	59
合計	15	28	27	35	0	0	0	6	111

2 公 民 館

(1) 公民館職員数（人）

令和4年4月1日現在

区 分		市(10)計	町村(30)計	合 計		
本 館	中央館	館 数	13	25	38	
		館 長	専 任	4	0	4
			兼 任	8	23	31
			非常勤	1	0	1
		主 事	専 任	15	0	15
			兼 任	6	16	22
			非常勤	12	0	12
		その他	専 任	27	15	42
			兼 任	17	55	72
	非常勤		40	18	58	
	地区館	館 数	80	50	130	
		館 長	専 任	1	3	4
			兼 任	3	23	26
			非常勤	76	11	87
		主 事	専 任	1	0	1
兼 任			0	2	2	
非常勤			126	0	126	
その他		専 任	20	6	26	
		兼 任	23	26	49	
	非常勤	34	12	46		
分 館	館 数	51	53	104		
	館 長	専 任	0	15	15	
		兼 任	4	3	7	
		非常勤	47	35	82	
	主 事	専 任	0	0	0	
		兼 任	12	0	12	
		非常勤	0	19	19	
	その他	専 任	0	0	0	
		兼 任	0	0	0	
非常勤		31	13	44		

(2) 公立図書館等職員数の状況

令和4年4月1日現在

No.	施設名	職員数						
		専任	うち 司書	兼任	うち 司書	非常勤 職員	臨時 職員	委託派遣 職員
1	青森県立図書館	23	11			15		
2	青森市民図書館	26	7			3		48
3	弘前市立弘前図書館	5		2		14		23
4	弘前市立岩木図書館							3
5	八戸市立図書館	14	8			199		
6	八戸市図書情報センター							6.8
7	八戸市立南郷図書館							7.6
8	五所川原市立図書館	9	4				1	
9	五所川原市立図書館金木分館(本館を含む)							
10	五所川原市立図書館市浦分館			3				
11	十和田市民図書館	7	2			4.2		1.4
12	三沢市立図書館							12.3
13	むつ市立図書館	7	2			14		
14	むつ市立図書館川内分館			2		1		
15	むつ市立図書館大畑分館			1		4		
16	むつ市立図書館脇野沢分館			2		2		
17	つがる市立図書館							9
18	平川市平賀図書館	4	1	2				
19	平川市尾上図書館	1		1		2		
20	平内町立図書館			1		2		
21	藤崎町図書館大夢							6.4
22	板柳町民図書館			2			1	
23	中泊町図書館			5	1		1	
24	野辺地町立図書館	1	1	2		4		
25	七戸中央図書館	1	1	1		1	1	
26	六戸町立図書館			3				3
27	横浜町民図書館			7			1.8	
28	東北町立図書館	1	1			4		
29	六ヶ所村民図書館							6
30	おいらせ町立図書館							6
31	三戸町立図書館	1		1				4
32	五戸町図書館	2				1.2		3.9
33	田子町立図書館	1	1	5		1		

第5部 体育・スポーツ

第5部 体育・スポーツ

1章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点

1 方針

県民一人一人が、生涯にわたり健やかで活力に満ちた生活を送ることができるよう、学校における体育・健康教育の充実、生涯スポーツ及び競技スポーツの推進に努める。

2 重点

(1) 学校における体育・スポーツの充実

児童生徒が、豊かなスポーツライフの実現を目指し、自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校における体育・スポーツの充実に努める。

ア 教科体育（保健体育）における学習指導の充実

イ 体力の向上を図る指導の充実

ウ 体育（保健体育）担当教員等の研修の充実

エ 運動部活動の充実

(2) 健康教育の充実

児童生徒が、心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育の充実に努める。

ア 学校保健の充実

イ 学校における食育の充実

ウ 学校安全の充実

エ 健康教育担当教員等の研修の充実

(3) スポーツの推進

県民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。

ア 県民のスポーツ参画人口の拡大

イ スポーツを通じた活力ある社会の実現

ウ 本県の競技力向上と次世代アスリートの発掘・育成・強化

(4) 第80回国民スポーツ大会の本県開催に向けた競技力向上の推進

2026年に本県で開催される第80回国民スポーツ大会での天皇杯・皇后杯の獲得に向けた総合的な競技力向上に努める。

2章 体 育

1節 学 校 体 育

1 児童生徒の体格、体力、運動能力

(1) 性別、年齢別体格の県平均値（令和4年度）

区分	年齢	項目	男 子		女 子	
			(参考) R 3 県平均値 県学校保健調査	県平均値 県学校保健調査	(参考) R 3 県平均値 県学校保健調査	県平均値 県学校保健調査
			平均値	平均値	平均値	平均値
小 学 校	6	身長	117.4	117.5	116.7	116.7
		体重	22.5	22.5	22.0	22.1
	7	身長	123.3	123.6	122.6	123.0
		体重	25.4	25.6	24.7	25.0
	8	身長	129.1	129.2	128.9	128.9
		体重	29.2	29.5	28.3	28.6
	9	身長	134.5	134.9	135.4	135.8
		体重	32.7	33.6	32.2	32.7
	10	身長	140.4	140.3	142.3	142.6
		体重	37.1	37.4	36.7	37.3
	11	身長	147.1	147.4	148.5	148.8
		体重	41.7	42.7	41.6	42.2
中 学 校	12	身長	154.7	155.3	152.8	153.0
		体重	47.5	48.2	46.0	46.2
	13	身長	161.7	162.0	155.4	155.5
		体重	52.3	53.3	49.1	49.5
	14	身長	166.4	166.6	157.0	156.8
		体重	56.6	57.6	51.6	51.5
高 等 学 校	15	身長	169.1	169.2	157.4	157.7
		体重	61.3	61.4	52.8	52.6
	16	身長	170.4	170.5	157.9	157.9
		体重	63.5	63.5	53.7	53.4
	17	身長	171.2	171.1	158.1	158.2
		体重	64.8	65.7	53.7	54.0

令和4年度青森県学校保健調査による（主管：県教育庁スポーツ健康課）

(2) 児童生徒の体力

令和4年度本県児童生徒の体力・運動能力

(男 子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値							平均値
小1	6	全国	9.24	12.05	26.39	28.28	/	18.92	11.33	117.03	8.43	31.42	
		県	9.07	11.70	26.03	27.73		19.07	11.86	111.61	7.90	30.11	
小2	7	全国	10.74	13.86	28.61	31.65		28.40	10.55	127.19	11.08	37.97	
		県	10.59	14.41	27.33	31.97		27.89	10.98	123.82	10.83	36.83	
小3	8	全国	12.73	15.73	30.34	34.95		36.45	10.07	136.77	14.74	43.96	
		県	12.56	15.81	29.24	35.10		34.17	10.50	132.57	13.67	42.00	
小4	9	全国	14.39	17.98	31.78	39.43		44.27	9.59	147.73	18.47	49.79	
		県	14.30	17.39	30.69	38.54		40.72	10.10	140.04	16.98	46.97	
小5	10	全国	16.90	19.94	33.37	42.83		52.45	9.24	155.86	21.75	55.27	
		県	16.34	19.16	32.56	42.05		48.79	9.72	149.30	20.34	52.19	
小6	11	全国	19.77	21.65	35.78	45.86		61.16	8.84	166.33	25.43	60.78	
		県	19.71	20.74	34.28	44.83		55.87	9.30	159.59	23.70	57.53	
中1	12	全国	24.53	23.92	40.98	49.69		410.21	70.58	8.38	185.41	18.14	35.62
		県	24.54	22.59	40.80	48.02		460.86	64.20	8.66	179.38	16.62	33.99
中2	13	全国	30.39	27.31	44.80	53.77		389.08	86.88	7.78	203.80	21.09	44.66
		県	30.05	26.17	45.22	51.49		427.45	77.18	8.02	198.76	19.86	42.30
中3	14	全国	34.65	28.96	47.81	56.28		374.31	94.44	7.41	216.35	23.54	50.80
		県	34.62	28.33	48.71	54.75	412.31	83.63	7.57	212.29	22.53	49.21	
高1	15	全国	37.03	28.44	47.94	56.23	385.93	87.61	7.39	219.17	23.82	50.82	
		県	37.38	28.60	48.94	55.29	411.38	80.40	7.51	216.00	23.36	50.08	
高2	16	全国	39.55	30.55	50.27	57.92	362.02	93.75	7.21	225.41	25.44	55.37	
		県	39.68	29.94	50.93	56.85	403.16	84.58	7.30	223.34	24.46	53.77	
高3	17	全国	41.80	31.94	52.56	59.16	364.91	95.97	7.12	229.74	26.73	58.64	
		県	41.30	31.20	52.17	57.82	403.43	86.70	7.26	225.41	25.48	55.83	

(女 子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値							平均値
小1	6	全国	8.71	11.56	28.78	27.39	/	15.75	11.77	108.78	5.70	31.30	
		県	8.57	11.52	28.28	27.22		16.82	12.05	103.96	5.56	30.73	
小2	7	全国	10.18	13.46	31.01	30.74		23.14	10.89	119.28	7.36	38.41	
		県	10.06	14.06	30.20	31.28		23.32	11.18	116.23	7.38	38.05	
小3	8	全国	11.95	15.91	33.91	33.75		29.13	10.32	130.53	9.45	45.33	
		県	11.91	15.60	32.34	34.32		28.90	10.63	125.55	9.23	43.87	
小4	9	全国	13.87	17.64	35.52	37.64		35.60	9.91	141.05	11.61	51.11	
		県	14.04	17.11	34.88	37.84		35.33	10.17	134.47	11.51	49.85	
小5	10	全国	16.49	18.68	37.30	41.00		42.33	9.49	148.36	13.86	56.52	
		県	16.58	18.57	36.96	40.98		42.17	9.83	143.15	13.74	55.24	
小6	11	全国	19.53	19.66	40.71	43.44		47.52	9.16	155.76	15.97	61.59	
		県	19.31	19.32	38.93	43.15		46.66	9.46	150.81	15.48	59.58	
中1	12	全国	21.73	20.50	43.64	45.78		300.80	50.85	8.98	167.23	11.92	45.33
		県	21.26	19.39	43.73	44.83		313.54	48.33	9.21	160.41	10.98	43.01
中2	13	全国	24.19	23.23	46.65	48.31		286.56	60.46	8.66	174.40	13.35	51.76
		県	23.49	21.62	46.63	46.21		313.48	50.64	9.02	165.01	12.15	47.68
中3	14	全国	25.73	24.55	49.00	49.34		287.16	60.91	8.58	178.61	14.44	54.91
		県	24.59	23.29	49.89	47.24	312.60	51.48	8.88	168.72	13.14	51.17	
高1	15	全国	25.88	23.43	48.63	48.40	297.80	52.16	8.76	174.09	14.27	52.53	
		県	25.46	23.12	49.14	47.89	326.10	47.89	8.93	170.41	13.11	50.65	
高2	16	全国	26.78	24.95	50.24	49.56	291.25	56.24	8.71	175.40	14.64	54.92	
		県	26.18	23.34	50.18	48.01	328.68	48.44	8.93	170.07	13.53	51.48	
高3	17	全国	26.99	25.00	50.80	49.29	291.83	53.71	8.73	174.12	15.20	54.97	
		県	26.62	24.24	51.00	47.95	329.46	47.18	8.95	170.89	13.97	52.54	

全国の数値：令和3年度スポーツ庁体力・運動能力調査報告書による（主管：スポーツ庁）

県の数値：令和4年度体格、体力、ライフスタイル調査による（主管：県教育庁スポーツ健康課）

2 体育担当教員の研修

体育担当職員の指導力の向上を図るため、各種講習会、研修会を実施した。

名 称	期 日	場 所	対 象 (人員)	内 容
冬季学校体育実技講習会	1月5日～6日 1月6日 1月5日 1月6日 1月5日 12月26日	東 青 西 北 中 南 上 北 下 北 三 八	小・中・高・特別 支援学校 東青 (89人) 西北 (11人) 中南 (40人) 上北 (14人) 下北 (12人) 三八 (31人)	小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を対象に、スキー・スケートの指導法及び実技の研修を行う。
中学校保健体育担当者育成研修会	10月12日 ※西北・下北・三八管内中学校保健体育担当教員を対象とした	東 青	西北・下北・三八管内中学校保健体育担当教員が対象 ※各校1名受講 西北 (17人) 下北 (10人) 三八 (15人)	本県生徒の体力を向上させ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に資することができるよう、課題の把握及び発達段階を踏まえた体力向上と健康な生活習慣の在り方について実践的な指導法の充実と保健体育担当教員の資質向上を図る。
高等学校保健体育科担当者研修会（オンライン開催）	10月17日	青森市	県立高校 保健体育科教員 (54人) 県立特別支援学校 保健体育科教員 (11人) 私立高校 保健体育科教員 (0人)	高等学校等保健体育担当者に対し、学習指導の工夫・改善及び教員の資質向上を図るための講義・演習を行う。

3 学校体育団体の育成

派遣費の助成

高等学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 771人 7,835,750円

中学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 369人 2,450,000円

2節 学 校 保 健

1 学校保健調査

児童・生徒の疾病・異常被患率を調査し、実態把握に努めた。

令和4年度小・中・高等学校疾病・異常被患率等の県平均値

区 分	計	裸 眼 視 力			難聴 (両耳とも)	眼 疾 患	蛋 白 検 出 の 者	尿 糖 検 出 の 者	菌 ・ 口 腔							結 核	心 臓 の 疾 病 ・ 異 常	心 電 図 異 常		
		1.0 未 満 0.7 以 上	0.7 未 満 0.3 以 上	0.3 未 満					う 菌			菌 列 ・ 咬 合	顎 関 節	歯 垢 の 状 態	歯 肉 の 状 態				そ の 他 の 菌 疾	
									計	処 置 完 了 者	あ る 未 処 置 菌 の 者									
小 学 校	計	46.2	16.2	16.0	14.0	0.6	4.7	1.0	0.1	49.0	22.6	26.4	3.6	0.2	2.1	1.5	9.3	0.0	0.3	1.7
	男女	43.7 48.7	15.9 16.5	15.1 16.9	12.8 15.3	0.5 0.7	4.9 4.5	0.8 1.3	0.1 0.1	50.6 47.2	23.2 22.0	27.5 25.2	3.5 3.7	0.3 0.2	2.4 1.8	1.7 1.4	9.3 9.4	0.0 0.0	0.3 0.2	2.1 1.2
中 学 校	計	61.7	11.1	17.5	33.1	0.3	4.6	2.6	0.2	39.2	22.6	16.6	4.1	0.3	3.8	3.5	4.7	0.0	0.3	2.6
	男女	59.6 64.0	11.4 10.8	18.0 16.8	30.2 36.4	0.2 0.4	4.6 4.6	3.2 1.9	0.1 0.2	37.8 40.6	21.4 23.8	16.3 16.9	4.4 3.8	0.2 0.3	4.9 2.7	4.6 2.4	5.0 4.3	0.0 0.0	0.3 0.3	2.9 2.3
高 等 学 校	計	62.1	10.9	16.2	35.0	1.2	4.1	2.2	0.4	47.2	28.6	18.6	3.5	0.4	4.0	4.6	2.5	0.0	0.5	2.0
	男女	61.7 62.5	11.3 10.3	17.2 15.1	33.3 37.1	1.5 1.0	4.6 3.5	2.3 2.1	0.4 0.3	45.6 48.8	25.7 31.6	19.9 17.2	3.4 3.7	0.3 0.5	5.3 2.5	5.8 3.3	3.0 1.9	0.0 0.0	0.5 0.5	2.5 1.6

区 分	計	栄 養 状 態	脊 柱 ・ 胸 郭 ・ 四 肢	皮膚疾患		耳鼻咽喉			その他の疾病・異常					結核に 関する 精密 検査の 対象者	永久歯の一人当たり平均う歯等数					
				ア皮 ト ビ 膚 性 炎	そ 皮 の 膚 他 疾 患	耳 疾 患	鼻 疾 ・ 副 鼻 腔 患	口 腔 患 咽 ・ 喉 異 糖 常	ぜ ん 息	腎 臓 疾 患	言 語 障 害	そ 疾 病 ・ 他 異 常	結 核 の 精 密 者		検 査 の 対 象 者	計 (本)	喪 失 歯 数 (本)	う 菌		
																		計 (本)	処 置 歯 (本)	未 処 置 歯 (本)
小 学 校	計	3.7	2.0	1.0	0.4	5.2	16.4	0.7	0.9	0.1	0.2	1.9	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.1		
	男女	4.4 3.0	2.0 2.0	1.2 0.9	0.5 0.4	5.6 4.9	20.2 12.4	0.8 0.6	1.1 0.7	0.1 0.1	0.4 0.1	2.2 1.6	0.0 0.0	0.3 0.4	0.0 0.0	0.3 0.4	0.2 0.2	0.1 0.2		
中 学 校	計	2.4	3.6	0.8	0.4	3.7	15.6	0.3	0.7	0.1	0.1	2.2	0.0	1.2	0.0	1.2	0.8	0.4		
	男女	2.9 1.8	3.4 3.9	0.9 0.8	0.4 0.4	4.4 3.0	17.8 13.3	0.3 0.3	0.8 0.6	0.1 0.1	0.1 0.1	2.5 2.0	0.0 0.0	1.1 1.3	0.0 0.0	1.1 1.3	0.7 0.8	0.4 0.4		
高 等 学 校	計	0.2	1.2	1.1	0.2	2.7	14.8	0.1	0.7	0.1	0.1	3.1		2.0	0.0	1.9	1.4	0.5		
	男女	0.3 0.1	0.7 1.6	1.2 0.9	0.2 0.3	3.5 2.0	16.8 12.9	0.1 0.1	0.7 0.7	0.1 0.1	0.1 0.0	2.8 3.4		1.9 2.1	0.0 0.1	1.8 2.0	1.2 1.6	0.6 0.4		

令和4年度青森県学校保健調査による (単位:%) (注)

小数点以下第2位を四捨五入

2 研修会等開催

学校保健指導者の資質の向上を図るため、各種講習会を開催した。

- (1) 令和4年度新規採用養護教諭研修
赴任時 令和4年4月1日(金)
※新型コロナウイルス感染症の影響により各所属で実施
校外研修 会場 県総合学校教育センター
Ⅰ期 令和4年5月25日(水)～5月27日(金) 参加者10人
Ⅱ期 令和4年7月28日(木)～7月29日(金) 参加者10人
Ⅲ期 令和4年12月20日(火)～12月22日(木) 参加者10人
- (2) 養護教諭中堅教諭等資質向上前期・後期研修
校外研修 会場 県総合学校教育センター
Ⅰ期 令和4年6月23日(木)～6月24日(金) 参加者36人
Ⅱ期 令和4年11月24日(木)～11月25日(金) 参加者37人
- (3) 健康教育指導者研修会
Zoomによるオンライン研修
令和5年1月18日(水) 参加者20人
受講対象 小学校の教職員
市町村教育委員会の健康教育を担当する指導主事等の職員
- (4) 性に関するセミナー
Zoomによるオンライン開催
令和4年8月2日(火) 参加者105名
受講対象者 小・中・高等学校及び特別支援学校の教職員並びに学校医及び地域保健関係者等
- (5) 養護教諭研修講座
期 日 令和4年9月8日(木)
会 場 県総合学校教育センター
参加者 10人(うち聴講2人)
- (6) 健康教育実践研究校連絡協議会
※新型コロナウイルス感染症の影響により書面にて開催
- (7) 性に関する教育指導者研修会
期 日 令和4年12月9日(金)
会 場 県総合学校教育センター
参加者 32人
- (8) 子どもの健康に関する研修会
期 日 令和4年11月15日(火)
会 場 県総合社会教育センター
参加者 65人

- (9) 養護教諭フォローアップ（2年次）研修講座
期 日 令和4年10月31日（月）
会 場 県総合学校教育センター
参加者 26人

3節 学 校 安 全

1 交通安全プロモーション事業

交通安全推進地区指定
推進機関 鶴田町（鶴田小地区）
対象学校 鶴田町立鶴田小学校

2 研 修 会 等

- (1) 学校防災リーダー養成研修会（東青・中南）
期 日 （東青）令和4年7月12日（火）
（中南）令和4年7月13日（水）
会 場 （東青・中南ともに）青森県総合学校教育センター
対 象 東青及び中南管内の公立・私立学校の管理職
東青及び中南管内の教育委員会の学校安全担当者
参 加 者 （東青）65名 （中南）59名

- (2) 学校安全指導者研修会（交通安全・生活安全・災害安全）

【交通安全】

期 日 令和4年9月7日（水）
会 場 青森県総合学校教育センター
対 象 小学校の教職員
市町村教育委員会の学校安全担当者
参 加 者 71名

【災害安全】

期 日 令和4年10月6日（木）
会 場 青森県総合学校教育センター
対 象 高等学校及び特別支援学校の教職員（公立・私立）
市町村教育委員会の学校安全担当者
参 加 者 91名

【生活安全】

期 日 令和4年10月27日（木）
会 場 青森県総合学校教育センター
対 象 中学校の教職員（公立・私立）
市町村教育委員会の学校安全担当者
参 加 者 74名

4節 学校における食育・学校給食

1 学校給食実施状況

(4.5.1 現在)

区 分	児 童 生 徒 数 比			
	小 学 校		中 学 校	
総 数	53,152		27,793	
完全給食	52,712	99.2%	26,802	96.5%
補食給食	121	0.2%	57	0.2%
ミルク給食	291	0.5%	759	2.7%
合 計	53,124	99.9%	27,618	99.4%

※食物アレルギー等により、給食を実施していない児童生徒を除く。

2 研 修 会 等

(1) 新規採用学校栄養職員研修

I 期 期 日 令和4年5月12日(木)～令和4年5月13日(金)

II 期 期 日 令和4年6月2日(木)～令和4年6月3日(金)

III 期 期 日 令和4年7月28日(木)～令和4年7月29日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 2人

(2) 栄養教諭・学校栄養職員中堅教諭等資質向上前期・後期研修

I 期 期 日 令和4年6月23日(木)～令和4年6月24日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 3人(後期3人)

II 期 期 日 令和4年10月3日(月)～令和4年10月4日(火)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 3人(後期3人)

(3) 食育研修講座

期 日 令和4年8月15日(月)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 6人

(4) 学校給食レシピコンテスト学校栄養職員研修講座

第1次審査 令和4年10月24日(月) 学校給食会 626通応募

第2次審査 令和4年11月25日(金) 学校給食会

【小学校の部】 136通応募 最優秀賞1 優秀賞2

【中学校の部】 483通応募 最優秀賞1 優秀賞4

【特別支援学校の部】 7通応募 最優秀賞1 優秀賞2

- (5) 学校給食の衛生管理等に関する調査研究
令和4年10月21日（金） 板柳町立板柳北小学校
令和4年10月28日（金） 田舎館村学校給食センター
令和4年11月4日（金） 五戸町立学校給食センター
令和4年11月18日（金） 県立八戸第一養護学校
- (6) 衛生管理研修会兼学校給食調理従事員衛生管理講習会
期 日 令和4年8月2日（火）
会 場 県総合社会教育センター
参加者 111人

3章 スポーツ

1節 スポーツ活動の拡充

スポーツは、人々の「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会の形成に寄与するものであり、県民が生涯の各時期にわたって、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができるよう諸条件の整備を図ることが求められている。

このため、県民の生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、「スポーツに親しむ環境づくり」と「競技力を向上させる環境づくり」の両面からの諸施策を実施してきた。

1 地域におけるスポーツ活動の推進

- (1) 青森県民スポーツ・レクリエーション祭を開催した。
 第15回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 7,528千円
 ※青森県民駅伝競走大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止
- (2) 各種大会の開催に要する経費の一部を下記のとおり助成した。
 その他県内開催の各種大会（19大会） 3,850千円
 ※市町村対抗青森県民体育大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

2 スポーツ指導者

- (1) スポーツ推進委員
 スポーツ推進委員は、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整、スポーツの実技指導及びスポーツに関する指導助言を行うことを主な職務としている。
 各市町村におかれているスポーツ推進委員は、令和5年3月現在540人（男性376人、女性164人）である。
- (2) 指導者養成事業
 県民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者の確保と資質向上のため、令和3年度は次の養成事業を行った。

名 称	期 日	場 所	対象（人員）	内 容
青森県スポーツ推進委員中央研修会兼実技研修会	11月23日	青森市	県内のスポーツ推進委員、市町村生涯スポーツ担当者等 (106人)	県内のスポーツ推進委員等を対象に、生涯スポーツに関する講演及び実技研修を通して、県内のスポーツ推進委員の地域スポーツコーディネーターとしての資質向上を図る研修会を開催する。
スポーツ推進委員地区研修会	10月1日 6月22日 6月26日	東 青 西 北 中 南	スポーツ推進委員、地域関係団体指導者 (14人) (35人) (41人)	市町村におけるスポーツ指導者の資質の向上を図るため、地域スポーツに関する諸問題についての研究協議及び実技研修を開催する。

名 称	期 日	場 所	対象（人員）	内 容
	6月25日 6月25日 5月7日	上 北 下 北 三 八	(24人) (17人) (44人)	
スーパーバイザー配置事業 (青森県競技力向上対策本部事業)	各競技団体が設定した期日・場所		国体正式競技41団体（活用競技団体数25競技）	各競技団体の指導体制の充実・競技力の向上を図るため、競技団体が全国的に優秀な指導者及び審判員等を定期的に招聘し、より高度な技術や試合時の戦術、育成計画及び成年種別における有力選手の獲得等について継続的に指導・助言を受けるための講習会等の開催を支援する。
有望指導者研修派遣事業（青森県競技力向上対策本部事業）	(公財)日本スポーツ協会、中央競技団体等が設定した期日・場所		国体正式競技41団体（活用競技団体数23競技）	将来、各競技団体の核となって活躍することが見込まれる有望指導者の資質向上や、中央競技団体と指導者の関係性の構築のため、(公財)青森県スポーツ協会を介して、(公財)日本スポーツ協会や中央競技団体が実施する各種研修会への参加を支援（参加に要する経費を補助）する。
トップレベルコーチ招聘事業 (青森県競技力向上対策本部事業)	各競技団体が設定した期日・場所		国体正式競技41団体（活用競技団体数27競技）	各競技団体における指導体制の基盤整備のため、競技団体が全国的に優秀な指導者を招聘し、各競技団体における選手の育成や指導方法について助言を受けるための講習会等の開催を支援する。
公認指導者（コーチ）資格の取得支援事業 (青森県競技力向上対策本部事業)	(公財)日本スポーツ協会が設定した期日・場所		国体正式競技41団体（活用競技団体数15競技）	(公財)日本スポーツ協会・中央競技団体が示す国体監督基準に基づき、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格の取得を促進するため、(公財)青森県スポーツ協会を介して、資格取得を支援(取得に要する経費を補助)する。

3 スポーツ情報

県民のスポーツに対する興味や関心を高めるため、本県選手の活躍等をデータベース化して今後のスポーツ振興に役立てるための資料を作成するとともに、現在、県が実施している各種大会、イベント、県営施設の紹介を、ホームページに掲載しインターネットを通じて情報提供を行った。

4 第80回国民スポーツ大会に向けた競技力向上

令和8（2026）年の第80回国民スポーツ大会の開催に向け、本県の競技力向上を総合的かつ計画的に図るため、青森県競技力向上対策本部において各種取組を行った。

年 月 日	内 容
令和4年	
5月23日	第9回本部委員会を開催
6月30日	第12回強化対策委員会を開催
8月31日	第13回部会（ワーキンググループ）を開催
9月9日～10月9日	栃木国体視察
9月12日	第11回医・科学ネットワーク専門委員会を開催
9月13日	第10回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
10月20日	第13回強化対策委員会を開催（書面開催）
令和5年	
1月13日	第14回部会（ワーキンググループ）を開催
1月23日	第11回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
1月28日～2月5日	八戸国体視察（スケート・アイスホッケー競技）
1月30日	第12回医・科学ネットワーク専門委員会を開催
1月31日	先催県視察（三重県）
2月9日	先催県視察（鹿児島県）
2月16日	第14回強化対策委員会を開催
2月17日～2月20日	岩手国体視察（スキー競技）
3月24日	第10回本部委員会を開催

2 節 スポーツ団体

1 公益財団法人青森県スポーツ協会

県内各競技団体及び市町村体育・スポーツ協会を統括し、「県民スポーツ振興事業」、「競技力向上事業」等を行っている公益財団法人青森県スポーツ協会に対し、下記のとおり運営費等の助成を行った。

・青森県スポーツ協会運営費等補助	30,072千円
・国民体育大会等派遣費補助	59,277千円
・競技力向上事業費補助	98,090千円
・スポーツ振興事業費補助	18,000千円
・スポーツ科学センター運営管理費	75,950千円
・コーチスキルアップ事業費補助	23,009千円

2 スポーツ少年団

スポーツ少年団は、スポーツを通じて心身の健全な青少年を育成するため、昭和38年に組織され現在に至っているが、令和4年度における登録状況は下記のとおりである。

令和4年度スポーツ少年団登録状況

設置市町村数	39市町村
登録団体数	394団体
登録団員数	8,536人
指導者数	2,192人

3節 体育・スポーツ施設

1 公共的スポーツ施設

(1) 設置者別施設

県内の公共的スポーツ施設の総数は、779箇所であり、その内訳は次のとおりである。

県営施設	4箇所	42施設
市町村立等施設	40市町村	737施設

県営施設については、「新総合運動公園(マエダアリーナ(総合体育館)、カクヒログループアスレチックスタジアム(陸上競技場)等)」、「県総合運動公園」、「盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)」、「青森県武道館」の4箇所に設置されている。

市町村立等施設とは、市町村立の施設又は旧雇用促進事業団・B&G財団・健康保険組合等の民間団体が設置し、地方公共団体が管理運営をしている施設を含むものである。

(2) 施設種別ごとの施設数

県内の公共スポーツ施設を施設種別ごとに比較したのが表1である。

(表1の施設数は、文部科学省の「体育・スポーツ施設現況調査」(おおむね6年に一度実施)によるもので、令和3年10月1日現在の数である。この調査における公共スポーツ施設とは、公立社会教育施設等に付帯するスポーツ施設及び「社会教育調査」(おおむね3年に一度実施)における社会体育施設を合わせたものである。)

(表1)

施設種別ごとの公共スポーツ施設数

令和3年10月1日現在

No.	種 別	公 共 ス ポ ー ツ 施 設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
1	陸上競技場	30	3	27
2	野球場・ソフトボール場	81	9	72
3	球技場	18	1	17
4	多目的運動場	80	9	71
5	水泳プール（屋内）	27	4	23
6	水泳プール（屋外）	34	4	30
7	レジャープール	7	0	7
8	ダイビングプール	0	0	0
9	体育館	130	28	102
10	柔道場	12	2	10
11	剣道場	7	1	6
12	柔剣道場（武道場）	16	4	12
13	空手・合気道場	0	0	0
14	バレーボール場（屋外）	0	0	0
15	庭球場（屋外）	70	7	63
16	庭球場（屋内）	0	0	0
17	バスケットボール場（屋外）	4	0	4
18	すもう場（屋外）	14	1	13
19	すもう場（屋内）	9	1	8
20	卓球場	2	0	2
21	弓道場	10	0	10
22	アーチェリー場	3	0	3
23	馬場	0	0	0
24	アイススケート場（屋内）	5	0	5
25	アイススケート場（屋外）	1	0	1
26	ローラスケート・インラインスケート場（屋外）	2	0	2
27	ローラスケート・インラインスケート場（屋内）	2	0	2
28	山の家	0	0	0
29	トレーニング場	39	4	35
30	レスリング場	3	0	3
31	ボクシング場	0	0	0

No.	種 別	公 共 ス ポ ー ツ 施 設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
32	ダンス場	0	0	0
33	射撃場	2	1	1
34	ゴルフ場	5	0	5
35	ゴルフ練習場	0	0	0
36	ボウリング場	0	0	0
37	漕艇場	0	0	0
38	ゲートボール・クローケー場	40	2	38
39	スカッシュ・ラケットボール場	0	0	0
40	ヨット場	1	0	1
41	スキー・スノーボード場	17	0	17
42	キャンプ場	43	0	43
43	ハイキングコース	4	0	4
44	サイクリングコース	0	0	0
45	オリエンテーリングコース	0	0	0
46	ランニングコース	2	0	2
47	冒険遊具コース	2	0	2
48	海の家・海水浴場等の施設	19	0	19
49	河川・湖沼等の遊泳場	5	0	5
50	スカイスポーツ施設	0	0	0
51	体操競技場	0	0	0
52	その他	33	1	32
	計	779	82	697

第6部 文 化

第6部 文 化

1章 文化財保護行政の方針と重点

1 方 針

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある県民生活を実現するため、次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用に努める。

2 重 点

(1) 文化財の保護・保存

かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。

ア 文化財を大切にし、守り伝えようとする意識の啓発

イ 文化財の調査や記録作成の実施

ウ 国や県の文化財指定等の推進

エ 文化財の保存・修理等の支援

オ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を未来に継承する取組の推進

(2) 文化財の公開・活用

県民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。

ア 文化財の公開・活用の促進と情報発信

イ 史跡等の公有化や整備の支援

(3) 伝統芸能・技術の継承

地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。

ア 伝統芸能・技術の後継者の育成支援と発表機会の充実

イ こどもの伝統芸能伝承活動の推進

(4) 博物館等施設の機能の充実

県民が文化財に触れ、体験・体感できる機会の充実と情報発信に努める。

ア 県立郷土館の展示・教育普及・調査研究活動の充実と情報発信

イ 三内丸山遺跡センターの遺跡及び遺跡の出土品の保存、遺跡に関する調査研究・展示・教育普及活動の充実と情報発信

ウ 埋蔵文化財調査センターの発掘調査・研究活動と収蔵機能の充実及び情報発信

2章 文 化 財

1 節 文化財の指定等

1 文化財の指定等状況

令和4年度に指定された文化財は次のとおりである。

(1) 国指定等

① 重要文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
建造物	尻屋埼灯台	下北郡東通村大字尻屋字尻屋崎1番1	令和4年12月12日	国(海上保安庁)

※尻屋埼灯台は登録有形文化財から抹消

② 登録有形文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	登録年月日	所 有 者
建造物	旧増川営林署庁舎 (展示館しょうわ)	青森市浪岡大字女鹿沢字野尻14-134	令和4年10月31日	個人

(2) 県指定

① 県重宝

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
建造物	五林神社五輪塔	北津軽郡中泊町中里字亀山781	令和4年4月13日	五林神社氏子 総代長
建造物	乳井神社五輪塔	弘前市乳井字外ノ沢66	令和4年4月13日	宗教法人 乳井神社
考古資料	浜尻屋貝塚出土骨角器類	下北郡東通村大字田屋字家ノ上29-2 (東通村歴史民俗資料館)	令和4年4月13日	東通村

② 県無形民俗文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
	津軽の七日堂祭	弘前市百沢 岩木山神社 弘前市鬼沢 鬼神社 平川市猿賀 猿賀神社	令和4年4月13日	岩木山神社百沢 町会氏子 鬼神社氏子総代 猿賀神社猿賀町 会氏子

2 審議会の開催状況

(1) 県文化財保護審議会

令和4年度は3回開催した。指定等案件4件の審議等を行った。

(2) 銃砲刀剣類登録審査会

令和4年度は4回開催した。その結果、新たに62件の銃砲刀剣類を登録した。

国・県・市町村指定文化財件数

[指定]

(R5.3.31現在)

の文 種化 類財	国指定	県指定	市町村指定			
有形 文化 財	○国宝	3				
	[内訳]工芸品	2				
	考古資料	1				
	○重要文化財	56	○県重宝	160		
	[内訳]建築物	34	[内訳]建築物	46		
	絵画	0	絵画	7		
	彫刻	2	彫刻	31		
	工芸	7	工芸	30		
	書跡	0	書跡	3		
	考古資料	13	考古資料	31		
歴史資料(史料)	0	歴史資料(史料)	12			
計	59	計	160	計	612	
文無 化財 形	○重要無形文化財	1				
	[内訳]工芸技術	1	○県技芸	2	計	5
	計	1				
文民 化財 俗	○重要有形民俗文化財	8	○県有形民俗文化財	12	有形の民俗文化財	63
	○重要無形民俗文化財	8	○県無形民俗文化財	56	無形の民俗文化財	159
	計	16	計	68	計	222
記 念 物	○特別史跡	1				
	○史跡	22				
	○特別名勝及び天然記念物	1	○県史跡	20	史跡	92
	○名勝及び天然記念物	1	○県名勝	1	名勝	10
	○名勝	8	○県天然記念物	40	天然記念物	170
	○特別天然記念物	2				
	○天然記念物	16				
計	51	計	61	計	272	
	合計	127	合計	291	合計	1,111

[国の選定、登録等]

選定	重要伝統的建造物群 保存地区	2
	選定保存技術	1
登録	登録有形文化財	101
	登録有形民俗文化財	1
	登録記念物	4
記録 選択	記録作成等の措置を講ずべき 無形文化財	1
	記録作成等の措置を講ずべき 無形の民俗文化財	15
重要 美術品	書跡	4
	考古資料	1

国の指定、選定等の総計 257

2節 文化財の調査

1 文化財パトロール

県内に所在する国指定の重要文化財、重要有形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物及び重要な埋蔵文化財包蔵地の保存・管理等の実態を把握し、適切な処置及び指導助言を行うため、文化財保護指導員77名を委嘱して、県内40市町村のパトロールを実施した。

2 記念物の調査

特別天然記念物カモシカの保護のため、下北半島保護地域の通常調査及び北奥羽山系保護地域の通常調査を実施した。

3 埋蔵文化財の調査

(1) 遺跡分布・範囲確認調査

[目的]

開発予定地域で遺跡の所在・性格・範囲を確認し、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整を有効に行うための資料を得る。

[調査年度]

昭和63年度から実施

[対象事業及び地区]

・遺跡分布調査

- ① 県道建設関連事業（青森市、つがる市、平川市、平内町）
- ② 高規格道路建設関連事業（横浜町）
- ③ 農業整備関連事業（弘前市、五所川原市、つがる市、平川市、むつ市、鱒ヶ沢町、鶴

田町、中泊町、五戸町、三戸町、田子町、風間浦村)

- ④ 国道建設関連事業 (南部町)
- ⑤ 河川砂防関連事業 (深浦町、中泊町)
- ⑥ その他

・ 範囲確認調査

- ① 核融合中性子源 (A-FNS) 施設建設事業予定地 (六ヶ所村弥栄平(1)遺跡及び隣接地)
- ② 三戸地区中山間地域総合整備事業予定地 (三戸町梅内館跡隣接地)
- ③ 八戸環状線道路建設事業予定地 (天久岱工区) 予定地 (八戸市毛合清水(3)遺跡)
- ④ 国道279号道路改良 (下北縦貫道) 事業 (横浜南工区) 予定地 (横浜町吹越(2)遺跡隣接地)
- ⑤ 名久井岳公園線道路改良事業予定地 (南部町法光寺平遺跡隣接地)
- ⑥ 八戸階上線交通安全対策事業予定地 (八戸市中道遺跡及び隣接地)
- ⑦ 宮野沢浦島地区農地中間管理機構関連農地整備事業予定地 (中泊町蛭沢遺跡及び隣接地)
- ⑧ 国道280号道路改築事業予定地 (外ヶ浜町中師苗代沢遺跡隣接地)
- ⑨ 内童子渡沢外通常砂防事業予定地 (平内町大栗山遺跡及び隣接地)

[事業内容]

- ① 遺跡の所在地の確認、現状を把握する。
- ② 遺物の散布状況の確認及び遺跡の範囲を把握する。
- ③ 遺構数、遺物出土量、遺物包含層等を確認し、調査費用の基礎資料を得る。

[成果]

調査の結果、新たに2箇所を登録し、9箇所の遺跡の範囲を変更した。また、範囲確認調査の結果、上記①、⑨は発掘調査が必要と判断した。

(2) 重要遺跡の調査

青森県内の窪地として確認できる堅穴が存在する遺跡及び中世城館の適切な保護のため、市町村と連携して資料調査、分布調査等を行い、窪地として確認できる堅穴が存在する遺跡については報告書を刊行した。

(3) 刊行物

- ① 青森県遺跡詳細分布調査報告書35 (青森県埋蔵文化財調査報告書第639集)

3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等

1 民俗芸能大会

北海道・東北地区の民俗芸能を一堂に集め広く一般に公開し、その保存伝承を図るため、各道県持ち回りで開催される北海道・東北ブロック民俗芸能大会を青森県で開催した。

日 程 令和4年10月16日
場 所 三沢市公会堂
出演団体 岡三沢神楽保存会（三沢市）
（青森県） 栗山太神楽保存会（むつ市）

2 こども民俗芸能大会

先人から受け継いだ貴重な文化遺産である民俗芸能の保存・継承を図るため、学校や地域における活動成果の発表会を開催し、後継者の育成や郷土愛の醸成を推進するとともに、子どもの健全育成に努めた。

日 程 令和4年10月2日
場 所 五所川原市ふるさと交流圏民センター（オルテンシア）

3 埋蔵文化財担当者等研修会

埋蔵文化財保護行政の一層の推進を図るため、市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者、市町村文化財保護審議会委員等を対象に研修会を実施した。

期 日 令和4年8月31日、12月15日
会 場 鉢森平(7)遺跡（七戸町）、青森県総合社会教育センター（青森市）

4 文化財保護団体への助成

(1) 青森県文化財保護協会

文化財の保存と活用を図るため、青森県文化財保護協会の行う歴史的文献資料の刊行に対し助成した。

刊行資料名 みちのく双書第66集
「野辺地町立歴史民俗資料館所蔵 西村金之丞家関係文書資料」
補助金額 450千円

5 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業

小学生が、縄文遺跡をはじめとする地域の文化財に直接触れ、体験する取組を通じて、縄文文化や地域の文化財に関する理解を深めると共に郷土愛の醸成を図り、将来的に文化財の保存・活用に携わる人財の育成を図った。

○ 地域の文化財に関する講座等の開催

地区	学校名	テーマ	実施内容
西北	つがる市立森田小学校	学校の周辺の文化財	開催日：6月～10月 内 容：三内丸山遺跡、小牧野遺跡、亀ヶ岡遺跡、弘前城、最勝院五重塔、石場家住宅等の見学及び各種体験（勾玉づくり、ミニチュア土器づくり等） 外部講師を招いた石斧による巨大丸木舟制作体験 参加者：4～6年児童62名、教員8名 協 力：つがる市教育委員会、弘前市教育委員会
下北	むつ市立大湊小学校	旧大湊水源地水道施設	開催日：4～10月 内 容：旧大湊水源地水道施設に関する現地学習及び下北ジオパーク内の文化財見学 参加者：5・6年児童34名、教員5名 協 力：むつ市教育委員会、北の防人大湊ガイドグループ、海上自衛隊大湊地方総監部、下北ジオパークガイド、むつ市海と森ふれあい体験館
三八	階上町立道仏小学校	道仏神楽	開催日：5～2月 内 容：道仏神楽の伝承 道仏神楽組による神楽の実演及び児童への指導、高学年児童による低学年児童の指導、階上町民文化祭出演 参加者：1～6児童95名、教員11名 協 力：階上町教育委員会、道仏神楽組

○ 授業での学習・体験、発表

地区	学校名	テーマ	実施内容
東青	外ヶ浜町立三厩小学校	大平山元遺跡	<p>教科：総合的な学習 地教委の協力により大平山元遺跡を中心に学習し、ぬい撮りの手法を活用して大平山元遺跡を紹介するスライドを作成し、学習成果を交えて遺跡の魅力を紹介した。</p> <p>※ぬい撮り：ぬいぐるみを自分に置き換えて写り込ませ様々な場所で写真撮影すること。</p> <p>参加者：4・6年児童8名、教員3名 協力：外ヶ浜町教育委員会 青森大学ぬい撮り倶楽部</p>
中南	弘前市立西小学校	大森勝山遺跡をはじめとした市内の文化財	<p>教科：総合的な学習 大森勝山遺跡を始めとした弘前市にある文化財や、県埋蔵文化財調査センターにおける遺物の整理作業について実地調査して理解を深め、クロームブックを活用して文化財の魅力発信のアイデアをまとめ、発表を行った。</p> <p>参加者：6年児童25名、教員3名 協力：弘前市教育委員会、弘前大学 連携：県埋蔵文化財調査センター</p>
上北	七戸町立天間林小学校	二ツ森貝塚	<p>教科：総合的な学習 二ツ森貝塚に関する学習のほか、県埋蔵文化財調査センターが発掘調査している鉢森平(7)遺跡において発掘体験を実施。地区の授業研究の場で発表を行ったほか、従前より交流のある福岡県久留米市の小学校と、お互いの地域の文化財について学習した内容等を、オンラインで発表し合った。</p> <p>参加者：6年児童51名、教員4名 協力：七戸町教育委員会 連携：県埋蔵文化財調査センター</p>

4 節 文化財の修理・環境整備等

1 修理・環境整備等に対する助成

文化財の修理・環境整備等を行う事業者に対し、次のとおり助成した。

(1) 無形民俗文化財等保護費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交 付 先	補助金額	補助率
八戸三社大祭の山車行事山車人形衣装修復事業	八戸三社大祭山車祭り行事保存会	273	8%
大沢獅子（熊）踊用具新調事業	大沢獅子舞保存会	132	50%
大間の山車行事用具新調事業	大間の山車行事保存会	115	50%
奥戸の山車行事用具新調事業	奥戸地区山車行事保存会	67	50%

(2) 文化財修理費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交 付 先	補助金額	補助率
誓願寺山門保存修理事業	宗教法人誓願寺	776	4%

(3) 記念物環境整備費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交 付 先	補助金額	補助率
名勝對馬氏庭園保存修理事業	個人	664	6%

(4) 文化財防災費補助 (単位：千円)

補助対象事業名	交 付 先	補助金額	補助率
木村産業研究所防災設備事業	一般財団法人木村産業研究所	438	6%
櫛引八幡宮危険木伐採事業	宗教法人櫛引八幡宮	272	8%

3章 博物館等

1 県内博物館等施設一覧

(5.3.31現在)

区分	名称	所在地	電話	備考	
登録博物館	青森県立郷土館	〒030-0802 青森市本町2丁目8-14	017-777-1585	昭和48年開館	
	弘前市立博物館	〒036-8356 弘前市下白銀町1-6(弘前公園内)	0172-35-0700	昭和52年開館	
	高岡の森弘前藩歴史館	〒036-1344 弘前市大字高岡字獅子沢128-112	0172-83-3110	平成30年開館	
	八戸市博物館	〒039-1166 八戸市根城字東構35-1	0178-44-8111	昭和58年開館	
博物館相当施設	青森県立美術館	〒038-0021 青森市安田字近野185	017-783-3000	平成18年開館	
	弘前れんが倉庫美術館	〒036-8188 弘前市吉野町2-1	0172-32-8950	令和2年開館	
	八戸市美術館	〒031-0031 八戸市番町10-4	0178-45-8338	平成23年開館	
博物館類 似施設	歴史系	青森市中世の館	〒038-1311 青森市浪岡大字浪岡字岡田43	0172-62-1020	平成4年開館
		あおり北のまほろば歴史館	〒038-0002 青森市沖館2丁目2-1	017-763-5519	平成27年開館
		八甲田山雪中行軍遭難資料館	〒030-0943 青森市幸畑阿部野163-4	017-728-7063	昭和53年開館
		弘前城情報館	〒036-8356 弘前市下白銀町1-1(弘前公園内)	0172-26-5965	平成30年開館
		山車展示館	〒036-8356 弘前市下白銀町2-1(追手門広場内)	0172-37-5501	平成6年開館
		津軽藩ねぶた村	〒036-8332 弘前市大字亀甲町61	0172-39-1511	昭和56年開館
		八戸市立民俗資料収蔵庫(漁撈用具関係)	〒031-0841 八戸市鮫町字大作平	0178-44-8111	(八戸市博物館)昭和52年開館
		八戸市南郷歴史民俗資料館	〒031-0202 八戸市南郷区大字鳥守字小山田7-1	0178-83-2443	昭和55年開館
		五所川原市市浦歴史民俗資料館	〒037-0403 五所川原市十三土佐1-298(中の島公園内)	0173-62-2775	平成元年開館
		十和田市郷土館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字中平61番地8	0176-72-2340	昭和47年開館
		十和田市称徳館	〒034-0106 十和田市深持字梅山1-1	0176-26-2100	平成12年開館
		十和田市十和田湖民俗資料館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字栃久保80	0176-74-2547	昭和53年開館
		三沢市歴史民俗資料館	〒033-0022 三沢市三沢字淋代平116-2955	0176-59-3670	昭和57年開館
		三沢市先人記念館	〒033-0164 三沢市谷地頭4-298-652	0176-59-3009	平成7年開館
		北洋館	〒035-0093 むつ市大湊町4-1	0175-24-1111(内線2573)	昭和56年開館
つがる市森田歴史民俗資料館	〒038-2816 つがる市森田町森田月見野340-2	0173-26-2201	昭和50年開館		

区分	名称	所在地	電話	備考
博物館類 似施設	平川市郷土資料館	〒036-0102 平川市光城2丁目30-1	0172-44-1221	平成6年開館
	平内町歴史民俗資料館	〒039-3321 東津軽郡平内町小湊字小湊79-3	017-755-3945	昭和54年開館
	蓬田村文化伝承館	〒030-1201 東津軽郡蓬田村大字広瀬字坂元24番地	0174-31-3111 (村教育委員会)	平成14年開館
	大山ふるさと資料館	〒030-1307 東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平沢辺34-3	0174-22-2577	平成13年開館
	鱒ヶ沢町郷土文化保存伝習館 光信公の館	〒038-2725 西津軽郡鱒ヶ沢町種里字大柳90	0173-79-2535	平成2年開館
	深浦町歴史民俗資料館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字苗代沢80-1	0173-74-3882	昭和55年開館
	風待ち館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町272-1	0173-74-3553	平成17年開館
	円覚寺奉納海上信仰 資料収蔵庫(寺宝館)	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町275-2	0173-74-2029	昭和62年開館
	板柳町立郷土資料館	〒038-3672 北津軽郡板柳町大字灰沼字岩井70	0172-72-0330	昭和48年開館
	中泊町博物館	〒037-0305 北津軽郡中泊町大字中里紅葉坂210	0173-69-1111	平成10年開館
	野辺地町立歴史民俗資料館	〒039-3131 上北郡野辺地町字野辺地1-3	0175-64-9494	昭和56年開館
	絵馬館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館
	六戸町郷土資料館	〒039-2371 上北郡六戸町犬落瀬字柴山3-9	0176-55-5511	昭和56年開館
	東北町歴史民俗資料館	〒039-2401 上北郡東北町上野字上野191-30	0176-56-5598	平成5年開館
	六ヶ所村立郷土館	〒039-3212 上北郡六ヶ所村大字尾駱字野附535	0175-72-2306	平成3年開館
	おいらせ町民具ふれあい館	〒039-2136 上北郡おいらせ町中下田125-2	0178-56-4276	平成13年開館
	東通村歴史民俗資料館	〒035-0005 下北郡東通村大字田屋字家ノ上29番地2	0175-27-2111 (村教育委員会)	平成25年開館
	佐井村海峽ミュージアム	〒039-4711 下北郡佐井村字大佐井112	0175-38-4506	平成2年開館
	三戸町立歴史民俗資料館	〒039-0112 三戸郡三戸町梅内字城ノ下34-29(城山公園内)	0179-22-2739	昭和42年開館
	ごのへ郷土館	〒039-1524 三戸郡五戸町大字豊間内字五ヶ久保3-1	0178-62-5965	平成30年開館
	史跡聖寿寺館跡案内所	〒039-0104 三戸郡南部町大字小向字寿寺81-2	0179-23-4711	平成29年開館
	階上町民俗資料収集館	〒039-1201 三戸郡階上町大字赤保内字耳ヶ吠6-2	0178-88-2698	昭和58年開館
	考古施設	さんまるミュージアム (三内丸山遺跡センター)	〒038-0031 青森市三内丸山305	017-781-6078
青森市小牧野遺跡保護センター (縄文の学び舎・小牧野館)		〒030-0152 青森市大字野沢字沢部108-3	017-757-8665	平成27年開館

区分	名称	所在地	電話	備考
博物館類似施設関係	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	〒031-0023 八戸市大字是川字横山1	0178-38-9511	平成23年開館
	八戸市縄文学習館 (是川縄文館分館)	〒031-0023 八戸市大字是川字中居3-1	0178-96-1484	平成6年開館
	つがる市縄文住居展示資料館 (カルコ)	〒038-3138 つがる市木造若緑59-1	0173-42-6490	昭和61年開館
	つがる市木造亀ヶ岡考古資料室	〒038-3283 つがる市木造館岡屏風山195	0173-45-3450	昭和54年開館
	田舎館村埋蔵文化財センター	〒038-1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172-43-8555	平成12年開館
	二ツ森貝塚館	〒039-2752 上北郡七戸町字鉢森平181-26	0176-68-2612	令和3年開館
	おいらせ阿光坊古墳館	〒039-2165 上北郡おいらせ町阿光坊107-4	0178-20-0405	平成29年開館
	財団法人棟方志功記念館	〒030-0813 青森市松原2-1-2	017-777-4567	昭和50年開館
	青森市民美術展示館	〒030-0801 青森市新町2-7-1	017-773-1770	昭和54年開館
	国際芸術センター青森	〒030-0134 青森市大字合子沢字山崎152-6	017-764-5200	平成13年開館
	鳴海要記念陶房館	〒036-1313 弘前市大字賀田字大浦1-2	0172-82-2902	平成15年開館
	櫛引八幡宮国宝館	〒039-1105 八戸市八幡字八幡丁3	0178-27-3053	昭和9年開館
	洗心美術館	〒039-1103 八戸市大字長苗代字上碓田56-2	0178-27-6570	平成22年開館
	津軽こけし館	〒036-0412 黒石市大字袋字富山72-1	0172-54-8181	昭和63年開館
	十和田市現代美術館	〒034-0082 十和田市西二番町10-9	0176-20-1127	平成20年開館
	深浦町美術館	〒038-2324 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢80-1	0173-74-3882	平成18年開館
	常盤ふるさと資料館あすか	〒038-1204 南津軽郡藤崎町大字水木字村元15-1	0172-65-4567	平成8年開館
	田舎館村博物館	〒038-1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172-43-8555	平成12年開館
	七戸町立鷹山字一記念美術館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館
	スペイン民芸資料館	〒039-2501 上北郡七戸町字荒熊内67-94	0176-62-5858	平成6年開館
	青森県近代文学館	〒030-0184 青森市荒川字藤戸119-7(青森県立図書館内)	017-739-4211	平成6年開館
	弘前市立郷土文学館	〒036-8356 弘前市下白銀町2-1	0172-37-5505	平成2年開館
	旧藤田家住宅 (太宰治まなびの家)	〒036-8185 弘前市御幸町9-35	0172-82-1642 (市文化財課)	平成18年開館

区分	名称	所在地	電話	備考	
博物館類 施設	文学関係	秋田雨雀記念館	〒036-0377 黒石市大字中町5(津軽黒石こみせ駅内)	0172-59-2080	平成21年開館
		五所川原市太宰治記念館 「斜陽館」	〒037-0202 五所川原市金木町朝日山412-1	0173-53-2020	平成10年開館
		寺山修司記念館	〒033-0022 三沢市三沢字淋代平116-2955	0176-59-3434	平成9年開館
		「太宰の宿」 ふかうら文学館	〒038-2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町134	0173-84-1070	平成16年開館
		小説「津軽」の像記念館	〒037-0511 北津軽郡中泊町小泊字紅葉坂1080-1	0173-64-3588	平成8年開館
	その他	東北大学植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森市荒川字南荒川山1-1	017-738-0621	昭和4年開館
		青森市森林博物館	〒038-0012 青森市柳川2-4-37	017-766-7800	昭和57年開館
		青森県営浅虫水族館	〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1-25	017-752-3377	昭和58年開館
		弘前大学資料館	〒036-8560 弘前市文京町1番地	0172-39-3432	平成24年開館
		弘前城植物園	〒036-8536 弘前市下白銀町1-1(弘前公園内)	0172-33-8733	昭和63年開館
		天文台「銀河」	〒036-1505 弘前市水木在家字桜井66-1	0172-84-2233	平成元年開館
		青森県立三沢航空科学館	〒033-0022 三沢市大字三沢字北山158	0176-50-7777	平成15年開館
		八戸市水産科学館 (マリエント)	〒031-0841 八戸市大字鮫町字下松苗場14-33	0178-33-7800	平成元年開館
		八戸植物公園	〒031-0012 八戸市大字十日市天摩33-2	0178-96-2932	昭和56年開館
		津軽三味線会館	〒037-0202 五所川原市金木町朝日山189-3	0173-54-1616	平成12年開館
		むつ市海と森ふれあい体験館	〒039-5201 むつ市川内町川内477	0175-42-2411	平成17年開館
		夜越山森林公園 (サボテン園・洋ラン園)	〒039-3331 東津軽郡平内町大字浜子堀替36-1	017-755-2663	昭和47年開館
		青函トンネル記念館	〒030-1700 東津軽郡外ヶ浜町字三尻龍浜99	0174-38-2303	平成元年開館
		十二湖エコミュージアムセンター 「湖郷館」	〒038-2206 西津軽郡深浦町大字松神字松神山1-3	0173-77-3113	平成11年開館
		白神山地ビジターセンター	〒036-1411 中津軽郡西日屋村田代字神田61-1	0172-85-2810	平成10年開館
大山将棋記念館	〒039-2222 上北郡おいらせ町下前田144-1	0178-52-1411	平成17年開館		

第7部 教育機関等

第7部 教育機関等

1章 青森県立図書館・青森県近代文学館

1 施設・設備

所在地	青森市大字荒川字藤戸119番地7	
敷地面積	23,812.47㎡	
建物延面積	9,886.03㎡	
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建 塔屋1階	
階別主要室名	1階	一般閲覧室、参考・郷土室、児童閲覧室、乳幼児室、エントランスホール、ロッカールーム、休憩コーナー、機械室
	2階	近代文学館（常設展示室、企画展示室、展示ギャラリー、展示ロビー、近代文学ガイドコーナー、AVブース）、書庫（約47万冊収容可）、特殊資料庫
	3階	書庫（約53万冊収容可）
	4階	集会室、研修室、市町村読書振興室、貴重資料庫、館長室、事務室

2 運営方針

(1) 青森県立図書館運営方針

青森県立図書館は、図書、記録等の資料及び情報を収集し、保存して、県民の利用に供し、市町村立図書館等を支援し、関係機関との連携・協力を進め、県民の学習活動、調査研究、読書活動等を支援するとともに、地域を支える情報拠点として地域の課題解決を支援し、本県の発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、図書館サービスの充実に努めます。

ア 資料の収集・保存・提供

県民が必要とする資料を計画的、体系的に収集し、整理・保存し、利用に供します。

資料の収集に当たっては、地域の課題解決に資する資料、郷土資料及び本県の行政資料の収集に努めます。

また、視聴覚資料、電子資料の収集等、資料の多様化への対応に努めます。

イ 利用者・県民へのサービス

県民の学習活動等を支援するため、オンライン貸出等の貸出サービス、レファレンスサービス等の情報サービス、地域の課題に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス、学習機会の提供、ボランティア活動の機会の提供等を行います。

ウ 市町村立図書館等への支援

県民が、県内どこに住んでいても、充実した図書館サービスを受けることができるよう、市町村立図書館及び公民館図書室等に対し、資料の貸出、図書館職員研修の実施等の支援を行います。

また、県内の公立図書館等の資料の横断検索、相互貸借等を行うための青森県図書館情報

ネットワークシステムを運用するなど、県立図書館、市町村立図書館及び公民館図書室等の相互の連携・協力を進めます。

エ 子どもの読書活動の支援

子どもの読書活動を支援するため、おはなし会の開催、読み聞かせ活動の支援、児童生徒用図書セットの貸出、学校図書館の運営の支援等を行います。

オ 関係機関との連携・協力

県民の学習活動等の支援を充実するため、また、地域の課題解決を支援するため、国立国会図書館、他の都道府県立図書館、大学図書館、学校、社会教育施設、行政機関、調査研究施設、民間団体等との連携・協力を進めます。

(2) 青森県近代文学館運営方針

青森県近代文学館は、明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家の文学資料を幅広く収集し、その保存を図るとともに、広く一般に公開展示し、文学活動の環境づくりを進め、創造性豊かな本県文化の継承と発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、文学館活動の充実に努めます。

ア 資料の収集・保存

明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家を中心に、図書、雑誌、原稿、書簡、書画及び遺品等の資料を総合的に収集し、体系的に整備・保存します。

イ 資料の展示

青森県を代表する13人の作家を中心に、本県出身及びゆかりの作家の多様な資料を常設展示するとともに、テーマ別の企画展を開催し、青森県の近代文学に関する県民の理解を深めます。

ウ 文学活動の環境づくり

他の文学館、文学団体及び学校等との連携を深めながら、多様な普及・啓発活動、情報提供活動を展開することで、県民の文学活動の環境づくりを進めます。

3 事業内容

(1) 県立図書館

ア 資料の収集・保存・提供

(ア) 資料の収集・保存

購入及び寄贈により幅広く資料を収集し、整理し、保存した。令和4年度末の所蔵資料数は1,022,791点。

受入数	21,961点	所蔵数	1,022,791点
-----	---------	-----	------------

a 郷土資料の収集・保存

購入、寄贈及び自館作成等により、地方行政資料を含めた郷土関係全般にわたる資料を収集・整理・保存した。令和4年度末の所蔵資料数は166,534点。

受入数	2,868点	所蔵数	166,534点
-----	--------	-----	----------

※ 「(ア) 資料の収集・保存」内数

b 電子書籍の収集

辞典、図鑑、年鑑などの学術書を中心に電子資料を収集した。令和4年度末の所蔵資料数は1,703点。

受入数	664点	所蔵数	1,703点
-----	------	-----	--------

(イ) 資料の提供

館内には、一般閲覧室、児童閲覧室、参考・郷土室があり、それぞれ約11万5千冊、約2万9千冊、約1万4千冊の資料を配架しており、利用者は自由に閲覧することができ、書庫内の資料も、請求により利用することができる。

利用者は、館内の検索端末あるいはインターネットを通じて、資料を検索することができる。

希望する資料がない場合はリクエストを受け、相互貸借のネットワークを活用して、他館から借用し提供するほか、購入により提供した。

a 一般閲覧室では、日本十進分類法を用い、一般図書を主題別に配架するほか、新聞・雑誌、洋書、大活字本、郷土関係のAV資料、企画展示などのコーナーを設けるなどして、多種多様な資料の中から利用者が目的の資料を探しやすいように工夫している。

また、蔵書検索、インターネット、東奥日報CD-ROM、図書館向けデジタル化資料送信サービス・歴史的音源サービスに対応したパソコン端末を設置し、県民への資料・情報提供の充実を図った。

b 児童閲覧室では、調べ学習に対応した児童図書、ノンフィクション、物語、絵本、紙芝居などを自由に利用できるように配架した。

おはなしコーナーでは、毎月第2土曜日に「おはなし会」を、第4土曜日に「おしえて先生！知るしるする探検隊」を開催して、おはなしの楽しさを伝え、本との出会いの機会を提供した。

c 参考・郷土室では、各種の辞典、年鑑、青森県の自然、歴史、産業、文化等に関する図書や県内で刊行された資料等を配架して、利用者の学習・調査研究の利用に供した。

辞典、官報、新聞など、データベース資料については、専用端末により迅速に検索することができるサービスを提供した。

国立国会図書館蔵書検索・申込システム、国立国会図書館サーチ、国立情報学研究所等のデータベースを利用し、資料や所蔵情報を提供した。

開館日数	総利用者数	総利用資料数
322日	189,148人	245,114点

イ 利用者・県民へのサービス

(ア) レファレンスサービス

来館、非来館利用者からの様々なアプローチ(口頭、電話、FAX、メール等)による質問や、市町村立図書館等からの依頼を受けた、協力レファレンスに対して、解決に役立つ資料の紹介や情報提供を行った。

レファレンス数	調査・回答	1,398件	文献紹介	8,687件
---------	-------	--------	------	--------

(イ) オンライン貸出サービス

パソコンや携帯電話で所蔵資料の予約・貸出申込みをすることができる。また、受取館を県立図書館以外の市町村立図書館等(貸出協力館)に指定することができる。

貸出協力館数	62館	貸出件数	11,166件	貸出点数	21,147点
--------	-----	------	---------	------	---------

(ウ) 遠隔地返却サービス

県立図書館から貸出しを受けた資料を利用者が希望する市町村立図書館等に返却し、県立図書館が回収した。

返却協力館数	62館	利用件数	2,296件	利用点数	7,787点
--------	-----	------	--------	------	--------

(エ) アウトリーチサービス

心身に障害があるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配による圖書の貸出を行った。

貸出件数	106件	貸出点数	525点
------	------	------	------

(オ) ホームページの充実

県立図書館の蔵書を検索し、予約や貸出申し込みができるオンライン貸出サービスを利用することができる。

また、「県内公共図書館・大学図書館横断検索」により23の市町村立図書館等と11の大学図書館、1県立施設の蔵書を検索することができる。

利用者から寄せられた要望等について、当館の対応とともに掲載した。

ホームページアクセス件数	246,593件
--------------	----------

(カ) デジタルアーカイブの公開

当館が所蔵する貴重資料等の電子画像を営利・非営利を問わず二次利用可能な形で公開するほか、それらの書誌情報についても、新たにオープンデータとして配布している。

また、他機関が公開するデジタルアーカイブや、青森県に関する主な電子資料へのリンク集を作成・公開している。

アクセス件数	10,909件
--------	---------

(キ) ボランティアの受入

返却された資料の配架及び利用案内について、図書館ボランティアを受け入れ、自主的・自発的な活動を支援・促進した。

登録人数	18人	延べ活動人数	593人
------	-----	--------	------

(ク) 一般閲覧室企画展示

本県に関する事項、身近な関心ごと、話題の出来事などテーマに沿った本の展示と貸出を行った。

期 間	テ ー マ
4月29日～5月22日	若い人に贈る読書のすすめ
5月27日～6月22日	できることから始めよう！まもろう、未来の青森県
6月24日～7月27日	文月ふみの日
7月29日～8月24日	まつり
8月26日～9月21日	晩夏の青森異界巡り

期 間	テ ー マ
9月23日～10月26日	お米
10月28日～11月23日	古くて新しいレトロの世界
12月1日～1月25日	菊谷栄 時代を駆け抜けたレビュー人の眼差し
1月27日～3月22日	科学道100冊2022

ウ 市町村立図書館等への支援

(ア) 青森県図書館情報ネットワークシステム（通称：Applins：アプリンズ）

県内公共図書館等の相互貸借のためのインターネットシステムを管理・運用した。参加館は横断検索機能を用いて、各館の所蔵情報を相互に検索することができるほか、検索した資料について、予約や貸出の申込みから借受、返却までの情報管理を双方向的に行うことができる。また、掲示板機能により、参加館の様々な情報を共有した。

a 参加館

参加館	46館	うちデータ提供館	23館
-----	-----	----------	-----

b アプリンズを利用した相互貸借数

県立図書館からの貸出点数	3,532点	県立図書館の借受点数	110点
--------------	--------	------------	------

(イ) 協力用図書の一括貸出

「協力用図書」を約4万8千冊所蔵し、市町村立図書館等を対象に蔵書を支援する目的で貸出しを行った。（来館型）

貸出件数	46件	貸出点数	26,471点
------	-----	------	---------

(ウ) 公立図書館長・公民館長会議、担当者会議

a 公立図書館長・公民館長会議をオンラインで開催し、県立図書館等の事業説明を実施した。

b 図書館相互協力事業等担当者会議をオンラインで開催し、市町村立図書館・公民館図書室等と県立図書館間の相互協力事業についての説明及び情報交換会を実施した。

(エ) 市町村立図書館等職員研修

a 図書館勤務概ね2年以内の市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための講義と演習を行う市町村立図書館等職員初任者研修をオンラインで開催した。

b 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマ（資料管理）について、外部講師による講義と演習を行う市町村立図書館等職員基本研修をハイブリッドで開催した。

c 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、公共図書館等の学校図書館支援や学校図書館との連携に関し、外部講師による講義を行う学校図書館支援研修をオンラインで開催した。

(オ) 市町村立図書館等巡回訪問

a 市町村立図書館等からの要請により、運営等について指導・助言及び情報提供等を行

い、市町村立図書館等の振興と連携強化等を図るため、令和4年度は1回の訪問を行った。

b 市町村立図書館等について、実態と課題を聴取して、今後の市町村支援の在り方を検討するため、令和4年度は3回の調査訪問を行った。

c 図書館の新設等の事由により重点的に助言及び支援を行うため、令和4年度は1回の重点支援訪問を行った。

(カ) 定期資料搬送

市町村立図書館等及び大学等図書館と資料を貸借するために、宅配便を利用した定期的な資料搬送を行った。

具体的には、市町村立図書館等との相互貸借、オンライン貸出サービスの貸出・回収、遠隔地返却サービスの回収、大学等図書館との相互貸借及び大学等図書館返却サービスの回収を行った。

エ 子どもの読書活動の支援

(ア) 子どもと本をつなげる催しの開催

子どもたちが、さまざまなことに興味を持ち、関連した本に触れることによって、読書への興味を持つとともに、図書館の利用促進となるような催しを開催した。

a おはなし会 毎月第2土曜日

絵本の読み聞かせやブック・トークを行った。令和4年度の参加者総数は117人であった（4月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）。

b おしえて先生！知るしるする探検隊 毎月第4土曜日（11・12・3月を除く）

科学やいろいろな仕事、スポーツなど、実験や交流体験を行った。令和4年度は8回開催し、参加者総数は139人であった（4月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）。

(イ) 児童閲覧室テーマ展示

おはなし会のテーマや読書週間等と連動した本の展示・貸出のほか、年中行事による小展示を行った。

期間	展 示 テ ー マ	小 展 示
4月11日～4月27日	令和3年度 おはなし会・おしえて先生！知るしるする探検隊で紹介した本	ぞう
4月29日～5月22日	ゆめのせかいへようこそ	まる
5月27日～6月22日	いらっしやいませ	へんしん！
6月24日～7月27日	みんなで、とぶぞ～！	やさい
7月29日～8月24日	なつやすみ	あお
8月26日～9月21日	はしる！	ライオン
9月23日～10月26日	おにぎょう	おやすみの日
10月28日～11月23日	パンダ	いい湯だな
12月1日～12月21日	くろ！くろ！くろ！	いぬ
12月23日～1月25日	いない！いない？	りんご
1月27日～2月15日	うたをうたうよ～ラララララ	てづくり
2月17日～3月22日	のびる!?	ふかふか
3月24日～4月26日	令和4年度 おはなし会・おしえて先生！知るしるする探検隊で紹介した本	ぴかぴか

(ウ) セット貸出

a 市町村内巡回図書セット

小・中学校の朝の読書活動や幼稚園・保育所等の読み聞かせ活動を支援するため、協力用図書を利用して図書セットを作成し、希望する市町村立図書館等に対し「市町村内巡回図書セット」として貸出を行った。借り受けた市町村立図書館等は管内の小中学校等に配本した。

図書セットの内容	利用対象	前 期		後 期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小 学 校	低 学 年	39	3,680	36	3,200
	中 学 年	38	3,500	36	3,180
	高 学 年	36	3,300	35	3,040
中 学 校	中 学 校	11	480	11	480
読 聞 かせ 絵 本 等	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	54	7,830	45	5,820
大 型 絵 本	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	56	2,090	44	1,250

b 学習支援セット

児童生徒の学習支援や読書活動の推進等を支援するため、協力用図書を利用して「学習支援セット」を作成し、希望する小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。（小・中学校は市町村立図書館等を経由して貸出。）

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	3	143	3	146

c ミニセット

各図書館等での展示・貸出を支援するため、協力用図書を利用して全国的なイベント等に対応した「ミニセット」を作成し、希望する高等学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
市町村立図書館等（一部高等学校・特別支援学校を含む。）	21件	594冊	22件	590冊

(エ) 学校図書館アシスト事業プラス

小・中学校及び県立学校等を県立図書館職員が訪問し、学校図書館が抱える疑問などを解決するための具体的な助言や情報提供、学校図書館の活動に関する研修を行った。

また、必要に応じて追加の訪問や助言、情報を提供した。

訪問学校数	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他	計
	15校	3校	5校	0校	3校	26校

オ 関係機関との連携・協力

(ア) 図書館向けデジタル化資料送信サービス並びに歴史的音源（れきおん）サービス

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を公共図書館等で閲覧・複写できる「図書館向けデジタル化資料送信サービス」並びに、歴史的

音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）がデジタル化した、1900年当初から1950年頃までに製作されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等の音源を公共図書館等で視聴できる「歴史的音源（れきおん）サービス」に参加館として加入。県民への資料提供の充実を図った。

図書館向けデジタル化資料送信サービス並びに歴史的音源（れきおん）サービス	利用者数	174人
--------------------------------------	------	------

(イ) 国立国会図書館及び県外公共図書館等との連携

県域を越えた図書館資料資源の共有化及び効率的利用の促進を目的とする、和図書の総合目録ネットワーク「国立国会図書館総合目録ネットワーク（ゆにかねっと）」にデータ提供館・参加館として加入し、全国的な図書館連携に協力するとともに、県民への資料提供の充実を図った。

他都道府県公共図書館との相互貸借	貸出点数	654点	借受点数	146点
------------------	------	------	------	------

(ロ) 大学等図書館との連携

平成21年度から県内大学等図書館と連携・協力に関する協定（覚書）を締結している。大学等図書館とは、横断検索システムを活用した相互貸借や県立図書館で借受けた資料を在籍する大学等図書館に返却できるサービスを行った。

大学等図書館との相互貸借	貸出点数	151点	借受点数	27点
--------------	------	------	------	-----

(エ) 行政支援サービス

県職員を対象に、政策立案や行政サービスの改善に資するため、業務に関するレファレンス（調査・相談）や資料及び関連図書リストの提供を行った。また、県が主催する様々なセミナー等の会場において、参加者を対象に関連図書の展示・貸出を行った。

レファレンスサービス件数	50件
業務に関する図書貸出点数	112点
セミナー等における図書貸出点数	308点
県立図書館施設利用人数	649人

(オ) 産業支援サービス

県民を対象に、幅広く産業やビジネスを支援するため、創業・起業や経営改善に関する情報、農林水産資源を活用した商品開発などに関する情報等をデータベースで提供した。

また、創業・起業に関する相談会場等で、関連図書リストの提供を行った。

データベース情報検索件数	68件
相談会等におけるオーダーメイドリスト提供件数	8件

(2) 近代文学館

ア 資料の収集・保存

収集方針に基づき、佐藤紅緑・秋田雨雀・葛西善蔵・福土幸次郎・石坂洋次郎・北村小松・北畠八穂・高木恭造・太宰治・今官一・三浦哲郎・長部日出雄・寺山修司の13人の重点作家を中心とした本県ゆかりの作家の文学資料について、継続的に収集・整理・保存を行った。

令和4年度は、特別展「教室で出会った文学」、企画展「作家の愛用品展 - ちょっとレトロなものたち -」の開催を契機に、関連する資料の収集に力を注いだ。

受 入 数	3,848点	所 蔵 数	166,947点
-------	--------	-------	----------

イ 資料の展示

常設展示、企画展等の観覧者は4,799名であった。

※4月1日から4月10日まで、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館。

※2月11日から3月31日まで、展示室内設備の修繕及び改修のため臨時休館。

開 館 日 数	276日	観 覧 者 数	4,799人
---------	------	---------	--------

(ア) 常設展示

常設展示室では、青森県を代表する13人の作家の図書、雑誌、原稿、書簡、書画、遺品等の資料を展示し、その作品と生涯を紹介しているほか、青森県ゆかりの作家33人をジャンルごとに紹介した。

常設展示作家・青森県ゆかりの作家たちからピックアップして拡大展示する「エクステンド常設展示」を開催。令和4年度は、「文学県あおもり 平成・令和編」、「昭和から令和の時代を駆け抜けた作家の追想」のテーマで開催した。

(イ) 特別展・企画展の開催

企画展示室では、特定のテーマを設けて特別展・企画展を開催しており、開館以来、令和4年度までに計108回の特別展と企画展を開催した。

a 企画展「『座標』に集った人々展」

文芸雑誌「座標」は、1930（昭和5）年1月に創刊された。竹内俊吉の提唱により、「黎明」や「獵騎兵」等、複数の雑誌が合流して成った県下統一の総合文芸誌であった。文学上の主張の相違により多くのメンバーが離脱し、昭和7年に廃刊となったが、本県文学史に確かな足跡を刻んだ。淡谷悠蔵らとともに「黎明」を創刊し、「座標」では編集人を務めた船水公明の旧蔵資料を中心に構成し、「座標」に集った人々の活躍を振り返る展示を開催した。

b 特別展「教室で出会った文学」

森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介ら国語教科書における定番作家たちを取り上げ、青森県との意外な関わりの部分に光を当てるとともに、太宰治や三浦哲郎ら教科書に作品が掲載されている本県出身作家の関連資料も紹介する展示を開催した。

c 企画展「作家の愛用品展 - ちょっとレトロなものたち -」

作家の愛用品からは、作家の好みやこだわり、感性がうかがえる。作家が作品を生み出すのに用いた文房具、身につけた着物や装飾品、生活が感じられる調度品や家具など、青森県ゆかりの作家たちが愛用した品々を紹介する展示を開催した。

d 太宰治他寄書帖「蘭兒帖」大公開

1947（昭和22）年、東京都神田神保町の出版社「昭森社」の経営者である森谷均は、喫茶「らんぼお」を開店した。その店にあった寄書帖「蘭兒帖」には、数多くの文人や芸術家達による様々な寄書が見られ、その中には、現在確認されている太宰治の描いた絵の中で唯一の水彩画「森谷均像」が含まれていた。戦後の日本文化の発展を各方面で担っていった人々の交流が垣間見える寄書帖「蘭兒帖」の寄贈を受け、初公開した。

(ウ) 各種展示・コーナーの設置

「近代文学ガイドコーナー」では、DVD（約18分）で、明治以降の青森県の文学の流れを解説しており、AVブースでは、青森県ゆかりの作家の業績や作品の世界、分野、地域、時代等特定のテーマで、1本15分～20分のDVD計37作品を鑑賞することができる。

また、展示ギャラリーには、13人の作家が青森県について語った文章と風景写真を組み合わせた「文学ギャラリー 作家が語る青森」パネルを展示した。

(エ) パネル展の開催

特別展・企画展の内容を再構成したパネル展を、文化施設や作家にゆかりの地域の高等学校など、延べ7か所で開催し、若い世代や遠隔地の県民に観覧の機会を提供した。

ウ 文学活動の環境づくり

(ア) 朗読劇「教室で出会った太宰作品メドレー」

特別展を記念して、津軽地方を中心に活動する声優劇団による、「走れメロス」「葉桜と魔笛」等、太宰作品のドラマリーディングを上演し、参加者は64人であった。

(イ) 文学ゼミ・朗読会の開催

a あおもり文学ゼミ

特別展や企画展の開催に併せて、当館職員によるあおもり文学ゼミを開催し、出品資料や展示内容に対する理解を深めてもらう機会を提供した。令和4年度は、2回開催し、参加者は27人であった。

b 「日曜午後の朗読会」

青森県を代表する13人の作家をテーマに、作家および作品の紹介を、朗読を交えて5回実施し、参加者は13人であった。

(ウ) 出前講座

職員が依頼を受けて学校等に出向き、青森県の近代文学についての講義を行う出前講座を1回実施し、参加者は130人であった。

(3) 印刷物の発行

印刷物の名称	摘 要
要覧	令和4年度版
青森県の図書館	令和4年度版
青森県立図書館報	第43号～第45号（年3回発行）
青森県近代文学館資料集	第十三輯「太宰治・句帖『亀の子』」

(4) 分類別受入資料数 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史紀行	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	図書資料	一般資料	381	348	671	2,084	1,044	1,096	563	845	179	2,341	0	0	0	9,552
		児童資料	29	9	79	93	137	73	55	69	16	567	775	43	0	1,945
		参考資料	17	10	20	77	13	15	24	16	3	3	0	0	0	198
		郷土資料	33	1	77	225	22	35	65	26	2	9	0	0	0	495
		個人文庫等資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	460	368	847	2,479	1,216	1,219	707	966	200	2,920	775	43	0	12,190
	書庫資料	一般資料	320	24	108	401	65	39	185	128	18	287	0	0	0	1,575
		児童資料	0	0	1	0	0	0	0	0	1	10	26	0	0	38
		参考資料	1	0	0	12	0	0	1	1	3	0	0	0	0	18
		郷土資料	223	29	115	636	52	83	119	285	2	829	0	0	0	2,373
		個人文庫等資料	0	0	0	3	0	0	4	0	0	0	0	0	0	7
		計	544	53	224	1,052	117	122	309	414	24	1,126	26	0	0	4,011
	図書資料計	1,004	421	1,071	3,531	1,333	1,341	1,016	1,370	224	4,046	801	43	0	16,201	
	非図書資料	80	0	19	6	1	2	5	7	131	0	0	0	0	251	
	電子書籍	12	12	42	292	67	92	74	31	3	39	0	0	0	664	
	本館資料計	1,096	433	1,132	3,829	1,401	1,435	1,095	1,408	358	4,085	801	43	0	17,116	
	近代文学館資料														3,848	
	協力用資料														4,845	
	図書館資料計														25,809	

(5) 分類別所蔵資料数 (令和5年3月31日現在)

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史紀行	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	図書資料	一般資料	4,724	5,803	9,828	24,451	8,753	11,377	6,874	9,149	2,782	26,785	0	0	0	110,526
		児童資料	511	266	1,305	1,536	2,557	953	653	1,110	435	7,900	10,555	762	0	28,543
		参考資料	668	342	1,083	743	544	296	238	614	434	535	0	0	0	5,497
		郷土資料	752	106	2,774	2,239	395	534	809	612	60	233	0	0	0	8,514
		個人文庫等資料	626	4	104	24	13	9	11	604	0	2,196	0	0	0	3,591
		計	7,281	6,521	15,094	28,993	12,262	13,169	8,585	12,089	3,711	37,649	10,555	762	0	156,671
	書庫資料	一般資料	53,378	21,580	48,106	122,352	39,665	37,483	37,900	47,813	9,360	95,618	0	0	0	513,256
		児童資料	984	317	1,863	2,127	5,132	1,520	674	1,942	510	15,008	17,703	950	0	48,730
		参考資料	2,031	176	1,067	3,476	657	872	1,052	819	475	467	0	0	0	11,092
		郷土資料	17,089	2,019	13,644	44,998	6,864	6,620	18,388	10,846	454	37,098	0	0	0	158,020
		個人文庫等資料	6,579	2,453	10,425	14,260	1,041	466	6,983	1,779	1,717	6,933	1	0	9,302	61,939
		計	80,061	26,545	75,105	187,213	53,360	46,961	64,997	63,199	12,516	155,124	17,704	950	9,302	793,037
	図書資料計	87,342	33,066	90,199	216,206	65,622	60,130	73,582	75,288	16,227	192,773	28,259	1,712	9,302	949,708	
	非図書資料	4,085	60	10,661	2,198	278	489	1,320	2,471	102	830	0	0	719	23,213	
	電子書籍	24	126	83	526	178	159	116	219	31	241	0	0	0	1,703	
	本館資料計	91,451	33,252	100,943	218,930	66,078	60,778	75,018	77,978	16,360	193,844	28,259	1,712	10,021	974,624	
	近代文学館資料														166,947	
	協力用資料														48,167	
	図書館資料計														1,189,738	

4 令和4年度主催事業の実績

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

【趣 旨】

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

【概 要】

図書セットの内容		利用対象	前 期		後 期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市町村 村内巡回 図書 セット	(1)小学校	低学年	39	3,680	36	3,200
		中学年	38	3,500	36	3,180
		高学年	36	3,300	35	3,040
	(2)中学校	中学校	11	480	11	480
	(3)読み聞かせ絵 本児童書等	幼稚園・保育所等	54	7,830	45	5,820
(4)大型絵本	幼稚園・保育所等	56	2,090	44	1,250	
2 学習支援セット		小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	3	143	3	146
3 ミニセット		市町村立図書館等 (一部高等学校・特別支援学校を含む。)	21	594	22	590

読書バリアフリー推進事業

【趣 旨】

視覚障害者等さまざまな障害のある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、読書バリアフリーのための機器、及び用具を整備する事業である。

【概 要】

- (1) 新しい機器の導入
- (2) バリアフリーサービス紹介コーナーの更新

近代文学館 特別展開催事業

【趣 旨】

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

【概 要】

- (1) 名称：特別展「教室で出会った文学」
- (2) 会期：7/16（土）～9/19（日）
- (3) 内容：展示、特別展イベントを実施する。

○展 示 森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介ら国語教科書における定番作家たちを取り上

げ、青森県との意外な関わりの部分に光を当てるとともに、太宰治や三浦哲郎ら教科書に作品が掲載されている本県出身作家の関連資料も紹介する展示を開催。

展示資料数：91点

来館者数：811名

○特別展イベント

特別展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、特別展のテーマに関連したイベントを開催。

ア あおもり文学ゼミ

内容：講演 「教室で出会った作家と青森」

特別展で大きく取り上げた7人の作家（森鷗外、夏目漱石、石川啄木、宮澤賢治、与謝野晶子、芥川龍之介、高村光太郎）について紹介し、青森との意外な関わりについて解説。

講師 柿崎 星哉（青森県近代文学館 文学専門主事）

日時：7/31（日） 14時～15時

場所：県立図書館研修室

参加者数：20名

イ ドラマリーディング

内容：朗読劇 「教室で出会った太宰作品メドレー」

津軽地方を中心に活動している声優劇団「津軽カタリスト」による太宰治作品「待つ」「葉桜と魔笛」「雀こ」「走れメロス」の朗読劇。

出演 津軽カタリスト

日時：8/21（日） 14時～15時20分

場所：県立図書館集会室

参加者数：64名（来館22名、配信視聴42名）

近代文学館 企画展開催事業

【趣 旨】

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

【概 要】

(1) 企画展「『座標』に集った人々展」

○会期：4/11（土）～5/15（日）

※当初は2月26日からの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2月22日から4月10日まで臨時休館となったため、4月11日からの開催となった。

○内容：文芸雑誌「座標」は、竹内俊吉の提唱により、「黎明」や「狐騎兵」等、複数の雑誌が合流して成った県下統一の総合文芸誌であった。1932（昭和7）年に廃刊となったが、本県文学史に確かな足跡を刻んだ。淡谷悠蔵らとともに「黎明」を創刊し、「座標」では編集人を務めた船水公明の旧蔵資料を中心に構成し、「座標」に

集った人々の活躍を振り返る展示を開催。

展示資料数：80点

来場者数：184名

(2) 企画展「作家の愛用品展－ちょっとレトロなものたち－」

○会期：10/29（土）～12/25（日）

○内容：作家の愛用品からは、作家の好みやこだわり、感性が窺える。作家が作品を生み出すのに用いた文房具、身につけた着物や装飾品、生活が感じられる調度品や家具など、青森県ゆかりの作家たちが愛用した品々を紹介する展示を開催。

展示資料数：442点

来場者数：820名

(3) 新収蔵資料展示「太宰治他寄書帖「蘭兎帖」大公開」

○会期：1/4（水）～2/10（金）

○内容：戦後間もない1947（昭和22）年、東京都神田神保町の出版社「昭森社」の経営者である森谷均が開店した喫茶「らんぼお」の店内には、数多くの文人や芸術家達による寄書帖「蘭兎帖」があり、その中には、現在確認されている太宰治の描いた絵の中で唯一の水彩画「森谷均像」が含まれていた。戦後の日本文化の発展を各方面で担っていった人々の交流が垣間見える寄書帖「蘭兎帖」を初公開する展示を開催。

展示資料数：10点

来館者数：306名

アウトリーチサービス推進事業

【趣 旨】

心身に障害があるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

【概 要】

○登録者数：17名（うち新規登録者数1名）

○貸 出：件数106件／冊数525点

県立図書館資料整備

【趣 旨】

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

なお、令和3年度から電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入している。

【概 要】

(1) 受入資料数（R4/4/1～R5/3/31）

区分	受入資料数
県立図書館（本館）	17,116冊
（うち電子書籍）	（664冊）
市町村等協力用	4,845冊
近代文学館	3,848冊
合 計	25,809冊

(2) 図書館利用状況 (R4/4/1~R5/3/31)

図書館利用者数	173,439名		
近代文学館利用者数	15,709名		
年間利用資料数	一般閲覧室	133,793冊	
	児童閲覧室	49,620冊	
	オンライン貸出	10,546冊	
	新聞未合冊等	11,279冊	
	アウトリーチ (全体の内数)	(525冊)	※アウトリーチサービス： 身障者等への配本サービス
	市町村一括 (協力) 貸出等	39,876冊	
	計	245,114冊	
年間登録者数	新規登録者数	2,442名	
	総登録者数	14,569名	※それぞれの登録者数には、 アウトリーチ登録者数を含む。

(3) 市町村図書館等への貸出の状況 (R4/4/1~R5/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	3,532冊
	県外公共図書館等	654冊
	計	4,186冊
団体一括貸出		26,471冊
集団読書用図書		122冊

市町村立図書館等職員研修事業

【趣 旨】

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的に、初任者研修、基本研修及び学校図書館支援研修等を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために図書館相互協力事業等担当者会議を開催する事業である。

【概 要】

(1) 図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/19 (木)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 参加者	市町村立図書館等職員43名
エ 内 容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

(2) 初任者研修

ア 開催日	6/15 (水)
イ 場 所	オンライン (Zoom)
ウ 対 象	勤務経験が概ね2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員46名、学校図書館業務担当職員1名
オ 内 容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題、資料管理、グループワーク」 ※児童サービスについては事前に録画した動画を配信

(3) 基本研修

ア 開催日	7/13 (水) ~7/14 (木)
イ 場所	1日目 (講義) : オンライン (Zoom)、2日目 (実習) : 県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員93名、学校図書館業務担当職員9名、その他1名
オ 内容	テーマ「資料管理-本のカビ対策と簡易補修を中心に-」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 資料保存委員会委員、 東京都立中央図書館 資料修復専門員 佐々木 紫乃

(4) 学校図書館支援研修

ア 開催日	9/14 (水)
イ 場所	オンライン (Zoom)
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員19名、学校図書館業務担当職員7名、その他17名
オ 内容	テーマ「これからの学校支援サービスを考える： 「G I G Aスクール構想」と読書バリアフリーへの対応を中心に」
カ 講師	専修大学 教授 野口 武悟

(5) ステップアップ研修

ア 開催日	11/24 (木)
イ 場所	オンライン (Zoom) + 集合型
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員26名、学校図書館業務担当職員1名、その他2名
オ 内容	テーマ「自然災害の教訓から図書館の防災・減災をみんなで考える」
カ 講師	株式会社栗原研究室 代表 川島 宏 宮城県名取市図書館 司書 加藤 孔敬

2章 県立少年自然の家

1節 梵珠少年自然の家

1 施設・設備

(1) 施設

名 称	青森県立梵珠少年自然の家	
所 在 地	青森県五所川原市大字神山字殊ノ峰117-602	
設 置 年 月 日	昭和46年8月1日	
敷 地 面 積	6,514.42㎡	
建 物 面 積	2,196.35㎡	
構 造	鉄筋コンクリート2階建、体育館鉄骨平屋建	
収 容 人 員	160人	
屋内施設	研 修 棟	研修室1 (60人)、研修室2 (60人)、和室、身体障害者用宿泊室兼医務室
	宿 泊 棟	宿泊室13 (14人用2室、12人用11室)、指導者室1 (5人用)
	体 育 館 (兼大研修室)	バレーボール (1面)、バスケットボール (1面)、バドミントン (2面)、卓球台 (4台)、研修 (160人)
屋外施設	屋 外 施 設	キャンプセンター (120人)、キャンプ場、営火場、つどいの広場、星見の広場
	そ の 他	車庫

(2) 設備

視 聴 覚 用 具	液晶プロジェクター、ビデオデッキ、CDラジカセ、ポータブルアンテナ、テレビ、スクリーン
自 然 観 察 用 具	天体望遠鏡、双眼鏡等
野 外 活 動 用 具	スノーシュー、6人用ドームテント、タープテント、ロールマット、シュラフ、炊事用具一式、火起こし体験用具一式、無線機
レクリエーション ス ポ ー ツ 等	バレーボール用具一式、バスケットボール用具、バドミントン用具一式、ユニホック用具一式、卓球用具一式、ディスクゴルフ用具、チャレンジ・ザ・ゲーム用具等

2 運営の方針と重点

(1) 方針

少年たちが、恵まれた自然の中で、多様な体験活動を行うことにより、豊かな感性、社会性、創造性等を培い、自ら学び、考え、行動する、社会を生き抜く力の養成が図れるよう諸条件を整備し、魅力ある活動の場や機会の提供に努めます。

(2) 重点

① 利用の促進

ア 主催事業の充実

- ・魅力あるプログラムの開発と提供
- ・ボランティアの養成と活用

イ 受入事業の促進

- ・多様な利用体系への対応
- ・幼稚園・保育園・社会教育団体の利用促進

② 支援体制の充実

ア 自然体験活動支援の充実

イ 指導者研修の充実

ウ ホームページ等による情報提供の充実

③ 活動プログラムの充実

ア 発達段階に対応した活動プログラムの開発

イ 自然環境を活用した活動プログラムの開発

ウ 郷土の素材を活用した活動プログラムの開発

④ 安全管理の徹底

ア 定期的な施設整備・活動エリアの安全点検の実施

イ 緊急時における適切な対応の徹底

ウ 給食における衛生管理の徹底

⑤ 施設設備の充実

ア 施設設備の保守と計画的な整備

イ 活動エリアの保守と整備

3 令和4年度主催事業の実績

看板事業

【趣 旨】

年長児から中学生まで幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
年長すくすくキャンプ～おうちをはなれて大冒険～	7/9（土）～ 10（日）	年長児	14名	炊事体験、野外活動（森の冒険遊び、宝さがし）、館内テント泊、読み聞かせ、思い出クラフト（丸太メダル）
夏の7daysキャンプ～梵珠から西目屋へ 自転車と川下りで移動する真夏のチャレンジ！～	8/6（土）～ 12（金）	小学5年～中学3年の児童生徒	20名	自転車隊列移動、テント泊、野外炊事、りんごもぎ体験、花火大会、そば打ち体験、煎餅焼き体験、思い出クラフト（竹のフォトフレーム）
9歳チャレンジキャンプ～ひとりのできるぞ～	9/17（土）～ 19（月）	小学3年・4年の児童	24名	里山トレイル、ダンボール基地作り、野外活動（ディスクゴルフほか）、キャンドルサービス、炊事体験、思い出クラフト
冬の3daysキャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/13（金）～ 15（日）	小学4年～中学2年の児童生徒	25名	かまくら基地作り、野外活動（チューブそり、スノーシューハイク）、屋内活動（館内QRゲーム）、炊事体験、思い出クラフト（ぼんじゅ竹灯籠）
7歳ワンツーキャンプ～寒さに負けないぼんじゅキッズの冬遊び～	2/18（土）～ 19（日）	小学1年・2年の児童	20名	ぼんじゅスノーランド作り・遊び、炊事体験、思い出クラフト（松ぼっくりけん玉）

養成事業

【趣 旨】

当施設利用団体の引率者や高校生、大学生、青少年教育団体の関係者などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/19(火) (個別研修会) 利用日の 14日前ま でに実施	令和4年度利用予定団体の引率者	(全体会) 42名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム体験 ※宿泊体験あり (前日から希望者のみ)

<p>自然体験活動ほんじゅボランティアセミナー</p> <p>【必修】</p> <p>(1)入門セミナー (2)ふりかえりセミナー (3)実践レポート</p> <p>【選択】</p> <p>(4)年長すすくキャンプ (5)夏の7daysキャンプ (6)9歳チャレンジキャンプ (7)冬の3daysキャンプ (8)7歳ワンツーカーキャンプ</p>	<p>実施日は各事業を参照</p> <p>(1)5/21(土) (2)3/4(土)</p>	<p>高校生、大学生</p>	<p>(1)34名 (2)14名 (3)2名 (4)18名 (5)6名 (6)9名 (7)8名 (8)10名</p>	<p>自然体験活動ほんじゅボランティア入門セミナー対象事業の中から、興味関心や日程の都合に応じて参加し、梵珠少年自然の家ボランティアとして、自主企画の実践や子どもたちの活動を支援し、自己のスキルアップを図る。</p> <p>さらに、事後に企画及び運営に係るボランティアとしてのふりかえりを行い、次企画に向けた改善を図る。</p> <p>各事業は実施期間に応じて単位が付与されており、7単位以上取得した者は「ほんじゅマスターボランティア」、10単位以上取得した者は「指導補助員」としてそれぞれ認定する。</p> <p>【対象事業での活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管轄グループの活動支援、グループメンバーの体調管理及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動における、基本的な知識や技術を習得するための研修や施設ボランティアとしての連携を深めるための実習など
<p>ほんじゅ出前講座</p>	<p>通年実施 【各回即日】 ※直接指導は11月～3月のみ対応</p>	<p>小・中学校、各種学校、青少年教育団体、幼児施設等</p>	<p>2,142名</p>	<p>団体が開催する各種行事（事業）に出向き、自然の家が提供するプログラムの実施における直接指導と助言を行う。直接指導及び助言とは、指導者への指導法等の伝達及び助言、児童生徒への直接指導、指導者研修会等での指導及び助言や実地指導である。</p> <p>また、過去に出前講座を実施した団体については、用具の貸し出しや創作材料の提供及び指導方法の伝達のみを行う「間接指導」の利用を積極的に勧めている。</p> <p>活動プログラムは、自然の家ホームページにて「指導者養成～ほんじゅ出前講座～」プログラム一覧参照</p>

親子事業

【趣 旨】

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
春を楽しむサンday ～春の息吹を五感で感じよう～	4/29 (金・祝)	小・中学校の児童生徒を含む保護者とその家族	172名 (53家族)	野外活動「春の自然観察」、野外炊事「春のホットサンド」、創作活動「バードコール」
ファミリーキャンプ ～家族で初めてのキャンプ体験をしてみませんか～	7/23(土) ～24(日)		77名 (23家族)	テント泊、野外炊事(ダッチオープン料理、スキレット料理)、フリータイム①～昼の部、フリータイム②～夜の部、創作活動(森のタバストリー)
自然体験ほんじゅフェスタ～学・創・食・遊の体験ブースで梵珠の秋を満喫しよう～	10/23(日)		165名 (47家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、BBQコンロ体験、たき火・火起こし体験、本格リースづくり体験、創作プログラム体験、遊びリンピック、自然ふれあいハイク、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフトday～クリスマス・お正月飾りを親子でつくろう～	12/11(日)		105名 (32家族)	クラフト①「ミニ門松」 クラフト②「森の羽子板」 クラフト③「クリスマスフォトフレーム」 クラフト④「クリスマスきになる木」 ※その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイトday～親子で白銀の世界へとびだそう～	2/5(日)		115名 (31家族)	野外活動①(ミニ雪灯籠作りなど選択活動)、館内炊事、野外活動②(チューブそり遊びなど自由活動)

2節 種差少年自然の家

1 施設・設備

(1) 施設

名 称	青森県立種差少年自然の家	
所 在 地	青森県八戸市大字鮫町字膳並平 2-26	
設 置 年 月 日	昭和50年12月 1 日	
敷 地 面 積	65,976.73㎡	
建 物 面 積	3,487.71㎡	
構 造	鉄筋コンクリート 2 階建 但し体育館棟鉄骨平屋建	
収 容 人 員	200人	
屋内施設	研 修 棟	統括室、事務室、会議室、医務室、食堂、ホール、大ホール（大研修室、200人）、小ホール（小研修室、50人）、自然観察室（50人）
	宿 泊 棟	宿泊室26（車椅子利用者対応 3 人用 2 室、8 人用 24 室）、リーダー室（2、和室）、浴室 2、トイレ 4、車椅子利用者対応トイレ 1
	プレーホール（体育館）	バレーボール（1 面）、バドミントン（2 面）648.90㎡ 移動式バスケットゴール 2
屋外施設	屋 外 施 設	キャンプセンター、炊事場、営火場（2）、うどん広場、トイレ
	そ の 他	つどいの広場、あそびの広場、なかよし広場、自然観察林、常設テント（13張、5～10月）電気室、車庫、ライフジャケット乾燥室、活動資材置場、倉庫

(2) 設備

視 聴 覚 用 具	C D プレーヤー、MD プレーヤー、液晶プロジェクター、デジタルカメラ、ポータブルワイヤレスアンプ、実物投影機
自 然 観 察 用 具	顕微鏡、双眼実体顕微鏡、天体望遠鏡、双眼鏡、星座早見盤、クリノメーター、磯の生物観察用具、野山の生物観察用具、魚釣り用具、救命胴衣、懐中電灯、フィールドスコープ
体 育 用 具	卓球台、バレーボール用具、バドミントン用具、肋木、グラウンドゴルフ用具、デジタルタイマー
野 外 活 動 用 具	放送機、簡易無線機、テント、シュラフ、炊事用具
レクリエーション ス ポ ー ツ 等	ソフトバレーボール用具一式、バドミントン用具一式、卓球用具一式、フリスビーゴルフ用具、昔遊び用具、ノルディックポール、フロアカーリング、キンボルススポーツ用具一式、室内用ベタンク 2 セット、ヒットだターゲット、バッグ、モルック 2、ミニモルック 1、卓球バレー 2

2 運営の方針と重点

(1) 基本方針

少年たちが、豊かな自然の中でのびのびと体験活動をすることにより、自然と人間のかかわりを理解しながら、生きる力を養うことをめざす。

(2) 重点事項

- ① 利用団体の主体的活動を促進するために、引率指導者との連携強化を図る。
- ② 活動プログラムの開発と見直しを推進する。
- ③ 主催事業及び自主事業の充実を図る。
- ④ 教育環境整備と安全確保に努める。
- ⑤ 学校・地域・教育関係団体・民間団体との連携強化を図る。
- ⑥ 学校・教育機関・団体・報道機関等への資料提供と積極的な広報活動に努め、利用の促進を図る。
- ⑦ 職員研修の充実を図る。

3 令和4年度事業の実績

種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典）

【趣 旨】

年長児・小・中学生が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

【概 要】

(1) 自然と遊ぼう

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/15 (日)	年長児・ 小・中学 生とその 保護者	109名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ！ 海遊び」①②③④ ※4回開催	7/2 (土)		117名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラ フト作り、磯遊び 他 ・7/9、10は降雨のため、館内活動
	7/3 (日)		120名	
	7/9 (土)		98名	
	7/10 (日)		106名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/16 (日)	121名	秋の自然を楽しもう ・ツリークライミング、ネイチャー ゲーム 年輪アクセサリーづくり 他	
たねさしワールド 「冬の季節を感じて」 ※2回開催	12/3 (土)	50名	創作しめ飾り、門松を作ろう ・ミニしめ飾り ・ミニ門松	
	12/4 (日)	68名		
たねさしワールド 「エンジョイ！ 雪遊び」①② ※2回開催	2/4 (土)	4歳以上 の幼保・ 小・中学 生とその 保護者	107名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりすべ り、ぐにゃぐにゃ風揚げ、ニュー スポーツ、シュリンクシートの キーホルダー 他
	2/5 (日)	92名		
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/25 (土) ～26 (日)	小学3年 ～4年	136名	子どもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、 夜の森探検、創作活動 他
	3/4 (土) ～5 (日)	小学1年 ～2年	142名	

(2) 子どもの祭典

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプA	7/27 (水) ～28 (木)	小学5年 ～ 中学3年	27名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ナイトハイク ・山や海での活動 他
おいでよ！ サマーキャンプB	8/5 (金) ～6 (土)		32名	
わくわくどきどきウイ ンターキャンプ	12/24 (土) ～26 (月)		32名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ウォークラリー 他

自然体験活動支援事業

【趣 旨】

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

【概 要】

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10月～3月 *6月～9月 は原則として 実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童 館、公民館、放課後 児童クラブ、青少年 団体や成人団体 等	159団体 10,778人	・種差少年自然の家のプログラムの 中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、フォトフレーム、 どんぐりアート、動物マグネット、 竹とんぼ、たねさしアロマアート 他)
自然体験活動 研修会	5/28(土) ～29(日)	幼保・小・中学校教 員、高校・大学生、 児童館など関係機 関の指導者、その他 自然体験活動に興 味のある方	12名	・野外炊事や創作活動等のプログラ ムの実習 ・アドベンチャーゲーム、ウォーク ラリー、野外炊事、キャンプファイ ヤー、いかだ活動、磯遊び、救 助訓練、AED操作法 他

在学少年宿泊指導者研修

【趣 旨】

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

○期日：4/18(月)～19(火)

○場所：種差少年自然の家

○対象：令和4年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員

【概 要】

○講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方

○実習：活動プログラムの実習（野外、自然、創作活動、夜の活動）、施設等の利用方法

○演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

親子で学ぶ防災キャンプ事業

【趣 旨】

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

【概 要】

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
「親子の絆」 防災キャンプ	9/24(土) ～25(日)	小・中学生と保護 者、小・中学校の 教員	14家族 44名	親子キャンプで防災力、減災力を身に付けよう ・避難所体験 ・非常食の炊事体験 ・AED講習 ・防災グッズ作り 他

3章 青森県総合社会教育センター

1 施設・設備

(1) 施設

所在地	青森市荒川字藤戸119-7
設置年月日	平成元年7月1日
敷地面積	16,815㎡
建物延床面積	7,053㎡
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階 塔屋1階
研修室	大研修室、第1研修室～第10研修室
実習室	和室、調理実習室、第1工作室、第2工作室、教材編集室、第1多目的研修室、第2多目的研修室、第1教材開発室、第2教材開発室、第3教材開発室
その他	ラーニングスペース、学習情報サービス室、学習相談室、保健室、ほのぼののルーム、団体連絡室、情報処理室、視聴覚ライブラリー

(2) 設備(主なもの)

学習情報サービス室(ありず)	ビデオ教材、DVD教材、インターネット端末
教材編集室	モニターテレビ、編集・調整機器一式、編集用パソコン、βカムVTR編集機、デジタルビデオ編集機、ダビング装置一式
第1教材開発室	プロジェクター、VTR、実物提示装置、モニターテレビ、DVDプレイヤー
第10研修室	パーソナルコンピュータ、プリンタ、サーバー
視聴覚ライブラリー	16ミリ映写機、スライド映写機、モニターテレビ、16ミリフィルム教材
共用機器	テレビ、VTR、OHP、ビデオプロジェクター、アンプ、DVDプレイヤー、DVDレコーダー、ブルーレイプレイヤー、ブルーレイレコーダー
情報処理室	データベースサーバー、Webサーバー、ゲートウェイサーバー、ファイルサーバー、プリンタ、パーソナルコンピュータ
第1工作室	糸のこ盤、グラインダー、木工具
第2工作室	金工具、土練機、ろくろ

2 運営の方針と重点

青森県総合社会教育センターは、社会教育の充実振興を図り、県民の生涯にわたる学習意欲の高揚と学習活動の進展に資するため、市町村及び関係機関・団体と連携しながら、次の事業を総合的に実施する。

- (1) **人財育成**
地域を支える人財の育成
次代を担う青少年の育成
- (2) **教育活動支援**
地域学校協働活動の促進
家庭教育支援の充実
地域によるキャリア教育支援の充実
- (3) **市町村・団体支援**
生涯学習・社会教育関係職員等の養成と資質向上
学習情報等の充実
- (4) **生涯学習活動支援**
県民の学習活動への支援
県民の社会参加活動への支援
- (5) **施設提供**
研修施設・視聴覚機材の提供

3 事業内容

(1) 概 況

センターは、人財育成、教育活動支援、市町村・団体支援、生涯学習活動支援の4区分により事業を実施した。

人財育成は、地域を支える人財や次代を担う青少年を育成するため、受講者の実践活動を含め専門的・実践的な研修を行った。

教育活動支援は、家庭や地域の教育力の向上を図るため、地域づくりや家庭教育支援の人財育成に関する専門的・実践的な研修を行った。

市町村・団体支援は、生涯学習・社会教育関係職員の資質向上及び社会参加活動を推進するため、生涯学習・社会教育に関する専門的な研修や社会参加活動支援機関の研修と情報交換を行った。

生涯学習活動支援は、県民の学習活動や社会参加活動を支援するため、生涯学習に関する情報提供、学習相談を行うとともに、今日的課題や生涯の各時期における課題に対応した学習講座を行った。

(2) 相 談 状 況

① 生涯学習相談

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数(計)		3	10	8	3	6	2	1	2	2	3	2	4	46
相談者	個人	1	7	6	2	2	2	1	2	2	3	2	4	34
	機関	2	1		1	4								8
	団体		2	2										4
形態	窓口	1	5	4	1	2	1	1	2	2	2	1	3	25
	電話	2	5	2	2	4	1				1	1	1	19
	FAX													0
	郵便													0
	Eメールその他			2										2
分野別	人材	1	2	1							2	1	2	9
	学習機会		4	7	1	1				2				15
	施設													0
	教材												1	1
	学習プログラム	1	1											2
	団体サークル													0
	資格													0
	調査研究				1									1
活動その他					1	1							2	
	1	3		1	4	1	1	2		1	1	1	16	

分類別

	個人 34					機関 8					団体 4					総計 46							
	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール その他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール その他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール その他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール その他			
計	23	10	0	0	1	0	8	0	0	0	2	1	0	0	1	0	25	19	0	0	2	0	46
人材	6					1				1				1		7	1	0	0	1	0	9	
学習機会	7	5		1		1				1					8	6	0	0	1	0	15		
施設															0	0	0	0	0	0	0		
教材	1													1	0	0	0	0	0	0	1		
学習プログラム	1					1								1	1	0	0	0	0	0	2		
団体サークル														0	0	0	0	0	0	0	0		
資格														0	0	0	0	0	0	0	0		
調査研究						1								0	1	0	0	0	0	0	1		
活動	2													2	0	0	0	0	0	0	2		
その他	6	5				4				1				6	10	0	0	0	0	0	16		

② 家庭教育相談

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計															
電話・メール別		1	2	6	1	2	4	1	0	3	1	1	1	3	2	3	3	2	2	1	3	0	3	1	電話	メール	面談	合計	
来所面談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	18	0	48	
月別計		3	7	6	1	4	2	5	6	4	3	3	4																
相談者	父								1																2	0		2	
	母	1	2	3	1	2	4	1		3	1	1	1	1	2	3	3	2	2	2	1	2		2	23	18		41	
	祖父																								1	0		1	
	祖母																								2			2	
対象	子どもの他																								1			1	
	乳幼児																								2			2	
	小1																								1			1	
	小2																								2			2	
	小3																								1			1	
	小4																								1			1	
	小5																								1			1	
	小6																								1			1	
	中1																								2			2	
	中2																								1			1	
	中3																								1			1	
	者	高1																								2			2
		高2																								1			1
高3																									1			1	
その他(一般)																									2			2	
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
食事		母乳・ミルク																								1			1
		食事・離乳食																								1			1
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2			2	
		身体																								0	0		0
		性格																								0	0		0
		行動	1		1		1																			5	1		6
	発達障害																								1	1		2	
	その他																								1	0		1	
養育・しつけ	計	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	6	2	0	8	
	しつけ・習慣																								1			1	
	睡眠																								1			1	
	排泄																								0	0		0	
疾病等	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	0	5	
	疾病・異常																								0	0		0	
	けが																								0	0		0	
	予防接種																								0	0		0	
	その他(関係機関問合せ)																								1	0		1	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
対人関係	友達																								1	0		1	
	家族																								0	6		6	
	教師																								0	0		0	
	その他																								0	0		0	
内容	計	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	7	
	いじめ																								2	0		2	
	虐待																								0	0		0	
	不慮(引きこもり等)																								0	0		0	
	不登校																								1	1		2	
	非行・暴力																								4	1		5	
	反抗																								1	0		1	
	その他																								2	2		4	
	計	0	2	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	9	3	0	12	
	学習・進路	態度																								1	0		1
不振																									0	2		2	
勉強																									0	0		0	
進学																									0	0		0	
就職																									0	0		0	
性	計	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	5	
	男女交際																								0	0		0	
	性について																								0	0		0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	その他	情緒不安定																								0	0		0
		神経症的反応																								0	0		0
		心身症状																								0	0		0
その他																									0	0		0	
その他	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	
	園・学校等への要望																								1	2		3	
	相談者自身(一般)																								2	1		3	
	問い合わせ																								0	0		0	
	その他																								1	2		3	
計	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	8		

4 施設利用状況

	研修室等利用								学習情報サービス室 (あります)		ロビー (ラウンジスペース)	総計	累計
	主催事業		個人		団体利用		計						
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	人員	
4月	129	6	20	2	2,745	19	2,894	19	493	19	0	3,387	3,387
5月	240	12	46	5	2,678	26	2,964	26	763	30	0	3,727	7,114
6月	245	10	32	4	3,842	28	4,119	29	1,153	29	476	5,748	12,862
7月	232	14	30	5	3,238	31	3,500	31	1,272	30	540	5,312	18,174
8月	193	9	46	5	1,929	26	2,168	28	1,185	30	473	3,826	22,000
9月	169	9	46	6	2,497	28	2,712	29	1,232	29	540	4,484	26,484
10月	635	11	49	4	2,648	30	3,332	31	1,062	30	481	4,875	31,359
11月	166	9	32	3	3,726	29	3,924	29	1,335	29	451	5,710	37,069
12月	116	10	60	6	3,376	27	3,552	27	932	27	188	4,672	41,741
1月	56	6	0	0	2,088	24	2,144	24	980	27	466	3,590	45,331
2月	607	9	55	4	3,048	26	3,710	26	1,035	27	450	5,195	50,526
3月	122	5	68	6	1,956	28	2,146	28	1,102	30	427	3,675	54,201
合計	2,910	110	484	50	33,771	322	37,165	327	12,544	337	4,492	54,201	
(昨年度)	(2,164)	(99)	(251)	(18)	(21,311)	(225)	(23,726)	(235)	(11,882)	(250)	(6,338)	(41,946)	

団体利用内訳

	団体利用		内訳													
			社会教育 団体		学校教育 団体		学校		大学等		モデル 団体等		公共団体		民間団体	
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数
4月	2,745	19	762	14	1,054	12	0	0	0	0	0	0	430	7	499	8
5月	2,678	26	953	20	1,176	18	60	1	0	0	0	0	295	6	194	26
6月	3,842	28	803	23	1,481	22	124	2	0	0	25	2	719	15	690	13
7月	3,238	31	870	23	722	15	20	1	0	0	36	1	830	19	760	21
8月	1,929	26	394	12	686	14	17	1	0	0	76	2	578	12	178	9
9月	2,497	28	562	21	765	13	8	1	0	0	30	1	678	12	454	17
10月	2,648	30	819	18	365	11	0	0	20	1	50	1	574	16	820	18
11月	3,726	29	1,494	23	746	15	22	1	0	0	65	4	996	16	403	13
12月	3,376	27	842	17	905	15	0	0	0	0	80	1	1,174	23	375	27
1月	2,088	24	429	15	484	13	0	0	0	0	0	0	807	11	368	10
2月	3,048	26	1,020	18	634	13	0	0	0	0	60	1	814	16	520	20
3月	1,956	28	1,026	18	94	7	0	0	0	0	0	0	151	6	685	14
合計	33,771	322	9,974	222	9,112	168	251	7	20	1	422	13	8,046	159	5,946	196
(昨年度)	(21,311)	(225)	(5,871)	(157)	(6,003)	(125)	(146)	(6)	(35)	(1)	(105)	(6)	(4,947)	(93)	(4,204)	(117)

5 令和4年度主催事業の実績

(1) 人 財 育 成

① 地域を支える人財の育成

パワフルAOMORI！創造塾

【趣 旨】

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

【概 要】

(1) 講座内容

回	期日	内容・講師等
1	7/23(土)	「出会う」 【開 講 式】 【講義・演習】「連携協働により地域をつくる」 講師 ヴィジョンリーパワー株式会社 代表取締役 戸田 達昭
2	8/20(土)	「見つめる」 【講義・演習】「地域活動に必要な条件整備」 講師 sannohe yell 代表 五十嵐 淳 【事 例 発 表】「パワフルAOMORI！創造塾から得たもの」 発表者 第29期卒業生 佐藤 智絵 第30、33期卒業生 高階 智晴 【実 践 活 動】「実践活動の実施に向けての話し合い」
3	9/17(土)	「広げる」 【講義・演習】「『オンライン』何をどう活用する？」 講師 NPO法人あおもりIT活用サポートセンター理事 デーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子 【実 践 活 動】「実践活動の実施に向けての話し合い」
4	10/1(土)	「試みる」 【実 践 活 動】「生涯学習フェア2022における実践活動」
5	10/29(土)	「深める」 【講義・演習】「人を巻き込み、場面を掴め」 講師 ものがたり法人FireWorks 代表取締役 林 弘樹
6	12/3(土)	「伝える」 【演 習】「アクションプラン発表会」 講師者 NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子 【閉 講 式】

(2) 場所

県総合社会教育センター

(3) 参加者

塾生21名

内訳：(年代別) 20代9名、30代6名、40代5名、50代1名

(地域別) 東青地域9名、西北地域5名、中南地域3名、上北地域2名、三八地域2名

(職種別) 会社員3名、自営業2名、団体職員3名、小・中学校教員2名、県職員1名、

市町村職員(地域おこし協力隊含む) 10名

元気青森人を創造するeラーニング推進事業

【趣 旨】

県民の誰もが、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材を配信するため、各種学習教材の管理を行うとともに、配信に要するサーバ機器等を維持管理する事業である。

【概 要】

- (1) インターネットによる学習教材の配信 (eラーニング)
 - ア 元気青森人PowerUpコンテンツ 計 92本 (アクセス件数: 1,369件)
 - (ア) はたらく心 92本
 - イ あおもり学インターネット講座 計 21本 (アクセス件数: 3,471件)
 - (ア) あおもりエトセトラ 6本
 - (イ) 青森県の先人 1本
 - (ウ) 青森県の山 7本
 - (エ) わがふるさと 7本
 - ウ あおもり子育てネット 計 34本 (アクセス件数: 15,449件)
 - (ア) 子育て動画 34本
- (2) サーバ機器等維持管理
- (3) センターホームページ再構築

② 次代を担う青少年の育成

青森で生きる未来人財育成事業

【趣 旨】

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われる子どものための活動に派遣して異年齢交流を図る事業である。

【概 要】

- (1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流実施のため、ボランティアやコミュニケーションについて扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数	動画再生回数
第1回	5/29(日) 14:00~15:00	「ボランティアを考える」 八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 学科長 吉田 守実	143名	306回
第2回	6/12(日) 14:00~15:00	「異年齢交流」 NPO法人日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹	146名	242回
第3回	6/26(日) 14:00~15:00	「コミュニケーションについて学ぶ」 青森教育カウンセラー協会 理事 尾崎 洋子	61名	278回
第4回	7/10(日) 14:00~15:00	「実践！ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部 主事 岩井 雄太郎	77名	182回
第5回	7/31(日) 14:00~15:00	「実践！レクリエーション」 青森市レクリエーション協会 会長 塩谷 彰宏	66名	127回

※受講者数は、講義視聴後アンケートを提出した者をさす。

(2) ボランティアチーム員の派遣

	派遣日	市町村	活動名	活動内容	派遣人数
1	6/3(金)	五戸町	子どもあそびの広場	小学生と工作活動	1名
2	8/18(木) 19(金)	弘前市	東部児童センター	小学生と交流活動	のべ2名
3	9/18(日)	弘前市	キッズハローワーク	お仕事体験の手伝い	2名
4	9/25(日)	八戸市	はちのへホコテン	魚釣り遊びの担当	2名
5	10/2(日)	五所川原市	すてっぶ子ども教室	小学生と一緒に運動	1名
6	10/9(日)	五所川原市	family café あづま〜る	子育てサロンの手伝い	2名
7	10/15(土)	青森市	県総合社会教育センター	映画鑑賞会の手伝い	2名
8	10/16(日)	青森市	青森献血ルーム	献血のボラティア	3名
9	10/29(土)	弘前市	キッズハローワーク	お仕事体験の手伝い	1名
10	11/20(日)	八戸市	こどもはっちミニフェス	魚釣り遊びの担当	2名
11	11/23(水)	青森市	子どもクッキング	クッキングの補助	1名
12	1/11(水)	弘前市	キッズハローワーク	カレー作りの補助	1名

大学生とカタル！キャリアサポート形成事業
【趣 旨】

規定の研修を修了した大学生が自身の体験談や生徒と直接対話するワークショッププログラムを企画・運営し、中学生・高校生には、今と将来の自分について考え、向き合う機会とすることで、互いに自らの夢や目標に向かう主体性が育まれるよう促し、キャリア形成を図る事業である。

【概 要】

- (1) 中学生及び高校生の意欲を引き出し、自分自身の見つめ直しにつながる、大学生ワークショップ「キャリアサポ」（高校企画）、「J r.キャリアサポ」（中学校企画）の実施
- ア 実施校数 18校（高等学校17校、中学校1校）
- イ 参加生徒数 2,043名（高校生1,990名、中学生53名）
- ウ 延べ参加大学生数 723名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	6/11(土)	県立弘前南高等学校	1学年(6クラス221名)	63名
2	8/19(金)	県立鶴田高等学校	3学年(2クラス29名)	24名
3	8/25(木)	県立三本木農業恵拓高等学校	1・2学年(5クラス138名)	46名
4	8/26(金)	県立六ヶ所高等学校	1・2学年(3クラス63名)	30名
5	8/29(月)	県立大湊高等学校	1学年(4クラス130名)	49名
6	8/30(火)	県立浪岡高等学校	1学年(1クラス26名)	23名
7	9/2(金)	県立大間高等学校	1・2学年(4クラス70名)	32名
8	9/5(月)	県立黒石高等学校	1学年(5クラス182名)	65名
9	9/7(水)	県立百石高等学校	1学年(3クラス100名)	43名
10	9/9(金)	県立青森南高等学校	2学年(5クラス158名)	60名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
11	9/13(火)	十和田市立十和田中学校	3学年(2クラス53名)	23名
12	9/14(水)	県立七戸高等学校	1学年(3クラス101名)	38名
13	11/19(土)	県立北斗高等学校	中間年次(8クラス106名)	38名
14	2/15(水)	八戸工業大学第二高等学校	1学年(9クラス200名)	46名
15	2/16(木)	柴田学園高等学校	1学年(5クラス128名)	42名
16	2/17(金)	五所川原商業高等学校	2学年(3クラス68名)	24名
17	3/2(木)	県立青森中央高等学校	1学年(5クラス196名)	48名
18	3/3(金)	県立柏木農業高等学校	2学年(4クラス74名)	29名

(2) オンラインワークショップの実施

ア オンライン企画 11/26(土) 参加大学生31名

※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

ア 大学生会議 4回(5/1(日)、7/10(日)、12/11(日)、3/10(金))

イ 進路指導関係者研修会(11/11(金)) 参加者 14校 14名(高校生スキルアッププログラムと共催)

講演 「地域と協働して探究的な学びを実現するために必要な3つのこと」

講師 岩手県大槌町教育専門官、認定NPO法人カタリバディレクター

菅野 祐太

事例紹介 発表者 県立七戸高等学校 実習教諭 橘 百代

発表者 県立大間高等学校 臨時講師 沢田 茉央

ウ 大学生対象研修会の開催

○基本研修(計6回) 受講者数 143名

○ワークショップ演習(計6回) 受講者数 147名

○中学校対応研修(計3回) 受講者数 23名

○応用研修(計4回) 受講者数 23名

高校生スキルアッププログラム推進事業

【趣 旨】

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

【概 要】

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

(2) 進路指導関係者研修会の実施

「進路指導関係者研修会」の開催(大学生とカタリ!キャリア形成サポート事業と共催)

ア 期日:11/11(金)

イ 場所:県総合社会教育センター

ウ 対象:県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員

エ 参加者：14校14名

オ 事業説明・情報交換：県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	認定証交付者数	奨励証交付者数
東青	8校	667名	6名	28名
西北	3校	448名	0名	0名
中南	3校	172名	2名	5名
上北	3校	40名	13名	4名
下北	3校	1,131名	3名	2名
三八	6校	1,966名	11名	21名
合計	26校	4,424名	35名	60名

(4) 県民カレッジとの連携

事業連携によるあおり県民カレッジ新規入学者数 2,251名

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【趣 旨】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【概 要】

- (1) 団体募集（高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体）
- (2) 団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	キャリアサポートクラブコンソーシアム（キャリアサポ連合）	大学	・「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」へのボランティア参加 ・スキル向上イベントの企画 ・県内大学生参加交流会の企画	622名
2	学生団体LINDEAL	高校	・青森県中高校生向けの無料イベントの企画、開催 ・SNSで課外活動等の情報発信 ・学生のプラットフォームとして機能	7名
3	L e s t a（レスタ）	高校 大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・小中学生対象の学習支援 ・発達障害等についての研修	20名

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校	青森市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	12名

(3) 団体の活動に対する支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供（生涯学習フェア等）
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認（「協力 青森県総合社会教育センター」など）

(2) 教育活動支援

① 地域学校協働活動の促進

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

【趣 旨】

学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

【概 要】

- (1) 期日：11/17（木）
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員
- (4) 受講者数：41名
- (5) 事業内容
 - ア 講義：「学校から見たコミュニティ・スクールの成果」
講師 CSマイスター 由利本荘市立西目中学校 校長 高野 睦
 - イ 演習：「目的を共有するための“熟議”」（グループワーク）
ナビゲーター CSマイスター 由利本荘市立西目中学校 校長 高野 睦

② 家庭教育支援の充実

あおり家庭教育力向上事業

【趣 旨】

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

【概 要】

- (1) あおり家庭教育アドバイザー養成講座
 - ア 場所：県内2地区 上北地区（三沢市国際交流教育センター）
西北地区（つがる市生涯学習交流センター「松の館」）
 - イ 回数：両地区6回
 - ウ 受講者数（1回以上の受講者数）：34名（上北地区20名、西北地区14名）

エ あおもり家庭教育アドバイザー登録者：17名（上北地区8名、西北地区9名）

オ 内容：家庭教育支援講座・演習（全6回：6～11月）

回	開催地区 開催日	内 容
1	上北地区 6/9(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
	西北地区 6/21(火)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
2	上北地区 7/7(木)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 7/21(木)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 青森県八戸児童相談所 こども相談第二課 課長 山田 憲子 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
3	上北地区 8/25(木)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人十和田NPO子どもセンター ハビタの 代表理事 中沢 洋子
	西北地区 8/27(土)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 特定非営利法人子どもネットワーク すてっぷ 代表理事 奈良 陽子
4	上北地区 9/5(月)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 9/7(水)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
5	上北地区 10/4(火)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 10/20(木)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員

回	開催地区 開催日	内 容
6	上北地区 11/2(水)	演習 「あおり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員
	西北地区 11/9(水)	演習 「あおり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員

(2) あおり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 実施方法：あおり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

イ 受講者数：第1回 9名 第2回 8名

ウ 内 容：今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

第1回 7/24(日) 9:30~12:15

講義「離乳食についてと幼児期の食と栄養」

講師 青森中央短期大学 食物栄養学科 准教授 森山 洋美

演習「あおり親楽プログラム」

進行役 あおり家庭教育アドバイザー 工藤 清子

第2回 9/17(土) 10:00~12:00

実践発表「県内の家庭教育支援の実践」

発表者 五戸町家庭教育支援チーム 五戸町家庭教育応援隊

代表 小宮 香

情報交換

(3) あおり親楽プログラム普及活動

「あおり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおり家庭教育アドバイザーを派遣する。

(4) あおり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

(5) あおり家庭教育アドバイザーの活用

家庭教育支援動画制作普及事業

[趣 旨]

子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とし、家庭教育の充実を図ることを目的として、子育て情報を動画により発信する事業である。

[概 要]

(1) 家庭教育支援動画制作普及委員会の設置

○委員

No.	氏 名	所 属 等
1	川 内 規 会	青森県立保健大学 教授
2	渡 部 泰 雄	青森県教育庁生涯学習課 課長
3	吉 田 圭 子	青森県子ども家庭支援センター 部長 (指定管理者 未来へつなぐネットあおもりグループ)
4	山 子 泰 典	青森県PTA連合会 会長
5	大 門 あすか	あおもり家庭教育アドバイザー

(2) 家庭教育支援動画制作普及委員会の開催

ア 6/7(火) 委託業者を審査・選定

イ 3/3(金) 次年度の動画制作に向けての意見交換

(3) 家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの制作(委託業者制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、以下の動画やCMを作成した。

ア マスクが子どもの発達に影響！?

イ 子育てで悩んだときは?

ウ ヤングケアラーの支援

エ お金の教育していますか?

オ ほめて育てるのススメ

カ 幼児期からの性教育

キ 「あおもり子育てネット」CM

(4) 家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの放映・配信

11月～1月の期間、RAB青森放送にて、土曜日13:55～14:00の時間帯で、全6話を放映した他、「あおもり子育てネット」CMを20回、番組宣伝用CMも適宜放映をした。

2月1日よりYouTubeへの配信を開始し、総合社会教育センターホームページにも反映した。YouTubeでの7秒間のCM広告では、2週間で21.2万回流し、広く普及・周知を行った。

(5) あおもり子育てネットのポスター・チラシの制作

あおもり子育てネットに関するポスター・チラシを制作し、県内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校、子育てに関する各関係機関、大型商業施設等へ11月下旬より順次発送し、周知した。

家庭教育相談事業

【趣 旨】

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

【概 要】

- (1) 対 象：乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族
- (2) 実施方法：電話相談 週3回 月・水・木曜日（祝日・年末年始を除く）13：00～16：00
メール相談 24時間受付
- (3) 場 所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制：家庭教育相談員、県総合社会教育センター教育活動支援課職員が対応
- (6) 相談件数：48件（電話相談30件、メール相談18件）

③ 地域によるキャリア教育支援の充実

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修

【趣 旨】

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子どもを育むことを目的として、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐコーディネーター等のスキルアップ及び人財の拡充を図るための研修を行う事業である。

【概 要】

- (1) 学校と地域・企業等をつなぐコーディネーターのスキルアップ研修の実施
 - ア 期日・場所：下北地区 6/15（水） むつ市中央公民館 受講者20名
西北地区 6/16（木） 五所川原市中央公民館 受講者24名
 - イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等
 - ウ 講師：特定非営利活動法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治
講演テーマ「多様な出会いの場を通じて、一人ひとりが主体性を伸ばせる、力強くしなやかな地域を創ろう」
- (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催
 - ア 期日：10/28（金）
 - イ 場所：県総合社会教育センター
 - ウ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員、一般県民等
 - エ 内容：あおりキャリア教育応援企業の表彰式、青森県企画政策部地域活力振興課による情報提供、講演の3部構成
 - オ 講師：株式会社教育と探求社 代表取締役社長 宮地 勘司
講演テーマ「変化の激しい時代において、人の育ちに必要なのは何か」
 - カ 参加者：100名
- (3) 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般
 - ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

- ・登録企業から報告された令和3年度実績の集計結果
出前授業：861件、職場見学：407件、職場体験・インターシップ：273件、その他427件
- イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録9社
- ・登録企業数：802社（令和5年3月現在）
- ウ 学校からの依頼に対する仲介 7件

(3) 市町村・団体支援

① 生涯学習・社会教育関係職員等の養成と資質向上

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

【趣 旨】

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

【概 要】

(1) センター研修（全6回）

	実施日	場 所	内 容	受講者
第1回	5/26(木) 10:00 ～15:00	県総合社会教育センター	講義「青森県の社会教育行政」 県生涯学習課・県総合社会教育センター職員 講義「社会教育概論」 八洲学園大学 教授 浅井 経子	20名
第2回	6/3(金) 10:00 ～15:00		発表「あおり家庭教育アドバイザーを活用した家庭教育支援の在り方」 県総合社会教育センター職員 講義「家庭教育支援の充実」 横浜創英大学 教授 中村 由美子	15名
第3回	7/26(火) 10:00 ～15:00		講義・演習「地域活動者のネットワークの構築」 弘前大学大学院 教授 内山 大史	10名
第4回	8/23(火) 10:00 ～15:00		発表「多様なニーズに応じた学びの機会の充実」 県総合社会教育センター職員 講義「生涯に渡って学ぶということ」 株式会社まちなかキャンパス 代表取締役 辻 正太	17名
第5回	9/28(水) 10:00 ～15:00		発表「私たちの取り組み」 令和3年度優良公民館受賞館等 講義「公民館事業を組み立てる」 弘前大学 准教授 越村 康英	37名
第6回	10/7(金) 10:00 ～15:00		演習「生涯学習のこれから」 講義「これからの生涯学習」 文教大学 准教授 青山 鉄兵	9名

(3) 地区研修

	実施日	場 所	内 容	受講者
東青	7/15(金) 13:00 ～16:00	県総合社会教育センター	講義・演習「ICTを活用した社会教育事業」 関東学院大学 教授 吉田 広毅	19名
西北	9/9(金) 13:30 ～16:10	五所川原市中央公民館	講義・演習「地域の特色を生かした魅力的な講座づくり」 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹	16名
中南	8/30(火) 13:30～ 16:00	平川市文化センター	講義・演習「家庭教育支援のために」 県総合社会教育センター職員 あおり家庭教育アドバイザー 工藤 貴子	31名
上北	5/20(金) 14:00 ～16:00	(オンデマンド型配信)	講義「活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成」 弘前大学 准教授 蒔田 純	動画再生回数 62回
下北	9/6(火) 13:30 ～16:00	むつ市中央公民館	講義・演習「事業の企画力の向上」 Mr.マサックこと工藤 貴正	18名
三八	9/26(月) 13:30 ～15:50	階上町道仏交流センター	講義「誰ひとり取り残されない社会の仕組みづくり」 ～子ども食堂の取り組みを通して～ 認定特定非営利活動法人 インクルいわて 理事長 山屋 理恵	24名

ボランティア関係機関職員養成講座

【趣 旨】

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的として、本県の社会参加活動の推進及び充実に向けた対話・参加型のディスカッションを開催する事業である。

【概 要】

- (1) 「地域に求められるこれからのボランティア」をテーマとした講座の実施

ア 期 日：6/30(木) 13:00～15:30

イ 講 師：特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会

副代表理事 青山 織衣

ウ 開催方法：オンライン受講、スクリーン会場による受講

エ 受講者数：オンライン受講105名、会場受講24名、計129名

- (2) 「気軽に始められるボランティア活動とは」をテーマとした講座の実施

ア 期 日：10/8(土) 10:00～12:00

イ 講 師：特定非営利活動法人SEEDS NETWORK 理事長 大西 晶子

ウ 開催方法：オンライン受講、会場受講

エ 受講者数：オンライン受講26名、会場受講6名、計32名

② 学習情報等の充実

学習情報の収集・提供事業

[趣 旨]

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

[概 要]

(1) 学習情報の収集・提供

4情報（学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材）の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	1,715件
	指導者人材情報	136件
	団体・サークル情報	144件
	視聴覚教材情報	6,156件
	計	8,151件

・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,043回
	指導者人材情報	696回
	団体・サークル情報	693回
	視聴覚教材情報	486回
	計	2,918回

・ありすネット検索回数	学習機会情報	1,097回
	指導者人材情報	595回
	団体・サークル情報	540回
	視聴覚教材情報	272回
	計	2,504回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

青森県視聴覚ライブラリー運営事業

[趣 旨]

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

[概 要]

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 7本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 240本

(4) 生涯学習活動支援

① 県民の学習活動への支援

あおもり県民カレッジ運営業務

[趣 旨]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[概 要]

(1) あおもり県民カレッジの運営全般

ア 学生募集（ポスターやパンフレットの作成）

(ア) 各種講座・イベント・映画鑑賞会の開催時に募集

(イ) あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」、ホームページ活用による募集

イ 学生対応

(ア) 入学受付

(イ) あおもり県民カレッジ学生数 29,122名（新規2,442名）

・教養学習コース 24,764名（新規2,412名）

・子どもカレッジコース 4,358名（新規30名）

(ウ) 単位認定・評価サービス

・認定証交付数（教養学習コース 175名、子どもカレッジコース 75名）

・奨励賞交付数（教養学習コース 24名、子どもカレッジコース 21名）

※移行・退会の処理あり

ウ 学友会活動支援

エ あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

(ア) 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼

連携機関数：574機関（体験施設120か所を含む）

(イ) 教育事務所訪問により、あおもり県民カレッジの取組について説明

(ウ) 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進

(2) 普及啓発事業

ア (ア) 子ども向けイベント「夏休み子どもイベント2022」の開催（8/11（木・祝）実施）

参加者：42名

オープニング（青森大学三味線部による演奏）

マジックショー

ものづくり体験（①糸掛け曼荼羅②木工ペン立て から選択）

「冬のキッズフェア」の開催（2/11（土・祝）実施）

参加者：454名

オープニング（歌とダンス披露）

みんなが先生！ゼミナール

イグルーをつくろう

世界でたった一つの宝物をつくろう

冬こそ体を動かそう

おいしく食べて冬を乗り越えよう

- (イ) 生涯学習フェアの開催 (10/1 (土) 実施)
 - 参加者：150名
 - オープニング (市内高校生徒による手話コース)
 - 認定証交付式
 - 公開授業 (英語・国語)
 - 体験ブース (声優体験、フラワーアレンジメント、どんぐりごま他)
- イ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の制作発行 (年6回)
- ウ 映画鑑賞会開催 (毎月)
- エ ホームページによる情報提供
 - 地域キャンパス講座、ボランティア講師による自主講座、まなびサポーター募集等の情報掲載と更新 (https://www.manabi-aomori.com)
- (3) 学習相談・学習情報提供事業
 - ア 学習相談の実施
 - 窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付件数 46件
 - イ 学習機会情報の収集及び提供
 - (ア) 学習機会情報登録件数1,733件
 - (イ) 連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
 - ウ A T V 「いきいき健やか事業」との連携などテレビ、ラジオを通して講座情報や県民カレッジPRを放送
- (4) 学習機会提供事業
 - ア 地域キャンパス講座 (県内6地区) 開催
 - (ア) 開催数：35講座 (内訳：東青7、西北10、中南6、上北2、下北5、三八5)
 - (イ) 受講者数 延べ864名
 - イ 社会参加活動支援
 - (ア) ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催
 - ※講師登録数 124名
 - ※講座数 63講座 受講者数 延べ514名
 - (イ) ボランティア活動証明書の発行：91件
 - (ウ) 各種講座やイベントにおける運営ボランティアの活用
 - 活動者数：延べ65名
 - (エ) まなびサポーターの募集

② 県民の社会参加活動への支援

インフォメーションプラザありすの運営

【趣 旨】

インフォメーションプラザありす（学習情報サービス室）は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスを行う事業である。

【概 要】

- (1) 窓口対応時間 9：00～19：00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ラーニング・スペース、自主学習室の管理
- (4) ポスター、チラシの配架
- (5) 各種講座、イベント等の学習成果の展示
 - ア 2F展示スペース（「画伯のたまご」、ギャラリーありす、コリドー展示室）、1Fロビーへの作品展示
 - イ 季節ごとの館内装飾と展示
- (6) コロナ禍においての座席の配置換えや消毒作業の実施

4章 青森県総合学校教育センター

1 施設・設備

所在地 青森市大字大矢沢字野田80-2

敷地面積 40,000㎡ 建物敷地 11,484㎡ 多目的広場等 13,285㎡ その他 15,231㎡

建物（鉄骨・鉄筋コンクリート造、4階建、他にピロティ及び塔屋）

延床面積 15,439㎡（管理研修棟 10,210㎡ 大研修室棟 1,113㎡
体育館棟 1,342㎡ 食堂・宿泊棟 2,774㎡）

管理研修棟（10,210㎡）

ピロティ階 駐車場（洪水時の遊水施設）

1 階（2,837㎡）

【管理】 所長室、職員室、応接室、講師室、会議室等

【特別支援教育・管理】 相談室、プレイルーム、検査室、職員室等

2 階（2,359㎡）

【研修・一般】 中研修室（80人）、第1～第3研修室（32人）、
第4～第6研修室（30人）、第7研修室（20人）等

【共用】 図書資料室

【教育相談・管理】 相談室、プレイルーム、学びの部屋、職員室等

3 階（2,351㎡）

【研修・情報教育】 応用技術研修室（40人）、情報教育研修室1（30人）、情報教育研
修室2（32人）、情報教育研修室3（24人）、CAD・CG研修室
（76人）、産業教育研修室（76人）等

4 階（2,498㎡）

【研修・実験実習】 音楽・美術・技術・食物・被服・物理・化学・有機化学・生物・
地学研修室、初等理科準備室等
プラネタリウム（26席＋補助14席）
走査電子顕微鏡（35～20万倍まで）

塔屋（165㎡）

【研修・実験実習】 天体望遠鏡（60cm反射望遠鏡）

大研修室棟（1,113㎡）

大研修室座席（410席）、控室、ロビー等

体育館棟（1,342㎡）

アリーナ（バスケットボールコート2面又はバレーボールコート2面又はバドミントン
コート6面）、器具庫、更衣室（男女別）、体育準備室等

食堂・宿泊棟（2,774㎡）

【1階】 食堂（収容椅子席133人、和室84人）

【2～4階】 宿泊室（一般用84室、身障者用1室、ゲスト用1室）

多目的広場等（13,285㎡）

駐車場

500台（ピロティ階220台、屋外280台）

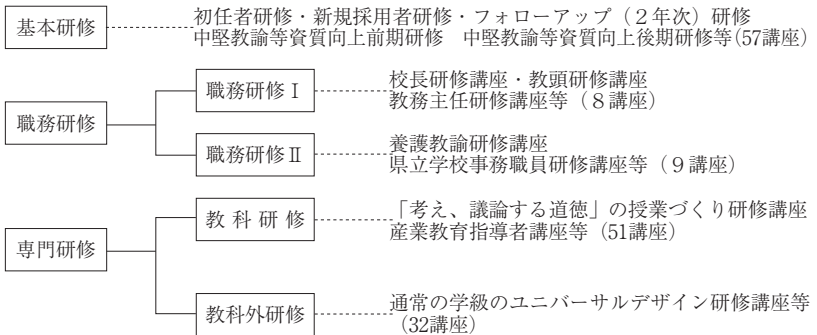
2 運営の方針

青森県総合学校教育センターは、子どもたちの未来を創るため、所員の心と力を結集して、学校を支援します。

3 研修事業

(1) 概要

青森県教職員研修体系に基づき、教職員の専門性を高め、教育活動の充実に資する各種の研修を行った。



（計157講座）

(2) 実績

① 基本研修

ア 初任者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅰ	令和4年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小49	5/10～5/11	・初任者に期待する ・信頼関係を築き上げる学級経営への取組 ・ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営 ・望ましい集団へと変容を促す学級担任の取組 ・学級経営案から考えるこれまでとこれからの学級経営 ・社会人としてのマナー 講師：office eyelet 代表 石岡 知華
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅱ	令和4年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小49	9/1	・小学校における生徒指導とは ・教師のメンタルヘルスについて ・教育相談の進め方 ・危機管理を通じた学級経営の見直し
初任者研修 （小学校） 学級経営基礎講座Ⅲ	令和4年度初任者 研修（小学校）対 象教諭	小49	1/19	・学級経営の評価と改善 ・学級経営の評価と改善策 ・2年目に期待すること

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座Ⅰ	令和4年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小49	6/10	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基礎・基本 ・「主体的な学び」の授業を目指して
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座Ⅱ	令和4年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小49	11/2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が協力し、実践する学級活動の展開 ・情報モラルの指導について ・児童がよりよく生きるための道徳科の展開
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座Ⅰ	令和4年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中31	5/9	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の意義とねらい ・研修におけるICT活用 ・学級経営を支える「道徳科」の授業の在り方 ・生徒や保護者に応じた教育相談の進め方 ・教師のメンタルヘルスについて
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座Ⅱ	令和4年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中31	8/25	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の進め方 ～生徒理解の深化のために～ ・一人一人を大切にしている学級経営 ～いじめ・不登校への対応～ ・一人一人を大切にしている学級経営 ～特別支援教育の視点から～ ・学級経営を核とした学級経営
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅰ	令和4年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中31	6/8～6/9	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり ・授業改善に向けて ～2か月の授業実践を振り返って～ ・社会人としてのビジネスマナー ～魅力ある教師になるために～ 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子 ・単元計画の作成 ～主体的・対話的で深い学びを目指す～ ・単元計画の作成 ～学習評価から授業を考える～
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅱ	令和4年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中31	10/13	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の果たす役割 ・総合的な学習の時間の進め方 ・教科指導におけるICT活用
初任者研修 (中学校) 教科等教育基礎講座Ⅲ	令和4年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中31	11/16	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルの指導 ・授業実践を振り返って ～教科等教育基礎講座Ⅰの振り返り～ ・2年目に期待すること
初任者研修 (高等学校) 教職基礎講座	令和4年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	4/14～4/15	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子 ・初任者研修ガイダンス ・生徒理解への取組 ・温かい人間関係づくり ・特別な配慮を要する生徒への対応 ・初任者に期待すること
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅰ	令和4年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	5/12～5/13	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で身に付けさせる資質・能力 ・資質・能力を育む授業づくり ～単元指導評価計画の作成を通して～

講座名	対象	修了人数	期日	内容
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅱ	令和4年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	6/16～6/17	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業づくり ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくり ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ・資質・能力を育む授業の工夫
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座Ⅲ	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	11/10～11/11	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業の振り返り ～授業改善に向けて～ ・資質・能力を育む学習指導と評価の工夫
初任者研修 (高等学校) ホーム ルーム経営 基礎講座	令和4年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	7/28～7/29	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・不登校と問題行動への理解と対応 ・特別活動におけるホームルーム活動 ・ホームルーム担任としての在り方 ・ホームルーム経営目標の作成
初任者研修 (高等学校) 協力校 研修	令和4年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	10/14,21, 22,28,29	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業について ・参観授業について
初任者研修 (高等学校) まとめ 研修	令和3年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高25	1/6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体で進める道徳教育 ・探究的な学びに向けて ・学校において初任者に期待すること ・1年間の研修を振り返る ～学び続ける教員となるために～
初任者研修 (特別支援 学校) 教職 基礎講座	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭	特36	4/14～4/15	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子 ・初任者に期待する ・青森県の特別支援教育 ・効果的な協議・発表の仕方 ・初任者研修を終えて ・新たに教員になって
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅰ	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭	特36	5/26～5/27	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の教育課程 ・自立活動の基礎・基本 ・障害特性に応じた指導 ・個別の指導計画の作成と活用 ・障害のある幼児児童生徒の実態把握と目標設定
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅱ	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭	特36	6/30～7/1	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が主体的・対話的で深い学びに向かう 授業づくり ～教科指導の基礎・基本～ ・特別支援学校における授業実践 ・特別支援学校における授業づくり① ～教科別の指導・各教科等を合わせた指導 の基礎・基本～ ・特別支援学校における授業づくり② ～ICTの活用～ ・一人一人のニーズに応じた指導① ～授業づくり～
初任者研修 (特別支援 学校) 特別 支援教育指 導法基礎講 座Ⅲ	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校) 対象教諭	特36	12/1～12/2	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価の基本的な在り方 ・一人一人のニーズに応じた指導② ～評価と改善～ ・小・中学校等における特別支援教育 ～インクルーシブ教育システムの観点から～

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
初任者研修 (特別支援 学校)学級 経営基礎講 座	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特36	4/25	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の基礎・基本 ・保護者との関係づくり ・学級経営で大切なこと
初任者研修 (特別支援 学校)生徒 指導基礎講 座	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特36	6/9～6/10	<ul style="list-style-type: none"> ・発達を踏まえた幼児児童生徒の理解 ・特別支援教育における教育相談 ・生徒指導上の課題への対応① ～情報モラル～ ・生徒指導上の課題への対応② ～いじめ・不登校～ ・発達障害の理解と支援 ・青森県発達障害者支援センターの役割につ いて 講師：青森県発達障害者支援センター センター長 町田 徳子 ・安心・安全な生活を支える児童相談所の機能 講師：青森県中央児童相談所 心理判定課長 石田 大地 ・生徒指導における幼児児童生徒理解
初任者研修 (特別支援 学校)まとめ 研修	令和4年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特36	1/6	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの教員に期待すること 講師：県立弘前第一養護学校 前校長 古木名 博 ・1年間の研修を振り返って ～実地研修、校外研修をとおして～

イ 新規採用者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
新規採用養 護教諭研修 I	令和4年度採用養 護教諭	小3 中3 特1	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の現状と課題 ・養護教諭に関する法規と職務内容 ・スクールカウンセラーとの連携 ・感染症・食中毒の知識 ・養護教諭が行う救急処置活動 講師：女子栄養大学 教授 遠藤 伸子 ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子
新規採用養 護教諭研修 II	令和4年度採用養 護教諭	小3 中3 特1	7/28～7/29	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が行う健康相談の考え方と進め方 ・学校管理下における災害 講師：独立行政法人日本振興センター 審査第二係長 浅沼 久美子 主任 小関 伽奈 ・発達障害の理解と対応 ・保健室経営について ・心肺蘇生法の理解と実習 ～様々な状況への対応～ 講師：八戸赤十字病院 看護師長 佐藤 千雪 日本赤十字社青森県支部 課長 山野内 博見 係長 船橋 訓子 主事 館 篤
新規採用養 護教諭研修 III	令和4年度採用養 護教諭	小3 中3 特1	12/20～12/21	<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育の工夫 ・学校における健康教育の進め方 ～健康状態の評価、健康問題の原因と分析 と対応、健康診断の事前・事後措置～ ・ネットトラブルへの対応 ・養護教諭のためのICT活用 ・保健室経営について ～学級(HR)担任との連携～ ・養護教諭のメンタルヘルス

講座名	対象	修了人数	期日	内容
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅰ	令和4年度採用栄養教諭・学校栄養職員	中1 特1	5/12～5/13	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の歴史 ・学校教育の中の栄養教諭及び学校栄養職員の役割と職務内容 ・栄養教諭・学校栄養職員が行う食に関する指導 ・学校給食物資について ・衛生管理の基本 ・栄養教諭・学校栄養職員が行う食に関する指導の実際 ・職場のメンタルヘルス
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅱ	令和4年度採用栄養教諭・学校栄養職員	中1 特1	6/2～6/3 一部オンライン 講義	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における衛生管理 ・学校給食の管理と実務(1) ・学校給食における地場産物の活用 ・学校給食の管理と実務(2) ・給食業務の実際 ・管理運営上の諸問題 ・教科等における食に関する指導の実際
新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修Ⅲ	令和4年度採用栄養教諭・学校栄養職員	中1 特1	7/28～7/29	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食施設の衛生管理 講師：青森大学 教授 川村 仁 ・簡易検査法 講師：青森大学 教授 川村 仁 ・揭示資料の作成と授業におけるICTの利活用 ・教科等における食に関する指導の実際 ～模擬授業とその検討会～ ・これからの栄養教諭・学校栄養職員に求められるもの
新規採用公立学校事務職員研修	令和4年度採用の公立学校事務職員(臨時事務職員を含む)	小4 中5 高5 特1	5/24～5/25	<ul style="list-style-type: none"> ・服務について ・福利厚生制度について ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子 ・学校における事務職員としての役割 ・旅費制度について ・給与制度について
新規採用県立学校実習助手研修(前期)(後期)	令和4年度採用の県立学校実習助手	高1 特1	前期 4/14 後期 9/1	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 NPO法人いわてキャリアコンサルタント研究会 理事 大阪 彰子 ・実習助手の職務について <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の視点に立った生徒理解への取組 ・実習助手の職務と課題について ・学校における人間関係づくり・役割について ・私の実践発表 ・ICT機器の接続 ・実習時における安全管理について
幼児教育基礎講座Ⅰ	幼稚園教諭、保育教諭	その他 5	5/20	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県の幼児教育 ・特別な配慮を要する幼児との関わり方 ・健やかな成長のための環境と習慣づくり 講師：千葉幼稚園 園長 岡本 潤子

講座名	対象	修了人数	期日	内容
幼児教育基礎講座Ⅱ	幼稚園教諭、保育教諭	その他 6	9/30	<ul style="list-style-type: none"> ・素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動 ・幼児期における発達の理解と幼小連携 講師：弘前大学 准教授 武内 裕明 <ul style="list-style-type: none"> ・保育の展開と援助の在り方 ～教材づくりを通して～ 講師：青森明の星短期大学 准教授 高橋 多恵子

ウ 経験者研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
小・中学校フォローアップ（2年次）研修講座（前期）（後期）	令和3年度初任者研修（小学校）（中学校）対象教諭前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小53 中27	前期6/1 後期12/16	<ul style="list-style-type: none"> ・教員2年目としての心構え ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～ ・学びと社会を関連付けるキャリア教育の実際 ・学習指導を振り返る ～2年目の学習指導プラン作成～ ・実践を振り返って ・カリキュラム・マネジメントの実際
高等学校フォローアップ（2年次）研修講座	令和3年度初任者研修（高等学校）対象教諭前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	高38	5/17～5/18	<ul style="list-style-type: none"> ・学び続ける教員を目指して ・創意を生かしたホームルーム経営 ・ホームルーム担任のための教育相談 ～保護者との連携を深めるために～ ・ホームルームにおける課題解決に向けて ・学校安全と危機管理 講師：日本災害医学会 災害セミナーインストラクター 吉川 靖之 <ul style="list-style-type: none"> ・思考力を引き出す教科指導
特別支援学校フォローアップ（2年次）研修講座	令和3年度初任者研修（特別支援学校）対象教諭前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	特31	9/21～9/22	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づく授業改善 講師：東北福祉大学 教授 大西 孝志 <ul style="list-style-type: none"> ・授業検討 ・これからの教員に求められること
養護教諭フォローアップ（2年次）研修講座	前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は終了していない者	小10 中2 高4 特1	10/29	<ul style="list-style-type: none"> ・自校の保健室経営について
栄養教諭・学校栄養職員フォローアップ（2年次）研修講座	令和3年度新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修対象者前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小1 特1	7/1	<ul style="list-style-type: none"> ・給食業務の実際 ・学習指導の実際 ・給食指導の実際 ・給食業務の実際 ・管理運営上の諸問題 ・児童生徒の心理
中堅教諭等資質向上前期研修（小・中学校）共通講座	令和4年度中堅教諭等資質向上研修（前期）対象者（小・中学校）	小55 中23	7/5～7/6	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の理解と指導について振り返る ・“児童生徒が育つ”働きかけ 講師：日本大学 文理学部 教授 藤平 敦 <ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科 道徳 ～学習指導要領と授業づくり～ ・特別の教科 道徳の授業づくり ・後期中堅教諭までの研修プランを考える ・中堅前期教諭に期待すること

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中堅教諭等 資質向上前期 研修(高等学校)共 通講座Ⅰ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (高等学校)	高62	5/23	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～ ・地域との連携・協働を生かしたキャリア教育 ・いじめのない学校づくり ～情報モラル教育～ ・いじめ・不登校のない学校づくり ～温かいホームルームづくり～ ・保護者との連携について
中堅教諭等 資質向上前期 研修(高等学校)共 通講座Ⅱ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (高等学校)	高62	9/13	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学校教育を考える ～生徒の主體的・対話的で深い学びのために～ ・「主體的・対話的で深い学び」の視点で行 う授業改善
中堅教諭等 資質向上前期 研修(特別支援学 校)共通講 座Ⅰ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (特別支援学校)	特25	5/24	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～ ・関係機関との連携 ・主體的・対話的で深い学びとキャリア発達 支援 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文
中堅教諭等 資質向上前期 研修(特別支援学 校)共通講 座Ⅱ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (特別支援学校)	特25	6/15	<ul style="list-style-type: none"> ・主體的・対話的で深い学びの実現に向けた 授業改善 講師：上越教育大学大学院 教授 村中 智彦 ・メンティーチャーとしてのチームティーチング ・授業を見直す
中堅教諭等 資質向上前期・後 期研修(養護教 諭)Ⅰ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (養護教諭) 令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (養護教諭)	小11 中高9 特2	6/23～6/24	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の今日的課題 ・養護教諭に関する法規と職務内容 ・救急処置の理論・応用 講師：日本赤十字社青森県支部 課長 山野内 博見 係長 船橋 訓子 主事 館 篤 赤十字救急法指導員 三浦 一郎 大坂 美保 ・保健教育の在り方／保健教育の実際 講師：鎌倉女子大学 講師 藤原 昌太
中堅教諭等 資質向上前期・後 期研修(養護教 諭)Ⅱ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (養護教諭) 令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (養護教諭)	小11 中高9 特2	11/24～11/25	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生と保健室における薬剤管理 講師：青森大学 教授 川村 仁 ・中堅養護教諭の役割と資質能力の向上 講師：神奈川県立保健福祉大学 准教授 高橋 佐和子 ・ネットトラブルへの対応 ・スクールソーシャルワーカーとの連携 ・養護教諭として身につけたいマナー 講師：Office Rinko 代表 工藤 倫子
中堅教諭等 資質向上前期・後 期研修(栄養教 諭・学校栄養 職員)Ⅰ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (前期)対象者 (栄養教諭・学校 栄養職員) 令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者 (栄養教諭・学校 栄養職員)	中2	6/23～6/24	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の今日的課題 ・歯と口に関する基礎知識 ・衛生管理責任者の役割 ・保健教育の在り方 ・保健教育の実際 講師：鎌倉女子大学 講師 藤原 昌太

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中堅教諭等 資質向上前期・後期研修 (栄養教諭・学校 栄養職員)Ⅱ	令和4年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(栄養教諭・学校栄養職員) 令和4年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(栄養教諭・学校栄養職員)	中2	10/4～10/5	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等における食に関する指導 ～模擬授業とその検討会～ ・栄養教諭・学校栄養職員の食に関する指導の在り方と進め方 ・食に関する指導の充実 ・児童生徒の心理 ・給食業務の実際 ・アレルギー対応食の取組 ・健康教育と栄養教諭・学校栄養職員の役割
中堅事務職員 資質向上前期・後期研修(小・中学校)	平成23年度及び平成29年度に公立学校(小・中学校)の事務職員として採用された者受講を希望する公立学校(小・中学校)の事務職員(臨時事務職員を含む)	小6	9/8	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教職員の身分制度と服務 ・学校における情報公開と個人情報 ・これからの学校組織と事務職員の役割 ～教職員等中央研修の伝達を通して～ ・学校における事務職員の役割 ～これまでの振り返りと今後の方策について～
中堅教諭等 資質向上後期研修(小・中学校)スクールマネジメント講座	令和4年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小23 中22	7/7～7/8	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教諭に必要なマネジメント意識 講師：上越教育大学大学院 教授 安藤 知子 ・協働で取り組む職場のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・協働で取り組む特別支援教育 ・協働で取り組む危機管理 ・協働で取り組む校務分掌 ・PDCAサイクルをもとにした授業実践に向けて
中堅教諭等 資質向上後期研修(小・中学校)授業実践力アップ講座	令和4年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小23 中22	12/15～12/16	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを基にした授業の自己評価 ・同僚性を発揮した授業改善のために ・PDCAサイクルを基にした授業改善に向けて ・同僚性を高める実践に向けて ～2年目教員との切磋琢磨を通して～ ・中堅後期研修後に向けたキャリアデザイン ・中堅後期教員に期待すること
中堅教諭等 資質向上後期研修(高等学校)共通講座Ⅰ	令和4年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(高等学校)	高59	6/28～6/29	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの教育の担い手として ～カリキュラム・マネジメント～ 講師：國學院大學 教授 田村 学 ・教職員の服務規律について ・組織で取り組むメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・学校改善に向けた組織的な取組 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 教授 三戸 延聖 教授 甲田 隆 教授 吉田 美穂 ・温かい人間関係づくり ～保護者・同僚との接し方～ ・配慮を要する生徒への組織対応

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中堅教諭等 資質向上後 期研修（高 等学校）共 通講座Ⅱ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 （後期）対象者 （高等学校）	高56	8/26	・生徒を生かす学習指導 講師：教育コンサルタント 盛岡白百合学園講師 （元花巻北高等学校長）下町 壽男 ・資質・能力を育む学習指導と評価の工夫 ・資質・能力を育む授業づくりに向けて
中堅教諭等 資質向上後 期研修（高 等学校）共 通講座Ⅲ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 （後期）対象者 （高等学校）	高51	12/9	・授業改善に向けた取組 ・後期中堅教諭に期待すること
中堅教諭等 資質向上後 期研修（特 別支援学 校）共通講 座Ⅰ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 （後期）対象者 （特別支援学校）	特30	6/28～6/29 一部オンライン 講義	・これからの教育の担い手として ～カリキュラム・マネジメント～ 講師：國學院大學 教授 田村 学 ・教職員の勤務規律について ・組織で取り組むメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・学校改善に向けた組織的な取組 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 教授 三戸 延聖 教授 甲田 隆 教授 吉田 美穂 ・本県特別支援教育の現状と課題 ・中堅教員としての資質向上に向けて
中堅教諭等 資質向上後 期研修（特 別支援学 校）共通講 座Ⅱ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 （後期）対象者 （特別支援学校）	特31	9/7	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた 組織的な授業改善 講師：北海道教育大学函館校 教授 北村 博幸 ・自校の教育活動についての課題の分析と改 善策の検討
中堅教諭等 資質向上後 期研修（特 別支援学 校）共通講 座Ⅲ	令和4年度中堅教 諭等資質向上研修 （後期）対象者 （特別支援学校）	特29	12/9	・障害のある生徒の自立と社会参加 講師：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 榎本 容子 ・関係機関との連携・協働 ・後期中堅教諭として期待すること

② 職務研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
校長研修講 座（前期） （後期）< 指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の新任教長 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	小41 中7 高13 特5	前期 4/26 後期 7/26	前期 ・新任校長に期待する ・学校における情報公開 ・個人情報保護 ・私の学校経営（校種別） ・学校課題への取組（校種別） 後期 ・組織の危機管理対策とリーダーシップのあり方 ～学校組織の危機管理対応の失敗事例からの教訓～ 講師：青森中央学院大学 教授 大泉 常長 ・子どもがより良く育つ学校づくり ～教師力・学校力の向上を目指して～ 講師：國學院大學 教授 杉田 洋

講座名	対象	修了人数	期日	内 容
教頭研修講座（前期）＜（後期）指定＞	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の新任教頭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小33 中16 高9 特6	前期 5/9 後期 8/29	前期 ・新任教頭・新任事務長に望むこと ・教育法規について ・学校におけるリスクマネジメント 講師：有限会社 エンカツ社 代表取締役社長 宇於崎 裕美 後期 ・教頭の職務と役割 後期 ・学校組織を活性化させるためのマネジメント 講師：兵庫教育大学大学院 教授 浅野 良一
県立学校事務長研修講座（前期）＜（後期）指定＞	県立学校の新任事務長・事務長心得 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	高4 特5	前期 5/9 後期 8/29	前期 ・新任教頭・新任事務長に望むこと ・教育法規について ・学校施設の管理について ・情報公開・個人情報保護について 後期 ・事務長の職務と役割について ・学校事務室経営について
教務主任研修講座＜一部指定＞	（指定）新任教務主任 （希望）教務主任	小24 中17 高14 特8	5/24	・教務主任に期待する ・教育活動と教育法規について ・教務主任の職務について（講義） ・教務主任の職務について（協議）
学年主任研修講座＜一部指定＞	（指定）新任学年主任 （希望）学年主任、その他学年経営の中核となる教員	小6 中25 高27 特7	5/31	・学年主任の役割とは ・組織経営とミドルリーダー 講師：日本大学 教授 藤平 敦
保健主事研修講座＜一部指定＞	（指定）新任保健主事 （希望）保健主事及び学校保健活動の中核となる教員	小8 中4 高11 特7	5/19	・保健主事の職務と役割 ・学校保健活動の実践～健康教育実践研究支援事業指定校として～ ・保健主事としての取組について
生徒指導主任・主事研修講座＜一部指定＞	（指定）新任生徒指導主任・主事 （希望）生徒指導主任・主事、その他生徒指導の中核となる教員	小16 中15 高14 特3	4/28	・県内の生徒指導上の諸課題について ・児童虐待の現在（いま）～学校対応の基本と最近の話題～ 講師：青森県公認心理士・臨床心理士協会 顧問 関谷 道夫 ・生徒指導の役割連携の推進に向けて －生徒指導主事に求められる具体的な行動－
中学校進路指導担当者研修講座	中学校の進路指導主事及び進路指導に関わる教員	中16 特1	5/27	・進路指導の考え方と進路指導主事の役割 ・自校における進路指導の課題と対策 ・自校における進路指導の進め方
校内研修担当者研修講座（前期）＜（後期）指定＞	小学校、中学校の新任研修主任特別支援学校の新任研修担当教員上記以外で希望する教員	小17 中13 特5	前期 5/19 後期 8/19	前期 ・研修主任の職務・校内研修の充実 ・活性化・本校の校内研修 後期 ・カリキュラム・マネジメントと校内研修 講師：甲南女子大学 教授 村川 雅弘 ・1学期の振り返りと今後の対策

講座名	対象	修了人数	期日	内容
道徳教育推進教師研修講座	小学校、中学校の新任道徳教育推進教師特別支援学校の新任道徳教育担当教員上記以外で希望する教員	小9 中10 特8 その他1	6/14～6/15	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育推進教師の役割と取組 ～コーディネーター・アドバイザーとして～ 我が校の道徳教育 ～学校全体で取り組む道徳教育の実際～ 自校の特色を生かした道徳教育展開プランづくり 学校の特色を生かした道徳教育 ～道徳教育をマネジメントする～ 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 浅見 哲也
特別支援教育コーディネーター研修講座＜一部指定＞	(指定)教頭以外の新任特別支援教育コーディネーター (希望)新任以外の特別支援教育コーディネーター (希望)特別支援教育コーディネーターの教頭	小11 中14 高4 特8	6/7	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育コーディネーターの役割 特別支援教育コーディネーターの実践 事例検討の進め方
養護教諭研修講座	養護教諭・養護助教諭	小4 中6	9/7～9/8	<ul style="list-style-type: none"> 中央研修会伝達 新型コロナウイルス感染症に伴う新しい健康相談活動の在り方 講師：女子栄養大学 教授 大沼 久美子 SOSの出し方教育の実践 講師：中央大学 客員研究員 高橋 聡美
食育研修講座	小学校、中学校、特別支援学校の教諭、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員	小1 中4 特1	8/15	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動における食育の授業づくり 子どもの食育活動の充実に向けて 講師：文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 食育調査官 山上 望
県立学校事務職員研修講座	県立学校事務職員(臨時事務職員を含む)	高9	10/4	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務条件について 学校における災害対応 講師：日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見 就学支援金の手続きについて
県立学校臨時講師等研修講座Ⅰ	令和3年度に採用された県立学校の臨時講師・臨時養護助教諭(本研修講座当日において勤務している者)	高16 特12	4/12～4/13	<ul style="list-style-type: none"> 教職員としての心構え 教職員の服務規律について 学校安全について 生徒理解について 教職員として知っておきたいこと ～情報セキュリティについて～ ～特別支援教育について～ 教科指導について 教育課程・特別支援教育について 各教科における指導について 指導上の課題とその対応について
県立学校臨時講師等研修講座Ⅱ	令和4年度に採用された県立学校の臨時講師・臨時養護助教諭(本研修講座当日において勤務している者)	高2 特5	10/11～10/12	<ul style="list-style-type: none"> 教職員としての心構え 教職員の服務規律について 学校安全について・生徒理解について 教職員として知っておきたいこと ～情報セキュリティについて～ ～特別支援教育について～ 教科指導について 教育課程・特別支援教育について 各教科における指導について 指導上の課題とその対応について

講座名	対象	修了人数	期日	内容
寄宿舎指導員研修講座	寄宿舎指導員臨時 寄宿舎指導員	特11	7/27	・教職員の服務について ・身に付けさせたい社会生活力 講師：青森大学 教授 舟木 昭夫 ・寄宿舎指導員としての私の実践 ・寄宿舎における指導・支援

③ 専門研修
ア 教科研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
「考え、議論する道徳」の授業づくり研修講座	小学校、中学校、 高等学校及び特別 支援学校教員	小13 中10 その他 2	10/31～11/1	・「考え、議論する道徳」の実現に向けて ・「考え、議論する道徳」の授業づくり ・「特別の教科 道徳」の教材研究と授業構想 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 ・「考え、議論する道徳」の授業づくりの実際 ・「考え、議論する道徳」の授業実践
小学校国語科授業づくり講座〔書く〕	小学校及び特別支 援学校小学部、中 学部・高等部国語 科担当教員	小7 特1	8/30～8/31 一部オンライン 講義	・書く力を育てる授業改善 ・書く力を育てる言語活動 ・タブレット端末を活用した国語科の授業 ・主体的・対話的で深い学びを実現する「書くこと」の指導 講師：京都女子大学 教授 水戸部 修治 ◆オンライン ・書く力を育てる単元構想 ～プランニング力を磨く～
中学校国語科授業づくり講座	中学校国語科担当 及び特別支援学校 中学部・高等部国 語科担当教員	中11 特1 その他 1	6/2～6/3	・学習指導要領に基づいた「読むこと」指導の授業改善 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点で考えるこれからの国語授業～ ・付けたい力と「主体的・対話的で深い学び」を関連付けたICT活用 ・付けたい力と「主体的・対話的で深い学び」を関連付けた「読むこと」指導の授業構想 ・学習指導要領に基づいた「読むこと」指導の授業改善 講師：岩手大学 教授 藤井 知弘
高等学校国語科授業づくり講座	高等学校 特別支援学校は高 等部国語担当教員 臨時講師も対象	高16	6/21～6/22	・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり 講師：筑波大学 教授 鳥田 康行 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
主体的・対話的で深い学びを実現する国語科「言語活動」実践力アップ講座	小学校、中学校・ 高等学校国語科担 当及び特別支援学 校小学部、中学 部・高等部国語担 当教員	小4 中5 高2 特3 その他 1	6/30～7/1	・子どもの成長に応じた言語活動の実践 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動の実践 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動のモデルづくり 〔書くこと〕 ・実生活で生きる言語能力 講師：青森朝日放送株式会社 報道記者兼アナウンサー 石塚 絵里子 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動のモデルづくり 〔話すこと・聞くこと〕

講座名	対象	修了人数	期日	内容
考える力を高める小学校社会科教育講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小4	9/15～9/16	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の授業改善 ・ICTを活用した社会科の授業・思考力、判断力、表現力等を育てる社会科教育の実践 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の在り方 講師：大妻女子大学 教授 澤井 陽介
中学校社会科教育講座	中学校社会科担当及び特別支援学校中学部社会科担当教員	小1 中6 特3	9/15～9/16	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力等の育成を図る社会科の授業 ・ICTを活用した社会科の授業 ・思考力、判断力、表現力等の育成を図る社会科の授業実践 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の在り方 講師：大妻女子大学 教授 澤井 陽介
社会科教材開発講座	特別支援学校は中学校部社会科担当教員、高等部地理歴史科及び公民科教員	中2 高1 特1	7/12～7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科授業における地域調査の進め方（講義）～自然環境と防災の視点から～ 講師：弘前大学 教授 小岩 直人 ・社会科授業における地域調査の進め方（実地調査）～自然環境と防災の視点から～ 講師：弘前大学 教授 小岩 直人 ・資質・能力を育む授業づくり ・「社会的な見方・考え方」を働かせる授業づくり（演習） ～地理領域 地域調査の実施に向けて～ ・「社会的な見方・考え方」を働かせる授業づくり（協議） ～地理領域 地域調査の実施に向けて～
高等学校地理歴史科公民科教育講座	高等学校、特別支援学校（高等部）は地理歴史科、公民科担当教員	高12 特1 その他1	8/23～8/24	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を育む「地理総合」の授業づくり 講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 中嶋 則夫 ・ICTを活用した授業改善の視点 ・主権者を育てる「公共」の授業デザイン 講師：明治大学 特任教授 藤井 剛 ・資質・能力を育む授業づくりに向けて
小学校算数科教育講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小14 特1	7/26	<ul style="list-style-type: none"> ・既習をいかす授業づくり ～主体的・対話的で深い学びのある授業～ ・指導と評価の一体化に向けた授業の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一
小学校算数科授業づくり講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小26 特4 その他3	8/16	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した算数科の授業 ・数学的な見方・考え方を広げる授業 ・深い学びのある授業 講師：弘前大学大学院教育学研究科 教授 中野 博之
中学校数学科教育講座	中学校数学担当及び特別支援学校中学部数学担当教員	中12 その他3	6/30	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの資質・能力を育む授業 講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 水谷 尚人 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業実践

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中・高等学校数学科授業づくり講座	中学校、高等学校及び特別支援学校 中学部・高等部数学科担当教員	中4 高14 その他 1	8/23～8/24	<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決の過程をイメージした授業づくり ・思考力・判断力・表現力を問う素材(問題)構想 ・構想した素材を振り返る ・ICTを効果的に活用した数学科の授業づくり ・「付けさせたい力」を明確にした授業実践 ・「付けさせたい力」を明確にした授業づくり ・これからの授業づくりに向けて
高等学校数学科教育講座	特別支援学校は高等部数学科担当教員	高12 特1 その他 1	8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における探究的な授業について 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一 ・仮説検定の考え方 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一 ・数学的活動を取り入れた授業づくりに向けて
小学校理科実践力向上研修講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小7	6/6～6/7	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業改善の視点 ・観察、実験の工夫～A物質・エネルギー～ ～B生命・地球～ ・問題解決の力を育む観察、実験 ・理科におけるプログラミング学習
小・中学校理科授業づくり講座	小学校、中学校理科担当及び特別支援学校小学部、中学部理科担当教員	小4 中2 特1	8/18～8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業改善の視点 ・問題解決の力を育む観察、実験(中学校編) ・問題解決の力を育む観察、実験(小学校編) ・問題解決の力を育む授業づくり ～評価計画と単元構想～ ・問題解決の力を育む授業づくり ～指導計画～ ・問題解決の力を育む授業の在り方
中学校理科実験講座	中学校理科担当及び特別支援学校中学部理科担当教員	中8	6/21～6/22	<ul style="list-style-type: none"> ・理科授業改善の視点 ・授業で使える観察・実験の工夫 (3学年1分野の内容、1学年1分野の内容、2学年2分野の内容)
高等学校理科研修講座 [物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎]	特別支援学校は高等部理科担当教員 実習助手も対象	高5	6/24	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を取り入れた授業づくり ～物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎～
学びを実感させる高等学校理科研修講座 [物理]	特別支援学校は高等部理科担当教員 実習助手も対象	高2	8/30～8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン ・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発 ・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり ～資質・能力をバランスよく育むために～ ・思考力・判断力・表現力を引き出す実践とその工夫
学びを実感させる高等学校理科研修講座 [化学]	特別支援学校は高等部理科担当教員 を対象実習教諭も対象	高5	8/23～8/24	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン ～観察・実験やICTの活用を通して～ ・興味・関心を引き出す観察・実験とその工夫 ・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発 ・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり ～資質・能力をバランスよく育むために～ ・思考力・判断力・表現力を引き出す実践とその工夫

講座名	対象	修了人数	期日	内容
学びを実感させる高等学校理科研修講座〔生物〕	特別支援学校は高等部教員を対象臨時講師、実習教諭等も対象	高5	9/29～9/30	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを実感させる授業・実験の工夫 ・観察・実験に関する指導の工夫 ・資質・能力の育成を意識した観察・実験への取組
時間的・空間的な関係を探る理科野外実習講座〔地学〕	特別支援学校は小学部教員、中学部・高等部理科担当教員を対象実習助手等も対象	中2 高2	7/6	<ul style="list-style-type: none"> ・野外観察の方法 ・地域素材の活用方法
学びを実感させる理科実習講座〔天体観察〕	特別支援学校は小学部教員、中学部・高等部理科担当教員を対象実習助手等も対象	小1 中2 高1	10/17	<ul style="list-style-type: none"> ・天体望遠鏡の基本操作 講師：星空案内人資格認定制度運営機構副機構長 甲田 昌樹 ・天体観察の方法
気付きの質を高める小学校生活科講座	幼稚園等教職員、小学校及び特別支援学校小学部教員	小2 特2	9/8～9/9	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きの質を高める生活科の授業づくり 講師：千葉大学教授 鈴木 隆司 ・気付きの質を高める生活科の授業 ・身近な素材を通した指導と評価の在り方 ・望ましい動物飼育の在り方
感性を育む音楽科実践講座	特別支援学校は中学部音楽担当教員	中7 特4	8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞から広がるこれからの学び 講師：武蔵野音楽大学 講師 山崎 正彦 ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくりについて
豊かな表現力を育む音楽科講座	特別支援学校は中学部・高等部音楽担当教員	中11 高4 特4	11/30	<ul style="list-style-type: none"> ・表現から広がるこれからの学び 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 河合 紳和 ・資質・能力を育む授業づくりについて
芸術系教科の資質・能力を育む授業づくり講座	特別支援学校は中学部音楽または美術担当教員・高等部芸術担当教員	高4 特3	7/1	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術科が育む資質・能力について ・資質・能力を育む授業づくり①～単元・題材構成の工夫～ ・資質・能力を育む授業づくり②～指導と評価の一体化について～
「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する！小学校 図工・音楽科講座	幼稚園等教職員、小学校及び特別支援学校小学部教員	小7 特5 その他1	6/21～6/22	<ul style="list-style-type: none"> ・図面工作科における指導と評価の一体化 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 小林 恭代 ・「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動 ・造形と音楽のコラボレーション①② ・これからの図工と音楽の授業づくり
鑑賞の学びを考える！小学校 図工・音楽科講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小11 特6 その他1	8/18～8/19	<ul style="list-style-type: none"> ・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子 研究員 松沼 穂積 ・感性を育むこれからの資質・能力 ・鑑賞から広がるこれからの学び 講師：武蔵野音楽大学 講師 山崎 正彦 ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくりについて
創造活動を通じた学びを考える美術科教育講座	中学校、高等学校及び特別支援学校 中学部・高等部美術担当教員	中1 高1 特4 その他1	9/21	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を目指す美術の授業 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 平田 朝一 ・指導と評価の一体化を目指す美術の授業づくり

講座名	対象	修了人数	期日	内容
見方や感じ方を深める美術科教育講座〔鑑賞〕	中学校、高等学校及び特別支援学校 中学部・高等部美術担当教員	小2 中1 特3	8/18	・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習 ・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子 研究員 松沼 穂積
家庭科教育講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（家庭科担当）教員	小1 中5 高3 特4	11/1	・タブレットPCを活用した効果的な被服実習の授業デザイン
中学校技術・家庭科（家庭分野）・高等学校家庭科教育講座	中学校、高等学校、特別支援学校 中等部・高等部（家庭科担当）教員	中5 高3 特4	9/6	・中・高家庭科における消費者教育について ・青森県の消費者問題に関する現状について 講師：青森県消費生活センター業務部 教育啓発課長 増田 あけみ ・消費者教育における授業デザイン
中学校技術・家庭科教育講座〔材料と加工・生物育成〕	中学校教員及び特別支援学校（中学部）教員	中2 特1	5/26～5/27	・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・木材製品の設計・製作 ・技術の見方・考え方を動かさせた授業づくり
中学校技術・家庭科教育講座〔情報〕	中学校教員及び特別支援学校（中学部）教員	中5	9/29～9/30	・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの設計・制作 ・計測・制御システムの設計・制作
中学校技術・家庭科教育講座〔エネルギー変換〕	中学校教員及び特別支援学校（中学部）教員	中4	7/27	・エネルギー変換の技術の指導内容と指導計画 ・電気機器の設計・製作
小学校体育科研修講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小10 中1 特1 その他 1	8/30	・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・表現運動系の特性や魅力を生かした授業づくり 講師：東北文教大学短期大学部 講師 鈴木 純
小・中学校体育授業づくり研修講座	小学校、中学校及び特別支援学校小学部、中学部体育担当教員	小9 中8 特2	9/26	・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ・豊かなスポーツライフの基礎を築く共生体育の在り方 講師 横浜国立大学 教授 梅澤 秋久
豊かなスポーツライフを実現する保健体育授業研修講座	中学校・高等学校・特別支援学校（中学部・高等部）教員（臨時講師も含む）	中10 高15 特8	11/21	・体育授業における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた体育授業づくり 講師：日本女子体育大学 教授 高橋 修一
保健授業づくり研修講座	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校（小学部・中学部・高等部）教員（臨時講師も含む）	小3 中7 高14 特6	7/25	・保健における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた保健の授業づくり～保健におけるがん教育の進め方～ 講師：横浜国立大学 教授 物部 博文
小学校外国語・外国語活動研修講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小3 特1 その他 1	6/14	・外国語・外国語活動の授業づくり ・外国語・外国語活動の指導の在り方 講師：東京学芸大学 教授 粕谷 恭子

講座名	対象	修了人数	期日	内容
中学校英語指導法研修講座	中学校外国語（英語）科担当及び特別支援学校中学校部外国語（英語）科担当教員	中9特2	9/20	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校英語における課題と改善の方向性 ・中学校英語教師に求められる役割 講師：東京家政大学 教授 太田 洋
中学校英語授業づくり研修講座	中学校外国語（英語）科担当及び特別支援学校中学校部外国語（英語）科担当教員	中7特1	10/11	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業改善の視点 ・子どもの資質・能力を高める授業づくり 講師：信州大学学術研究院 教授 酒井 英樹
高等学校英語科言語活動実践講座	高等学校（英語科担当）教員、特別支援学校（高等部英語科担当）教員	高6	6/21～6/22	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英語運用能力を育成する言語活動の実際 ～授業デザイン、ICT活用、指導と評価の一体化～ ・言語活動を取り入れた授業デザインの構築
高等学校英語指導法改善講座	高等学校（英語科担当）教員、特別支援学校（高等部英語科担当）教員	高8	8/30～8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・英語指導法の改善に向けて 講師：上智大学 教授 和泉 伸一 <ul style="list-style-type: none"> ・統合的な言語活動を重視した授業づくり
情報科教育講座	高等学校（情報科担当）教員、特別支援学校高等部（情報科担当）教員	高4	1/12～1/13	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の問題解決について ・コミュニケーションと情報デザインについて ・情報通信ネットワークとデータの活用について
高等学校プログラミング基礎講座	プログラミングを担当している高等学校教員、特別支援学校高等部教員	高12特2	9/27～9/28	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育と環境構築 ・アルゴリズムと基本制御構文 ・応用的プログラム ・プログラムの関数化 ・ライブラリとWebAPIの活用 ・事象のモデル化とシミュレーション
産業教育指導者講座	高等学校（農業・工業・商業・情報・家庭・水産等）で産業系の教科を担当している教員または実習助手	高17	前期 6/10 後期 9/20	前期 <ul style="list-style-type: none"> ・青森県地場産業の現状と展望～ブナコ編 講師：ブナコ株式会社 代表取締役 倉田 昌直 ・青森県産業の現状と展望 後期 <ul style="list-style-type: none"> ・探究する学習のデザイン ・学習活動の設計と評価 講師：東北学院大学 教授 稲垣 忠
農業教育指導者講座	高等学校（農業科担当）教員、実習助手特別支援学校（農業科担当）教員、実習助手	高11特1	7/12～7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・「指導と評価の一体化」のための学習評価 ・高等学校における農業教育について ・「攻めの農林水産業」における農業の担い手対策について ・ICTを活用した教科指導の実践 ・地域農業振興への取組 講師：もりやま園株式会社 代表取締役 森山 聡彦 有限会社まごころ農場 代表取締役 斎藤 靖彦
工業教育指導者講座	高等学校（工業科担当）教員、実習助手特別支援学校（工業科担当）教員、実習助手	高7	10/25～10/26	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領 教科「工業」について ・3Dプリンターの活用 ・移動式ロボットRobotino® ・Arduino等プログラミング制御

講座名	対象	修了人数	期日	内容
商業教育指導者講座	高等学校（商業科担当）教員、実習助手	高8	7/12～7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデルを構造化して考える ～儲けの仕組みをBMCから探り、経営戦略を読み解く～ ・予測困難な時代に勝ち残る新たなビジネスの創造 ～付加価値を最大限に生かし、顧客に提供するビジネスとは～ 講師：（一社）ビジネスモデルイノベーション協会 認定ジュニアコンサルタント 申原 憲和 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスにおける資産形成とリスク管理 講師：R & C株式会社 青森支社 セミナー推進部 マネージャー 石澤 枝美子 <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の教科商業の趣旨の実現に向けた教科指導

イ 教科外研修

講座名	対象	修了人数	期日	内容
総合的な学習の時間研修講座	小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部教員	小2 中7	5/24～5/25	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の役割 ・置かれた場所で、夢を叶える方法 ～思いのチカラ・行動のチカラ～ 講師：有限会社 リンゴミュージック 代表取締役 樋川 新一 <ul style="list-style-type: none"> ・探究的な学習の過程で学ぶ総合的な学習の時間 ・探究的に学ぶ総合的な学習の時間の実践 ・探究的な学習の過程で取り組む総合的な学習の時間 講師：山形大学学術研究院 教授 野口 徹
高等学校総合的な探究の時間研修講座	高等学校教員及び特別支援学校（高等部）の教員	高18 特 2	9/15	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間における評価方法 ・改善の視点 講師：山形大学学術研究院 教授 野口 徹 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間への取組
小・中学校特別活動研修講座	小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部教員	小15 中16 特 2 その他 3	8/29	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・実践的な態度を育てる学級活動の指導の工夫 ・生きる力の育成と特別活動の役割 講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 安部 恭子
教育活動全体をつなぐキャリア教育研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小 2 中 7 高20 特 5 その他 2	9/9	<ul style="list-style-type: none"> ・いま、なぜキャリア教育なのか？ ～学校教育におけるキャリア教育の役割～ 講師：筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育への取組
高等学校における道徳教育講座	特別支援学校は高等部教員	高54 特 2	6/13	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校における道徳教育の推進 ・小・中学校における道徳教育の実際 ・本校の道徳教育 ・自校の特色を活かした道徳教育の展開に向けて
高等学校における特別支援教育講座	高等学校教員	高22	10/3	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校における特別支援教育 ・高等学校における特別支援教育の実践に向けて ・高等学校における特別支援教育 ～個別の指導計画の作成に向けて～

講座名	対象	修了人数	期日	内容
「気になる子供」のかわり方研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小9 中15 高13 特16 その他2	10/5 一部オンライン 講義	・「気になる子供」の視点でかかわり方を見直す 講師：教育心理支援教室・研究所ガジュマルつがる 代表 松本 敏治 ・医師の視点からかかわり方を見直す 講師：弘前大学医学部心理支援科学科 弘前大学大学院保健学研究所 教授 栗林 理人
SOSの出し方教育研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	中12 高9 特5 その他2	9/8	・子供の安心・安全な生活を支える児童相談所の機能 ・SOSの出し方教育の実践 講師：中央大学 客員研究員 高橋 聡美
今日から始めるいじめ対策研修講座（一部指定）	（指定）新任ハートフルリーダー（希望）小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小9 中5 高13 特3 その他2	5/13	・いじめについての認識と理解 ・いじめの理解といじめ防止のための取組 講師：上越教育大学大学院・いじめ生徒指導研究センター 教授・センター長 高橋 知己
今日から始める保護者対応研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員、寄宿舎指導員	小5 中6 高14 特8 その他4	7/1	・保護者理解と信頼関係を築くための対応 講師：神田外語大学 客員教授 嶋崎 政男
今日から始める学級（HR）集団づくり研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小3 中5 高4 その他5	7/14	・教育相談アプローチによる学級経営実践 ・より良い学級（HR）集団づくり 講師：文教大学 教授 会沢 信彦
今日から始めるグループ・アプローチ研修講座	小学校教員、中学校教員、特別支援学校教員	小6 中10 高3 特6 その他4	8/17	・グループ・アプローチについて 講師：豊岡短期大学 教授 鈴木 由美
今日から始める不登校対策研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小7 中9 高13 特2 その他2	8/31	・不登校児童生徒の理解・対応とチーム連携 講師：東京家政大学・同大学院 名誉教授・客員教授 相馬 誠一
今日から始める教育相談研修講座	幼稚園教員、保育所（園）職員、認定こども園職員、小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小2 中9 高10 特7	9/21	・教育相談の実際 講師：明治大学 教授 諸富 祥彦

講座名	対象	修了人数	期日	内容
特別支援教育新担当教員研修講座〔知的、肢体、病弱、通級コース〕	特別支援学級（知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱）及び通級指導教室新担当教員	小21 中15	前期 5/17 後期 11/15	（前期） ・特別支援教育の基礎・基本 ・保護者との関係づくり ・障害特性に応じた指導 （後期） ・特別支援教育におけるICT活用の基礎 ・基本・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～
特別支援教育新担当教員研修講座〔自・情、弱視、難聴コース〕	特別支援学級（自閉症・情緒障害、弱視、難聴）新担当教員	小19 中19	前期 5/20 後期 11/22	（前期） ・特別支援教育の基礎・基本 ・保護者との関係づくり・障害特性に応じた指導 （後期） ・特別支援教育におけるICT活用の基礎・基本 ・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～
特別支援学級授業づくり研修講座	特別支援学級2～6年目担当教員	小2	前期 7/26 後期 9～12月から 1日	（前期） ・特別支援学級における授業づくり・授業をつくる （後期） ・現地研修（授業参観、助言）
自立活動研修講座		小3 中4 高7 特2 その他 1	6/23	・自立活動の指導の基本的理解 講師：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 北川 貴章 ・自立活動の指導の充実に向けて
特別支援教育におけるICT活用「基礎・基本」研修講座	小学校及び中学校は特別支援学級担当教員	小2 中1 特24	8/24	・特別支援教育におけるICT活用について～基本的な考え方と実践で大事にしたいこと～ 講師：東北福祉大学 准教授 杉浦 徹 ・特別支援学校におけるICTを活用した実践 ・授業改善に向けて
教育相談（特別支援教育）研修講座	寄宿舎指導員も対象	小3 中3 高1 特19 その他 1	7/12 一部オンライン 講義	・本人・保護者の思いによりそう教育相談 講師：弘前大学 准教授 天海 丈久 ・学校における教育相談の実際 ・保護者との面談
通常の学級のユニバーサルデザイン研修講座	小学校教員、中学校教員、高等学校教員、特別支援学校教員	小23 中2 高5 特3 その他 3	10/14	・通常の学級における教育のユニバーサルデザイン 講師：星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 ・通常の学級における教育のユニバーサルデザイン ・自校の課題解決に向けて
読み書きに困難のある児童生徒への指導・支援研修講座		小12 中10 高7	7/4 オンライン講義	・読み書きに困難のある児童生徒の学び方～タブレットPCを読み書きの道具にする方法～ 講師：学びプラネット合同会社 代表 平林 ルミ

講座名	対象	修了人数	期日	内容
発達支援と教材教具研修講座	・小学校は、特別支援学級及び通級指導教室担当教員 ・障害の程度の重い幼児児童生徒の初期の発達について学びたい教員	小6 特17 その他2	11/8	・発達支援と教材教具 講師：淑徳大学 准教授 池畑 美恵子 ・発達を促す授業の検討
子どもたちの学びを止めない！オンライン授業実践講座	小学校教職員、中学校教職員、高等学校教職員、特別支援学校教職員	小3 中3 高4 特5	6/27	・「個別最適な学びの実現」とオンライン授業 ・オンライン授業における著作権 ・Web会議システムを活用したオンライン授業 ・動画共有サービスを活用したオンライン授業 ・クラウドサービスを活用したオンライン授業
校内LAN講座 [はじめてのネットワーク]	初めて校内LANの管理をされる方、基礎的なPCのネットワーク設定について学びたい方	中1 高5 特1	5/19	・IPアドレスとネットワーク機器 ・PCのネットワーク設定
校内LAN講座 [Windows ServerAD管理]	高等学校教職員、特別支援学校教職員	高9 特3	7/26	・ユーザー・グループの管理 ・アクセス権の設定 ・バックアップとリストア
ゼロから学ぶChromebook初心者講座	はじめてChromebookを使用する方	小2 中7 高1	6/7	・Chromebookの基本操作 ・標準アプリの活用 ・電子黒板との接続 ・授業への活用
はじめてのMicrosoft Teams	Windows OSの基本操作ができる方で、はじめてMicrosoft Teamsを操作する方	小1 中3 その他1	5/31	・クラウドの活用について ・PowerPointによる動画作成 ・OneNoteの基本操作 ・Formsの基本操作 ・Teamsの基本操作 ・OneNoteとTeamsの連携 ・FormsとTeamsの連携
はじめてのGoogleWorkspace [iPad編]	iPadの基本操作ができる方で、はじめてGoogleWorkspaceを操作する方	中1 高3 特8	9/5	・クラウドの活用について ・Googleドライブの機能と基本操作 ・GoogleFormsの機能と基本操作 ・GoogleClassroomの機能と基本操作 ・GoogleClassroomの活用
はじめてのGoogleWorkspace [Chromebook編]	Chromebookの基本操作ができる方で、はじめてGoogleWorkspaceを操作する方	小3 中8 高2 その他2	9/5	・クラウドの活用について ・Googleドライブの機能と基本操作 ・GoogleFormsの機能と基本操作 ・GoogleClassroomの機能と基本操作 ・GoogleClassroomの活用
NetCommons活用講座	高等学校教員、特別支援学校教員	高8 特3	6/21～6/22	・情報モラルに関する基礎知識 ・設定・管理画面 ・基本ページの作成 ・ルーム管理 ・FTPによるファイル転送
小学校プログラミング教育研修講座	小学校教員、中学校教員、特別支援学校（小・中学部）教員	小16 特14 その他1	8/25	・小学校段階におけるプログラミング教育の在り方 講師：岩手県立大学 准教授 高木 正則 ・自校におけるプログラミング教育 ・プログラミングツールの演習

4 研究事業

本県学校教育の諸課題について調査研究を行い、その成果を公表及び提供します。

- 学校への還元を第一とし、教育活動に役立つ実践的・先導的な研究を行います。
- 学校での活用を進めるため、研究報告書、実践の手引き、指導資料等を作成して学校に提供します。
- 研究成果や研究過程を、Web上へ掲載し、広く県民に理解いただくとともに、全国に向け発信します。

(1) 研究の種類

① センター研究

本県学校教育の課題解決や学校支援に資する実践的・先導的な研究として、「学校におけるICTの効果的な利活用」をテーマとして、全指導主事が研究にあたり、成果物等をWebページに掲載した。

2022 センター研究 第Ⅰ期（令和4年度）

グループ名	研究テーマ
国語	国語科の学習指導におけるICTの効果的な利活用に関する研究
社会、地理歴史、公民	「社会的事象等について調べまとめる技能」を育成するための1人1台端末を活用した授業計画開発研究
算数、数学	小中高の学びを体系的に考えるICTを活用した算数・数学科教育の研究
理科、物理、化学、生物、地学	ICTを活用した理科、物理、化学、生物、地学の授業づくり
音楽、図画工作、美術	ICTを活用した音楽、図画工作、美術科の授業づくりと評価
体育、保健体育	体育科・保健体育科の学習指導における1人1台端末の活用
家庭、技術・家庭	家庭、技術・家庭科の指導におけるICT活用に関する研究
外国語	言語活動の充実に向けた、ICT活用による効果的なアプローチに関する研究
特別支援教育	特別な支援を要する児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究～読み書きに困難のある児童生徒に焦点を当てて～

② 研究員研究（2年間）

義務教育課、産業教育課、特別支援教育課、教育相談課に所属する研究員が、所属課の領域に関する研究主題を設定して、個人研究を行い、研究論文を作成し、Web上に掲載した。

(2) 「あおり教育研究発表会2022」

2年目研究員の研究発表、センター研究の発表、県内の学校からの実践発表、外部講師による講演会等を行った。

5 教育相談事業

幼児・児童及び生徒の教育に関する諸問題の解決に向け、医師等の専門相談員の指導助言を受けながら、本人、保護者及び教育関係者の相談に応じた。

相談件数

相談件数(件)		電話(件)	来所(件)
2,798	①教育相談課 2,614	1,465	1,149
	②特別支援教育課 184	82	102

6 資料・情報の収集・提供の事業

学校教育に関する資料及び情報を収集・整理し、これを保存するとともに、研修、研究その他に活用できるように提供した。

(所蔵資料数)

図書	20,673冊
資料(教科等関係)	4,068冊
視聴覚教材	427本

7 その他の事業

(1) 広報事業

センターの事業について理解を得、周知徹底を図るため、刊行物・Webページ等により広報事業を進めた。

主な内容は次のとおりである。

要覧の発行

研修講座等のWebページ公開

「教育相談のご案内」等のリーフレットの配布

「教育広報あおりけん」(教育庁教育政策課発行)等への記事提供

「センターだより」の発行とWebページ公開(年5回)

「開催した講座の様子」のWebページ公開

(2) 情報化の推進

学校教育の情報化推進に関する相談や情報通信ネットワークに関する技術支援を行った。

①「教育の情報化」支援

学習用タブレットや電子黒板等のICT機器の整備や活用法など教育の情報化に関わる技術の提供。

②教育情報の提供

ア 教育の情報化に向けたICTサポート状況や「WEB授業動画配信」など授業で役立つ情報の提供。

イ 青森県教育ネットワーク(ASN)に関わる技術支援及び情報の提供。

(3) 校内研修等講師派遣事業

学校が抱える教育課題等の解決に向けて、教員の資質・能力の向上を目指して行う校内研修等に講師として指導主事を派遣し、研修の活性化を図るとともに教育活動を支援する。

① 申込方法

当センターWebページの「Web申込みフォーム」から申し込む。

② 研修までの流れ

日時が決定し、文書が通知された後、担当者間で詳細な打合せを行う。

(4) 教科指導等サポート事業

県内教員から寄せられる教科指導等の質問に対して的確な情報を提供し、サポートする。

① 利用方法

当センターWebページの「質問入力フォーム」から入力する。

② サポートの方法

当センター指導主事が、電話、電子メール、オンライン等により情報を提供してサポートする。

(5) 青森県総合学校教育センター センターセミナー（年2回）

教育の今日的課題や学校を取り巻く喫緊の課題についての理解を深めるため、著名な講師を迎えセミナーを開催した。

① センターセミナーⅠ

「不登校児童生徒への支援」

参加者：70名

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏を講師に迎え、年々増加傾向にある不登校児童生徒への支援について、花輪先生が出会った数多くの不登校児童生徒や保護者、教師との事例をもとに、子ども達の社会的自立や学校復帰に向けて、周囲の大人はどのような支援を行えばよいのかを、具体的な言葉や行動で示唆していただいた。

② センターセミナーⅡ

「子どもと教師の未来を拓く総合戦略」

参加者：47名

甲南女子大学 教授 村川 雅弘 氏を講師に迎え、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、どのように授業改善をしたらよいのか御講義いただいた。子どもが主体的に学ぶための方策やカリキュラム・マネジメントなどの具体について理解を深めた。

5章 青森県営体育施設

[1] 施設の概要

1 新青森県総合運動公園

- (1) 所在地 青森市大字宮田字高瀬22の2
(2) 設置年月日 平成15年1月8日
(3) 敷地面積 626,000㎡
(4) 施設 ①～③の総合体育館には、「マエダアリーナ」、⑦の陸上競技場には、「カクヒログループアスレチックスタジアム」の特定呼称が付与されています。)

① メインアリーナ・サブアリーナ

構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造及び一部鉄骨造
競技施設

(メインアリーナ) 面積2,944㎡ (64m×46m)

バレーボール4、バスケットボール3、テニス3、ハンドボール2、卓球24、バドミントン14、柔道、体操、その他
観覧席 5,348人

(固定席3,368人、移動席1,980人)

(サブアリーナ) 面積1,472㎡ (46m×32m)

バレーボール3、バスケットボール2、テニス2、ハンドボール1、卓球12、バドミントン6、柔道、その他
(その他) シャワー室、ロッカー室、研修室等

② 室内プール 25m 8 コース

③ 合宿所

構造 鉄筋コンクリート造

面積 3,700㎡

収容人数等 145名

部屋タイプ：シングル20、ツイン28、トリプル3、和室(15畳)6
食堂約100名収容、談話室、ランドリールーム、浴室、その他

④ テニスコート (平成23年7月23日サブコート供用開始)

面積 20,800㎡

競技施設 砂入人工芝24面(内4面サブコート)、一部ナイター照明有

観覧席 4,213席

その他 クラブハウス(トイレ、ロッカー室、シャワー室、休憩ラウンジ)、
かべ打ちテニスコート

⑤ 多目的運動場

面積 21,150㎡

競技施設 天然芝

⑥ 球技場 (平成24年6月23日供用開始)

面積 フィールド11,620㎡ (140m×83m)

競技施設 天然芝、ナイター照明完備、電光掲示板

観覧席 3,300席(固定席1,500席、芝生席1,800席)

そ の 他 本部棟（本部室、放送室、審判控室、事務室、介護室）
更衣室・トイレ棟（更衣室2チーム分、トイレ、シャワー室）
トイレ棟
倉庫

- ⑦ 陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）
面 積 43,438.1㎡
競技施設 トラック1周400m、直線140m、9コース、フィールド(天然芝)、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2
観 客 席 20,809席
- ⑧ 補助陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）
面 積 22,802.4㎡
競技施設 トラック1周400m、8コース、フィールド(天然芝)、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2
観 客 数 320席
- ⑨ 投てき・アーチェリー場（令和元年9月1日供用開始）
面 積 23,394.9㎡
競技施設 フィールド(天然芝)、砲丸投3、円盤投・ハンマー投1、やり投1
- ⑩ スポーツ科学センター
面 積 3,089.21㎡
施設内容 トレーニングルーム、体力測定室、メンタルトレーニング室、カウンセリング室、スポーツ科学研究室、スタジオ、リコンディショニング室、キッズルーム
- ⑪ 遊具広場
面 積 11,000㎡
整備施設 複合遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）
跳躍遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）
単体遊具 16基（児童用 14基、幼児用 2基）
健康遊具 10基（大人用）
監視カメラ 1台
四 阿 3基
ベ ン チ 3基

2 青森県総合運動公園

- (1) 所在地 青森市大字安田字近野234の7
(2) 設置年月日 昭和41年6月5日
(3) 敷地面積 171,000㎡
(4) 競技施設
- ① 野球場
グラウンド 本塁・センター間121m 両翼93m
観 覧 席 21,016人

メインスタンド 1,492人
内野スタンド 3,524人
外野スタンド 16,000人

② 水泳場

競技施設 屋外プール(50m・日本水泳連盟公認)・屋内プール(25m)、徒渉プール
(変形)・深水プール

観覧席 800人

※屋内プールは休止中

(5) 公園施設

① 中央広場

② 展望広場 面積 1,052.2㎡

③ 旧陸上競技場(旧主競技場及び旧補助競技場)

※令和2年7月17日園地として一般開放

3 盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)

(1) 所在地 青森市大字浜田字豊田地内

(2) 設置年月日 昭和60年11月1日

(3) 敷地面積 42,913.815㎡

(4) 建築面積 11,884.208㎡

(5) 施設規模

① 屋内施設

(ア) スケートリンク 冬期間はアイススケートリンク、夏期間はインラインスケートリンク
1周250mスピードリンク1面、ホッケーリンク1面
(30m×60m)

(イ) スポーツライミング施設 ボルダリング壁 高さ 約5.3m 幅 約18m
リード壁 高さ 約13.7m 幅 約12m

(ウ) 観覧席 1,058席(固定席)

(エ) 事務室、会議室、選手控室、食堂、ロッカー室、貸靴コーナー、採暖室他

(オ) 機械室(空調、ボイラー、電気室等)

② 屋外施設

(ア) 運動広場 3,900㎡

(イ) ジョギングコース 1周860m

4 青森県武道館

- (1) 所在地 弘前市大字豊田2丁目3番
(2) 設置年月日 平成12年5月1日
(3) 敷地面積 22,810㎡
(4) 施設

① 武道館

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設

(主競技場) 面積2,265㎡ (47.6m×47.6m)、相撲1 (移動式土俵)、柔道8、
剣道9、バスケットボール2、バレーボール2、卓球20、
バドミントン10、テニス2、体操、その他
観覧席5,000人

(固定席1,700人、移動式席640人、移動椅子席2,660人)

(補助競技場) 面積 419㎡、各種競技の練習等の多目的利用

(柔道場) 面積 529㎡、2面

(剣道場) 面積 529㎡、2面

(相撲場) 面積 777㎡、常設土俵1、支度部屋、観覧席480人 (ます席)

(近的弓道場) 面積 1,344㎡、射場12人立、射程28m、観覧席100人

(トレーニング室)、(会議室)、(軽食・喫茶室)

② 合宿棟

構造 鉄筋コンクリート造

面積 1,626.9㎡

宿泊人員等 宿泊100人程度、和室16室 (1～4階)、ミーティングルーム兼食堂

③ 遠的弓道場

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設 射場 6人立、射程 60m

観覧席 100人程度 (固定席)

〔2〕 事 業

1 指定管理者による各施設の管理・運営

- ・新総合運動公園
指定管理者 スポーツ青い森グループ
- ・総合運動公園
指定管理者 スポーツ青い森グループ
- ・盛運輸アリーナ（県営スケート場）
指定管理者 豊産管理(株)
- ・県武道館
指定管理者 （公財）弘前市スポーツ協会

令和4年度に新総合運動公園(マエダアリーナ、カクヒログループアスレチックスタジアム等)、総合運動公園、盛運輸アリーナ(県営スケート場)及び県武道館で行われた主な大会等は、次の表のとおりである。

(1) 施設の利用状況

① 主な大会等

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	・マエダアリーナ（メイン/サブ）	
	青森県中学生剣道錬成会	4月16日
	第41回全日本クラブ卓球選手権大会青森県予選会	4月17日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第1回ワーキングチーム会議	4月21日
	令和4年度青森市春季中学校バスケットボール大会	4月22日～23日
	2021-22 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVSアースフレンズ東京Z	4月22日～24日
	第29回青森県バウンドテニス選手権大会	4月24日
	あおもりスポーツアカデミー事業「第1回育成プログラム及び認定授与式」	4月28日～29日
	令和4年度青森市春季中学校バスケットボール大会	4月29日
	2022東北ジュニアトランポリンカップシリーズ第1戦	4月30日
	青森県フットサルリーグ	5月1日
	青森県中学校春季バドミントン選手権大会	5月3日～4日
	青森県中学校春季選手権大会	5月4日～5日
	審判伝達講習会 兼 東青ブロック強化練習会	5月7日
	青森市社会人卓球リーグ戦（前期）	5月8日
	令和4年度青森県高等学校春季バドミントン大会	5月12日～15日
	BEST OF THE SUPER Jr.29	5月21日
スポーツ交流会	5月21日	
第4回 AOMORI VENUS CUP（女子新体操競技）	5月27日～28日	
青森市小・中学校卓球大会	5月28日	
青森県フットサルリーグ	5月29日	
第75回青森県高等学校総合体育大会バドミントン競技	6月3日	
第75回青森県高等学校総合体育大会バスケットボール競技	6月3日～6日	
青森県特別支援学校技能検定・発表会	6月9日	

区分	行 事 名	期 間
新	第72回青森県高等学校定時制通信制総合体育大会卓球競技	6月11日
	青麗杯・玄妙杯・県予選会	6月12日
	令和4年度宮田保育園運動会	6月17日
	令和4年度第73回青森市中学校体育大会夏季大会（卓球競技）	6月17日～20日
	第75回東北高等学校ハンドボール選手権大会	6月23日～26日
	第15回青森県民スポーツ・レクリエーション祭ソフトバレーボール競技	7月1日～2日
	第15回青森県民スポーツ・レクリエーション祭トランポリン競技・エアロビック競技	7月2日～3日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第2回ワーキングチーム会議	7月7日
	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会青森県予選会	7月9日
	令和4年度あおもりスポーツアカデミー事業「第2回育成プログラム」	7月9日
青	青森市卓球協会100周年記念第1回VICTAS杯卓球選手権大会	7月10日
	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会青森県予選会	7月10日
	令和4年度第2回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月13日～14日
	令和4年度第73回青森県中学校体育大会夏季大会	7月16日～17日
	青森県私立高等学校バレーボール選手権大会兼東北私立高等学校バレーボール選手権大会青森県予選会	7月23日
	令和4年度全日本卓球選手権大会（カデットの部）青森県予選会	7月23日～24日
	U-14サマーリーグ	7月30日
	青森県中学校剣道錬成会	8月2日～3日
	第37回青森県トランポリン競技選手権オープン大会	8月6日
	JFA全日本U-15フットサル選手権大会青森県大会	8月6日～7日
森	第49回東北総合体育大会バレーボール競技	8月18日～21日
	第49回東北総合体育大会バスケットボール競技	8月25日～28日
	NHK杯第44回青森県小学生バレーボール大会兼第37回東北小学生バレーボール選手権大会青森県予選会	9月3日
	AHBA-BASEカップU-12ミニバスケットボール大会	9月9日～11日
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」ソフトバレーボール交流大会	9月11日
	AHBA-BASEカップU-12ミニバスケットボール大会	9月15日
	令和4年度第73回青森市中学校体育大会秋季大会	9月16日～20日
	東北地区支部設立57周年記念講演会	9月23日～24日
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」バウンドテニス交流大会	9月25日
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」ラジボール卓球・交流大会	9月25日
県	2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	9月30日～10月2日
	令和4年度あおもりスポーツアカデミー事業「第3回育成プログラム」	10月1日
	青森県フットサルリーグ	10月2日
	令和4年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練	10月7日～8日
	社会福祉法人和幸園大運動会	10月8日
	第37回東北小学生バレーボール選手権大会	10月8日～10日
	第32回全国産業教育フェア青森大会	10月12日～17日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会第4回ワーキングチーム会議	10月19日～20日
	令和4年度青森県高等学校体操競技・新体操選手権大会青森県予選会・令和4年度東北ジュニア新体操選手権大会青森県予選会	10月23日
	バトル・オータム'22	10月23日
園	2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVSアルティエーリ千葉	10月25日～27日
	第72回青森県高等学校秋季ハンドボール選手権大会	10月28日～29日
	第72回青森県高等学校秋季ハンドボール選手権大会	10月30日
	第72回青森県高等学校秋季ハンドボール選手権大会	10月30日

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	第25回青森県ユニバーサルホッケー選手権大会	10月30日
	第33回ナガセ杯東北レディースインドア大会県予選会	11月1日
	第41回秋季選抜大会小学生バレーボール青森大会	11月3日
	2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVS西宮ストークス	11月4日～6日
	令和4年度あおりスポーツアカデミー事業「発掘プログラム(一次選考会)」	11月5日～6日
	TTCスポーツ科学セミナー	11月12日
	あおりマーチングフェスタ2022	11月13日
	第64回NHK杯青森県卓球選手権大会	11月18日～20日
	第20回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会青森県大会	11月23日
	ハーツバスケット大会冬	11月26日
	東京卓球選手権大会青森県予選会	11月26日～27日
	Motoki CUP (バスケットボール競技)	12月3日
	第6回青森県剣道総合錬成会 (コーチスキルアップ事業)	12月4日
	東北女子フットサル選手権大会 兼 全日本女子フットサル選手権大会東北大会	12月9日～11日
	U-15バスケットボール強化練習会	12月11日
	令和4年度全国ミニバスケットボール大会青森県予選	12月16日～18日
	県下高校室内テニス大会	12月24日～25日
	県ジュニア冬季強化合宿	12月26日
	第58回青森県高等学校ソフトテニスインドア大会	12月26日～28日
	令和4年度青森地区江東区ソフトテニスインドア大会	1月5日～6日
青森県卓球連盟強化リーグ	1月7日～9日	
あおりフットサルリーグ2022	1月9日	
青森県中学冬季バドミントン選手権大会	1月13日～14日	
全国ホープス選抜卓球大会青森県予選会	1月15日	
2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVS熊谷アルファーズ、VSライジングゼファー福岡	1月18日～22日	
TSC青森ソフトテニス強化大会	1月21日～22日	
令和4年度青森県高等学校新人バレーボール選手権大会	1月27日～30日	
令和4年度第46回東北高等学校選抜卓球大会兼第50回全国高等学校選抜卓球大会東北予選会	2月2日～5日	
教員指導者研修会	2月5日	
会長杯 第1回青森オープン小学生卓球大会	2月11日～12日	
青森県選抜中学校インドアソフトテニス選手権大会	2月18日～19日	
令和4年度あおりスポーツアカデミー事業「第5回育成プログラム」	2月23日	
東青地区小・中学校ソフトテニス講習会 (Step 1 講習会)	2月23日	
青森フットサルフェスティバル (U-14) 2023	2月25日	
青森市社会人卓球リーグ戦 (後期)	2月26日	
あおりフットサルリーグ2022	2月26日	
2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVS熊本ヴォルターズ	3月3日～5日	
JFA女子サッカーデー2022青森in新運動公園サブアリーナ	3月4日	
令和4年度青森地区交流会 (硬式テニス)	3月10日	
青森市ジュニア卓球選手権大会及び青森市カブ・バンビ卓球大会	3月11日	
第25回青森県ユニバーサルホッケー交流大会	3月12日	
あおりフットサルリーグ2022	3月12日	
ボネーラカップフットサル大会櫛引正敏カップフットサル大会	3月18日	

区分	行 事 名	期 間
新	ハーツバスケット大会春	3月18日
	AOFA青森県フットサル選手権大会	3月19日
	青森県公認ソフトテニス審判員講習会兼青森県ソフトテニスジュニアショートテニス大会	3月19日
	第22回青森マスタースフットサル	3月21日
	2022-23 B2LEAGUE青森ワッツ公式戦 青森ワッツVSアルティエーリ千葉	3月24日～26日
青	・テニスコート	
	令和4年度青森地区高等学校ソフトテニス春季大会	4月16日
	青森県シングルス・ソフトテニス選手権大会	4月17日
	令和4年度県下高校春季テニス選手権大会中央地区予選会	4月23日～24日
	青森市民春季ソフトテニス大会	4月29日
森	令和4年度青森オープンジュニアチーム対抗テニス大会	4月30日～5月1日
	青森県ジュニア選手権	5月3日～5日
	第72回青森県高等学校ソフトテニス春季大会	5月6日～9日
	令和4年度青森県マスターステニス春季大会	5月12日
	青森県ソフトテニス選手権大会	5月15日
県	青森県春季シングルス選手権 兼 国スポ一時予選会(男子A・B級)	5月15日
	第62回東北ソフトテニス選手権大会	5月20日～22日
	第44回全日本レディース青森県大会	6月2日
	第75回青森県高等学校総合体育大会テニス競技	6月3日～6日
	第44回全日本レディース青森県大会	6月9日
総	令和4年度青森県高体連テニス専門部中央地区強化練習会	6月11日
	第72回青森県高等学校定時制通信制総合体育大会ソフトテニス競技	6月11日～12日
	青森県春季ダブルス選手権 兼 国スポ一次予選	6月12日
	東北シニアテニスオープン青森大会	6月14日
	ダンロップキャンピング北東北	6月18日～19日
運	Princeレディーストーナメント2022	6月22日～23日
	第18回青森県レディースミズノカップ大会	6月23日
	第5回東北学連杯争奪東北小学校ソフトテニス大会	6月25日～28日
	青森県少年国スポ選手選考会ダンロップジュニア選手権	7月2日～3日
	第15回青森県民スポーツ・レクリエーション祭	7月3日
動	青森市シングルス・ソフトテニス大会	7月9日
	令和4年度東青地区審判講習会および強化練習会	7月10日
	ピンクリボンレディーステニス大会by Admiral	7月13日～14日
	令和4年度第73回青森県中学校体育大会夏季大会ソフトテニス競技	7月16日～18日
	第17回青森県ジュニア・オープンソフトテニス大会	7月23日～24日
公	青森県サマーカップジュニアテニス大会U-15S・D	7月27日
	青森県サマーカップジュニアテニス大会U13	7月28日
	第49回東北総合体育大会テニス競技	7月29日～31日
	青森県ヨネックスカップジュニア選手権	8月6日～7日
	北海道・北東北高校テニス選手権大会	8月9日～10日
園	青森県ソフトテニス連盟強化練習会	8月12日～13日
	第72回東奥日報杯県下総合ソフトテニス選手権大会	8月14日

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	青森県ジュニア夏季強化練習会	8月17日～18日
	第49回東北総合体育大会「ソフトテニス競技」兼 第77回国民体育大会東北予選会	8月19日～21日
	令和4年度青森地区高等学校ソフトテニス新人大会	8月27日
	東北DUNLOP SRIXON県予選男女ABベテラン男女	8月28日
	令和4年度青森地区高等学校ソフトテニス新人大会団体戦	8月28日
	第44回県下レディースルーセント杯選手権大会（団体戦）	9月1日
	東北秋季ジュニアテニス選手権大会	9月3日～4日
	青森県秋季シングルス選手権男女A・Bベテラン男女	9月4日
	ヨネックスレディースチャレンジカップ2022	9月7日
	青森市民クラブ対抗ソフトテニス大会	9月10日
	第15回青森市小学生ソフトテニス大会	9月10日
	MUFGジュニア'23県予選	9月11日
	第68回青森市・函館市・盛岡市・秋田市4都市対抗ソフトテニス大会	9月11日
	第67回青森県高等学校ソフトテニス新人大会	9月16日～18日
	第4回みちのくベテランテニス選手権大会	9月19日～25日
	第23回あおりシニアフェスティバル「スポーツイベント」テニス交流大会	9月25日
	第15回YONEX杯青森県レディース大会	9月29日
	青森県下中学校ソフトテニス選手権大会	10月1日～2日
	東北春季ジュニア県予選	10月8日～9日
第17回青森県ミックスダブルス・ソフトテニス大会	10月10日	
DUNLOP SRIXSONジュニアダブルス選手権	10月15日～16日	
東北インドアダブルス選手権	10月16日	
第24回ルーセントカップin青森	10月22日～23日	
青森県学生テニス選手権大会	10月29日～30日	
青森フレンドリーシップカップテニス大会	11月13日	
・多目的運動場（旧アーチェリー場）		
青森オープンバタック大会	5月8日	
2022U12サッカーリーグin青森県～青森地区リーグ～	6月4日	
2022U12サッカーリーグin青森県～青森地区リーグ～	6月18日	
U10青森県少年サッカー大会青森地区予選	7月16日～18日	
U11青森県少年サッカー大会青森地区予選	8月6日～7日	
U11青森県少年サッカー大会青森地区予選	8月20日～21日	
2022U12サッカーリーグin青森県～青森地区リーグ～	9月3日～4日	
2022U12サッカーリーグin青森県～青森地区リーグ～	9月17日	
第23回あおりシニアフェスティバル「スポーツイベント」バタック・ゲートボール交流大会	9月24日～25日	
2022U11サッカーチビリン大会 青森地区予選会	9月29日～30日	
・球技場		
第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	4月30日～5月1日	
第75回青森県高校総合体育大会サッカー競技	6月2日～4日	
第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	6月11日～12日	
令和4年度U-16東北ブロックトレンセン・U-17東北ブロックアウト並びに高校日本代表候補1次選考会	6月23日～26日	

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	7月9日～10日
	令和4年度第2回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月13日～14日
	青森ユースサッカーフェスティバル	8月11日～13日
	第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	9月2日～3日
	第30回青森県民駅伝競走大会	9月4日
	第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	9月24日～25日
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月20日
	第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月26日～29日
	第24回JFLラインメール青森FCホーム戦	11月12日～13日
	・室内プール	
	小学校体育実技(着衣泳)研修講座	4月26日
	第30回青森県障害者スポーツ大会水泳競技の部	9月4日
	令和5年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験二次試験	9月23日
	・陸上競技場(主/補助)	
	第24回日本フットボールリーグ第5節ラインメール青森FC対クリアソン新宿	5月5日
	青森県春季陸上競技選手権	5月6日～8日
	第36回東青地区中学校春季陸上競技選手権大会 兼 2022年東青小学生陸上競技記録会	5月21日～22日
	第75回青森県高等学校総合体育大会陸上競技兼第72回青森県高等学校校定時制・通信制総合体育大会陸上競技	5月27日～31日
	第75回青森県高等学校総合体育大会サッカー競技	6月4日～6日
	第35回青森県自治体職員職域対抗駅伝大会	6月11日
	全国障害者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選会知的障害者サッカー競技	6月11日～12日
	東北高等学校総合体育大会陸上競技	6月13日～17日
	令和4年度第73回青森市中学校体育大会夏季大会	6月18日～19日
	第69回青森市小学校体育デー	6月23日～24日
第24回日本フットボールリーグ第13節ラインメール青森FC対高知ユナイテッドSC	6月25日	
全国小学生陸上競技交流大会青森県予選会	6月26日	
令和4年度青森県立青森工業高等学校運動会	7月1日	
全日本中学校通信陸上競技青森県大会	7月2日～3日	
第22回全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	7月10日	
令和4年度第2回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月14日	
第24回日本フットボールリーグ第16節ラインメール青森FC対鈴鹿ポイントゲッターズ	7月16日	
令和4年度第73回青森県中学校体育大会夏季大会	7月16日～18日	
東奥学園高等学校体育祭	7月20日	
第13回東青地区陸上競技選手権大会兼第41回青森県小学生交流陸上競技大会東青ブロック予選	7月23日～24日	
青森ユースサッカーフェスティバル	7月29日	
第50回市職労団結駅伝大会	7月30日	
全国小学生陸上競技交流大会青森県選手結団式	7月31日	
2026国スポ強化事業・2022年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	8月4日～5日	
全国統一かけっこチャレンジ2022	8月6日	
第22回全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	8月7日	
東北中学校陸上競技選手権大会	8月7日～10日	

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	青森ユースサッカーフェスティバル	8月14日～15日
	東北総合体育大会陸上競技	8月19日～21日
	第1回東青地区陸上競技記録会	8月22日
	第30回青森県障害者スポーツ大会陸上競技の部	8月27日～28日
	第30回青森県障害者スポーツ大会フライングディスク競技の部	8月27日～28日
	令和4年度青森県立東高等学校体育祭	9月1日
	第30回青森県民駅伝競走大会	9月3日～4日
	青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月9日～11日
	令和4年度第73回青森市中学校体育大会秋季大会	9月17日～18日
	長距離記録会	9月18日
	ファミリー向けサッカーフェスティバル	9月19日
	ユニバース・S&B杯ちびっこ健康マラソン大会	9月30日～10月1日
	第43回青森市民駅伝第5回長距離記録会	10月8日
	U15青森県あすなろサッカーリーグ	10月8日
	第24回日本フットボールリーグ第24節ラインメール青森FC対奈良クラブ	10月8日～9日
	第22回全国障害者スポーツ大会陸上競技強化練習会	10月10日
	青森県立青森南高等学校第47回マラソン大会	10月14日
	青森県障害者スポーツ選手等・強化事業陸上競技強化練習	10月15日
	青森県小学生リレーマラソン	10月16日
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月20日
第24回フットボールリーグ第26節ラインメール青森FC対FC大阪	10月22日～23日	
青森県秋季陸上競技選手権大会	10月28日～30日	
第101回全国高校サッカー選手権大会青森県大会準決勝及び代表決定戦	11月2日～6日	
JAAFアスリート育成プロジェクトU13クリニック	11月3日	
駅伝選考会	11月5日	
北海道ラグビー中学校選抜	11月11日	
長距離強化練習会	11月23日	
国体に向けた長距離強化練習会	12月3日	
オリンピック巡回指導事業	12月4日	
あおりりディスタンス冬季トライアル	12月10日	
国体に向けた長距離強化練習会	12月11日	
県中体連陸上競技選抜練習会	12月11日	
第1回冬季国体県内選抜週末強化練習会	12月17日～18日	
2022年度日本陸上競技連盟U-19強化練習会	12月24日～27日	
国体に向けた長距離強化練習会	1月7日～8日	
県中体連陸上競技選抜練習会	1月8日	
冬季県内選抜週末強化練習会	1月14日～15日	
あおりりディスタンス冬季トライアル	1月28日	
冬季県内選抜週末強化練習会	1月29日	
あおりりディスタンス冬季トライアル	2月18日	
冬季県内選抜週末強化練習会	2月25日～26日	
冬季県内選抜週末強化練習会	3月4日～5日	
あおりりディスタンス冬季トライアル	3月18日	

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	県中体連陸上競技選抜練習会	3月26日
	・投てき、アーチェリー場	
	青森県春季陸上競技選手権	5月4日～8日
	第75回青森県高等学校総合体育大会アーチェリー競技	6月3日～5日
	東北高等学校総合体育陸上競技	6月13日～17日
	国民体育大会アーチェリー競技青森県予選会兼青森県アーチェリー記録会	7月2日～3日
	アーチェリー青函対抗	7月16日～17日
	第1回青森県高校アーチェリー記録会	7月28日～29日
	夏季選手強化講習会	7月30日～31日
	2026国スポ強化事業・2022年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	8月3日～5日
	東北総合体育大会アーチェリー競技	8月19日～21日
	第30回青森県障害者スポーツ大会陸上競技の部	8月28日
	第30回青森県障害者スポーツ大会アーチェリー競技の部	9月3日
	第30回青森県民駅伝競走大会	9月4日
	青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月9日～11日
	第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」グラウンドゴルフ大会	9月24日～25日
	全国高等学校アーチェリー選抜大会県予選会兼第2回青森県高校アーチェリー記録会	9月30日～10月1日
	青森県アーチェリー選手権大会	10月2日
	投てき記録会	10月15日
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月20日
青森県秋季陸上競技選手権大会	10月28日～30日	
・多目的広場		
全国障害者スポーツ大会北海道・東北ブロック予選会知的障害者サッカー競技	6月10日～12日	
第23回あおもりシニアフェスティバル「スポーツイベント」グラウンドゴルフ交流大会	9月24日～25日	
青 森 県 総 合 運 動 公 園	・野球場	
	令和4年度青森地区高等学校野球大会	4月16日～17日
	令和4年度青森地区高等学校野球大会	4月23日～24日
	青森山田学園高校野球招待試合	4月28日
	令和4年度青森地区高等学校野球大会	4月29日～30日
	第20回青森市軟式野球連盟会長旗争奪学童軟式野球大会兼高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント青森支部予選会	5月1日
	第20回青森市軟式野球連盟会長旗争奪学童軟式野球大会兼高円宮賜杯第42回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント青森支部予選会	5月3日～4日
	至孝旗争奪野球大会	5月5日
	令和4年度春季高等学校野球選手権大会五所川原地区予選会	5月7日～9日
	令和4年度春季青森県高等学校野球選手権大会青森地区予選会	5月12日～13日
	令和4年度北東北大学野球春季リーグ戦	5月14日～16日
	2022年度イースタン・リーグ公式戦「東北楽天ゴールデンイーグルス対北海道日本ハムファイターズ」	5月22日
	令和4年度春季青森地区高等学校野球大会	5月29日
	高円宮賜杯第66回全日本軟式野球大会（2部）青森県予選	6月4日～5日
第4回青森県スーパーエイジ野球大会	6月6日	
青森県古希軟式野球大会	6月9日	
エービッツ旗学童親善野球大会	6月11日～12日	

区分	行 事 名	期 間
青 森 県 総 合 運 動 公 園	令和4年度第73回青森市中学校体育大会夏季大会野球競技 青森県古希軟式野球大会	6月18日～21日 6月23日
	第35回JVA青森市長旗争奪野球大会	6月25日～26日
	令和4年度JA全農東北地区野球大会	6月30日～7月3日
	第53回青森県少年軟式野球大会青森支部予選会	7月9日～10日
	青森県50歳野球大会	7月16日～17日
	第62回全日本実業団男子ソフトボール大会	7月20日～26日
	天皇賜杯第77回全日本軟式野球大会青森県予選 青森県50歳野球大会	7月30日 7月31日
	文部科学大臣杯第14回全日本少年秋季軟式野球大会兼第20回東北少年軟式野球新人大会青森支部予選会	8月6日～7日
	令和4年度秋季青森地区高等学校野球大会	8月11日～12日
	第20回東北学童軟式野球新人大会青森支部予選会	8月14日
	令和4年度秋季青森地区高等学校野球大会	8月16日～17日
	令和4年度国民体育大会東北ブロック大会兼第49回東北総合体育大会	8月19日～22日
	2022年度北東北大学野球秋季リーグ戦	8月27日～29日
	令和4年度秋季青森県高等学校野球選手権大会青森地区予選会	9月2日～5日
	令和4年度秋季青森県高等学校野球選手権大会青森地区予選会	9月9日～12日
	令和4年度秋季青森県高等学校野球選手権大会	9月16日～20日
	第5回NEXTチャレンジカップ	9月24日
	第6回CBS少年軟式野球「6年生選抜」全国大会青森大会 山田カップ2022	10月1日～2日 10月16日
	令和4年度青森地区高等学校野球連盟新人研修大会青森地区大会 令和4年度中学生強化事業青森県選抜交流会	10月22日～23日 10月29日～30日
	第6回CBS少年軟式野球「学童新人」全国大会青森県予選会 令和4年度青森地区高等学校野球連盟親善野球大会 第6回CBS少年軟式野球「学童新人」全国大会青森県予選会	11月3日 11月5日 11月6日
・水泳場 第75回青森県高等学校選手権水泳競技大会第70回東北高等学校選手権水泳大会県予選会 第26回青森県選手権水球競技大会 令和4年度第73回青森県中学校体育大会夏季大会 令和4年度国民体育大会北海道・東北ブロック大会兼第49回東北総合体育大会（水球）	6月18日～20日 6月25日～26日 7月16日～19日 7月29日～31日	
盛 運 輸 ア リ ー ナ （ 県 営 ス ケ ー ト 場 ）	THE RAMPAGE from EXILE TRIBE スポーツクライミングリード認定講習会 第77回国民体育大会スポーツクライミング競技青森県予選大会 インラインスケートリンクオープン・オープンイベント ジュニアインラインホッケー教室 インラインスケートスクール全9コース 3on3 インラインホッケー大会 THE RAMPAGE from EXILE TRIBE 国民体育大会兼東北総合体育大会スポーツクライミング競技 Housan Cup インラインホッケー大会 インラインスケートフェスタ	4月16日 4月24日 4月29日 4月29日 4月～8月 5月 5月29日 6月11日～12日 7月13日～19日 7月20日～29日 8月14日

区分	行 事 名	期 間
盛 運 輸 ア リ ー ナ (県 営 ス ケ ー ト 場)	青森県合同企業説明会	8月19日
	青森放送(株)2022RABまつり	9月10日～11日
	ヨコハマタイヤ試乗会	10月19日
	ブリヂストンタイヤ試乗会	10月20日～21日
	アイススケートリンクオープン・オープンイベント	10月22日～23日
	ジュニアアイスホッケー教室	10月～3月
	Housan Cup アイスホッケー大会	11月8日～16日
	第37回市内クラブ対抗アイスホッケーリーグ戦	11月30日～12月18日
	アイススケートスクール全10コース	11月～3月
	日本スケート連盟「基礎スケート青森教室」	12月17日
	クリスマスイベント	12月25日
	中・長距離陸上教室	12月～3月
	新年オープンイベント	1月2日～3日
	フィギュアスケート教室	2月
	氷上綱引き大会	2月5日
	第36回市長杯争奪市民アイスホッケーリーグ戦	2月7日～25日
氷まつり	2月12日	
アイスホッケーファイティングマッチ	3月7日～17日	
アイスホッケーファイナルマッチ	3月21日	
スケート場感謝祭	3月21日	
青 森 県 武 道 館	2021-2022B2リーグ青森ワッツホームゲーム	4月13日
	弘前地区春の安全・安心まちづくり推進大会	4月21日
	全国ホープス卓球大会弘前地区予選会及び全日本ホープス・カップ卓球選手権弘前地区予選会	4月24日
	青森県高体連弓道専門部春季錬成会	5月3日～5日
	第17回青森県小学生春季バドミントン選手権大会	5月4日～5日
	令和4年度県下春季高等学校弓道大会	5月7日～8日
	ニッタク杯第14回りんご花まつり弘前ラージボールオープン大会	5月14日～15日
	第52回青森県中学校春季バスケットボール大会	5月21日
	令和4年度春季ソフトバレーボール大会	5月29日
	第75回青森県高等学校総合体育大会相撲競技	6月3日～5日
	第75回青森県高等学校総合体育大会バレーボール競技兼全国高等学校総合体育大会青森県予選会兼第52回東北高等学校バレーボール選手権大会兼NHK杯青森県予選会	6月3日～6日
	令和4年度青森県高等学校総合体育大会弓道競技	6月3日～6日
	令和4年度南地方・弘前地区中体連夏季大会新体操競技	6月11日
	令和4年度第76回弘前地区中学校体育大会夏季大会バスケットボール競技	6月11日～12日
	福田昌由追悼記念第11回スポーツひのまるキッズ東北小学生柔道大会	6月19日
	国際空手道連盟極真会館青森支部2022東北地区交流大会	6月19日
令和4年度春季県下弓道大会	6月19日	
令和4年度第58回東北高等学校バレーボール選手権大会兼NHK杯大会	6月24日～26日	
第40回青森県小学生相撲大会兼第32回東北学童相撲大会青森県予選会	6月25日	
公益社団法人日本空手協会第65回内閣総理大臣杯文部科学大臣杯東北地区代表選手選考会兼第49回東北地区空手道選手権大会	7月2日～3日	
令和4年度青森県弓道遠征の選手権大会	7月3日	
第49回東北総合体育大会 新体操・トランポリン	7月8日～10日	
第73回青森県中学校体育大会夏季大会バドミントン競技	7月17日～18日	

区分	行 事 名	期 間	
青	東北総合体育大会・第77回国民体育大会東北ブロック大会	7月22日～24日	
	第23回青森県小学生バドミントン選手権兼第28回東北小学生バドミントン大会青森県予選会	7月31日	
	令和4年度青森県ジュニア新体操選手権大会兼全日本ジュニア新体操選手権大会東北ブロック青森県予選会	8月6日	
	令和4年度東北中学校体育大会第43回東北中学校相撲大会	8月9日～11日	
	令和4年度全国中学校体育大会第52回全国中学校バドミントン大会	8月19日～22日	
	令和4年度国民体育大会東北ブロック大会兼第49回東北総合体育大会空手道競技	8月27日～28日	
	第30回全国高等学校ロボット競技大会青森県予選会	8月30日～31日	
	第47回青森県スポーツ少年団フェスティバル柔道競技会	9月4日	
	南地方・弘前地区中体連秋季大会新体操競技	9月17日	
	第48回東北地区軌道優勝大会	9月18日～19日	
森	幼児音体フェスティバル2022弘前会場	9月25日	
	第1回青森県フルオープンボッチャ大会	10月1日	
	青森県高等学校体育連盟弓道専門部令和4年度五所川原地区高等学校弓道錬成会	10月2日	
	令和4年度弘前地区高等学校弓道大会	10月9日	
	令和4年度秋季県下弓道選手権大会	10月10日	
	第30回全国高等学校ロボット競技大会	10月11日～17日	
	令和4年度秋季県下高等学校弓道大会	10月22日～23日	
	県民共済カップ第75回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦	10月29日～30日	
	令和4年度青森県武道館トップアスリート交流事業柔道教室	11月3日～6日	
	「オールあおもり」進学相談フェア	11月8日	
県	令和4年度スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会	11月12日	
	令和4年度あおもりスポーツアカデミー事業「発掘プログラム（一次選考会）」	11月12日～13日	
	令和4年度青森県高等学校新人バドミントン大会	11月19日～20日	
	令和4年度第4回青森県U14育成センター強化交流戦	11月26日～27日	
	2022-2023 B2リーグ青森ワッツホームゲーム	12月3日～4日	
	2022年度スポーツ振興くじ タレント発掘・一貫指導育成パスウェイ事業（U-10 U-15）北海道・東北ブロック研修	12月9日～11日	
	第22回東日本高等学校弓道大会青森県最終予選会	12月10日～11日	
	第15回東北中学校バドミントン選手権大会	12月25日～28日	
	第54回東北高等学校インドアソフトテニス大会兼第48回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会東北地区予選会	1月12日～15日	
	第50回津軽地区室内陸上競技選手権大会	1月29日	
道	第37回全国選抜高等学校相撲弘前大会	2月11日	
	青森県U15バスケットボールリーグ2022-23 [弘前・南地区]	2月25日～26日	
	小学生クラブ対抗バドミントン大会	3月5日	
	第14回春藤新体操クラブ発表会	3月12日	
	第12回斉藤仁旗争奪少年柔道大会	3月19日	
	第22回東日本高等学校弓道大会	3月25日～26日	
	館		

② 利用者数

(ア) 新総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メインアリーナ	1,372	8,650	10,030	5,158	5,362	7,975	109,841	5,815	5,770	5,955	6,208	3,890	176,026
サブアリーナ	1,613	7,143	6,949	4,423	4,018	5,843	108,814	2,891	4,105	4,794	2,783	2,751	156,127
プール	2,961	4,925	5,755	5,832	5,748	5,808	2,688	4,364	2,445	3,308	1,758	2,493	48,085
トレーニングルーム	3,245	4,978	5,632	5,569	5,566	6,102	6,260	6,138	4,030	5,494	3,382	4,284	60,680
庭球場	4,205	9,054	7,363	8,649	4,163	10,207	6,146	961	0	0	0	0	50,748
アーチェリー場	0	90	150	573	628	760	310	0	0	0	0	0	2,511
球技場	58	100	1,160	307	210	190	1,250	160	0	0	0	0	3,435
合宿所	208	851	1,239	1,022	1,523	650	954	97	378	109	270	280	7,581
陸上競技場	295	14,325	26,529	7,305	5,932	12,034	6,881	1,339	1,579	1,170	871	660	78,920
室内練習場	369	535	217	245	488	188	298	707	1,105	1,854	1,170	1,602	8,778
周回走路	219	139	168	218	344	206	268	521	1,591	2,113	1,800	1,221	8,808
陸上競技場 トレーニングルーム	293	265	315	316	263	225	283	328	399	700	393	492	4,272
補助競技場	143	12,669	20,548	6,108	5,006	8,429	4,179	375	0	0	0	0	57,457
投てき・ アーチェリー場	40	2,248	2,344	897	1,356	1,785	1,466	10	0	0	0	0	10,146
観客・見学	408	12,714	14,704	17,844	12,406	15,462	21,507	16,331	3,573	7,641	3,876	7,337	133,803
計	15,429	78,686	103,103	64,466	53,013	75,864	271,145	40,037	24,975	33,138	22,511	25,010	807,377

(イ) 総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陸上競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野球場	900	2,672	2,350	1,966	2,140	1,420	1,580	170	0	0	0	0	13,198
水泳場	0	0	1,252	3,032	589	0	0	0	0	0	0	0	4,873
計	900	2,672	3,602	4,998	2,729	1,420	1,580	170	0	0	0	0	18,071

(ウ) 県営スケート場

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計	10,511	2,550	19,107	1,250	1,444	15,448	1,868	7,467	9,195	12,338	8,361	6,013	95,552

(エ) 県武道館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
主競技場	1,632	3,618	4,037	4,402	5,765	4,385	8,447	2,705	3,819	3,832	2,570	5,387	50,599
補助競技場	501	885	555	397	434	600	682	814	540	570	1,134	1,055	8,167
柔道場	442	605	841	704	358	868	905	745	552	683	697	849	8,249
剣道場	375	399	614	560	294	617	692	587	415	529	715	466	6,263
相撲場	0	0	263	37	0	25	0	180	0	0	0	0	505
近的弓道場	208	1,588	1,508	1,035	459	504	1,255	510	562	456	612	646	9,343
遠的弓道場	67	128	205	138	152	309	183	115	147	48	173	201	1,866
会議室	438	867	750	516	425	647	707	680	405	486	452	545	6,918
トレーニングルーム	923	1,662	1,634	1,740	1,274	1,643	1,413	1,513	1,594	1,567	1,918	2,137	19,018
合宿所	63	20	77	247	351	162	240	168	37	110	83	154	1,712
館内見学	0	0	56	0	0	0	95	0	0	0	0	0	151
計	4,649	9,772	10,540	9,776	9,512	9,760	14,619	8,017	8,071	8,281	8,354	11,440	112,791

(オ) 過去3年間の利用状況

施設名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新総合運動公園	427,318	376,223	807,377
総合運動公園	12,707	18,740	18,071
県営スケート場	49,691	46,131	95,552
県武道館	84,319	77,594	112,791

2 スポーツ事業

(1) 県民スポーツ関連事業

多様化するスポーツ・レクリエーション活動に対する県民ニーズに的確に対応し、「いつでも、どこでも、だれでも」が気軽に楽しめる生涯スポーツの普及振興を図るため、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
第30回青森県民駅伝競走大会	9月4日	カクヒログループアスレチックスタジアム及び新青森県総合運動公園内周回コース	・対象 40市町村代表選手 ・内容 市町村対抗による駅伝競走大会	選手団 771名 関係役員 205名
第15回青森県民スポーツ・レクリエーション祭	6月～11月	県内7市5町1村	・対象 種目別大会参加者 ・内容 35種目別大会の開催	参加者 3,705名 関係役員 427名

(2) 競技スポーツ関連事業

本県競技力向上を図ることを目的として、指導者の資質向上やジュニア層の育成強化、県内外での強化合宿等をはじめとする各種競技力向上対策事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
総合選手強化	通 年	国 内	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 関係競技団体が実施する、国内における合宿に対する補助金交付	3,973名
中学生強化	通 年	県 内 外	・対象 中体連、関係競技団体 ・内容 中体連が実施する県内外における強化合宿に対する補助金交付	1,282名
高校生強化	通 年	国 内	・対象 高体連、指定高校及び関係競技団体 ・内容 高体連が実施する国内における強化合宿に対する補助金交付	1,218名
あおもりスポーツアカデミー事業	・発掘プログラム 10～11月 ・育成プログラム 年5回 ・選択プログラム 年1回	・発掘プログラム 県内3会場（青森市、弘前市、八戸市） ・育成プログラム マエダアリーナ カクヒログループスタジアム ・選択プログラム 八戸市東体育館 青森県武道館 マエダアリーナ	①発掘プログラム ・対象 新体力テストA判定の小学4、6年生 ・内容 運動能力が高く優れた素質を有する選手を発掘するため、選考会を実施 ②育成プログラム ・対象 あおもりスポーツアカデミー生 178名 (小5:36名、小6:40名、中1:36名、中2:31名、中3:35名) ・内容 スポーツ医・科学やトップアスリートを活用した講義、発達段階や競技特性に応じたトレーニングの実施	・発掘プログラム 175名 ・育成プログラム 延べ291名 ・選択プログラム 延べ22名

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
			③選択プログラム ・対象 小6・中3のアカデミー生 ・内容 中学校・高等学校進学以降に トップアスリートを目指す可能性のある最適競技種目を選択 できるよう、選手・保護者との 面談を実施	
第 49 回 東 北 総 合 体 育 大 会	8月19日 ～21日 (主会期)	青 森 県 他	・対象 青森県代表選手・監督・本部役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競 技団体等への補助金交付 ※一部競技が新型コロナウイルス感染症 の影響により中止	役員・ 監督・選手 916名
特 別 国 民 体 育 大 会 (冬 季)	スケート・ アイスホッ ケー競技会 1月28日 ～ 2月5日 スキー競技会 2月17日 ～20日	青 森 県 岩 手 県	・対象 代表選手・監督・役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競 技団体等への補助金交付	役員・ 監督・選手 82名 役員・ 監督・選手 69名
コ ー チ ス キ ル ア ッ プ 事 業	通 年	県 内 外	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 若手指導者の育成と資質向上を図 るための指導者派遣事業、招聘事 業並びに公認資格の取得支援を行 う競技団体への補助金交付	指導者派遣 164名 トップレベル コーチ招聘 4,136名 資格取得支援 94名

(3) スポーツ科学関連事業

県民の健康・体力の増進、本県競技力の向上及び体育・スポーツ指導者の資質の向上を
図ることを目的として、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
アスリート プログラム サー ビス	通 年	県スポーツ学 科 セ ン タ ー ほ か	・対象 県民一般、県内外競技者 ・内容 体力、筋力、運動能力等の測定 運動フォームの撮影と動作分析 リコンディショニング 心理サポート	体力測定 3,765名 動作分析 0名 リコンディショニング 2,741名 心理サポート 8,167名

事業名	期 日	場所	参加対象及び事業内容	参加人数
チ ャーム サ ポート 事 業	通 年	県 内	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象 青森県高等学校体育連盟専門部から推薦を受けた高等学校の運動部(24チーム) ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ①体力測定分野からのサポート(6チーム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な体力測定と測定データの評価 ・ 評価に基づいたトレーニングプログラムの作成 ・ 作成プログラムによるトレーニング指導 ②動作分析分野からのサポート(6チーム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的・継続的なフォームの撮影と動作分析 ・ 分析結果に基づく技術改善のための情報提供 ③リコンディショニング分野からのサポート(6チーム) <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ傷害予防プログラムの作成と実施指導 ・ テーピング・ボディケア等の指導 ・ 試合時におけるリコンディショニング指導 ④心理サポート分野からのサポート(6チーム) <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標設定技法の実施と設定目標の見直し方の指導 ・ リラクゼーション技法の講義と実習 ・ イメージ技法の講義と実習 	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定分野 6校 64回 延べ 669名 動作分析分野 6校 0回 延べ 0名 リコンディショニング分野 6校 74回 延べ 452名 心理サポート分野 6校 75回 延べ 885名
ス ポーツ 科学センター チ ャーム サ ポート 指 導 懇 談 者 会	第1回 (6月30日) 第2回 (2月9日)	県スポーツ 科 学 セ ン ター ほ か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象 チームサポート対象校顧問 ・ 内容 チームサポート事業におけるサポート内容の確認及び今後のサポートに向けた課題等についての意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 25名 第2回 17名

※動作分析は、スポーツ科学専門員の欠員が生じたため未実施

6章 青森県立郷土館

〔1〕 施設・設備

(1) 所在地	青森市本町二丁目8番地14
(2) 敷地面積	3,847.64㎡
(3) 主要施設	
旧「青森銀行本店」部分	鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,123.40㎡
増築部分	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地上3階、地下1階、塔屋2階 延床面積 6,483.43㎡
延床面積合計	7,606.83㎡
(4) 主要各室床面積	
展示室	常設展示室 8室 2,514㎡ 特別展示室 1室 487㎡
小ホール	1室 119㎡
収蔵庫	10室 853㎡
エントランスホール	267㎡
事務室等	3,366.83㎡

〔2〕 運営方針

青森県立郷土館基本的運営方針

青森県立郷土館は、昭和48年に「ふるさとの過去を語り現在を考え未来を展望する」総合博物館として設置され、以来長きにわたり、県民が郷土に誇りをもち、夢や希望を感じられるよう、郷土に根ざした活動を行ってきました。

総合博物館としての当館の使命は、社会教育施設として資料収集・保存、展示、調査研究、教育普及などの活動を通して、本県の歴史や自然、文化などについて誰もが幅広い理解を得られるように支援することにあります。今後も広く県民の意見を取り入れ、経営資源を最大限に生かしながら、未来に向け、下記の博物館活動の充実に努めてまいります。

1 資料の収集・保存

当館は、開館以来、一貫して郷土の歴史、民俗、産業、自然などに関する資料の収集・保存に努めています。県民・国民共有の財産である貴重な資料の収集・整理に努め、良好な状態で次の世代に継承していきます。

2 展示

- (1) 収蔵資料の中からテーマごとに精選した資料を展示する常設展示室は、観覧者が分かりやすいよう資料や解説パネルを効果的に展示します。
- (2) 常設展示室に解説員を配置し、展示資料について分かりやすい解説や、説明資料の配布により、来館者の学習活動を支援します。

- (3) 調査研究の成果や県民の関心の高いテーマに関する資料を展示する特別展、民間事業者と連携した共催展など、多彩な展示活動を実施します。
- 3 調査研究
 収蔵資料に関する館内研究や館外調査を実施するほか、教育普及活動を一層充実させるための研究を進めます。
- 4 教育普及
 (1) 郷土館資料及び郷土についての講演会・講習会、観察会、体験活動などを実施します。
 (2) 郷土館資料及び郷土に係るレファレンスサービスを行います。
 (3) 学校の学習活動を支援する活動のほか、公共施設や福祉施設等を支援する活動も実施します。
- 5 連携・交流・情報発信
 (1) 県内外の博物館及び図書館等の社会教育施設、民間事業者等と積極的に連携・協力し、社会の要請に応える博物館として総合力を高めます。
 (2) 国外の博物館や研究者との連携、訪日外国人旅行者の受入体制の整備など、博物館としての国際交流活動の充実を図ります。
 (3) 郷土館の利用機会の拡大や調査研究の成果の普及に資するパンフレット、年報、展示図録、研究紀要等を作成し、県民の郷土理解の促進を図ります。
 (4) 様々な広報・情報媒体を積極的に活用して郷土の歴史や文化を県内外に広く発信し、郷土館が行う博物館活動への一層の理解の促進を図ります。
- 6 施設管理
 (1) 来館者が安全・快適に利用できるよう、施設・設備の整備と管理を行います。
 (2) 公共的な施設として、地震等の自然災害や火災等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。
 (3) ライフサイクルコストを勘案し、施設・設備の効率的維持管理を行います。

〔3〕 事 業

1 資料の収集・保存

調査研究・展示・教育普及に必要な資料を収集した。令和4年度は1,820点の増加となり、年度末時点における資料総数は101,625点となった。増加分を分野別にみると次のとおりである。

考古	増分	1点	(土器・石器等資料一式)
歴史	増分	47点	(書画、絵はがき、家電関連資料)
自然	増分	1,772点	(昆虫・植物・鉱物標本)

2 展示

令和2年10月から休館中のため、巡回展など館外での展示活動を行った。

(1) 巡回展

県内3会場において、「旅」をテーマに青森の魅力を紹介する巡回展「あおり旅ものごたたり～青森の名所と交通の歴史～」を開催した。

- ◇8月11日～9月11日 むつ来さまい館（むつ市）
- ◇10月1日～10月30日 青森県立三沢航空科学館（三沢市）
- ◇11月23日～1月29日 青森県立美術館（青森市）

(2) 連携展

県内博物館・資料館など館外の施設を会場として、郷土の歴史・文化・自然をテーマとした展示を次のとおり行った。

- ◇県民福祉プラザ（青森市）における連携展
写真展「青函連絡船のあゆみ」（6月7日～7月31日）
- ◇常盤ふるさと資料館あすか（藤崎町）における連携展
「岩木山の自然～クジラ化石と豊かな動植物たち」（8月6日～9月19日）

3 調査研究

分野ごとに設定したテーマに基づき調査を実施した。

- (1) 考古分野「青森県出土考古資料の所在調査」（5年計画3年次目）
県内外に所在する青森県ゆかりの考古資料について、文献等の記録類の調査を行った。
- (2) 自然分野「中南地域自然調査の補助調査」（2年計画2年次目）
青森県中南津軽地域において、生物の分布状況や自然史の解明のための資料を得る目的で3年間行った「中南地域自然調査」で得られた植物標本の整理作業を行った。
- (3) 歴史分野「青森県の交通史の調査」（5年計画5年次目）
青森県を中心とした近世・近現代の交通の様相について、文献や実物資料等の関連資料の調査を行った。
- (4) 民俗分野「近現代における儀礼・習俗等の変容調査」（5年計画2年次目）
近代の社会変化と現代の消費文化、観光などの社会的需要が民間の儀礼や習俗にどのような影響を与え、現在の形態を形成したのかについて調査を行った。
- (5) 美術分野「昭和から平成期の青森県関係の美術作品及び資料に関する調査研究」（5年計画2年次目）
昭和・平成期の青森県関係の美術作品、作家、関連資料の調査を行った。
- (6) 産業・先人分野「産業・先人調査」
青森県ゆかりの先人とりんご栽培について、資料調査及び情報収集を行った。
- (7) 教育普及分野「教育普及事業の調査研究」
移動博物館や出前授業の内容の充実を図るため、教材研究やワークシート作成を行った。

4 教育普及

県民の郷土に対する理解を深めるため、各種講座・講演会などの実施と研究紀要・資料冊子などの刊行を行った。

- (1) 土曜セミナー
一般を対象に、歴史・文化・自然に関わるテーマについて、ゲストキュレーターと当館職員が講演を行った。（実施回数12回）
- (2) 体験教室・講演会等
参加型の体験教室や、巡回展の関連事業としての講演会などを開催した。
 - ① 土曜セミナー特別講座「青森の達人」
第1回 ワークショップ「ネプタボールに色付けしよう」
地域ねぶた制作者 木下昌昭氏（8月27日）

第2回 ワークショップ「レッツトライ！ 津軽こぎん刺し」

佐藤陽子こぎん展示館館長 佐藤陽子氏（11月19日）

第3回 ワークショップ「あけび蔓細工の魅力」

あけび蔓工芸作家 竹内啓子氏（3月4日）

② 巡回展関連事業

講演「恐山 近世の地獄巡りの旅」（9月3日）

ギャラリートーク「青森隕石 宇宙からの旅」（10月16日）

講演「鉄道開業150年記念 青森の鉄道」（12月3日）

講演「映像で巡るあおり民俗紀行」（12月17日）

講演「風に吹かれて -美術と旅-」（1月14日）

(3) 講師派遣事業

当館の学芸員を、各分野に関する講演会・学習会などへ講師として派遣した。（実施件数14件）

(4) 移動博物館

郷土館が収蔵している資料を県内の公共施設などに運び、展示・解説を行った。（実施件数6件）

(5) 自然観察会

一般を対象に、大地のつくりや動植物の観察などを通じて、自然界の不思議や仕組みについて考え、自然に親しみ、自然のすばらしさを学ぶ「自然観察会」を行った。

① 夏の自然観察会（7月3日）

深浦町 千畳敷

② 秋の自然観察会（10月2日）

三沢市 三沢市民の森

(6) あおり街かど探偵団

地域の歴史的建造物や街並みの歴史を探る街歩きツアーを実施した。

第1回 「木造の街の歴史」（6月26日）

第2回 「合浦公園とその周辺」（10月22日）

(7) 博物館の仕事普及啓発事業

博物館活動や博物館資料への理解を深めるため、県内博物館職員を対象に写真や映像資料の記録と活用などに関する講演会を開催するとともに、当館の活動や資料解説などを掲載した小冊子を作成し関係機関に配布した。

(8) 出前授業

郷土館が収蔵している資料を県内の学校に運び、授業の中で実物資料の展示・解説を行った。（実施件数37件）

(9) こどものくに

夏休み・冬休み中の子どもの学習を支援し、博物館に対する興味関心を深めるため、体験活動やものづくりを中心としたイベントを実施した。

① 夏休みこどものくに

講義「青森ねぶた祭りの由来とその歴史について」（7月30日）

ワークショップ「金魚ねぶたの色つけ体験」（7月30日）

② 冬休みこどものくに

「冬休みづくりまわし大会」（1月7日）

〈出版物〉

『青森県立郷土館報』通巻49号

『青森県立郷土館研究紀要』第47号

『青森県立郷土館だより』第53巻1～2号（通巻182～183号）

『郷土館のモノ語り』No.10

巡回展「あおり旅ものがたり～青森の名所と交通の歴史～」展示カタログ

5 連携・交流・情報発信

在宅のままでも郷土館所蔵資料について楽しみながら知ることができるよう、動画投稿サイト・YouTubeに開設している公式チャンネル「キョドチャンネル」に、新たに動画コンテンツを2本追加した。

6 施設管理

耐震補強を含めた施設設備の長寿命化改修に向けて、基本計画を取りまとめた。

〔4〕 利用 状 況

令和4年度利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	
開館日数		0	0	0	0	0	
展 示 事 業	常設展・特別展・移動展	小・中学生	0	0	0	0	0
		前年度	0	0	0	0	0
		対前年度	-	-	-	-	-
		高校・大学生	0	0	0	0	0
		前年度	0	0	0	0	0
		対前年度	-	-	-	-	-
		一般	0	0	5,581	5,040	2,728
		前年度	0	4,484	4,757	840	447
		対前年度	-	0.0	117.3	600.0	610.3
	観覧者合計	0	0	5,581	5,040	2,728	
	前年度	0	4,484	4,757	840	447	
	対前年度	-	0.0	117.3	600.0	610.3	
	1日当たり観覧者数	-	-	-	-	-	
教 育 普 及 ・ ホ ー ル 利 用 事 業	教 育 普 及 事 業	資料の調査研究利用	0	0	0	0	0
		レファレンス利用	33	50	47	38	37
		講演会等への参加	0	0	8	67	33
		出前授業等の館外活動	0	0	14	162	107
		計	33	50	69	267	177
	ホ ー ル 利 用	展示の観覧	0	0	0	0	0
		講習会等の参加	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0
		合 計	33	50	69	267	177
		前年度	69	53	92	202	156
対前年度	47.8	94.3	75.0	132.2	113.5		
利 用 合 計	利用者合計	33	50	5,650	5,307	2,905	
	前年度	69	4,537	4,849	1,042	603	
	対前年度	47.8	1.1	116.5	509.3	481.8	
	1日当たり利用者数	-	-	-	-	-	

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
1,361	3,246	924	4,079	3,581	0	0	26,540
0	531	0	506	0	0	0	11,565
-	611.3	-	806.1	-	-	-	229.5
1,361	3,246	924	4,079	3,581	0	0	26,540
0	531	0	506	0	0	0	11,565
-	611.3	-	806.1	-	-	-	229.5
-	-	-	-	-	-	-	-
0	0	0	0	0	0	0	0
46	45	39	35	43	37	35	485
34	116	34	31	82	40	20	465
405	204	236	500	200	427	204	2,459
485	365	309	566	325	504	259	3,409
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
485	365	309	566	325	504	259	3,409
40	553	531	643	165	45	50	2,599
1,212.5	66.0	58.2	88.0	197.0	1,120.0	518.0	131.2
1,846	3,611	1,233	4,645	3,906	504	259	29,949
40	1,084	531	1,149	165	45	50	14,164
4,615.0	333.1	232.2	404.3	2,367.3	1,120.0	518.0	211.4
-	-	-	-	-	-	-	-

7章 青森県埋蔵文化財調査センター

〔1〕 施設

1 埋蔵文化財調査センター

(1) 所在地 青森市大字新城字天田内152-15

(2) 敷地面積 17,955.29㎡

(3) 主要施設

- ア 新館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 3,123.08㎡
収蔵・展示室、第1-第4整理室、写場、図書閲覧室、多目的室等
- イ 本館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,819.56㎡
一般収蔵庫、水洗い室、PEG含浸室、木製品前処理室、木製品・金属製品保管室、種子等保管・分析室、樹脂含浸錆び落し室、脱塩処理室、注記室、写真・スライド保管室、ネガアルバム保管室、実測図保管室等
- ウ 体育館収蔵庫 鉄骨造 地上1階 床延面積 846.90㎡
- エ 遺物乾燥室 軽量鉄骨造 地上2階 延床面積 129.60㎡

2 六ヶ所収蔵庫

(1) 所在地 六ヶ所村大字倉内字笹崎1066-1

(2) 敷地面積 13,224.48㎡

(3) 収蔵庫 木造 地上1階 延床面積 162.00㎡

3 七戸収蔵庫

(1) 所在地 七戸町舟場向川久保243-1

(2) 敷地面積 8,760.00㎡

(3) 収蔵庫

- ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 2,386.00㎡
- イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,157.71㎡
- ウ 東棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 668.70㎡
- エ その他 機械室、物置

4 大鰐収蔵庫

(1) 所在地 大鰐町大字虹貝字中熊沢10-4

(2) 敷地面積 17,128.00㎡

(3) 収蔵庫

- ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上5階 延床面積 3,591.85㎡
- イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,211.23㎡
- ウ その他 受水槽室、倉庫

〔2〕 事 業

1 埋蔵文化財発掘調査

(1) 国道394号榎林バイパス道路改築事業

◎七戸町 鉢森平(7)遺跡

〔所在地〕 上北郡七戸町字鉢森平地内

〔調査期間〕 令和4年5月10日(火)～令和4年10月28日(金)

〔調査面積〕 4,020㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部 (道路課)

〔調査結果〕 検出遺構 縄文、平安

竪穴建物跡9、掘立柱建物跡2、土坑112、柱穴84、溝状土坑7、
溝跡2、土器埋設遺構4、焼土遺構2

出土遺物 縄文

土器、石器、土製品、石製品等 段ボール箱126箱

◎七戸町 鉢森平(6)遺跡

〔所在地〕 上北郡七戸町字鉢森平地内

〔調査期間〕 令和4年5月10日(火)～令和4年7月29日(金)

〔調査面積〕 5,000㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部 (道路課)

〔調査結果〕 検出遺構 縄文・平安以降

溝状土坑14、土坑1

出土遺物 縄文

土器、石器 段ボール箱1箱

(2) 八戸環状線道路建設事業 (天久岱工区)

◎八戸市 毛合清水(3)遺跡

〔所在地〕 八戸市大字尻内町字毛合清水、北熊ノ沢地内

〔調査期間〕 令和4年5月10日(火)～令和4年10月28日(金)

〔調査面積〕 6,300㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部 (道路課)

〔調査結果〕 検出遺構 縄文・奈良

竪穴建物跡3、土坑18、溝状土坑21

出土遺物 縄文・奈良

土器、石器、鉄製品等 段ボール箱11箱

◎八戸市 北熊ノ沢(2)遺跡

〔所在地〕 八戸市大字尻内町字北熊ノ沢地内

〔調査期間〕 令和4年5月10日(火)～令和4年10月28日(金)

〔調査面積〕 7,000㎡

〔委託者〕 青森県県土整備部 (道路課)

〔調査結果〕 検出遺構 縄文・平安
 竪穴建物跡9、掘立柱建物跡4、土坑46、焼土跡9、溝状土坑26、
 貝集中範囲2
出土遺物 縄文・平安
 土器、石器、鉄関連遺物等 段ボール箱40箱

(3) 弘前柏線道路改築事業

◎弘前市 鳴瀬遺跡

〔所在地〕 弘前市大字三世寺字鳴瀬地内
〔調査期間〕 令和4年9月6日(火)～令和4年11月25日(金)
〔調査面積〕 2,100㎡
〔委託者〕 青森県県土整備部（道路課）
〔調査結果〕 検出遺構 平安以降・時期不明
 堀跡2、溝跡4、小穴289、土坑3
出土遺物 縄文・平安
 土器、石器等 段ボール箱3箱

(4) 国道454号特定交通安全施設整備事業

◎新郷村 戸来館遺跡

〔所在地〕 三戸郡新郷村大字戸来字館神地内
〔調査期間〕 令和4年5月17日(火)～令和4年6月30日(木)
〔調査面積〕 240㎡
〔委託者〕 青森県県土整備部（道路課）
〔調査結果〕 検出遺構 平安以降・時期不明
 堀跡3、土坑3、小穴74、焼土跡1
出土遺物 縄文・平安・中世以降
 土器、陶磁器、石製品 段ボール箱2箱

(5) 新青森県総合運動公園整備事業

◎青森市 米山(2)遺跡

〔所在地〕 青森市大字宮田字米山地内
〔調査期間〕 令和4年5月10日(火)～令和4年8月10日(水)
〔調査面積〕 1,270㎡
〔委託者〕 青森県県土整備部（都市計画課）
〔調査結果〕 検出遺構 縄文・中世
 竪穴建物跡1、竪穴遺構2、掘立柱建物跡数棟以上を含む柱穴群、
 土坑15、カマド状遺構20、井戸跡2
出土遺物 縄文・中世
 土器、石器、陶磁器等 段ボール箱44箱

2 刊行物

- | | |
|---------------|----------------------|
| (1) 林ノ脇遺跡Ⅱ | (青森県埋蔵文化財調査報告書第633集) |
| (2) 林ノ脇遺跡Ⅲ | (青森県埋蔵文化財調査報告書第634集) |
| (3) 樽沢村元(3)遺跡 | (青森県埋蔵文化財調査報告書第635集) |
| (4) 石田(2)遺跡 | (青森県埋蔵文化財調査報告書第636集) |
| (5) 研究紀要第28号 | |

3 「地元の縄文再発見」プロジェクト事業

事業の概要

「地元の縄文」の活用促進を目的とする「取組1」と、「地元の縄文」の魅力の再発見と情報の発信を行う「取組2」を実施した。

(1) 取組1 活用促進

◎地域連携会議

「地元の縄文」再発見フェア開催地域における発掘成果と出土品に関する概要報告、県所蔵出土品の活用案の提示、埋蔵文化財の保護と活用に関する事例報告等を行った。

〔第1回会議〕

開催日 7月1日

対象地域及び参加市町村 下北地域（むつ市、佐井村、東通村、横浜町）

会場 むつ市中央公民館（むつ市）

〔第2回会議〕

開催日 9月30日

対象地域及び参加市町村 中南地域（黒石市、平川市、弘前市、大鰐町、田舎館村、西目屋村）

会場 黒石公民館（黒石市）

◎教材の制作

下北地域と中南地域の発掘調査による出土品を用いた教材及び指導者用の取扱説明書を制作した。

〔下北地域〕

制作数 22セット

1セットの内容 土器破片40点以上、石器10～12点、取扱説明書3部

配布対象市町村 むつ市・大間町・東通村・風間浦村・佐井村

〔中南地域〕

制作数 38セット

1セットの内容 土器破片40点以上、石器10～12点、取扱説明書3部

配布対象市町村 弘前市・黒石市・平川市・西目屋村・藤崎町・大鰐町・田舎館村

(2) 取組2 魅力再発見・情報発信

◎「地元の縄文」再発見フェアの開催

下北地域・中南地域を対象とした出土品展示会、体験学習会、講演会・シンポジウムの3要素で構成されるフェアを開催した。（下北地域では、考古学的な関連性が高い横浜町と六ヶ所村も組み入れた。）

[下北地域]

開催期間 9月17日(土)～18日(日)

名 称 「地元の縄文」再発見フェア in しもきた

共 催 むつ市教育委員会

会 場 むつ来さまい館 (むつ市)

観覧者数 395名 (17日:110名 18日:285名)

・出土品展示会

展示対象市町村 むつ市・大間町・東通村・風間浦村・佐井村・六ヶ所村・横浜町

展示遺物数 560点

展示パネル数 172点

・体験学習会

ク イ ズ 「ならべてみよう」・「なかまみつけ」、ハンズオン「さわってみよう」

ものづくり体験 「アクセサリー作り」・「カラフルたくほん」・「ミニチュア土器づくり」

そ の 他 「ぬり絵作成」

・講演会

定 員 80名 (参加者70名)

基 調 講 演 「しもきたの縄文時代」森田賢司 (むつ市教育委員会)

事 例 報 告 「ひがしどおりの縄文時代」小山卓臣 (東通村教育委員会)

「まさかりの刃の縄文時代」永嶋豊 (県埋文センター)

「まさかりの柄の縄文時代」岡本洋 (県埋文センター)

・シンポジウム 「再発見“しもきたの縄文”-まさかり半島の縄文文化を語る-」

パネリスト 森田賢司・小山卓臣・永嶋豊・岡本洋

コーディネーター 木村高 (県埋文センター)

・そ の 他 出土品展示会及びシンポジウム資料配布

[中南地域]

開催期間 11月26日(土)～27日(日)

名 称 「地元の縄文」再発見フェア in ちゅうなん

会 場 スポカルイン黒石 (黒石市)

観覧者数 395名 (26日:178名 27日:217名)

・出土品展示会

展示対象市町村 弘前市・黒石市・平川市・西目屋村・藤崎町・大鰐町・田舎館村

展示遺物数 650点

展示パネル数 164点

・体験学習会

ク イ ズ 「ならべてみよう」・「なかまみつけ」、ハンズオン「さわってみよう」

ものづくり体験 「アクセサリー作り」・「JOMON缶バッジ作り」

そ の 他 「ぬり絵配布」・「作品展示コーナー」

・講演会

定 員 100名 (参加者77名)

基 調 講 演 「ちゅうなんの縄文時代」鈴木徹 (黒石市教育委員会)

事 例 報 告 「丘の縄文時代-平川・浅瀬石川流域の縄文-」長尾智寿 (平川市教育委員会)

- 「山の縄文時代－白神山地と岩木山麓の縄文－」永嶋豊（県埋文センター）
「平野の縄文時代－津軽平野の縄文－」岡本洋（県埋文センター）
- ・シンポジウム 「再発見“ちゅうなんの縄文”－南津軽の縄文文化を語る－」
パネリスト 鈴木徹・長尾智寿・永嶋豊・岡本洋
コーディネーター 木村高（県埋文センター）
 - ・その他 出土品展示会及びシンポジウム資料配布

◎あおり縄文カードの作成

所蔵する遺物写真に解説文を添えたカードを作成し、県内の道の駅、登録博物館・博物館類似施設、その他各地の拠点的な公開施設等で配布した。

〔制作種類〕 100種類

〔制作枚数〕 85,000枚（1種類につき850枚）

〔対象遺物の出土地〕 青森県内全40市町村

8章 三内丸山遺跡センター

〔1〕 施 設

特別史跡三内丸山遺跡と青森県総合運動公園の公園センターである縄文時遊館を合わせて教育機関「三内丸山遺跡センター」として平成31年4月に設置された。

- 1 所在地 青森市三内字丸山305
- 2 遺跡ゾーン 42.2ha（開園面積33.3ha）うち、特別史跡範囲25.2ha
- 3 縄文時遊館
 - (1) 延床面積 10,385.37㎡（地階 1,464.71㎡、1階 8,474.82㎡、2階 445.84㎡）
 - (2) 構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建地下1階建
 - (3) 既存部分
 - ア 延床面積 7,347.96㎡
 - イ 主要各室
 - (ア) 1階 さんまるミュージアム(875㎡、約1,700点（うち重要文化財約500点）展示）、縄文シアター、体験工房等
 - (イ) 2階 会議室
 - (4) 増築部分
 - ア 延床面積 3,037.41㎡
 - イ 主要各室
 - (ア) 1階 企画展示室（245.91㎡）、展示準備室（70.04㎡）、ギャラリー（269.91㎡）、整理作業室（404.44㎡）等
 - (イ) 地階 一般収蔵庫（680.84㎡）、特別収蔵庫（194.19㎡）、撮影室等

〔2〕 運 営 方 針

三内丸山遺跡センター基本的運営方針

遺跡は、平成6年に保存・活用が決定されて以来、発掘調査を継続するとともに、遺跡公園としての整備を進め、公開・活用に努めてきました。平成31年4月に「三内丸山遺跡センター」を設置し、遺跡の保存・管理体制をさらに強化するとともに、国内外からより一層多くの見学者が遺跡を訪れ、縄文の「ムラ」のたたずまいの中で、遺跡を知り、体感し、親しむことができるよう、日本を代表する縄文遺跡にふさわしい調査・研究、保存・活用、展示、教育普及などの取組を進めていきます。

また、令和3年7月27日に縄文遺跡群の世界遺産登録決定を受け、縄文遺跡群を守り未来へ伝えていくため、縄文遺跡群の一体的な保存管理を推進していきます。

1 遺跡の保存・活用の推進と三内丸山遺跡センターの効率的な運営

- (1) 「特別史跡三内丸山遺跡整備計画（令和2年3月策定）」に基づき、遺構等を適切に保存するとともに見学者へ魅力や価値を伝達するため、着実に史跡整備を実施します。
- (2) 保存活用課、世界文化遺産課及び総務課の所掌事務を踏まえ、三課が連携して更なる魅

力づくりや来訪促進事業に取り組み、その効果を最大限に発揮できるよう、効率的な運営を推進します。

- (3) 遺跡活用団体や地域住民の理解と協力のもと、積極的な保存・活用を実施します。

2 調査研究の推進

遺跡の全体像の解明、保存・活用の推進のため、発掘調査を継続するとともに特別研究推進事業や出土品に関する調査研究を実施します。

3 出土品及び資料の適切な管理と活用

出土品及び出土資料は、デジタル化を進めるとともに適切な環境の下で保存します。

4 遺跡の積極的な展示・公開

縄文の「ムラ」のたたずまいを体感・体験できる場として遺跡を整備公開するとともに、県民の関心の高いテーマについて、各方面から資料を集めて展示する特別展など、多彩な展示活動を実施します。

5 遺跡についての学習の機会及び情報の提供

- (1) 体験学習や講座、出前講座、発掘調査報告会、体感・体験イベントなどを実施します。
- (2) リーフレット、展示図録、研究紀要等を作成・配布し積極的な情報発信をします。

6 縄文遺跡群の一体的な保存管理の推進

- (1) 縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を守り伝えていくため、包括的保存管理計画に基づき、資産の適切な保存と管理を実施します。
- (2) 各構成資産の周辺に適切な範囲の緩衝地帯を設定し、顕著な普遍的価値を伝達する各属性に負の影響を及ぼさないよう、構成資産と一体的に保全します。
- (3) 来訪者の顕著な普遍的価値の理解を促進するため、施設及び受入体制の整備・充実を図ります。
- (4) 構成資産及び緩衝地帯を適切に保護・保全するため、関係行政機関の連携・協働による管理を実施します。
- (5) 縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を守るため、観察指標を設定し、構成資産及び緩衝地帯の継続的な経過観察（モニタリング）を実施します。
- (6) 縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を確実に次世代に継承するため、学校、地域住民、民間団体等と連携・協働しながら、保存・活用を実施します。

[3] 事 業

1 調査研究

(1) 発掘調査（第46・47次調査）

ア 調査期間 令和4年5月16日～10月26日

イ 調査面積 920㎡（南の谷北側614㎡、南の谷南側306㎡）

ウ 調査結果

第46・47次調査は、第3期発掘調査計画の7か年目に当たり、以下を課題として調査を実施。

○南の谷北側と南側での遺構分布状況の確認

〈検出遺構〉

南の谷北側では、縄文時代の竪穴建物跡3棟、フラスコ状土坑2基、古代の竪穴

建物跡1棟、縄文時代及び古代以降のピット39基を検出。

南の谷南側では、縄文時代の竪穴建物跡1棟、土坑5基、古代以降の溝跡1条を検出。

〈出土遺物〉

段ボール箱約12箱分の縄文土器・石器・土製品・石製品等が出土。

(2) 関連遺跡調査

ア 調査期間 令和5年3月3日

イ 調査地 釈迦堂遺跡博物館（山梨県笛吹市）

ウ 調査成果等

釈迦堂遺跡は、日本遺産の構成資産の一つであり、同遺跡出土品に特化した博物館である。重要文化財等の収蔵方法、管理方法や活用等について調査を実施。

(3) 三内丸山遺跡特別研究推進事業

遺跡の全体像解明並びに円筒土器文化及び縄文文化に関する調査・研究を推進するため、三内丸山遺跡センターが実施する共同研究のほか、研究の公募を実施。

ア 共同研究

「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」

特定非営利活動法人 三内丸山縄文発信の会

(ア) 第1回研究会議（令和4年11月6日）

北海道、青森県、秋田県、岩手県の遺跡から抽出した土坑について地域ごとの比較検討。

(イ) 第2回研究会議（令和5年1月28日）

円筒土器文化圏内の土坑について地域ごとの比較検討。

(ウ) 第3回研究会議（令和5年3月18日）

今年度の成果等について意見交換。

イ 公募研究

応募3件（採択2件）

・「三内丸山遺跡における枝回転文土器の調査と土器製作季節の推定」

研究者：矢野 健一 氏（立命館大学）

・「三内丸山遺跡出土土器付着炭化物の脂質分析－前期から中期へ煮炊きは変化したのか？－」

研究者：宮田 佳樹 氏（東京大学総合研究博物館）

(4) 遺跡環境調査

露出展示遺構の長期的な保存・公開に向けて、その具体的な対応を検討するための基礎的な資料として、覆屋内の気温・湿度等について定期的にデータを収集。

また、北の谷において有機質遺物の保存状況をモニタリングするため、地下水位と水質を測定。

(5) 三内丸山遺跡発掘調査委員会

遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画等の検討のため、専門家による委員会を開催。

ア 第1回発掘調査委員会（令和4年7月6日）

開催場所 三内丸山遺跡センター 2階会議室（第2、3回も同じ）

- 内 容：発掘調査について
特別研究推進事業について
第4期発掘調査計画について
 - イ 第2回（令和4年9月22日）
 - 内 容：発掘調査について
特別研究推進事業について
第4期発掘調査計画について
 - ウ 第3回（令和5年3月8日）
 - 内 容：発掘調査について
特別研究推進事業について
第4期発掘調査計画について
- (6) 発掘調査報告書の刊行
平成30年度から令和3年度まで発掘調査を行った遺跡北端部東側部分（第42次～45次発掘調査）について発掘調査報告書（三内丸山遺跡46）及び旧野球場地区の縄文時代遺構・遺物補遺編（三内丸山遺跡47）を刊行。

2 保存

(1) 遺構等の維持管理

公開している遺構の清掃を年16回実施。適切な維持・管理。また、南盛土の露出展示遺構面の保存処理を実施。

(2) 重要文化財修理事業

三内丸山遺跡の出土品で重要文化財に指定されたもののうち、展示や貸出機会の多いもの、劣化や脆弱な箇所が認められるものについて保存修理を実施。（土器6点、骨角器4点）

(3) 三内丸山遺跡長寿命化事業

高床建物29号長寿命化工事及び大型堅穴建物改修設計を実施。

(4) 三内丸山遺跡保存活用推進協議会（令和5年3月23日）

開催場所：三内丸山遺跡センター 体験工房3

内 容：令和4年度資産の保存・管理及び緩衝地帯の保全について
令和5年度資産の保全・管理及び緩衝地帯の保全（予定）について
保存・活用について

(5) 史跡境界標打設

特別史跡指定範囲を明示する史跡境界標を11本打設。

(6) 遺跡影響評価の実施

22件実施

(7) 経過観察の実施

令和3年度の経過観察について、経過観察年次報告書を作成した。

3 展示

(1) 三内丸山遺跡史跡整備事業

令和2年度に策定した「特別史跡三内丸山遺跡史跡整備基本設計」に基づき、北盛土・

西盛土展望エリア等の実施設計及び環状配石墓、大人の墓、西側法面保護工事を実施。

(2) 三内丸山遺跡史跡整備検討委員会

ア 第1回(令和4年8月30日)

開催場所：三内丸山遺跡センター 2階会議室(第2、3回も同じ)

内 容：整備工事について
実施設計について
植栽整備について

イ 第2回(令和4年12月9日)

内 容：第1回と同じ項目について検討。

ウ 第3回(令和5年2月2日)

内 容：第2回の項目に加え、情報発信等整備業務について検討。

(3) 常設展示事業

常設展示室「さんまるミュージアム」の環状配石墓コーナーと墓コーナーの整備を実施。

4 普及啓発

(1) 縄文体験学習

体験学習名	内 容	開催日	参加人数
動物形土製品のキーホルダーを作ろう	オープン粘土で動物形土製品のキーホルダーを作りました。	5月14日	8人
土偶を作ろう	粘土を使って板状土偶を作りました。	6月25日	9人
発掘をしてみよう	遺跡内で発掘調査を体験しました。	7月29日	15人
土器を作ろう①	粘土を使って縄文土器を作りました。	8月20日	11人
釣り針を作って魚を釣ろう	シカの角で釣り針を作って魚を釣る体験をしました。	10月1日	8人
土器を作ろう②	土器の野焼き体験をしました。	10月22日	11人
土偶そっくりのレプリカを作ろう	本物の土偶を使ってレプリカを作りました。	11月12日	6人
貝のアクセサリーを作ろう	ペンケイガイで腕輪等のアクセサリーを作りました。	1月21日	8人
粘土でアクセサリーを作ろう	オープン粘土で縄文時代のアクセサリーを作り、顔料を用いて着色体験をしました。	2月11日	7人

(2) 縄文学講座

内 容	講 師	開催日	参加人数
「動物」と縄文時代の精神文化	小笠原 雅 行(三内丸山遺跡センター)	5月28日	27人
北海道の円筒土器文化	福 田 裕 二(函館市教育委員会)	6月11日	25人
世界遺産登録1周年～世界遺産登録をふりかえる～	岡 田 康 博(三内丸山遺跡センター)	7月30日	30人
縄文時代の地域性	水ノ江 和 同(同志社大学文学部)	8月21日	25人
三内丸山遺跡の埋葬～環状配石墓と土坑墓～	茅 野 嘉 雄(三内丸山遺跡センター)	10月15日	22人

(3) 特別史跡三内丸山遺跡報告会

令和5年3月11日に実施。

(4) 企画展

「三内丸山遺跡の埋葬」

ア 開催期間：令和5年1月21日～3月12日

イ 内 容：三内丸山遺跡で亡くなった人は、どのように埋葬されたかを紹介。

(5) 特別展

ア 「縄文マジカル+（プラス）」

(ア) 開催期間：令和4年4月16日～6月26日

(イ) 内 容：縄文時代のまつりの道具から、縄文人の精神世界について紹介。

イ 世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJ OMON」

(ア) 開催期間：令和4年7月16日～10月2日

(イ) 内 容：構成資産をはじめとする4道県の縄文遺跡の出土品から世界遺産としての価値をわかりやすく紹介。

5 三内丸山遺跡の魅力に関する情報発信

(1) 刊行物

ア 三内丸山通信第76号、第77号

遺跡に関する情報発信紙

イ 特別史跡三内丸山遺跡研究紀要4

令和3年度の成果を中心とした調査・研究の報告

ウ 特別展「縄文マジカル+（プラス）」展示図録

特別展「縄文マジカル+（プラス）」の展示内容解説

エ 世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJ OMON」展示図録

世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJ OMON」の展示内容解説

オ 縄文の森リーフレット

カ 特別史跡三内丸山遺跡リーフレット

三内丸山遺跡・縄文時遊館観覧の案内

キ 三内丸山遺跡ガイドブック

三内丸山遺跡とその出土品について解説

ク 三内丸山遺跡ガイドブック概要版（4カ国語）

三内丸山遺跡ガイドブック概要版の多言語化（英・繁・簡・韓）

(2) 縄文体験イベント等の実施

ア 縄文祭り

四季を通じて縄文文化の魅力等を伝えるため、縄文祭りを4回開催。

(ア) 縄文春祭り（4月23日～24日）

参加人数：3,366人

(イ) 縄文夏祭り（7月23日～24日）

参加人数：8,335人

(ウ) さんまるJ OMONの日（9月17日～19日）

参加人数：9,853人

- (エ) 縄文冬祭り（2月4日～5日）
参加人数：4,277人
 - イ 出土品のレプリカ、縄文服及び写真貸出
 - (ア) 出土品のレプリカ、縄文服
延べ9件を貸出（出土品のレプリカ2件、縄文服7件）。
 - (イ) 写真
99件を貸出。
 - ウ 夜の遺跡を楽しもう
三内丸山遺跡の新しい魅力を体感してもらうためにナイトイベントを開催。
 - (ア) 開催日：令和4年9月17日～18日、令和5年2月4日
 - (イ) 参加人数：2,231人
 - (3) 三内丸山遺跡センター運営協議会
 - ア 第1回（令和4年7月29日）
開催場所：三内丸山遺跡センター 体験工房3（第2回も同じ）
内容：令和4年度事業実施状況及び今後の予定等について
 - イ 第2回（令和5年3月2日）
内容：令和4年度事業実施状況について
令和5年度の予定（方向性）等について
- 6 縄文遺跡群に関連する取組**
縄文遺跡群に関連する取組として、以下の取組を実施。
- (1) 一体的な保存と活用の推進
 - ア 縄文遺跡群世界遺産本部等の運営
 - (ア) 第1回縄文遺跡群世界遺産協議会（令和4年9月2日）
開催場所：オンライン（第2回も同じ）
内容：令和4年度事業について
令和5年度事業計画案及び予算案について
遺産影響評価の取組状況について 等
 - (イ) 第2回縄文遺跡群世界遺産協議会（令和5年2月14日）
内容：保存活用推進行動計画について
遺産影響評価の取組状況について 等
 - (ウ) 第1回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会（令和4年10月18日）
開催場所：三内丸山遺跡センター
内容：イコモス勧告及び世界遺産委員会決議への対応について
縄文遺跡群の来訪者数について 等
 - (エ) 第2回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会（令和5年3月10日）
開催場所：フォーポイントバイシェラトン函館
内容：2021年度縄文遺跡群経過観察年次報告書案について
「北海道・北東北の縄文遺跡群保存活用推進行動計画」について 等
 - (オ) 令和4年度縄文遺跡群世界遺産協議会青森県部会（令和5年1月19日）
開催場所：オンライン

- 内 容：2021年度縄文遺跡群経過観察年次報告書（青森県内分）について
県内自治体における遺産影響評価の取組事例について 等
- イ 「北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録記念誌」の刊行
世界遺産登録までの取組状況等を記録し、将来にわたり適切な保存と活用の推進を目的として、「北海道・北東北の縄文遺跡群世界遺産登録記念誌」を刊行。
- ウ 刊行物
- (ア) 「北海道・北東北の縄文遺跡群包括的保存管理計画改訂版」（令和4年5月）
(イ) 「北海道・北東北の縄文遺跡群保存管理計画概要版」（令和5年3月）
(ウ) 「2021年度北海道・北東北の縄文遺跡群経過観察年次報告書」（令和5年3月）
- (2) 魅力発信プロモーション

ア 世界遺産1周年記念フォーラム

- (ア) 青森フォーラム（令和4年7月30日）

場 所：三内丸山遺跡センター

内 容：講演「世界遺産登録一周年 ～世界遺産登録をふりかえる～」

縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博

意見交換1「世界遺産一周年を迎えた『青森県の縄文遺跡群』」

青森市教育委員会 文化遺産課 児玉 大成

弘前市教育委員会 文化財課 東海林 心

つがる市教育委員会 教育部文化財課 羽石 智治

外ヶ浜町教育委員会 社会教育課世界遺産対策室 駒田 透

七戸町教育委員会 世界遺産対策室 小林 由夏

三内丸山遺跡センター保存活用課 小笠原 雅行

縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博

意見交換2「世界遺産になって伝えたいこと」

(一社)三内丸山応援隊 中村 文子

(一社)小牧野遺跡保存活用協議会 竹中 富之

縄文是川ボランティア 村中 健

ボランティアガイドつがる縄文遺跡案内人 三上 真理子

大平山元もりあげ隊 三浦 博英

二ツ森貝塚ボランティアガイドの会 鎌本 義明

縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博

参加人数：80人

- (イ) 福岡フォーラム（令和4年11月3日）

場 所：大野城心のふるさと館（福岡県大野城市）

内 容：講演「縄文遺跡群の世界遺産登録の意義」

文化庁文化資源活用課文化財調査官 鈴木 地平

講演「縄文時代の地域性」

縄文遺跡群世界遺産専門家委員会委員

同志社大学文学部教授 水ノ江 和同

講演「世界遺産登録の歩みと縄文遺跡群の未来」

縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博

意見交換会「遺跡を未来へ伝えるために」
大野城心のふるさと館長 赤司 善彦
同志社大学文学部教授 水ノ江 和同
文化庁文化資源活用課文化財調査官 鈴木 地平
三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

参加人数：70人

- (ウ) 東京フォーラム（令和5年1月29日）
場 所：有楽町朝日ホール（東京都千代田区）及び縄文遺跡群世界遺産本部公式
YouTubeサイトでLive配信。
内 容：講演「縄文遺跡群の世界遺産登録の意義」
文化庁文化資源活用課文化財調査官 鈴木 地平
講演「世界遺産登録の歩みと縄文遺跡群の未来」
縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博
意見交換「ドキュメント こうして世界遺産になった縄文遺跡群」
縄文遺跡群世界遺産本部顧問 早稲田大学 名誉教授 菊池 徹夫
縄文遺跡群世界遺産専門家委員会委員長
筑波大学 名誉教授 稲葉 信子
文化庁文化資源活用課文化財調査官 鈴木 地平
縄文遺跡群世界遺産協議会長 岡田 康博

参加人数：600人

- イ 世界遺産でパシャ！北海道・北東北の縄文遺跡群フォトコンテスト2022
応募作品の中でも魅力ある作品を集めてカレンダーを作成。
募集期間：令和5年1月23日まで
応募総数：617枚
発行部数：10,000部
- ウ 刊行物
世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」パンフレットを改訂。
- (3) 普及啓発事業
- ア 県内8遺跡での来訪促進周遊企画・1周年記念催事を実施。
- (ア) 県内8遺跡での周遊来訪企画（縄文おでかけスタンプラリー）
期 間：令和4年6月1日～10月31日
参加組数：延べ7,832組
- (イ) 世界遺産登録1周年記念催事（さんまる世界遺産ウィーク）
特別展、夏祭り、フォーラム等を合わせ、一連の登録記念催事として実施。開催
期間内の土・日・祝日については、常設展観覧料無料。夏祭り（7月23日、24日）で
はキャラクターショーやFM青森の公開生放送等のステージイベントとマルシェを実施。
期 間：令和4年7月16日～31日
来館者数：20,415人

イ 縄文あおもりプロモーション事業

団体名	事業内容
あおもり子ども劇場	青森県の縄文遺跡群を題材にした人形劇の制作・上演、工作ワークショップの開催
(株) あおもりミシン商会	県内縄文遺跡の出土品をモチーフにした手芸のワークショップイベントの開催
(株) 東奥アドシステム	青森県の縄文遺跡群日帰りバスツアーの実施
(株) 協同	あおもり縄文女子 縄文体験チャレンジ動画制作・公開
(合同) 白神アロマ研究所	縄文関連商品の開発

ウ 縄文“体感”世界遺産講座の開催

団体名	開催日	参加人数
青森大学	令和4年5月27日	251人
黒石市立東英小学校	令和4年6月1日	11人
青森市立三内西小学校	令和4年6月7日	75人
田子町立田子小学校	令和4年6月21日	25人
中泊町立小泊小学校	令和4年6月29日	14人
青森市立荒川中学校	令和4年7月19日	119人
八戸市立是川小学校	令和4年8月31日	24人
七戸町立天間林小学校	令和4年9月15日	51人
弘前市立文京小学校第4学年	令和4年10月20日	43人
〃 第5学年	〃	36人
〃 第6学年	〃	37人
青森中央学院大学	令和4年10月28日	82人
計		768人

エ 世界遺産ガイド養成講座の開催

(ア) 縄文遺跡群世界遺産ガイド養成講座

開催場所	開催日	参加人数
二ツ森貝塚館（七戸町）	令和4年4月20日	14人
外ヶ浜町中央公民館（外ヶ浜町）	令和4年6月26日	10人
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（八戸市）	令和4年6月28日	24人
旧制木造中学校講堂（つがる市）	令和4年10月23日 令和4年11月26日	80人 (各回40人)

(イ) 縄文遺跡群世界遺産ガイドスキルアップ講座

開催場所	開催日	参加人数
県内構成資産及びガイダンス施設	令和4年11月9日 令和4年11月15日	40人 (各回20人)

オ 刊行物

「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群 縄文あおりテキストBOOK」

(4) 認知度向上事業

ア 交通広告等や誘客促進ツールの制作の実施

- (ア) 青森駅・新青森駅でポスターを掲示
掲載期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 ((イ)、(ウ)も同じ。)
- (イ) 青森空港・三沢空港で電飾看板を掲示
- (ウ) 青い森鉄道車体広告
- (エ) ブックカバー広告
配布枚数：106,000枚
配布場所：青森県、福岡県、首都圏、関西圏
配布期間：令和4年10月
- (オ) ミニのぼり制作
制作個数：5,000個
配布場所：県内観光案内所等
- (カ) タクシーステッカー制作
制作枚数：3,000枚
配布場所：青森県タクシー協会
- (キ) バナーフラッグ制作
制作枚数：350枚
配布場所：青森商工会議所

イ 観光客の多い夏期を中心としたプロモーションの実施

観光客の多い夏期にプロモーションとして、以下の取組を実施。

- (ア) w e b 広告
掲載期間：令和5年9月1日～10月21日
活用媒体：Yahoo!広告、LINE広告、YouTube広告
表示回数：2,213万回
- (イ) ノベルティ配布
製作物：青森県内縄文遺跡の土偶を活用したデザインの鈴
配布場所：青森市・弘前市の街頭、青森県内レンタカー店
配布期間：令和5年8月1日～8月20日
- (ウ) ポスター製作
製作枚数：510枚
配布場所：県内外の観光・物産関連施設、博物館等

ウ 西日本プロモーション

期 間：令和4年11月3日～12月4日

会 場：福岡県大野城市 大野城心のふるさと館

内 容：三内丸山遺跡をはじめとする県内の縄文遺跡群の出土品を展示し、本県の縄文時代の特徴について解説するとともに、世界遺産の県内8つの縄文遺跡群をパネルで紹介。西日本新聞の紙上広告も実施。

参加人数：9,790人

(5) 受入態勢充実事業

ア 民間団体との協働による世界遺産を守る人づくり実証事業の実施

団体名	事業内容
弘前縄文の会	県内遺跡ガイド団体意見交換会の実施、ガイド用のぼり旗作成等
特定非営利活動法人 つがる縄文の会	古十三湖水域の遺跡等の採集狩猟民の活動域視察、観光VR及びVRゴーグルの制作
一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会	環状列石を軸にしたガイドスキルアップ研修の実施、環状列石を周遊する説明ツールの開発等
二ツ森貝塚ボランティア ガイドの会	二ツ森貝塚の紹介映像制作、ドリップバックの製作等

イ ビジョン関係者会議の開催

「青森の縄文遺跡群」活用ビジョン関係者会議の開催（令和5年1月19日）

開催場所：オンライン

内 容：「青森の縄文遺跡群」活用推進ビジョンの実現に向けた保存・活用の取組状況について

(6) 「青森の縄文遺跡群」情報発信拠点施設整備事業

令和5年度に青森駅新駅ビル内に情報発信の拠点施設を整備するため、施設コンセプトの策定及び設計業務の実施。

7 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、以下の取組を実施。

(1) リスク評価

「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン（令和2年5月14日付け公益財団法人日本博物館協作成）」に基づき、令和2年5月22日付けで作成した「三内丸山遺跡センターのリスク評価」を令和5年3月23日付けで改正。

(2) 取組実績

- ・館内への手指消毒液及び授乳室への除菌シートを設置
- ・清掃業者及び職員による館内・備品等の消毒を毎日実施
- ・職員・解説員のマスク・フェイスシールド等の着用及びボランティアガイドへのマスク・フェイスシールド等の着用を依頼
- ・アンケート、「ギネスに挑戦」テーブルの撤去、土器ハンズオンの中止
- ・休憩用椅子等の数量調整と間隔を保って利用することを表示
- ・既存のITガイドシステムのコンテンツの拡充及びアプリの導入
- ・券売機等へのキャッシュレス決済導入
- ・常設展示室内、企画展示室内、券売機前等への待機位置等及び進行方向を示すフロアマーカーを設置
- ・2次元コード（QRコード）を利用した展示解説の動画を提供
- ・各案内カウンター及び机上用アクリルパーテーションの設置

(3) 集客施設としての対応

- ア 来館者への体調管理、手指消毒、マスク着用等のお願い
- イ ホームページ及び館内への注意事項掲示及びサイン表示
- ウ 来館者及び職員への検温実施（赤外線カメラ、非接触式体温計の導入）
- エ 団体等の適正人数での鑑賞のための取組（予約時の調整、ミュージアム等での誘導調整等）

8 縄文時遊館の長寿命化

旧展示室トイレの洋式化改修設計及び工事を実施。

〔4〕 来館者数

令和4年度の来館者数は、207,095人である。

新型コロナウイルス感染症に関する青森県対処方針（青森県危機対策本部）を踏まえた臨時休館期間 令和4年1月24日～同年4月10日

展 覧 会 等	来館者数
常設展等の来館者数	205,366人
内、常設展以外の各展覧会等の来館者数	
1 特別展「縄文マジカル+（プラス）」 令和4年4月16日～6月26日	15,753人
2 世界遺産登録1周年記念特別展「北海道・北東北のJ O M O N」 令和4年7月16日～10月2日	19,069人
3 企画展「三内丸山遺跡の埋葬」 令和5年1月21日～3月12日	13,065人
4 縄文体験学習 令和4年5月、6月、7月、8月、10月（2回）、11月、 令和5年1月、2月 計9回	83人
5 縄文学講座 令和4年5月、6月、7月、8月、10月 計5回	129人
視察等来館者数	1,729人
合 計	207,095人

青森県の教育 ー令和4年度の実績ー

令和5年10月発行

編集 青森県教育庁教育政策課

発行者 青森県教育委員会

印刷所 ワタナベサービス(株)

